

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 20

第 82・102・104・125 次調査

2 0 2 2

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

序 文

今回の報告書は、一乗谷川左岸に立地する城戸ノ内町字齊藤・平井に所在する二つの武家屋敷跡（第 82・102・104 次調査）と月見櫓跡（第 125 次調査）の成果をまとめたものです。

第 82 次調査では、南側の第 24 次と東側の第 25 次調査区と一体となり、土塁で区画された武家屋敷の様相が明らかになりました。遺構は、土塁石垣、礎石建物、土蔵に加え、鍛冶関連の建物と鍛冶炉、複式構造のカマド等が見つかり、これまでの近接する調査区の成果を再検討すると、庭や馬匹ばひつに関連する施設を備えた屋敷と考えられます。全体的に遺物量が少ない中において、「慶尚」の文字を入れた朝鮮象嵌壺ぞうがんとつぼは注目されます。

第 102・104 次調査区は両地区が一体となって、土塁で区画された大規模武家屋敷であったことが明らかになりました。屋敷の規模と字名「齊藤」から、朝倉義景の側室である小少将の父、斎藤兵部少輔の屋敷である可能性が指摘されます。

この内、第 102 次調査では、遺構は少ないものの、これまでの調査成果と合わせて、南の矩折部かねおれぶから北にのびる幹線道路を確認することができました。遺物は、土師質皿と中国製陶磁器に加え、釘、和鋏、双鶴亀菊花文鏡など、武家屋敷の特徴を示す遺物が出土しました。

また、第 104 次調査では、武家屋敷の中心部に相当し、北側で大型石積施設、西側で大規模礎石建物、南側で溝に区画された礎石建物かぶとしころや土蔵などが確認されました。遺物は大量の陶磁器に加え、漆塗りの兜鞆、大袖、草摺などの甲冑類が良好な状態で出土し、貴重な成果を得ることができました。

第 125 次調査では、月見山の尾根と山裾を発掘調査しました。調査面積は限定的でしたが、尾根上で土塁や堀、山裾で庭の遺構の一部を確認することができました。今後の追加調査に大きな期待が寄せられます。

本書によって示された武家屋敷の構造や武士の暮らしが今後の戦国時代研究に寄与するものとなれば幸いです。

最後に、本書の作成にあたり、文化庁をはじめ関係機関、地元の皆様から多くのご支援をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

令和 4 年 3 月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

館長 西澤 弘 純

例 言

- 1 本書は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(福井県福井市)における計画的な発掘調査の成果を報告したものであり、第20冊目にあたる。発掘調査事業概要は「I. 事業概要」で報告する。
- 2 本書で報告する調査は、国庫補助事業として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が平成5年(1993)度から同19年(2007)度までに実施したものである。各調査次の発掘調査期間、主な担当者は下記のとおりである。
第82次 平成5年(1993) 4月1日～同年8月22日 吉岡泰英 月輪 泰
第102次 平成10年(1998) 4月1日～同年12月20日 南洋一郎 佐藤 圭 宮永一美
第104次 平成11年(1999) 4月8日～同年12月24日 南洋一郎 水村伸行 宮永一美
第125次 平成19年(2007) 10月1日～同年12月20日 川越光洋
- 3 本書を刊行するための出土遺物整理作業は、平成30年(2018)度から令和3年(2021)度まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館で実施した。
- 4 本書は、発掘調査の記録類をもとに、鈴木篤英(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館主任)が編集・作成を担当した。木製品の樹種分析については渡邊英明(同館学芸員)が担当した。
- 5 本書で、各調査次の発掘調査・整備事業概報(以下、概報と略)や、これまでの成果発表の中で齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 本書の遺構写真撮影は発掘調査担当者による。遺物写真撮影は鈴木が担当した。その他、本書作成に関わる業務は下記に委託した。
航空写真測量業務：アジア航測株式会社 遺構全体図デジタルトレース業務：株式会社エヌ・エム調査設計
遺物保存処理業務：元興寺文化財研究所 X線遺物撮影業務：株式会社吉田生物研究所
- 7 写真図版・挿図・表の遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 8 遺構の検出については、上層遺構を検出・記録した後、上層遺構を回避する形で下層遺構の検出・記録を行った。よって、各調査次の遺構全体図は、上層遺構と下層遺構の一部が混在した形で表記している。調査区全体の層位断面は現地で保存しているが、挿図中からは除外した。
- 9 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。挿図中の方位、座標は日本測地系国土平面直角座標第Ⅵ系を使用した。挿図中の標高や座標の数値については、測量全体図から算出した。建物の規模については、柱の中心を想定して計測し、石積施設、井戸、溝の規模は内寸で計測した。今回の報告書作成においては、調査次の記録類の整合性を得るため、遺構や遺物の性格や出土地点については既報告を参考にしつつも、改めて再整理、再検討を行った。その結果、1次記録資料の遺物台帳や遺物実測図に記載されたグリッドは、第102次調査においては北・東方向へ1グリッド分ずれ、第104次調査においては東へ1グリッド分ずれて記載されていることになり、これらの資料については今後の扱いに注意されたい。
- 10 本書で用いた遺構の略記号は次の通りである。
SA:土塁石垣、SB:建物、SD:溝、SE:井戸、SF:石積施設、SK:土坑または土坑群、SI:門、SS:道路、SV:石垣・石列、SZ:暗渠、SX:石敷遺構または不明遺構、SG:庭、X:遺物出土地点、P:埋壅土坑
- 11 本書に掲載した調査に関わる図面・写真および遺物は、一括して福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。
- 12 発掘調査では、地元・地権者の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の整理作業員(令和2年度からは会計年度任用職員)が行った。

目 次

I. 事業概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法および組織	1
3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織	3
II. 調査の概要と経過	
1. 調査の概要	5
2. 調査日誌	8
III. 第 82 次調査【城戸ノ内町字齊藤】	
1. 遺構の概要	11
2. 第 I 区域	12
3. 第 II 区域	14
4. 第 III 区域(第 25 次調査)	16
5. 第 IV 区域(第 24 次調査)	18
6. 遺 物	23
IV. 第 102・104 次調査【城戸ノ内町字齊藤】	
1. 遺構の概要	47
2. 第 I 区域(第 102 次)	49
3. 第 II 区域(第 102 次)	50
4. 第 III 区域(第 104 次)	52
5. 第 IV 区域(第 104 次)	55
6. 第 V 区域(第 104 次)	57
7. 第 102 次調査遺物	61
8. 第 104 次調査遺物	77
V. 第 125 次調査【城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺(月見櫓地区)】	
1. 遺構の概要	125
2. 遺 構	126
3. 遺 物	128
V. ま と め	
1. 第 82 次調査	131
2. 第 102・104 次調査	131
3. 第 125 次調査	132

写真図版目次

- PL. 1 第 82 次調査 城戸ノ内町字齊藤
(1) 第 82 次調査区遠景(南から)
(2) 第 82 次調査区遠景(東から)
- PL. 2 第 82 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) 第 I 区域遺構全景(西から)
(2) 第 I 区域遺構全景(北東から)
- PL. 3 第 82 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) 第 I 区域遺構全景(南から)
(2) 第 I 区域遺構全景(北から)
- PL. 4 第 82 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SA4260、SD4269、SX4315(西から)
(2) SB4274、SX4316・SK4317(東から)
(3) SX4316 羽口(東から)
(4) SX4316(東から)
(5) SX4303(北から)
(6) SX4303 南北断面(西から)
- PL. 5 第 82 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SK4309・4313(東から)
(2) SX4310～4313(東から)
(3) SX4310・4311、SE4277(西から)
(4) SE4276(西から)
(5) SX4280(西から)
(6) SX4281(西から)
- PL. 6 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) 第 II 区域遺構全景(南から)
(2) 第 II 区域遺構全景(南から)
- PL. 7 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) 第 II 区域遺構全景(北から)
(2) 第 II 区域遺構全景(北から)
- PL. 8 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SA4260、SV940、SD4268(東から)
(2) SD4268、SZ4319(西から)
(3) SZ4319(西から)
(4) SD4268・4270、SV940・4263(北西から)
- PL. 9 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SB4273(東から)
(2) SB4273(南から)
(3) SB4273(西から)
(4) SX4291・4292、SD4271(西から)
(5) SD4271(西から)
(6) SD4271・4272(南から)
(7) SD4272 西端(東から)
- PL. 10 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SD4271・4272、SX4289・4290・4302、SV4266
(東から)
(2) SD4271・4272(東から)
(3) SD4272(西から)
- PL. 11 第 82 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字齊藤
(1) SX4290(北から)
(2) SX4289、SV4266、SD4271(東から)
(3) SX4279(南西から)
(4) SE4275(西から)
(5) SX4299、SB4300(北西から)
- PL. 12 第 82 次調査第 II・III 区域(第 25 次調査区)
城戸ノ内町字齊藤
(1) X001:T28 土師器皿(西から)
(2) X002:SB4273 土師器皿(北から)
(3) 第 III 区域遺構全景(北から)
- PL. 13 第 82 次調査第 III 区域(第 25 次調査区) 城戸ノ
内町字齊藤
(1) 矩折部 SA892・893(北から)
(2) 矩折部 SA892・893(東から)
(3) SD901、SZ4319(北東から)
(4) SD901、SZ4319(東から)
(5) 矩折部 SA893(南から)
(6) 矩折部 SA892、SZ914(西から)
(7) SZ914(南から)
- PL. 14 第 82 次調査第 IV 区域(第 24 次調査区) 城戸ノ
内町字平井
(1) 第 IV 区域遺構全景(北東から)
(2) SA265、SS260(北から)
(3) SA265、SS260(南から)
- PL. 15 第 82 次調査第 IV 区域(第 24 次調査区) 城戸ノ
内町字平井
(1) 第 IV 区域遺構全景(東から)
(2) 第 IV 区域遺構全景(北西から)
- PL. 16 第 82 次調査第 IV 区域(第 24 次調査区) 城戸ノ
内町字平井
(1) SA857、SB831・832、SK886(南から)
(2) SB831・832、SK886(東から)
(3) SI821(東から)
(4) SX854(南から)
(5) SE849(北から)
(6) SF851(南から)

- PL. 17 第 82 次調査第Ⅳ区域(第 24 次調査区) 城戸ノ内町字平井
 (1)SB837・SG829(南から)
 (2)SB837・SG829(西から)
- PL. 18 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南から)
 (2)第 102・104 次調査区遠景(南東から)
- PL. 19 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南東から)
 (2)第 102・104 次調査区遠景(東から)
- PL. 20 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南から)
- PL. 21 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅰ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅰ区域遺構全景(北西から)
- L. 22 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅰ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅰ区域遺構全景(西から)
- PL. 23 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SX4758(北東から)
 (2)SD4755・4756(北東から)
 (3)SE4811(北東から)
 (4)SE4751(西から)
 (5)SA893・4760、SI4750、SD4752・4753、SX4765、SE4751(東から)
- PL. 24 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅱ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)
- PL. 25 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SA4763、SS260(北西から)
 (2)SA4760・4763、SS260、SX4761(北から)
 (3)SA4760・4763、SS260、SX4761(南から)
- PL. 26 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SB4767(北から)
 (2)SI4762(西から)
- PL. 27 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
 (2)第Ⅲ区域遺構全景(東から)
 (3)SS260、SA4780(南から)
 (4)SS260、SA4780(北から)
- PL. 28 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅲ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
 (3)第Ⅲ区域遺構全景(南東から)
 (4)第Ⅲ区域遺構全景(東から)
 (5)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
- PL. 29 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SA4783(南東から)
 (2)SA4783(北西から)
 (3)SA4781(北東から)
- PL. 30 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SA4781・4782、SS260(南から)
 (2)SI4817(東から)
 (3)SI4817(西から)
 (4)SI4817(南から)
 (5)SI4816(西から)
 (6)SI4816(東から)
- PL. 31 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SD4809(南東から)
 (2)SD4808(東から)
 (3)SD4810(南西から)
 (4)SZ4845(北東から)
 (5)SZ4845(北西から)
 (6)SZ4844(西から)
- PL. 32 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SF4813(南西から)
 (2)SF4814(西から)
 (3)SF4815(南西から)
 (4)SF4815(南西から)
 (5)SX4834(東から)
- PL. 33 第 104 次調査第Ⅳ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅳ区域遺構全景(北東から)
 (2)SD4805・4848、SK4819(東から)
 (3)SD4848、SX4835(南東から)
 (4)SX4835(南から)
 (5)SB4790(南から)
- PL. 34 第 104 次調査第Ⅳ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)X001～003:SD4848 甲冑出土状況(南西から)
 (2)同(北西から)
 (3)X001:草摺 401～405(南東から)
 (4)X002:大袖 406～409(東から)
 (5)X003:兜鞆 397・398(北東から)
 (6)X004:SD4848 草摺 416(北東から)
 (7)X005:SD4805 兜鞆 399・400(西から)
- PL. 35 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅴ区域遺構全景(南東から)
 (2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)
- PL. 36 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)第Ⅴ区域遺構全景(南西から)
 (2)SB4789(北から)
- PL. 37 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SB4786(南西から)

- (2)SB4786(南西から)
 (3)SB4786(南東から)
 (4)SB4846・4847、SD4792・4793・4765・4850(南西から)
- PL. 38 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SD4797・4798・4801、SB4789(西から)
- PL. 39 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SD4798、SZ4843(西から)
 (2)SD4794～4796(西から)
 (3)SD4794～4796(南から)
 (4)SD4753・4792・4765、SF4826・4827(西から)
- PL. 40 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字齊藤
 (1)SE4812(西から)
 (2)X006:SB4789 板材(北から)
 (3)X007:SD4793 土師器皿(北から)
- PL. 41 第125次調査 城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺
 (1)第125次調査区遠景(南東から)
 (2)1トレンチ(北東から)
 (3)1トレンチ南西端石組遺構(北から)
 (4)2トレンチ(南から)
 (5)2トレンチ(南東から)
- PL. 42 第125次調査 城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺
 (1)3トレンチ設定(北から)
 (2)3トレンチ北端断面(南から)
 (3)3トレンチ(北東から)
 (4)3トレンチ(南から)
- PL. 43 第125次調査 城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺
 (1)4トレンチ設定(南西から)
 (2)4トレンチ(南西から)
 (3)5トレンチ西端(西から)
 (4)5トレンチ東端(東から)
 (5)6トレンチ設定(西から)
 (6)6トレンチ東端(西から)
- PL. 44 第125次調査 城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺
 (1)6トレンチ(南東から)
 (2)6トレンチ(南から)
 (3)6トレンチ東端(東から)
 (4)6トレンチ東端(南から)
 (5)8トレンチ(南東から)
 (6)9トレンチ東端(南東から)
 (7)9トレンチ(南西から)
- PL. 45 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器
 (1)第I・II区域包含層出土土器
- PL. 46 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器
 第I区域遺構出土土器
 (1)第I・II区域包含層出土土器
 (2)SA4260 出土土器
- (3)SA4260、SB4274、SE4277 出土土器
 (4)SK4309 出土土器
- PL. 47 第82次調査 第II区域遺構出土土器、土製品
 金属製品
 (1)SB4273、SX4309・4290 出土土器
 (2)SX4288、SF4278 出土土器
 (3)SE4275・SB4273 出土土器
 (4)SD4270 出土土器
 (5)SD4272 出土土器
 (6)SD4271、SA893 出土土器
 (7)土錘、土製円盤、鞆羽口
 (8)鉄錐、鉄釘、火箸、飾金具、靴、笄
- PL. 48 第82次調査 金属製品、石製品、木製品、銭貨
 (1)笄、鉄鎌、弾丸
 (2)小札
 (3)砥石
 (4)バンドコ、茶臼
 (5)蓋、漆器椀、折敷
 (6)銭貨
- PL. 49 第82次調査 金属製品
 第102次調査 第I・II区域包含層出土土器
 (1)銭貨
 (2)第I区域包含層出土土器
- PL. 50 第102次調査 第I・II区域遺構出土土器、土製品、金属製品、石製品
 (1)SB4776 出土土器
 (2)SI4750 出土土器
 (3)SD4752 出土土器
 (4)SD4753 出土土器
 (5)SD4755 出土土器
 (6)SD4755、SX4759、SA4763、SI4762 出土土器
 (7)SS260 出土土器
 (8)土製円盤、形象品
 (9)銅鏡
 (10)和鋏、兜飾金具、弾丸
 (11)駒石、砥石、石硯、茶臼、バンドコ
- PL. 51 第102次調査 石製品、銭貨
 第104次調査 第III区域包含層出土土器
 (1)獅子・狛犬
 (2)銭貨
 (3)表土、第III区域包含層出土土器
- PL. 52 第104次調査 第III～V区域包含層出土土器
 (1)第III区域包含層出土土器
 (2)第IV区域包含層出土土器
 (3)第V区域包含層出土土器
- PL. 53 第104次調査 第III・IV区域遺構出土土器

- (1)SA4782 出土土器
 (2)SA4784 出土土器
 (3)SA4783、SS260、SA4760・4780 出土土器
 (4)SI4817、SD4808 出土土器
 (5)SI4816 出土土器
 (6)SF4813 出土土器
 (7)SF4815 出土土器
 (8)SX4834・4842 出土土器
 (9)SX4840、SB4790 出土土器
- PL. 54 第 104 次調査 第Ⅳ・Ⅴ区域遺構出土土器
 (1)SD4806 出土土器
 (2)SB4788 出土土器
 (3)SB4786 出土土器
 (4)SB4787 出土土器
 (5)SB4846 出土土器
 (6)SB4791 出土土器
 (7)SB4797 出土土器
- PL. 55 第 104 次調査 第Ⅴ区域遺構出土土器
 (1)SD4797 出土土器
 (2)SD4798 出土土器
 (3)SD4798 出土土器
- PL. 56 第 104 次調査 第Ⅴ区域遺構出土土器
 (1)SD4798 出土土器
- PL. 57 第 104 次調査 第Ⅴ区域遺構出土土器
 (1)SD4798 出土土器
 (2)SD4794 出土土器
 (3)SD4795・4796・4753 出土土器
 (4)SD4796 出土土器
 (5)SD4793 出土土器
 (6)SD4755 出土土器
- (7)SS4823 出土土器
 (8)SS4824 出土土器
 (9)SD4801 出土土器
- PL. 58 第 104 次調査 第Ⅴ区域遺構出土土器、土製品
 (1)SD4801 出土土器
 (2)土錘
 (3)土製円盤、蓋、仏像
 (4)青磁装飾、薬研
- PL. 59 第 104 次調査 金属製品、甲冑
 (1)小札、飾金具、紅皿、責金具、煙管、金匙、鉄鏃、
 小柄
 (2)切羽、鉄釘、蓋
 (3)X003 出土兜鞆
 (4)X003・X005 出土兜鞆
- PL. 60 第 104 次調査 甲冑
 (1)X001 出土草摺
 (2)X002 出土大袖
- PL. 61 第 104 次調査 甲冑
 (1)X002 出土大袖
- PL. 62 第 104 次調査 甲冑
 (1)X004、その他出土草摺
 (2)X003 出土兜鞆、X001 出土草摺X線写真
- PL. 63 第 104 次調査 甲冑、木製品、石製品
 (1)X002 出土大袖、X004 出土草摺X線写真
 (2)漆器碗、曲物、刳物容器、花入、硯箱、箱、樟子
 棧、木柄、砥石、石硯
- PL. 64 第 104 次調査 石製品、ガラス玉、銭貨
 (1)石臼、茶臼、石盤、バンドコ、ガラス玉
 (2)銭貨

挿図目次

第 1 図	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点 ……	2	4317・4280、SE4276、第Ⅱ区域SB4273、SV940・
第 2 図	第 82・102・104・125 次調査区と周辺の調査 区位置図 ……	6	4261・4262、SX4279・4290、SD4270～4272・折込
第 3 図	第 82・102・104・125 次調査位置図 ……	7	第 12 図 第Ⅱ区域SX4279 ……
第 4 図	第 82 次調査風景 ……	8	第 13 図 第Ⅲ区域矩折部SA893、東側土塁石垣SA892・17
第 5 図	第 102 次調査風景 ……	9	第 14 図 第Ⅳ区域SI942、SZ913、SD902、828 ……
第 6 図	第 104 次調査風景 ……	10	第 15 図 第Ⅳ区域SI821 ……
第 7 図	第 82 次調査位置図 ……	11	第 16 図 第Ⅳ区域SA836・846・844・840・857、SB831・
第 8 図	第 82 次調査遺構全体図 ……	折込	832・838・856・841～843・869・837、SG829、
第 9 図	第 82 次調査a-a'・b-b'・c-c'・d-d'・e-e' 遺構断面図 ……	折込	SX873・874、SE847～850、SF851 ……
第 10 図	第Ⅰ区域SX4280 ……	13	第 17 図 第 82 次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器…
第 11 図	第Ⅰ区域SA4260、SB4274、SX4309・4313・4316・		第 18 図 第 82 次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器…
			第 19 図 第 82 次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器…
			第 20 図 第 82 次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器…

第 21 図	第 82 次調査 第 I・II 区域包含層出土土器 第 I 区域遺構出土土器 ……………	28	第 45 図	第 102 次調査 第 I・II 区域遺構出土土器…	67
第 22 図	第 82 次調査 第 I 区域遺構出土土器…	29	第 46 図	第 102 次調査 土製品、金属製品、骨角製品、 石製品 ……………	68
第 23 図	第 82 次調査 第 I・II 区域遺構出土土器 …	30	第 47 図	第 102 次調査 石製品、錢貨 ……………	69
第 24 図	第 82 次調査 第 II 区域遺構出土土器、土製 品、金属製品 ……………	31	第 48 図	第 104 次調査 表土、第 III 区域包含層出土 土器 ……………	81
第 25 図	第 82 次調査 金属製品、石製品…	32	第 49 図	第 104 次調査 第 III 区域包含層出土土器…	82
第 26 図	第 82 次調査 石製品、木製品…	33	第 50 図	第 104 次調査 第 III～V 区域包含層出土土器 ……………	83
第 27 図	第 82 次調査 木製品、錢貨…	34	第 51 図	第 104 次調査 第 V 区域包含層・遺構出土 土器、第 III 区域遺構出土土器 ……………	84
第 28 図	第 82 次調査 錢貨…	35	第 52 図	第 104 次調査 第 III 区域遺構出土土器 …	85
第 29 図	第 102・104 次調査位置図…	48	第 53 図	第 104 次調査 第 III・IV 区域遺構出土土器…	86
第 30 図	第 102・104 次調査遺構全体図…	折込	第 54 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	87
第 31 図	第 102 次調査第 I 区域 a-a'、第 II 区域 b-b'・ c-c' 遺構断面図 ……………	折込	第 55 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	88
第 32 図	第 104 次調査第 III～V 区域 d-d'・e-e'・f-f'・ g-g'・h-h' 遺構断面図 ……………	折込	第 56 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	89
第 33 図	第 I 区域 SI4750、SG4758、第 II 区域 SB4767、 SI4762 ……………	51	第 57 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	90
第 34 図	第 III 区域 SF4813 ……………	54	第 58 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	91
第 35 図	第 III 区域 SA4780・4781、SI4817、SZ4844、 SD4808・4810、SF4814・4815 ……………	55	第 59 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器 …	92
第 36 図	第 IV 区域 SD4848 周辺甲冑 X001～003 ……	56	第 60 図	第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器、土 製品 ……………	93
第 37 図	第 III 区域 SA4780・4760・4785、SS260・ SI4816・4818、SX4834・4836、第 IV 区域 SB4790、SD4804～4806、SD4847、SX4833・ 4847 ……………	折込	第 61 図	第 104 次調査 土製品、金属製品、甲冑…	94
第 38 図	第 V 区域 S1～5…	58	第 62 図	第 104 次調査 甲冑 X003 出土兜鞆…	95
第 39 図	第 V 区域 SB4789・4788・4786・4846・4787、 SD4850・4797・4798・4794～4796・4753・ 4793、4792・4801、SS4823・4824・4849、 SF4826・4827、SE4812、X006～008…	折込	第 63 図	第 104 次調査 甲冑 X005 出土兜鞆、X001 出 土草摺 ……………	96
第 40 図	第 V 区域 X008:SD4801 硯箱 ……………	59	第 64 図	第 104 次調査 甲冑 X001 出土草摺、X002 出 土大袖 ……………	97
第 41 図	第 102 次調査 第 I 区域包含層出土土器…	63	第 65 図	第 104 次調査 甲冑 X002 出土大袖、X004 出 土草摺 ……………	98
第 42 図	第 102 次調査 第 I 区域包含層出土土器…	64	第 66 図	第 104 次調査 甲冑 X004 他出土草摺、木製 品 ……………	99
第 43 図	第 102 次調査 第 I・II 区域包含層出土土器 ……………	65	第 67 図	第 104 次調査 木製品、石製品 ……………	100
第 44 図	第 102 次調査 第 II 区域包含層出土土器、第 I 区域遺構出土土器 ……………	66	第 68 図	第 104 次調査 石製品 ……………	101
			第 69 図	第 104 次調査 石製品、錢貨 ……………	102
			第 70 図	第 104 次調査 錢貨 ……………	103
			第 71 図	第 125 次調査位置図 ……………	125
			第 72 図	第 125 次調査 1～9 トレンチ平面図 ……	127
			第 73 図	第 125 次調査 1・2・9 トレンチ出土土器…	129

表 目 次

第 1 表	第 82 次調査主要遺構観察表…	22	第 4 表	第 102 次調査出土遺物観察表 ……………	69
第 2 表	第 82 次調査出土遺物観察表…	36	第 5 表	第 104 次調査出土遺物観察表 ……………	103
第 3 表	第 102・104 次調査主要遺構観察表…	60	第 6 表	第 125 次調査出土遺物観察表 ……………	129

I. 事業概要

1. 調査の目的

戦国大名朝倉氏の拠点である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、5代103年間にわたって営まれた城下町の遺跡であり、朝倉館を中心として山城、城戸、武家屋敷、町屋、寺院等の遺構が一体となって保存されており、国民共有の文化遺産として、永久に保存するため、特別史跡に指定して公有地化を進めている。

発掘調査で検出した遺構は保護するだけにとどまらず、その調査成果を広く公開し、来園者の歴史認識の醸成に資することを常に重視し、遺跡の中に自身を置いて「歴史と生きた対話」ができる史跡公園の完成を目指している。

既に、一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査と整備が着手されて半世紀以上を時が過ぎたが、不断の調査の積み重ねが一乗谷の町並みの規模や構造、そこで生きる人々の暮らしぶりを多彩な角度から解明してきた。計画的な発掘調査の成果に基づいて環境整備が実施され、適切な維持管理のもとに遺跡を公開するという基本理念は多くの関係者の努力によって今日まで一貫している。

一乗谷朝倉氏遺跡の調査は、昭和42年(1967)度、旧足羽町教育委員会が事業主体として始め、昭和46年(1971)度から福井県教育委員会が発掘調査と環境整備事業実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当して事業を進めてきた。同年7月に278haという広大な区域が国の特別史跡に格上げ指定されると、県は昭和47年(1972)3月に「朝倉氏史跡公園基本構想」を策定し、さらに「基本構想」に基づく事業遂行の指導体制の万全を期すため、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会」を発足させた。同年3月、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヶ年計画等を策定して、発掘調査と環境整備を継続的に実施してきた。

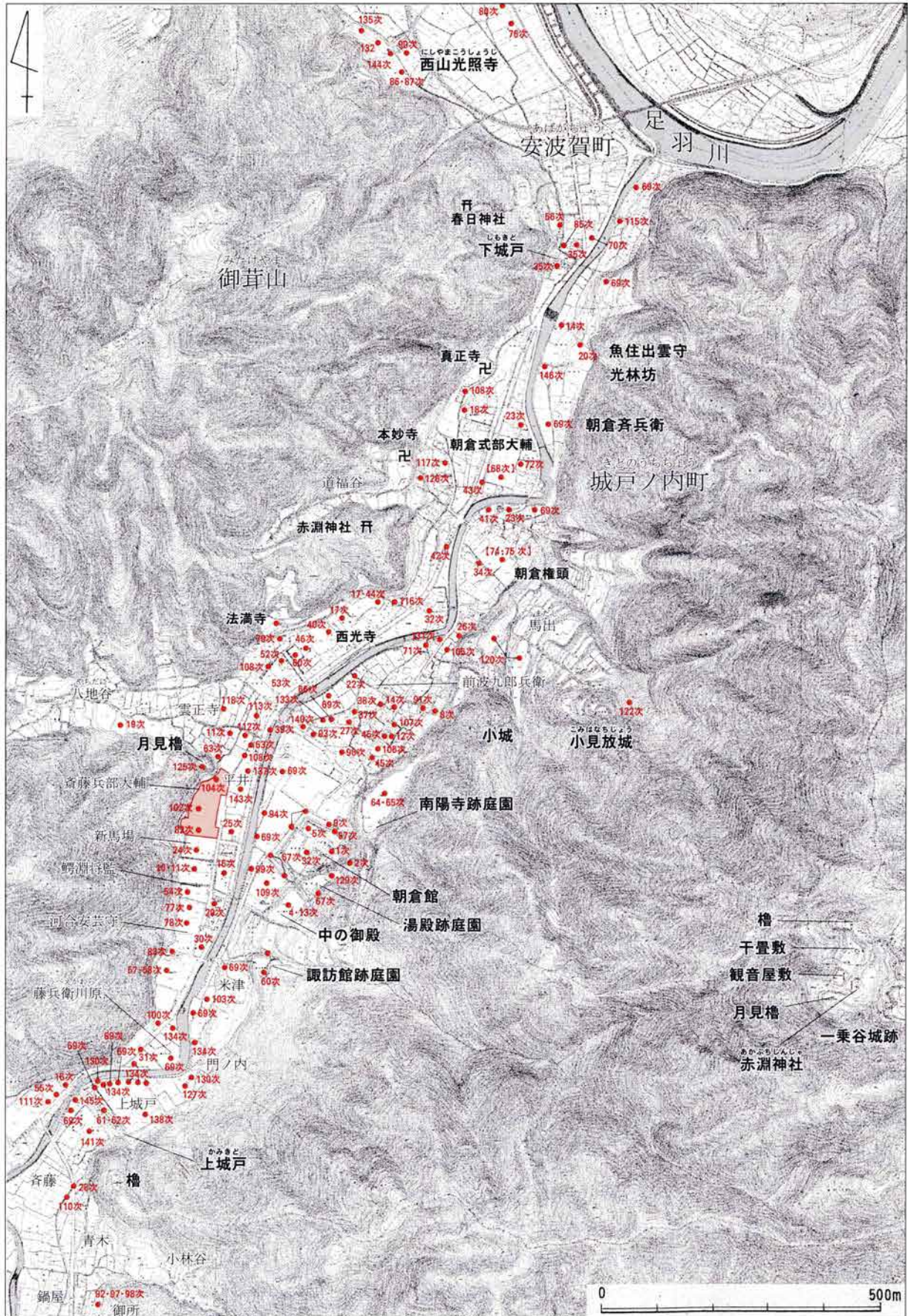
その後、平成3年(1991)に4つの庭園が国の特別名勝になり、平成19年(2007)に出土遺物2,343点が重要文化財に指定され、令和元年(2019)に至り、日本遺産に認定されるなど、遺跡の価値は大きく同心円を描いて広く発信されるようになった。

現在の一乗谷における発掘調査は、「計画調査」と「現状変更に伴う調査」に対応しており(第1図)、計画調査の成果については、複数次にわたる調査区の遺構が一定の面積にまとまると、正報告書を刊行してきた。現状変更を前提とした道路・河川整備・中山間事業等に伴う発掘調査については、事業別に報告書を刊行してきた。また、史跡内の「個人宅地の新・改築等に伴う発掘調査」については、研究協議会へ報告し、各年度の「発掘調査整備事業概報」で報告を行ってきた。調査次数は令和3年度の段階で154次に至る。本書では、昨年度につづき、重臣屋敷の遺構に焦点をあて、第82・102・104・125次の調査成果について報告する。

2. 調査の方法および組織

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として県が直接実施しており、その実施機関として、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年(1972)4月1日～昭和56年(1981)8月19日)、福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～平成3年(1991)3月31日)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(平成4年(1992)4月1日～現在、以下、資料館に略)が設置され、組織を改変して現在に至る。

平成24年(2012)度、県の機構改革によって、資料館は教育庁から知事部局に移管され、発掘調査、遺物整理の業務は、一時、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設置して対応したが、平成29年(2017)度から再び発掘調査・遺物整理は資料館の業務となった。なお、資料館の業務については、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づいて設置された福井県朝倉氏遺跡研究協議会(旧福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会)から適切な指導と助言を得て進めている。



第1図 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点(縮尺1/10,000)

3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織

【発掘調査】

平成元年度

福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会

会長	青園謙三郎(福井テレビ副会長)
委員	石井 進(東京大学教授)
委員	木原啓吉(千葉大学教授)
委員	小林健太郎(滋賀大学教授)
委員	近藤公夫(奈良女子大学教授)
委員	重松明久(中津女子短期大学学長)
委員	田畑貞寿(千葉大学教授)
委員	玉置伸吾(福井大学教授)
委員	坪井清足(大阪文化財センター理事長)
委員	平井 聖(東京工業大学教授)
委員	石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員	藤田武信(城戸ノ内区長)

平成2年度

福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会

会長	青園謙三郎(福井テレビ副会長)
委員	石井 進(東京大学教授)
委員	木原啓吉(千葉大学教授)
委員	小林健太郎(滋賀大学教授)
委員	近藤公夫(神戸芸術工科大学教授)
委員	田畑貞寿(千葉大学教授)
委員	玉置伸吾(福井大学教授)
委員	坪井清足(大阪文化財センター理事長)
委員	平井 聖(昭和女子大学教授)
委員	松浦義則(福井大学教授)
委員	石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員	細田岳雄(城戸ノ内自治会会長)

【遺物整理・報告書刊行】

平成30年～令和3年度

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長	小野正敏(国立歴史民俗博物館名誉教授・中世考古学)
副会長	高妻洋成(奈良文化財研究所副所長・保存科学)
委員	池上裕子(成蹊大学名誉教授・中世史)
委員	久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)
委員	富島義幸(京都大学大学院教授・建築史)
委員	小野健吉(大阪観光大学教授・遺跡整備)
委員	小浦久子(神戸芸術工科大学教授・都市計画)
委員	杉本 宏(京都芸術大学教授・庭園整備)
委員	中井 均(滋賀県立大学名誉教授・城郭考古学)
委員	岸田 清((社)朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員	網谷克彦(元福井県陶芸館長・考古)
委員	吉田 智(福井県教育博物館長・歴史)

(網谷委員の任期は令和2年1月24日まで。中井委員の任期は令和2年1月25日から)

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

平成 30 年度

館長 向出宏二 (事務)
 副館長 月輪 泰 (考古)
 次長 下山淳子 (事務)
 主任 川越光洋 (考古)
 主任 宮永一美 (歴史)
 主任 田中祐二 (考古)
 主任 有馬香織 (歴史)
 主査 松本泰典 (考古)
 主査 熊谷 透 (建築)
 主査 藤田若菜 (庭園)
 学芸員 石川美咲 (歴史)
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)
 藤井亜衣 (事務) (観光営業部文化振興課)
 非常勤嘱託 花川洋介 (事務)
 非常勤嘱託 眞保弘恵 (事務)
 非常勤嘱託 富阪昌代 (事務)

令和元年度 (6月より)

館長 向出宏二 (事務)
 副館長 月輪 泰 (考古)
 次長 下山淳子 (事務)
 主任 鈴木篤英 (考古) (併勤 県埋蔵文化財調査センター)
 主任 川越光洋 (考古)
 主任 宮永一美 (歴史)
 主任 宮崎 認 (考古)
 主任 田中祐二 (考古)
 主任 有馬香織 (歴史)
 主査 熊谷 透 (建築)
 主査 藤田若菜 (庭園)
 学芸員 石川美咲 (歴史)
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)
 (兼務) 藤井亜衣 (事務) (交流文化部文化課)
 非常勤嘱託 花川洋介 (事務)
 非常勤嘱託 眞保弘恵 (事務)
 非常勤嘱託 富阪昌代 (事務)

令和 2 年度

館長 西澤弘純 (事務)
 総括 川越光洋 (考古)
 次長 下山淳子 (事務)
 主任 鈴木篤英 (考古)
 主任 宮永一美 (歴史)
 主任 宮崎 認 (考古)
 主任 田中祐二 (考古)
 主査 酒井健治 (歴史)
 主査 熊谷 透 (建築)
 主査 藤田若菜 (庭園)
 主査 高橋史弥 (民俗)
 学芸員 石川美咲 (歴史)
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)
 考古専門研究員 月輪 泰 (考古)
 歴史教育専門員 花川洋介 (事務)
 窓口業務支援員 眞保弘恵 (事務)
 窓口業務支援員 富阪昌代 (事務)

令和 3 年度

館長 西澤弘純 (事務)
 副館長 松村昌治 (事務)
 副館長 (調査・研究) 川越光洋 (考古)
 主任 鈴木篤英 (考古)
 主任 宮永一美 (歴史)
 主任 宮崎 認 (考古)
 主任 田中祐二 (考古)
 主任 窪田裕美 (美術工芸)
 主査 酒井健治 (歴史)
 主査 熊谷 透 (建築)
 主査 藤田若菜 (庭園)
 学芸員 石川美咲 (歴史)
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)
 学芸員 藤井佐由里 (遺跡保存)
 学芸員 藤田理紗 (史跡整備)
 考古専門研究員 月輪 泰 (考古)
 歴史教育専門員 白木明博 (事務)
 窓口業務支援員 眞保弘恵 (事務)
 窓口業務支援員 富阪昌代 (事務)
 発掘調査指導監視員 北野左近 (考古)

発掘作業には、地元の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業については、資料館整理作業員(令和2年度から会計年度任用職員)が行った。

Ⅱ. 調査の概要と経過

1. 調査の概要(第2・3図)

第82次調査【城戸ノ内町字齊藤】 調査区は城戸ノ内町字齊藤に所在し、朝倉館跡から一乗谷川を挟んで東へ約120m隔てた水田に立地し、標高51.8mを測る。調査面積は1,920㎡を対象とした。調査期間は平成5年(1993)4月1日～同年8月22日である(第2図)。

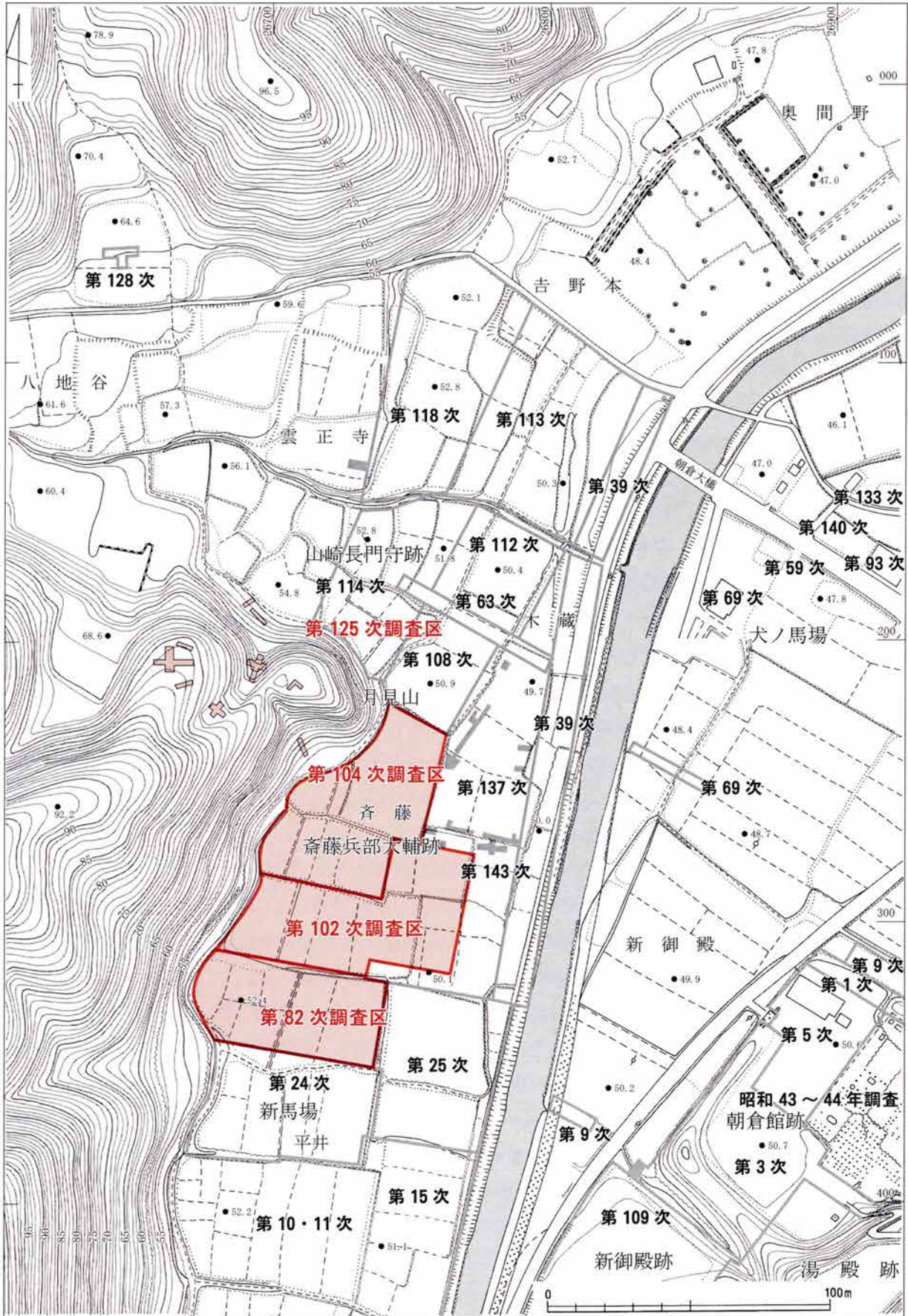
東側の第25次調査区、南側の第24次調査区と第10・11次調査区を照合した結果、土塁石垣で区画された武家屋敷の全体像を把握することができた。遺構は、第82次調査において遺構は、土塁石垣2、道路1、礎石建物2、掘立柱建物1、溝3、埋甕土坑群1、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸3、石を用いた不明遺構31など検出し、過去の調査区の遺構を含めると、武家屋敷全体が土塁石垣7、門2、道路1、通路1、礎石建物9、掘立柱建物3、溝9、暗渠4、埋甕土坑群1、土坑3、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸7、庭1、柵5、石積施設2、石を用いた不明遺構37等で構成されていることが明らかになった(第3図)。武家屋敷全体は、外寸で北辺66m以上×東辺63m×南辺62m以上×西辺73m以上を測り、敷地面積約4,600㎡以上の規模と推定される。

武家屋敷の北半分は鍛冶工房や倉庫を主体とした遺構が集中し、井戸や埋甕土坑群もこれらに伴うものと考ええる。特殊な遺構としては、複式構造をもつ石組のカマドが3基検出され、大量の湯を沸かす行為にどのような背景があったか注意される。南半分の遺構は同町字平井に所在し、「一乗谷古絵図」(文1)の「新馬場」に相当すると考えられ、山裾の礎石建物は屋内に馬を繋いでいたと推定される空間を備え、東側に馬柵や厩舎に準ずるような建物が確認できた。また、庭や四阿も検出されたことは、ここが居住を目的とした場所ではなく、馬匹飼育の一方で、情報交換や交渉事の場としての役割を担った施設であった側面をうかがわせる。

第102・104次調査【城戸ノ内町字齊藤】 第102・104次調査区は城戸ノ内町字齊藤に所在し、朝倉館跡から一乗谷川を挟んで東へ約100m隔てた畑地に立地し、第102次調査区で標高50.2m、第104次調査区で標高50.4mを測る。第102次調査は、調査面積は2,300㎡を対象とし、調査期間は平成10年(1998)4月1日～同年12月20日である(第2図)。第104次調査は、調査面積は2,00㎡を対象とし、調査期間は平成11年(1999)4月8日～同年12月24日である。

第102次、104次調査の成果を照合した結果、西側の山裾において、土塁石垣や道路で区画された3つの武家屋敷が確認されるに至った。3つの武家屋敷跡A・B・C(旧武家屋敷Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は、南北道路SS260と東西道路SS4822で仕切られ、そのうち南北道路SS260の西側を占める大規模武家屋敷Aの全体像が明らかになった意義は大きい。主要な遺構は、第102次調査の第Ⅰ・Ⅱ区域において、土塁石垣2、門2、道路1、礎石建物1、溝5、井戸3、庭1、石敷遺構2等を検出し、第104次調査の第Ⅲ～Ⅴ区域において、土塁石垣7、門2、道路2、通路3、礎石建物6、溝18、暗渠2、井戸1、石積施設5、石敷遺構4等が検出された。大規模武家屋敷Aは外寸で北辺17m以上×東辺98m×南辺50m以上×西辺109m以上を測り、敷地面積約3,700㎡以上の規模をもつと推定された。字「齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」の「^{さいとうひょうぶだゆうあと}齋藤兵部大輔跡」に由来する可能性が高いこと、立地・規模から見て、大規模武家屋敷Aは、5代朝倉義景の側室である^{こしょうしょう}少少將の父君、「齋藤兵部少輔」の屋敷と有力視される。多くの外国製陶磁器や調度品に加え、稀有な甲冑の出土もこれを裏付けている。

第125次調査【城戸ノ内町字齊藤】 第125次調査区は、城戸ノ内町23字齊藤・35字八地谷・17字雲正寺にかかり、『一乗谷古絵図』では「月見山」と記されている。調査区は山林尾根を対象にトレンチ調査を行い、総面積は500㎡を測る。調査期間は平成19年(1991)10月1日～同年12月20日である。調査の結果、第1トレンチから板石で仕切り、礫石を充填した遺構の一部が検出され、庭の存在が示唆された。



第2図 第82・102・104・125次調査区と周辺の調査区位置図(縮尺1/2,000)

1. 調査の概要



第3図 第82・102・104・125次調査位置図(縮尺1/1,000)

2. 調査日誌

第82次調査 平成5年(1993)4月1日～8月22日

- 4月1日 調査開始。表土剥ぎ。
- 5月18日 基準杭設置。
- 5月25日 調査区南半部から遺構検出。遺構面は小砂利混濁色土で整地されていることを確認。
- 5月26日 d-d'断面精査。旧石垣SV940、SD4268検出。井戸SE4275、土墨石垣SA892内で暗渠SZ913検出。
- 5月27日 調査区北東側で石列SV940、SD4270検出。
- 5月28日 石列SX4290～4292確認。周辺に床土直下の炭混黒色土が広がり、土師器皿多く出土。
- 5月31日 石敷SX4296、溝SD4272検出。
- 6月1日 c-c'断面東側精査。SB4273、石列SX4299・4030検出。地山は固くしまり、砂利・焼土・炭が混じる。Q35グリッドから鉄砲玉出土。
- 6月3日 整地土の下で井戸SE4276検出。遺物希薄。下層遺構と考える。SB4273北東隅で伏せた状態の鉢が出土。Q37で茶入れ出土。
- 6月7日 調査区西側精査。井戸SE4277、埋甕遺構SX4313、土墨石垣SA4260、鍛冶炉SX4313検出。石敷SX4308・4310は後世のものと判断。
- 6月11日 d-d'断面西側精査。整地土は砂利混黒褐色土。土師器皿を多く含有。SX4289～4292・4302検出。
- 6月17日 調査区南側精査。溝SD4272、石敷SX4301、井戸SE849検出。整地土は黒褐色土。
- 6月23日 礎石建物SB4273東側精査。
- 6月28日 SE4276の底面で井枠検出。木製品多数出土。SD4272東西端確認。
- 7月9日 SE4275の底面で井枠検出。遺物希薄。調査区北東精査。SV940検出。
- 7月26日 下層遺構のSD4271、SX4288周辺の炭混暗褐色土の整地層から土師器皿多く出土。
- 7月27日 SX4288・4289に含まれる柱穴がSD4271を跨ぐような建物と推定。
- 7月29日 調査区北東側精査。第25次調査で検出した南北道路矩折の西側を調査。SA893、SV940・4262・4263、SD4268、SZ4319精査。
- 8月2日 調査区最北側のSD4268を良好な状況で検出。
- 8月9日 掘立柱建物SB4274、鍛冶炉SX4313、井戸SE4277精査。埋甕遺構SX4309は越前焼大甕を据えたと推定される5基の土坑で構成。
- 8月10日 石積施設SF4271から完形の土師器皿4点出土。SB4273内で土錘、水滴出土。
- 8月12日 下層遺構SX4318・4303精査。石敷遺構SX4281は半円形の炉と推定。
- 8月13日 調査区中央精査。カマドSX4280検出。笏谷石を用いた複式構造を確認。焼土土坑SX4317から銭貨5枚出土。鍛冶炉SX4316から鞆の羽口、鉾滓出土。
- 8月19日 a-a'断面U32～26の範囲を深く下げる。断面でカマドSX4279を検出。T32グリッドで火炉出土。
- 8月22日 器材撤収。調査一旦終了。以降、補足調査を実施。
- 9月6日 下層確認のためd-d'断面とa-a'断面U27～23の範囲を深く下げる。
- 10月9日 カマドSX4279精査。SX4309埋甕2基検出。
- 11月17日 空中写真測量



第4図 第82次調査風景

第102次調査(第Ⅰ・Ⅱ区域)

平成10年(1998)4月1日～12月20日

- 4月2日 調査区北壁H29～39に沿って排水溝掘削。
 4月8日 本日から16日まで第100次調査区埋め戻し作業、第82次調査排土除去作業。西山光照寺の石造物の搬出作業を併行して実施。
 4月21日 本日から5月1日まで調査区南壁側の園路を除去。
 5月26日 本日から6月23日まで第Ⅰ区域表土剥ぎ。
 7月1日 本日から14日まで第Ⅱ区域表土剥ぎ。
 7月21日 本日から24日まで第Ⅱ区域南側調査。礫・コンクリ片がコンクリ片を埋めた攪乱の広がりを確認。
 7月28日 本日から8月12日まで第Ⅱ区域北側調査。調査区全体に基本杭設置。実習生第Ⅱ区域c-c'断面精査。
 8月14日 本日から18日まで第Ⅱ区域北側半分調査。遺構・遺物確認できず。
 8月20日 第Ⅱ区域b-b'断面精査。
 8月21日 本日から28日まで第Ⅱ区域南側調査。表土を剥くと礫石で埋められていたが、礎石建物SB467検出。
 9月3日 第Ⅰ区域南西側の表土剥ぎ。朝倉墓所の調査も着手。
 9月4日 第Ⅰ区域南西側の表土剥ぎ。朝倉墓所の調査では、石塔下において遺構は確認できず。
 9月8日 第Ⅱ区域東側の表土剥ぎ、排水溝掘削。併行して実施した朝倉墓所の調査は本日終了。
 9月9日 第Ⅱ区域b-b'断面精査。015～19グリッド周辺は攪乱の礫石が約50cmの厚さで堆積しており、この部分の遺構面の有無は最終段階で確認することにする。
 9月10日 第Ⅰ区域a-a'断面を延長した東側I23～20の層位を確認。門SI4750、第Ⅱ区域土墨石垣SA4760検出。
 9月11日 第Ⅱ区域土墨石垣SA4760精査。石垣の石材が道路SS260上に大量に崩落。
 9月29日 第Ⅱ区域土墨石垣SA4763の南端で門SI4762検出。笏谷石の平石を9枚確認。
 9月30日 第Ⅱ区域道路SS260検出。笏谷石の石列SX4761精査。
 10月6日 SS260精査。SX4761の範囲を確認。
 10月7日 荒天。SS260の崩落していた石を除去。
 10月8日 SS260精査。全面で砂利の広がりを検出。排水が悪く調査困難。
 10月9日 第Ⅰ区域排水溝掘削。表土剥ぎ作業。
 10月15日 第Ⅱ区域から第Ⅰ区域へベルコン設置、器材移動。
 10月16日 週末に台風接近。器材をまとめる。
 10月20日 第Ⅰ区域土墨石垣SA893、SI4750、井戸SE4751精査。
 10月22日 第Ⅰ区域東側の遺構精査。SI4750、SD4752、SX4765の周辺とSB4766東側に砂利の広がりを確認。
 10月26日 第Ⅰ区域中央C-K30・31グリッドの遺構精査。遺物は北半部で若干出土。
 10月28日 第Ⅰ区域石組溝SD4755・4756検出。遺物多し。
 10月30日 第Ⅰ区域西側の遺構精査。遺構・遺物密度は希薄。
 11月4日 第Ⅰ区域溝SD4755・4756精査。
 11月6日 第Ⅰ区域石組SX4758精査。巨石を用いた石敷遺構であり庭の可能性あり。周辺から柱穴4基検出。
 11月9日 第Ⅰ区域石組SX4758の北西から角柱検出。
 11月18日 荒天のため午後から光照寺の石仏約150体洗浄作業。
 12月8日 第Ⅱ区域のH23～21グリッド深掘りをして下層確認。
 12月10日 第Ⅱ区域の再測量のためL-R20グリッドの石垣洗浄。
 12月14日 空撮準備の清掃作業。
 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。



第5図 第102次調査風景

第104次調査(第三・IV区域)

平成11年(1990)4月1日～12月20日

- 4月2日 調査開始。表土剥ぎ作業。
- 5月14日 第三区域精査。礎石建物SB4790 検出。
- 5月17日 溝SD4804、石敷SX4834 検出。
- 5月19日 土塁石垣SA4780・4785 検出。門SI4816 検出。
- 6月3日 調査区西側精査。礎石建物SB4788 検出。
- 6月4日 第四区域精査。溝SD4801・4802・4797 検出。
- 6月5日 併行する溝SD4797・4800 検出。
- 6月8日 溝SD4802 検出。034・35グリッド周辺の焼土から土師器皿、陶磁器出土。
- 6月9日 交差する溝SD4795・4796 検出。
- 6月10日 道路SS4823上の焼土から遺物多く出土。
- 7月2日 土塁石垣SA4760、暗渠SZ4843 精査。
- 7月6日 第三区域精査。SB4790の北東側で黒漆塗りの小札出土。
- 7月8日 溝SD4808の下層から石積施設SF4814 検出。
- 7月9日 土塁石垣SA4781・4783 検出。道路SS260、溝SD4810 検出。
- 7月27日 石積施設SF4813 周辺精査。土塁石垣SA4780 検出。
- 8月2日 土塁石垣SA4781と47890の間で門SI4817 検出。
- 8月19日 第四区域精査。土塁石垣SA4760、礎石建物SB4846に伴う道路SS4824、溝SD4797・4798 検出。
- 9月1日 SB4846と周囲の溝SD4798・4760・4793・4794 精査。水村・宮永は奥田宅の現状変更調査に対応。
- 9月2日 第三区域SX4834で大量の礫石が集中。第四区域SD4794～4796の切り合いを確認。いずれも焼土、土師器皿多く出土。SB4789は土蔵と推定。
- 9月9日 SB4789 西辺、S33グリッドで炭化した板材と土師器皿1点出土。
- 9月17日 T35グリッドから土製観音菩薩像出土。
- 9月27日 第三区域X30で黒漆塗りの小札出土。W30グリッドで墨書曲物1点出土。第四区域S35グリッドのSD4801から黒漆塗りの箱(蓋)が出土。
- 9月30日 第三区域SX4839・4841、石積施設SF4813～4815、門SI4816・4817、溝SD4805・4806 精査。
- 10月4日 第三区域土塁石垣SA4783、暗渠SZ4844・4845 精査
- 10月8日 第102次調査第二区域北側の最終的な遺構面を再確認するため不要な礫石の除去作業を行う。
- 10月25日 第二区域SX4769、SB4767 精査。
- 11月1日 第三区域SA4783 北辺検出。
- 11月16日 第二区域埋め戻し用の山砂準備・移動作業。
- 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。

第125次調査 平成19年(2008)10月1日～12月20日

- 10月1日 調査準備。器材搬入。
- 10月4日 調査区の設定と確認作業。岡田会長と日程調整。
- 10月16日 試掘開始。
- 11月8日 基準杭設定。1～3トレンチ掘削中。
- 11月9日 1トレンチで焼土直下から砂利敷からなる組石面検出。
- 11月14日 3トレンチ断面から窯跡の可能性を検討。水村確認。
- 11月29日 9トレンチ地表下2mで黄褐色土下から焼土層を確認。焼土層、巨石、整地層を確認。
- 12月14日 7・9トレンチ図面作成。8トレンチ掘削
- 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。

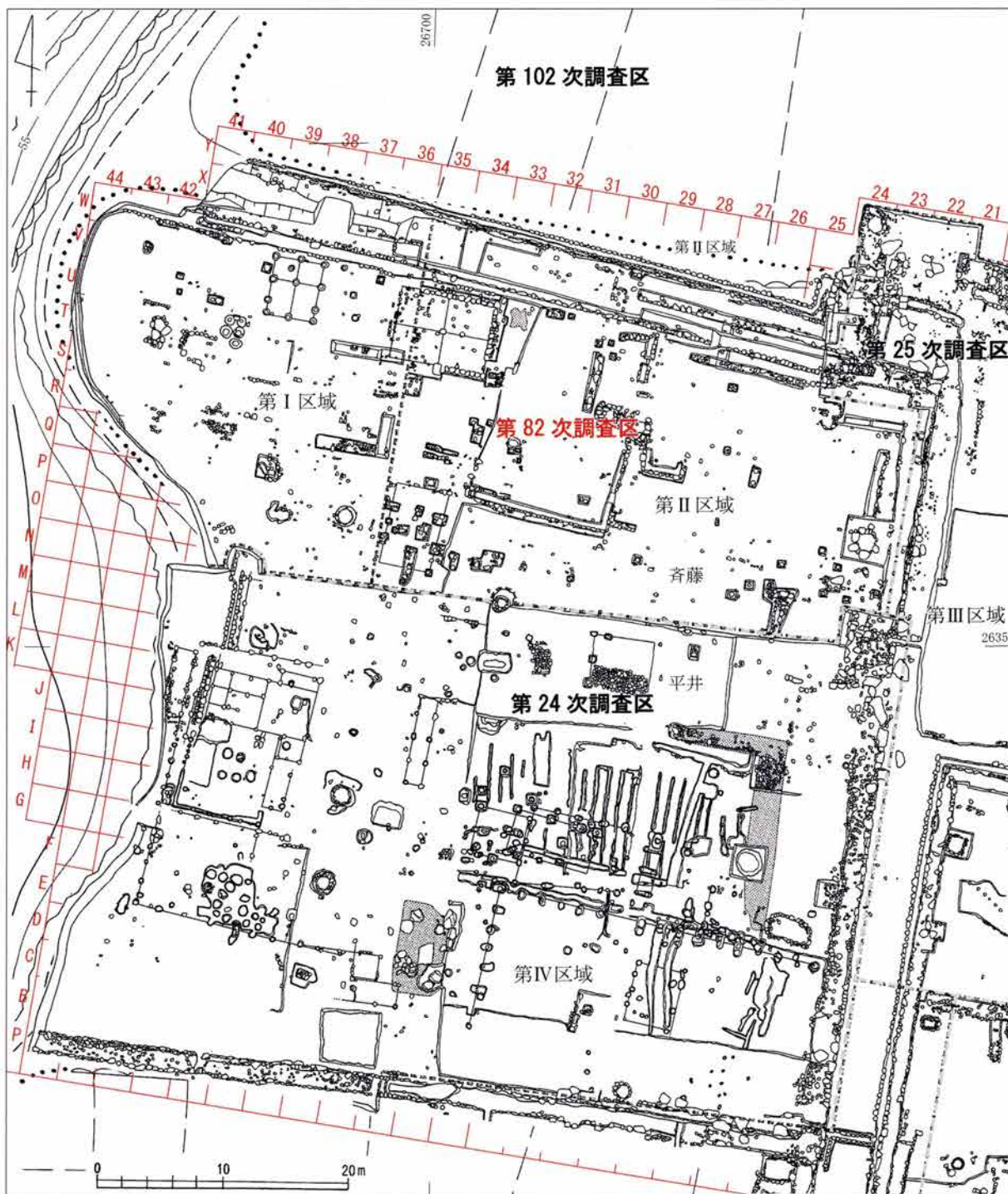


第6図 第104次調査風景

Ⅲ. 第82次調査【城戸ノ内町字齊藤・平井】

1. 遺構の概要(PL.1~17 第7~16図 第1表)

第82次調査は、城戸ノ内町字齊藤に所在し、第24次調査区の同町字平井を含めて、ひとつの武家屋敷跡の北半分を構成していることが明らかになった。武家屋敷跡は、朝倉館跡から南西へ約115m隔てた一乗谷川左岸の水田に立地し(第7図)、標高51.8mを測り、南西の山裾から北東の一乗谷川にかけて緩やかに傾斜する地形に築かれていた。



第7図 第82次調査位置図(縮尺1/500)

調査面積は1,920㎡であり、調査期間は平成5年(1993)4月1日～同年8月22日までを要した。航空測量は同年11月17日に実施した(文2)。第82次調査区は、北側を第102次調査区(文2)、東側を第25次調査区(文3)、南側を第24次調査区(文3)・第10・11次調査区の一部(文4)と接しており、各調査区と照合した結果、ようやく土塁石垣で台形に区画された「馬場」を備えた武家屋敷跡の全体像をつかむに至った(第8図)。

調査当時の水田畦畔を基にした区割りでは「9MIM-P地区」と称したが、本報告書では、武家屋敷全体の様相を把握するため、前述した周辺調査区を含めて、第82次調査第I～IV区域と改めて区分した。第I区域は、第82次調査区東半、第II区域は第82次調査区西半の区域、第III区域は第25次調査区西側で構成され、字齊藤に含まれる。第IV区域は第24次調査区と第10・11次調査区の一部で構成され、字平井に含まれる。

調査の方法は、地形に沿って、任意の1辺3mの方形グリッドを東西方向に22～44、南北方向に0～Yの番号を付して設定し、遺構の記録、遺物の採集に用いた(第8図)。また、遺構の分布・密度・前後関係を把握するため土層観察用のアゼを4本設定し、調査区内の東西方向についてはa-a'断面(T44～22)、b-b'断面(Q42～22)、南北方向についてはc-c'断面(N-X35)、d-d'断面(O-X27)で観察を行った(第9図)。

遺構は、第82次調査の第I・II区域において、土塁石垣2、道路1、礎石建物2、掘立柱建物1、溝3、埋甕土坑群1、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸3、石を用いた不明遺構31など検出し、第III・IV区域の遺構を加えると、武家屋敷が土塁石垣7、門2、道路1、通路1、礎石建物9、掘立柱建物3、溝9、暗渠4、埋甕土坑群1、土坑3、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸7、庭1、柵5、石積施設2、石を用いた不明遺構37等で構成されていることが明らかになった(第8図)。武家屋敷全体は、外寸で北辺66m以上×東辺63m×南辺62m以上×西辺73m以上を測り、敷地面積約4,600㎡以上の規模と推定される。

遺構の時期については土塁石垣構築前がI期、土塁石垣構築後町並み整備がされた時期がII期、朝倉氏滅亡期をIII期とし、III期は前後関係で小期2期に区分した(第1表)。以下、主要な遺構の概要を述べる。

2. 第I区域(PL.1～5 第8～11図)

第I区域は第82次調査区の東側を占め、0-Y36～44の範囲に相当する(第8図)。遺構の層位はa-a'断面、b-b'断面、c-c'断面で観察した(第9図)。

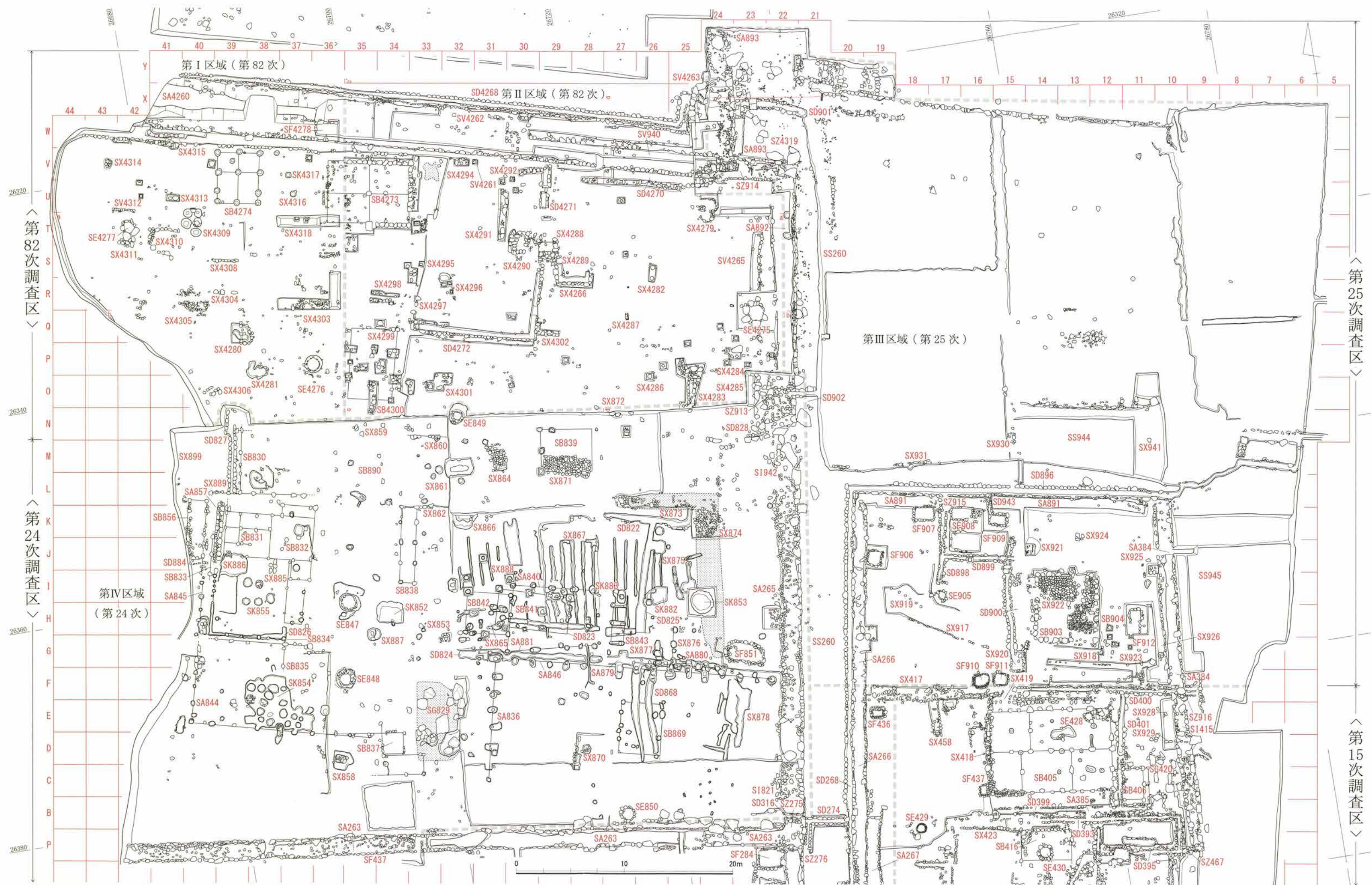
土塁石垣

SA4260(PL.2～4 第8・11図) V-Y36～41に位置。武家屋敷の北側土塁石垣である。第I区域においては調査前段階で西側の山裾に幅3.0～4.0mの高さ2.0mの土塁が認められた。主軸はN82°Wに向き、全長約52m、基底幅4.5～4.9mを測る。下層のSF4278の存在から、当初、土塁は存在せず、北端の石列SV4262までが屋敷の敷地であり、段差は約0.7m程度であったと考える。

石列SV940はSV4262から南側に2.4m隔てて構築されるが、SV940は土塁石垣SA893の南端を形成しており、この段階では、北側の102次調査区の武家屋敷の南側土塁石垣として構築されたと考える。最終的に、さらに南側に約2.1m拡張して、石列SV4261を構築した段階で、SA4260は北側土塁石垣として完成したと考える。

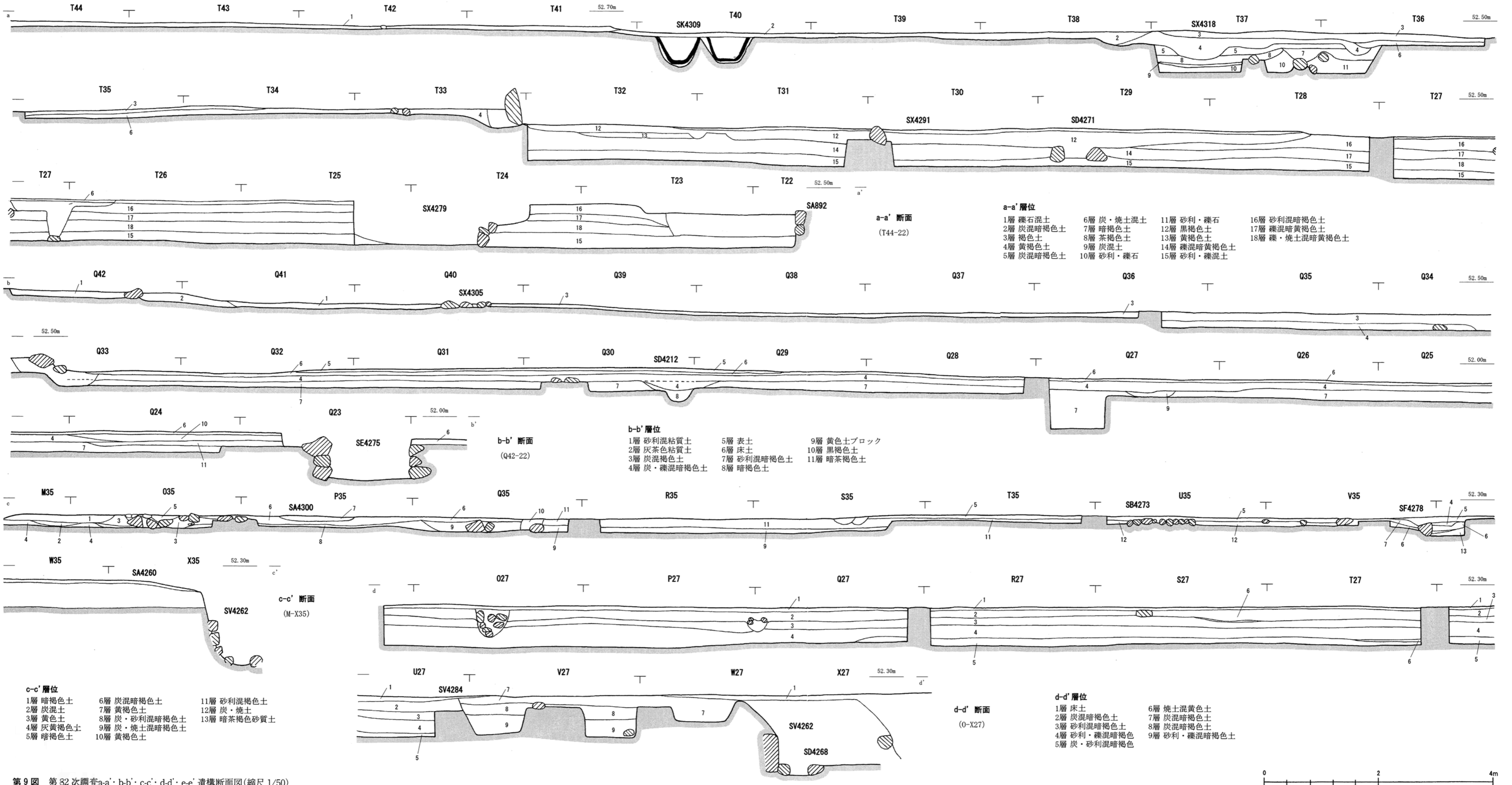
建物

SB4274(PL.2～4 第11図) U・V38・39に位置。方形の掘立柱建物であり、桁行3間、梁間2間が検出された。主軸はN10°Eに向き、桁行4.5m、桁間寸法1.0～1.8m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。床面積は約17㎡を測る。柱穴は径0.5m、深さ0.4mを測る。東西両辺の南側の桁間は共に短く、南辺に棟持柱をもつので、南側は幅1.0mの土間のような構造を有していたと考える。SB4273などIII期に属する遺構の整地土で覆われている点から時期はII期と考える。周辺に鋳滓が散見され、西側へ3.0m隔てた地点に鍛冶炉SX4313が検出されていることから鍛冶を営む工房の可能性が高い。

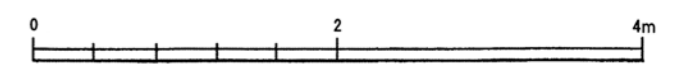


第8図 第82次調査遺構全体図 (縮尺 1/300)

砂利敷面



第9図 第82次調査a-a'・b-b'・c-c'・d-d'・e-e' 遺構断面図(縮尺 1/50)



井戸

SE4276(PL.5 第11図) P36・37に位置。石組の井戸である。10～40 cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.1m、内寸短軸1.0m、深さ3.7mを測る。円形に組まれた石組の底部には、礫層面を掘り込んで、角材が方形に組まれていた。井戸底面では中央には、小口を「合欠き」に加工した長さ86 cm、幅38 cm、厚さ1.5 cmを測るマツの板目材を方形に組んだ井桁が検出された。遺物は木製品が大量に含まれ、蓋259、漆器皿259・260、桶262、曲物263・264、木刀265、折敷266～273、棒斎串274、箸275～280が出土し、その他、火箸216・217、鉄釘220～222・224～227、魚骨、鱗等が出土した。時期はⅡ期と考える。

SE4277(PL.5 第8図) T42に位置。石組の井戸である。10～40 cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.8m、深さ1.9mを測る。上面に0.8m大の巨石を2個配置していた。円形に組まれた石組の底部には井桁などは確認できなかった。井戸上面の南側には、10～30 cm大の角礫を長さ1.5m、幅1.0mの範囲で敷き詰めた石敷遺構SX4311が付属し、洗場と考える。時期はⅢ期で北側の石列SV4312、石敷遺構SX4310も関連施設と考える。遺物は越前焼159～161、鉄釉天目碗162・水瓶163 木刀、265、バンドコ257が出土した。

土坑

SK4309(PL.5 第11図) T・U40に位置。旧SX4309である。越前前焼の大甕5個体(P1～5)を南北方向に2列に配置した埋甕土坑群である。SB4274から南西へ1.5m隔てて構築されていた。主軸はN10°Eに向き、SB4274と同じくする。土坑は円形を呈し、径0.6～0.8m、深さ0.5～0.7mを測るが、P1・4では土坑の底面は確認できなかった。いずれも越前焼大甕の胴部上位～底部が検出された。SB4274に伴う貯水施設と考える。遺物は朝鮮象嵌壺164、越前焼大甕165～169が出土した。時期はⅡ期と考える。

SK4317(PL.4 第11図) V37に位置。旧SX4317である。SB4274から東へ3.0m隔てて構築されていた。径0.5m、深さ0.3mの方形土坑である。銭貨「嘉定通寶」321～325が5枚出土した。時期はⅡ期と考える。

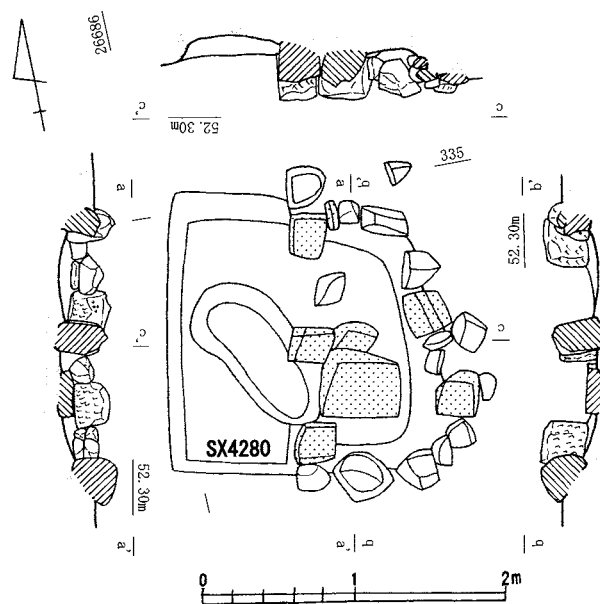
鍛冶炉

SX4313(PL.5 第11図) U41に位置。SB4274の西側に構築され、30 cm大の石と50 cm大の石が直線状に配置されていた。鉾滓・焼土の散布が確認され、鍛冶炉と考える。時期はⅡ期と考える。

SX4316(PL.4 第11図) U37に位置。鍛冶炉と考える。浅い皿状の小穴であり、径0.5m、深さ0.1mを測る。底面は黒色に焼き締まり、遺物は鞆羽口212・213の他、鉾滓・焼土が確認された。時期はⅡ期と考える。

カマド

SX4280(PL.5 第10・11図) Q38・39に位置。2ヶ所の焚口を有する複式のカマドと考える。25～50 cm大の石を東側に奥壁として半円形に配置し、西側中央に30 cm大の石を2石用いて仕切りとしていた。主軸はN10°Eに向き、長軸1.9m、短軸1.2mを測る。焚口の手前の平坦面は長さ1.8m、幅0.9m、深さ0.25mを測る。平坦面中央には灰を集める歪楕円形の土坑が検出され、深さは0.2mを測る。石材には笏谷石が8石あり、南側の焚口に60 cm大の笏谷石の板石が据えられていた。周辺に柱穴は確認できず、屋外の施設と見る。時期はⅢ-2期と考える。



第10図 第Ⅰ区域SX4280(縮尺1/50)

SX4281(PL.5 第11図) P38に位置。第I区域南側に構築された半円形の石組であり、西側に1ヶ所の焚口を有する単房式のカマドと考える。25～50 cm大の石を東側に半円形に配置し、主軸はN10° Eに向き、長軸 1.0m、短軸 1.0mを測る。焚口手前には不定形の平坦面が設けられ、長さ1.5m、幅 0.8m、深さ0.25mを測る。内部には炭化物が堆積していた。時期はⅢ-2期と考える。遺物は銭貨 285が出土した。

3. 第Ⅱ区域(PL.6～12 第8・9・11・12図)

第Ⅱ区域は第82次調査区の東側を占め、0-X22～35の範囲に相当する(第8図)。遺構の層位はa-a'断面、b-b'断面、c-c'断面、d-d'断面で観察した(第9図)。

土塁石垣

SA4260(PL.6～8 第11図) V-Y25～35に位置。第I区域から続く武家屋敷の北側土塁石垣である。第Ⅱ区域におけるSA4260は、北側に溝SD4268、南側に溝SD4270を配置し、東側で第Ⅲ区域の矩折部SA893と接続する。SD4268・4270は、それぞれSA893内の暗渠SZ4319・914に接続するが、SZ914に関しては矩折部構築後に設けられた可能性もある。時期はⅡ～Ⅲ期と考える。

建物

SB4273(PL.9 第11図) T-V33～36に位置。調査区北側中央で検出された長方形の礎石建物である。耕作土を除去した段階で、礎石の一部が既に水田床土上で確認された。50 cm大の石を用い、「土台受け」をもつ構造から蔵と推定する。礎石の根石は残存し、内部に焼土面の広がりを確認した。建物は、桁行4間、梁間3間の規模を有し、通常ならば、主軸はN80° Wに向き、桁行 7.6m、桁間寸法 1.7～1.8m、梁間 5.7m、梁間寸法 1.9m、床面積 43 m²を測る建物と観察されるが、建物を東西で二分するように、建物北辺と南辺の中央に40～80 cm大の平坦な石が据えられ、それらを結ぶ軸線上の中間点にも礎石を配置されていた。また、北辺から1.3m北へ突出した位置にも、棟持柱を据えたと考えられる礎石が検出されており、この軸線が棟通りなら主軸がN10° Eに向く建物の可能性もある。入口は、礎石の配置状況から東辺中央に想定される。時期はⅢ-2期と考える。遺物は青磁盤 187が出土した。

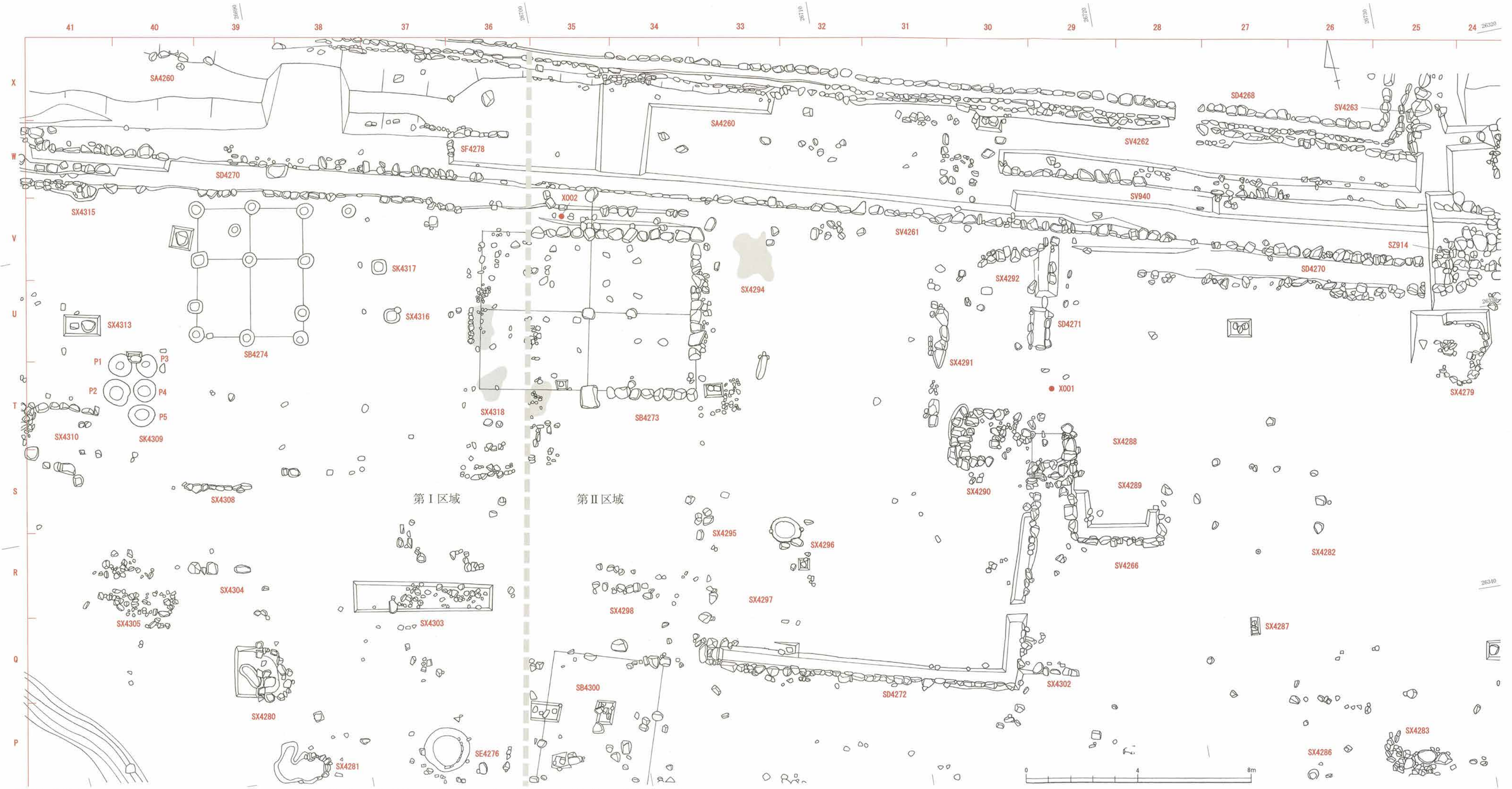
SB4300(PL.11 第8図) 0-Q34・35に位置。旧SX4300である。SB4273と第24次SB831の中間に存在し、SB4273から南へ9.0m隔てた地点で検出された礎石建物である。大きな破壊を受け、当初は、不明遺構としていたが、再度検討した結果、桁行3間、梁間2間の礎石建物と想定された。主軸はN15° Eに向き、桁行 6.6m、桁間寸法 1.8～2.6m、梁間 4.4m、梁間寸法 1.8～2.6m、床面積 29 m²を測る。時期はⅡ期と考える。

区画溝

SD4271・4272(PL.9・10 第11図) SD4271はQ-V29・30に位置。SB4273の敷地の東辺区画溝である。30～50 cm大の石を溝の外側にのみ直線状に並べ底石はない。Q30でSD4272東端と接続する。主軸はN17° Eに向き、長さ16.0m、幅 0.5mを測る。SD4272はQ30～33に位置。SB4273の敷地の南辺区画溝である。SD4272と同一構造であり、主軸はN75° Wに向き、長さ11.4m、幅 0.5mの規模をもつ。西端には50 cm大の平石2枚を階段状に設置していた。共に時期はⅢ期と考える。遺物はSD4271から土師器小皿 199・200、SD4272から土師器小皿 194～198、絆 234が出土した。

石敷遺構

SX4291・4292(PL.9 第11図) SX4291はT・U31に位置。SB4273東辺から東側へ9.0m隔てて構築された石敷遺構である。30～50 cm大の石を直線状に並べ、主軸はN10° Eに向き、長さ5.5mの規模をもつ。SX4291はV30に位置。20 cm大の石を直線状に並べた石敷遺構である。主軸はN90° Wに向き、長さ2.5mを測る。SX4291の北端と接していたと考える。SB4273と並存すると考える。時期はⅢ-1期と考える。



第11图 第I区域SA4260、SB4274、SX4309·4313·4316·4317·4280、SE4276、第II区域SB4273、SV940·4261·4262、SX4279·4290、SD4270~4272(缩尺1/100)

SX4266(PL. 10・11 第11図) 旧SV4266である。R・S28・29に位置。SD4271の東側から1.5m隔てて構築された石敷遺構である。30～50 cm大の石をコの字状に配し、北側に開く。主軸はN80° Wに向き、コの字の長辺で3.2m、短辺2.0mを測る。時期はⅢ期である。

SX4290(PL. 10・11 第11図) S・T29・30に位置。大きく破壊を受け、石材が散逸しているが、東側のSX4288と合わせて、本来、長方形の石敷遺構を構築していたと考える。20～50 cm大の石を長方形に配し、主軸はN75° Wに向き、長軸5.5m、短軸2.0mを測る。SD4271が横断しないことから、排水よりも通路として使用することが優先されたと考える。SX4290の東半分には1間×1間の掘立柱建物の柱穴が検出され、SB4273への物資の出入を管理・監視する施設等が置かれた可能性がある。時期はⅢ期である。遺物は砥石254が出土した。

カマド

SX4279(PL. 11 第11・12図) T・U24・25に位置。第Ⅱ区域の東側で検出された。西側の2ヶ所に焚口を有する複式のカマドと考える。

東側に25～50 cm大の石を配置して奥壁を構築し、北から南にかけて3の字状に石を配置していた。南側の奥壁には長さ60 cm、幅50 cmの板石が立てられていた。西側中央には20～30 cm大の石を7石積んで仕切りとし、カマドの心材としていたと考える。主軸はN10° Eに向き、長軸2.3m、短軸1.7mを測る。

二つ焚口の手前には不定形に窪んだ平坦面が設けられ、長さ1.9m、幅0.9m、深さ0.25mを測る。全体的に石は十分な熱を受けて変色していた。石材の内、3石は笏谷石であった。時期はⅠ期と考える。

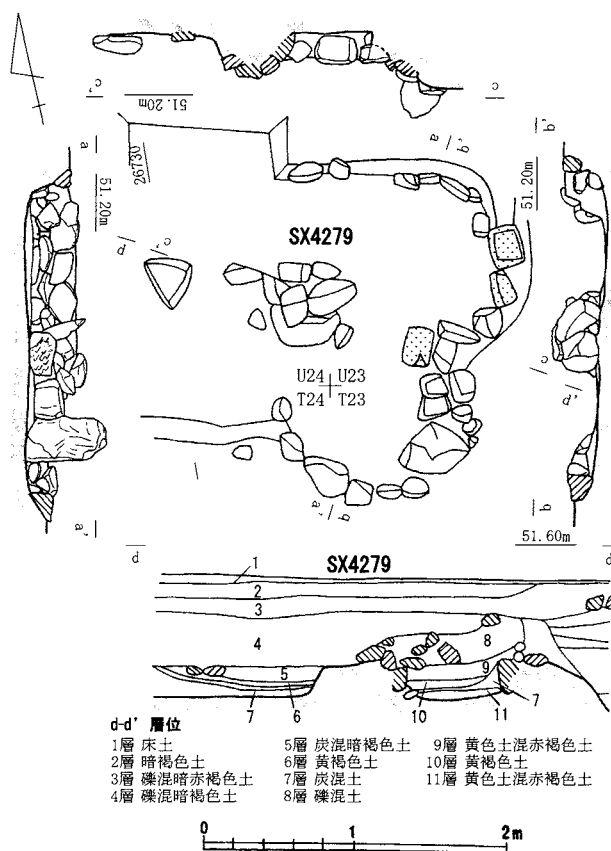
周辺を精査しても、覆屋などの痕跡は確認できず、SX4280と同様、屋外に設けられた施設と見る。

溝

SD4270・4271・4272(PL. 8～10 第11図) SD4270はV25～28に位置。矩折部内のSZ914に接続する石組排水溝である。東西長10.0m、内寸幅0.8mを測る。SD4271はQ-V29・30に位置。南北長17.0m、内寸幅0.5mを測るがSX4290で一旦断絶する。SD4272はQ30～33に位置。東西長14.0m、内寸幅0.5mを測る。SD4271・4272はSB4273の敷地の区画溝と考える。SD4272の西端には踏石が据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

井戸

SE4275(PL. 11 第8図) Q・R23に位置。石組の井戸である。10～50 cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.4m、内寸短軸1.3m、深さ3.2mを測る。上面で60～80 cm大の大石を4石検出した。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んで石積を行い、井戸底面中央には、小口を「合欠き」で加工した長さ136 cm、幅18 cm、厚さ0.5 cmを測るマツの板目材を方形に組み、井桁を設けていた。時期はⅢ期と考える。遺物は、土器類182～186・188・206～208・210・211、銭貨281・282・286・298・307・310・318・331・334・337が出土した。



第12図 第Ⅱ区域SX4279(縮尺1/50)

4. 第Ⅲ区域(PL.12・13 第8・13図)

第Ⅲ区域は、第82次調査区の東側に接する第25次調査区(旧9MIM-P地区)の西側に属し、第82次調査のグリッド上ではB-Y21～24の範囲がこれに相当する(第8図)。城戸ノ内町字齊藤に所在し、調査期間は昭和52年(1977)8月3日～同年11月5日である(文3)。SA893、SA892、SS260等が主に関連する遺構となる。

矩折部

SA893(PL.12・13 第8・13図) V-Y22～24に位置。道路SS260の西側に沿って、東側土塁石垣がクランク状に屈曲する部分である。「矩折」とは「見通しを避ける」という意味をもつ「道普請」である。

SA893は、W24で一旦、石垣に仕切られていたが、武家屋敷の北側土塁石垣として整備される段階で、東側に約5m張り出して、東側石垣土塁SA892の北端と接続したようである。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。SS260西側に面したa-a'間では、南側から暗渠SZ4319までは1.0～1.2mの巨石を3石配置し、4石目は1.2m大の直方体の石を直立させていた。2段目の石は1.1m大の石が1石残るのみであった。SS260南側に面したb-b'間では、東側に120cm大の石を直立して据え、西側の暗渠SZ914までは60～80cm大の石を6石配置していた。

SD901(PL.13 第13図) X22・23に位置。SA893の東側排水口から北へ0.8m流れた後、SS260を横断して東へ屈曲する石組排水溝である。SA893側はクランク状の溜橋の様相を呈す。東西長4.0m、内寸幅0.6mを測る。北側石垣土塁の外側を通るSD4268がSA893内で暗渠となり、これに接続する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SZ4319(PL.13 第13図) X23に位置。SD901の暗渠であり、長さ約95cm、幅約70cm、厚さ12cmを測る長方形の板石が2石残存していた。板石は凝灰岩である。板石を4石SD902に架構し、幅約2.7mを測る暗渠として、SS260の中央に設けられていたと考える。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SZ914(PL.13 第13図) V24に位置。北側石垣土塁の内側を通るSD4270の水を最短距離で排水するため、SA893内を斜めに横切る形で構築された暗渠である。SS260に面した排水口は、SA893基底部B面の西端に設けられ、排水口は内寸幅22cm、内寸高20cmを測る。排水はSD901までそのまま流れていたようである。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

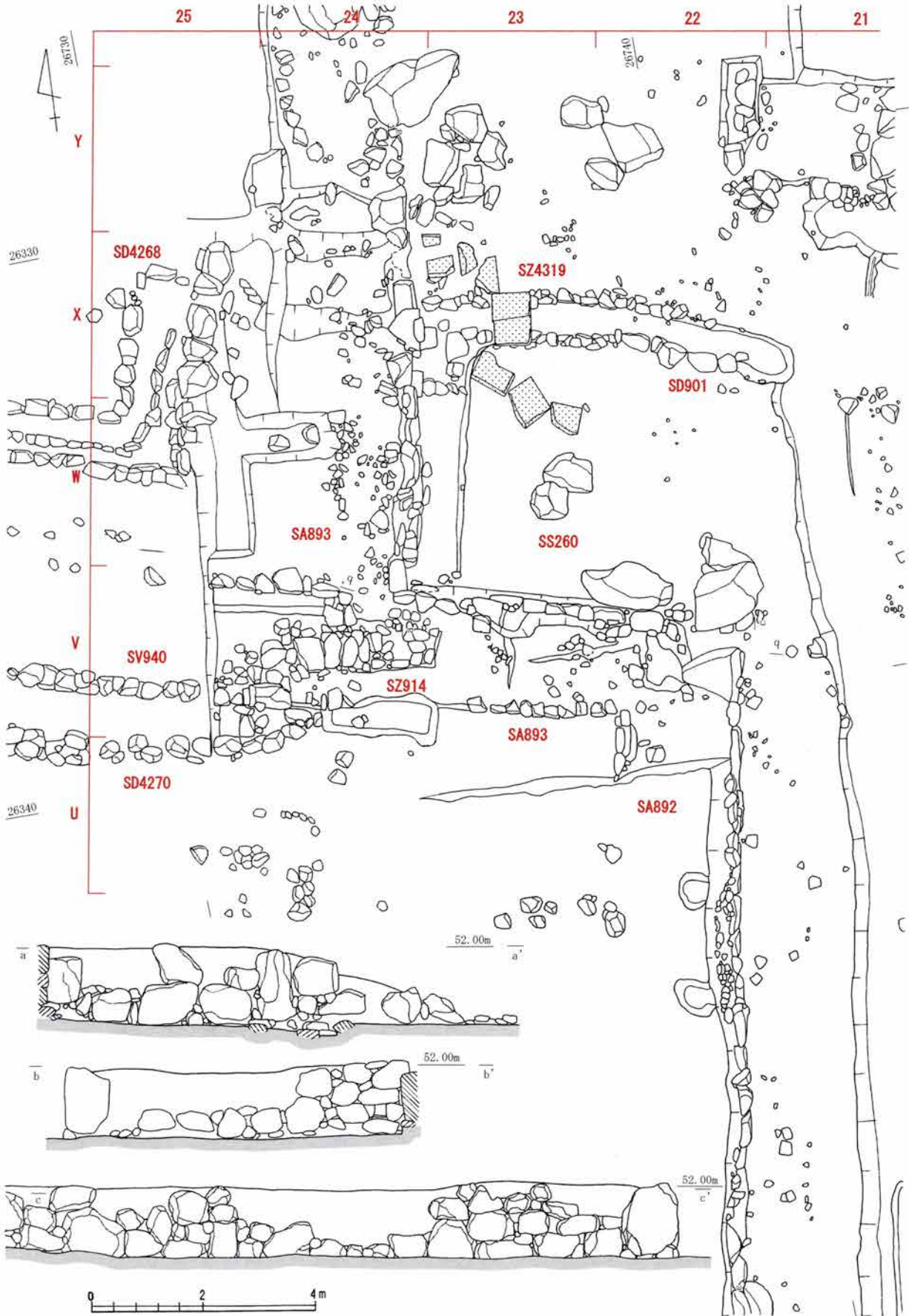
土塁石垣

SA892(PL.12・13 第8図) 0-U22に位置。東側土塁石垣の基壇を検出した。北端に120cm大の石を直立して据え、基底部に40～70cm大の石を横位に直線状に並べ、内寸2.0m間隔で60～130cm大の巨石が挿入されていた。本来は、基底部から2～3段の石を積み上げ、内部に小砂利と土で盛土をしていたと考える。主軸はN10°Eに向き、北端からSI942まで長さ約17.5m、幅約2.3m、高さ約1.4mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

道路

SS260(PL.12・13 第8図) 北からW-C23、V21～23、A-X20・21に位置。北側の矩折部から、南側の第Ⅳ区域SA265に沿って直線状に南下する基幹道路である。路面上には1cm大の砂利が敷かれていた。北に向かって1/63のゆるやかな勾配をもって下る。道路面は3面あり、第15次調査区のSS260上で検出したSD273とSD271の切り合いからも新旧2面があることが確認された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SS260を北側から概観すると、矩折部から北へ5m隔てた位置において、SD901が幅約5.0mのSS260を東西に横断しており、これを境とする幅約2.0mの東西道路が想定された。南下して、矩折部で2段階に屈折した後は大きな破壊を受けており、K-V20・21の範囲においては、東側で土塁石垣、溝などは確認できず、この区間の道路幅は不明である。K20・21付近に至ると、東側に位置する武家屋敷跡の西側土塁石垣SA266とSD896が検出され、幅約4.0mの規模を測る道路であることが判明した。第Ⅳ区域南側土塁石垣SA263の東端付近では、SD274が東端幅に沿って2.5mほど北上した後、東へ屈曲し、SS260横断後、SD896へと接続していた。



第13图 第三区域矩折部SA893、东侧土墨石垣SA892(缩尺1/100)

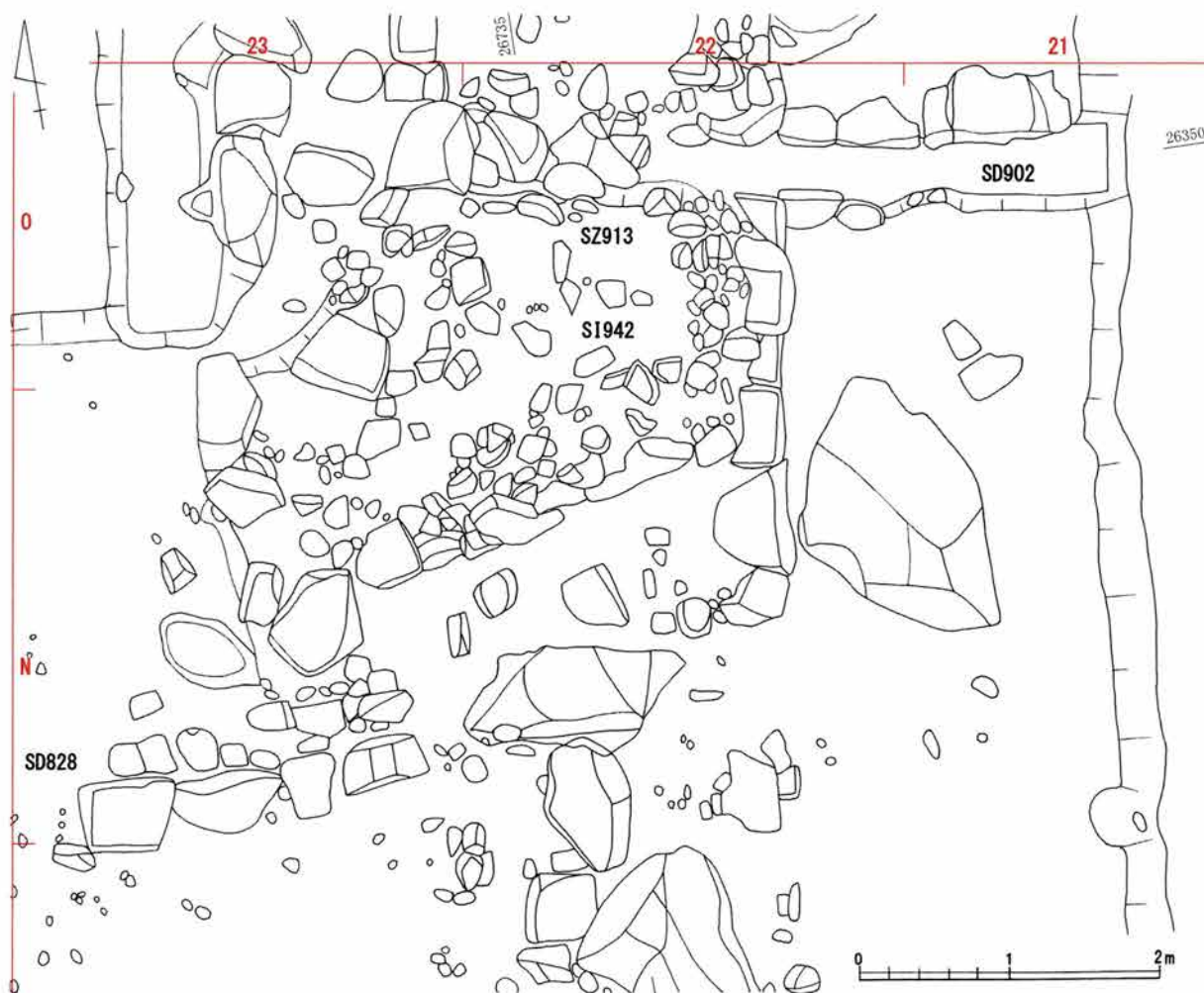
SS944(PL. 12 第8図) 北からL-N11～20に位置。L-N11～20付近で南北道路SS260に直交する大型の東西道路である。道路北側の境は土塁石垣のSA894、道路南側の境は幅0.6mを測る石組排水溝SD896と考えられ、全長30m以上、最大幅は7.5mを測る。SS944には砂利を含む砂質土が充填されていた。「朝倉始末記」の「永禄十一年五月十七日朝倉屋形へ御成御門役辻固ノ事」の条によれば、橋と併記される「通」は東西の道路を表記する場合に用いられており、朝倉館と対面し、その規模から「大橋ノ通」と有力視される道路である。

5. 第Ⅳ区域(PL. 14～17 第8・16図)

第Ⅳ区域は、第82次調査区の南側に接する第24次調査区(旧9MIM-P地区)と第10・11次調査区(旧9MIJ-Q地区)の一部(文5)で構成され、第82次調査のグリッド上ではP-N21～42の範囲がこれに相当する(第8図)。城戸ノ内町字平井に所在し、武家屋敷南半の様相を示す。「一乗谷古絵図」では「新馬場」に含まれる点が注意される。第24次調査は全体で2,200mを調査し、調査期間は昭和52年(1977)5月1日～同年7月31日を要した(文3)。以下、既報に再検討を加えて主要遺構の概要を述べる。

土塁石垣・門

SI942(PL. 14 第8・14図) M・N22・23に位置。旧SX942である。北側をSA892、南側をSA265に挟まれ、SA892側のSD902とSA265側のSD828の石組排水溝に挟まれている。内寸全幅3.0m、奥行き2.5mの規模を測る。内部には10cm大の石を含んだ砂質土が敷き固められていた。調査時はN・021付近から西側の山裾に延びていた土塁石垣の一部と想定され、Ⅲ期の段階で取り除かれたとされた。



第14図 第Ⅳ区域SI942、SZ913、SD902・828(縮尺1/50)

改めて検討すると、SS260に面した部分には50 cm大の石が直線状に3石配置され、内側には、30～60 cm大の石を用いて、全幅約 5.5 m、奥行き約 1.5mの張出部を1段設けていた状況が読み取れ、Ⅲ期で土塁を除去した後、門を形成していた可能性もある。周辺に100～200 cm大の巨石が散乱し、南北道路SS260と東西道路SS940の交差点に面していることも傍証となるのではないかと考える。

SA265(PL. 14 第8図) D-M21・22に位置。東側土塁石垣の基壇である。門SI942の隣に北端の石とし240 cm大の石を横位に据えた後、基底部に40～100 cm大の石を直線状に並べ、基底部から2～3段の石を積み上げていたと考える。石材は一乗谷の凝灰角礫岩である。K-M22の範囲は100～220 cm大の巨石が用いられたようだが、以降、SI821までは30～60 cm大の石を用い、巨石を所々に配置するような石垣は見られない。主軸はN10° Eに向き、北端からSI821を含めた長さは34.5m、幅約 2.3m、高さ約 1.1mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SA263(PL. 14 第8図) P22～42に位置。東半部は第10・11次調査で検出された南側土塁石垣の基壇である。西側のA28～42付近までは、30～50 cm大の石を土塁石垣内外に直線状に配置し、2～3段の石積が良好な状況で検出されたが、SD316と並列する東側は80～140 cm大の巨石が8石検出されたものの大きな破壊を受けていた。主軸はN80° Wに向き、全長約 62.0m、幅約 1.8m、高さ約 1.6mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

門

SI821(PL. 14・16 第15図) C・D22に位置。東側土塁石垣SA265の南側に構築された門である。東側の南北道路SS260に向かってハの字に開口する。主軸はN10° Eに向き、門の外側内寸幅 4.0m、内側内寸幅 2.6m、奥行き2.3mを測る。SS260より0.2m高い。北側には70 cm大の石を1石、南側には80 cm大の直方形の石を1石据え、その間に20～40 cm大の石を直線状に4石並べていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

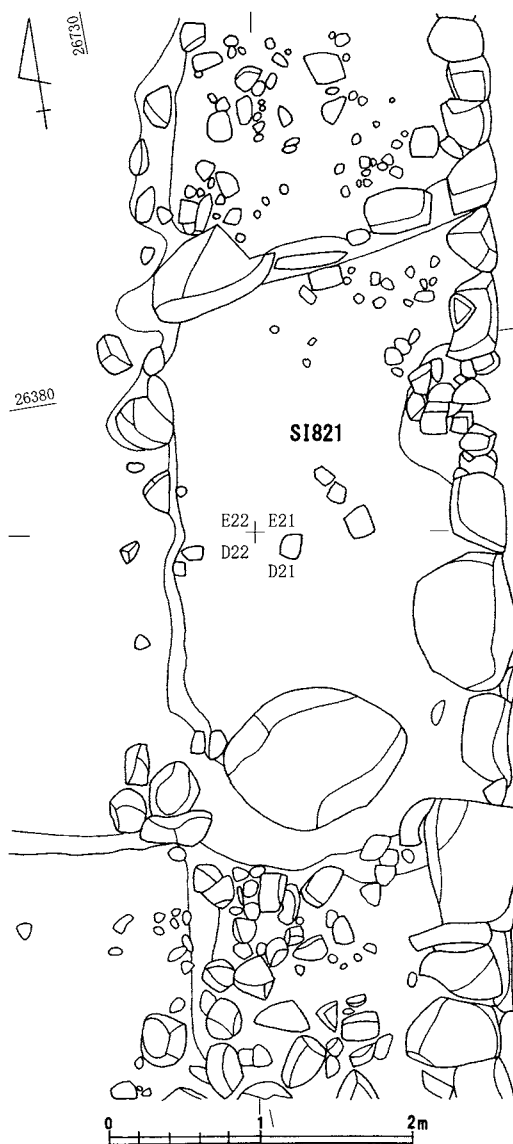
柵列

SA836(PL. 15 第16図) C-G31に位置。径0.6～1.0m大の歪楕円形の小穴が直線状に並び、桁行6間が検出された。主軸はN13° Eに向き、桁行寸法 11.0m、桁間寸法 1.5～3.0mを測る。SA846と同一の遺構であり、SA846が直交する。時期はⅠ期と考える。

SA846(PL. 15 第16図) G22～30に位置。径0.6～0.8m大の歪円形の小穴が東西に直線状に並んで検出された。柵と考える。主軸はN75° Wに向き、桁行11間、桁行寸法 26.0m、桁間寸法 1.6～3.4mを測る。SA836と接続する。時期はⅠ期と考える。

SA844(第16図) E-G40、E35-40に位置。径0.3～0.6m大の歪円形の小穴がL字状に並んで検出された。柵と考える。

西辺柵列は主軸がN13° Eに向き、桁行3間、桁行寸法 8.0m、桁間寸法 1.8～2.0mを測る。南辺柵列は、主軸がN77° Wに向き、桁行9間、桁行寸法 16.8m、桁間寸法 1.6～2.0mを測る。北辺柵列はSA835で仕切られ、全体で1辺約 8mを測る



第15図 第Ⅳ区域SI821(縮尺1/50)

正方形の柵を構成している。柵内南東側には越前焼大甕16～18個分を乱雑に据えた埋甕土坑群SK854が5.0×6.0mの範囲で検出された。これらは馬匹飼育に関連する遺構群と考えることもでき、時期はⅢ期と考える。

SA840(PL.15 第16図) G-I28～30に位置。径0.5～0.8m大の歪円形の小穴がL字状に並んで検出された。柵と考える。西辺柵列は主軸がN13°Eに向き、桁行2間、桁行寸法6.3m、桁間寸法2.8～3.2mを測る。北辺柵列は、主軸がN77°Wに向き、桁行4間、桁行寸法7.7m、桁間寸法1.8mを測る。時期はⅠ期と考える。

土 塀

SA857(第16図) J-L35に位置。SB831の西辺に構築された土塀の基壇と考える。主軸はN15°Eに向き、長さ5.5m、幅0.8mを測る。外側に20～30cm大の石、内側に40～50cm大の石が並列する。時期はⅢ期と考える。

建 物

SB831・832(PL.16 第16図) H-K36～39に位置。第24次調査区の西側山裾で検出された礎石建物である。桁行3間、梁間3間が検出された。主軸はN75°Wに向き、桁行4.2m、桁間寸法1.4m、梁間4.0m、梁間寸法1.4mを測る。SB831東辺には、SB832が桁行2間、梁間2間、桁行寸法4.0m、梁間寸法4.0mの規模で接続し、SB832の北側に3.0m×0.9m、南側に1.95m×1.95mの張出部が付属する。よって、全体的に建物東辺は梁間2間、西辺は3間となっている。床面積はSB831・832と合わせ計約39㎡を測る。

建物南側はSD826とSB834でコの字に溝で区画され、正方形の空間を伴うことが判明した。この空間は南北7.0m×東西6.5mの規模を測る柵と考えられ、空間内の大型土坑SK886や越前焼大甕が不規則に配置された埋甕土坑群SK854(旧SX854)は馬匹飼育に関連する遺構と考える。時期はⅢ期と考える。

SB838(第16図) I-K33・34に位置。SB831・832から東側へ8.5m隔てた位置にある礎石建物である。南北方向に長い建物であり、桁行4間、梁間1間が検出された。主軸はN13°Eに向き、桁行7.9m、桁間寸法1.4～2.2m、梁間1.5m、梁間寸法1.5mを測る。障壁または馬をつなぐ施設の可能性もある。時期はⅢ期と考える。

SB856(第16図) I-L40に位置。旧SX856である。SB831から西側へ1.8m隔てた位置にある礎石建物である。南北方向に長い建物であり、桁行5間、梁間1間が検出された。主軸はN13°Eに向き、桁行6.5m、桁間寸法1.0～2.0m、梁間1.7m、梁間寸法1.7mを測る。SB838と同様な建物と考える。時期はⅢ期と考える。

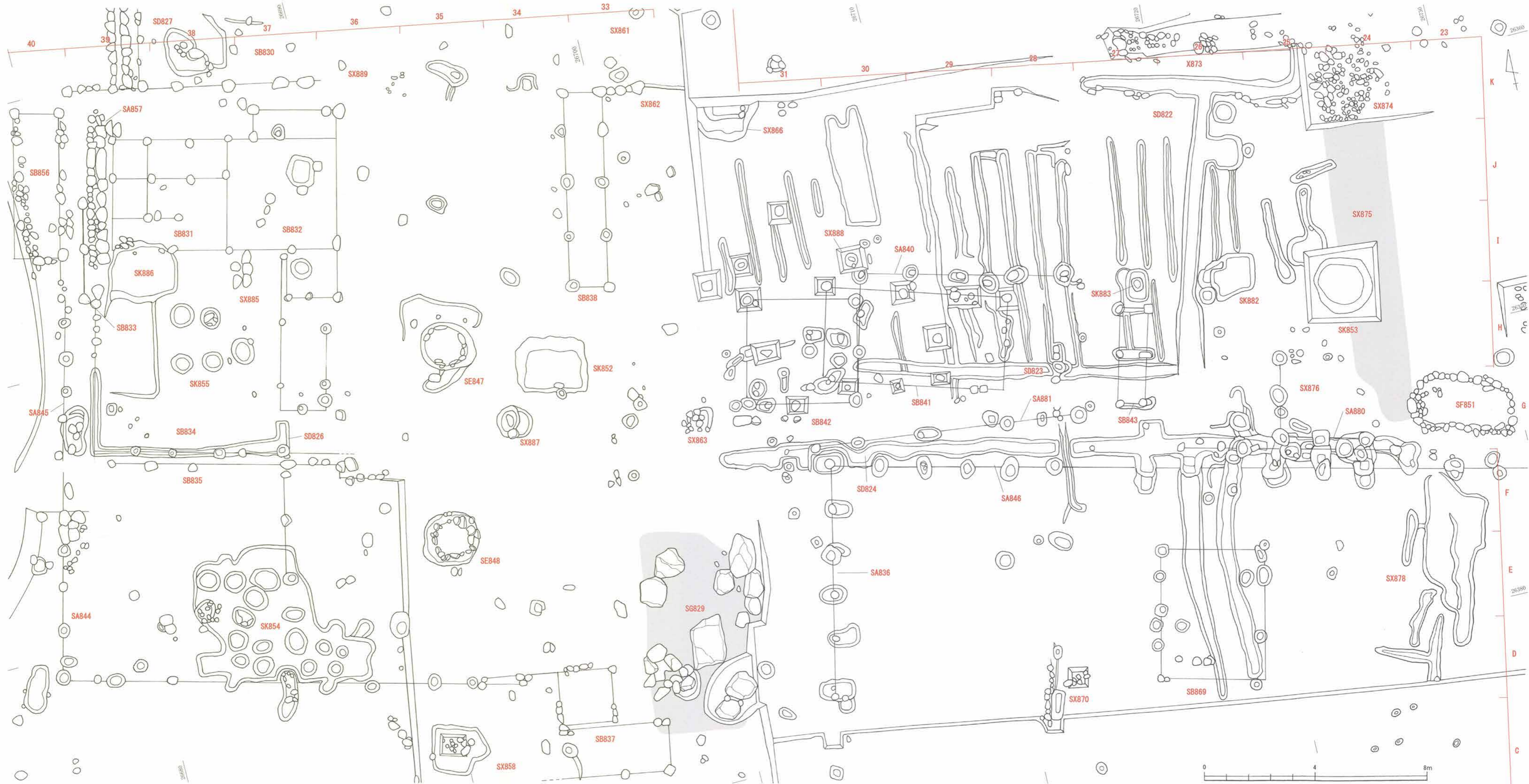
SB841(PL.15 第16図) H-I28～30に位置。第Ⅳ区域中央に位置する礎石建物である。平面形は長方形を呈し、桁行3間、梁間2間が検出された。主軸はN75°Wに向き、桁行6.8m、桁間寸法1.8～2.8m、梁間3.4m、梁間寸法1.6～1.8m、床面積は約23㎡である。時期はⅡ期と考える。

SB842(PL.15 第16図) H-I30～32に位置。第Ⅳ区域中央に位置する小規模な掘立柱建物である。平面形は方形を呈し、桁行2間、梁間1間が検出された。主軸はN11°Eに向き、桁行3.8m、桁間寸法1.9m、梁間4.0m、梁間寸法4.0mを測る。床面積は約15㎡である。SA840が柵列として付属したと考える。時期はⅠ期と考える。

SB843(第16図) H-I27に位置。SB842から東側へ9.5m隔てて位置。桁行2間、梁間1間が検出された。主軸はN11°Eに向き、桁行3.5m、桁間寸法1.5～1.8m、梁間1.1m、梁間寸法1.1mを測る。馬をつなぐ施設と考える。時期はⅠ期と考える。

SB869(第16図) I-L40に位置。旧SX869である。第Ⅳ区域南東に位置する掘立柱建物である。桁行4間、梁間1間が検出された。主軸はN12°Eに向き、桁行4.8m、桁間寸法1.0～1.4m、梁間3.8m、梁間寸法3.8mを測る。時期はⅠ期と考える。

SB839(第8図) L-M28・29に位置。第Ⅳ区域北端に位置する方形の礎石建物である。南半分は石敷遺構SX871を伴う。北東側が削られているが、SX871の規模から、桁行4間、梁間2間の規模と推定される。主軸はN12°Eに向き、桁行4.8m、桁間寸法1.0～1.4m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。時期はⅢ-2期である。



第16图 第四区域SA836·846·844·840·857, SB831·832·838·856·841~843·869·837, SG829, SX873·874, SE847~850, SF851(縮尺1/100)

SB837(PL. 17 第16図) D・E33・34に位置。SA844の東端に隣接する。「四阿^{あづまや}」と見られる小規模な礎石建物である。平面形は方形を呈し、桁行1間、梁間1間が検出された。主軸はN17°Eに向き、桁行1.8m、桁間寸法1.8m、梁間1.8m、梁間寸法1.8mを測る。床面積は約3㎡と狭小だが、南西側の桁行4.4m以上、梁間3.8mを測る礎石建物の一室の可能性もある。庭SG829と並存する「草庵風茶室」と見る。時期はⅢ-1期と考える。

庭

SG829(PL. 17 第16図) D-F32～33に位置。SB837の東に構築された平庭である。南北8.0m、東西5.0mの範囲に「白砂」が敷かれ、北端には礫混黄色土が広がっていた。北東隅には、1.5m大の巨石が「立石」、他の50～100cm大の大石が「伏石」として配置されていた。南西隅には、海石を用いた方形状の石組が「蹲踞様遺構」として配置され、内部には焼土が堆積していた。時期はⅢ-1期と考える。

通路

SX873・874(第16図) J・K24～27に位置。西側のSX873と合わせて、L字状の石敷通路が復元できた。SX873は東西通路として、主軸がN84°Wに向き、長さ9.5m、幅1.4mを測る。SX874は、南北通路としてSX873東端から南に向かって、石積施設SF851まで直線状に伸び、東側土壘石垣SA265と平行していたと考える。主軸はN11°Eに向き、長さ15.0m、幅2.4mを測る。時期はⅢ期と考える。

井戸

SE849(PL. 16 第8図) N32に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さ1.7mを測る。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んでそのまま石積を行い、井戸底面には、板目材を方形に組んだ井桁を設けていた。時期はⅠ・Ⅱ期と考える。遺物は15世紀前半の土師器皿が多く出土した。

SE847(第16図) I35に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.8m、内寸短軸1.7m、深さ3.0mを測る。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んでそのまま石積を行い、井戸底面には、板目材を方形に組んだ井桁を設けていた。時期はⅢ-2期と考える。遺物は越前焼の甕・壺・播鉢、土師器皿、青磁酒会壺蓋、青磁・白磁皿等が出土し、陶磁器類は井戸外で出土した破片と接合する個体が一定量うかがえた。特殊なものでは、金属製品として鋳物製鉄鍋、銅製の茶釜蓋・一輪挿し花瓶、銭貨6枚、木製品として漆器椀、曲物、「いえ」と墨書された木札3枚が出土した。

SE848(第16図) F35に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.8m、深さ1.5m以上を測る(深度が深く、未完掘)。時期はⅢ-2期と考える。遺物は、越前焼甕・壺、土師器皿、灰釉皿・香炉が出土した。

SE850(第16図) B26に位置。南側土壘石垣SA263の中央からやや東寄りに位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さ3.8mを測る。上面は巨石に覆われ、井戸内には礫石が多く崩落していた。井戸底面に井桁は設けておらず、遺物はほとんど確認できなかった。時期はⅡ期と考える。

石積施設

SF851(PL. 16 第16図) M48に位置。東側土壘石垣SA265に沿って構築された大型石積施設であり、20～40cm大の石を底面から約11°の勾配をもって5～7段積み、平面形は長楕円形を呈す。主軸はN70°Wに向き、内寸長軸3.2m、内寸短軸1.5m、深さ1.2mを測る。底面東側に長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.1m、底面西側に径長軸1.6m、短軸1.1m、深さ0.2mの浅い窪みをもつ。覆土は上層に砂質土、下層に炭化層が堆積していた。時期はⅢ-2期と考える。第34・46・65次調査で類例がある。特殊な形状から馬匹関連遺構と考える。

第1表 第82次調査主要遺構観察表(PL.1~15 第6~14図)

第I区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				上層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III-1期	III-2期	I期	II期	III-1期	III-2期		
1	V-Y 36~41	SA4260	土塁石垣									PL. 2 PL. 3	第8図 第11図
2	U-V 38・39	SB4274	掘立柱 建物									PL. 2 PL. 4	第11図
3	P36・37	SE4276	井戸									PL. 5	第8図
4	T42	SE4277	井戸									PL. 5	第8図
5	T・U40	SK4309	土坑									PL. 5	第11図
6	V37	SK4317	土坑									PL. 4	第11図
7	U41	SX4313	鍛冶炉									PL. 5	第11図
8	U37	SX4316	鍛冶炉									PL. 4	第11図
9	Q38・39	SX4280	カマド									PL. 5	第10図 第11図
10	P38	SX4281	カマド									PL. 5	第11図

第II区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				上層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III-1期	III-2期	I期	II期	III-1期	III-2期		
11	V-Y 25~35	SA4260	土塁石垣									PL. 2 PL. 3	第8図 第11図
12	U-V 38・39	SB4273	礎石建物									PL. 2 PL. 4	第11図
13	Q-Q 34・35	SB4300	礎石建物									PL. 11	第8図
14	Q-V 29・30	SD4271	区画溝									PL. 9 PL. 10	第11図
15	Q33~31	SD4272	区画溝									PL. 9 PL. 10	第11図
16	T・U31	SX4291	石敷遺構									PL. 9	第11図
17	V30	SX4292	石敷遺構									PL. 9	第11図
18	R・S 28・29	SX4266	石敷遺構									PL. 10 PL. 11	第11図
19	R・S 28・29	SX4290	石敷遺構									PL. 10 PL. 11	第11図
20	T・U24	SX4279	カマド									PL. 11	第11図 第12図
21	V25~28	SD4270	石組排 水溝									PL. 12	第11図
22	Q-V 29・30	SD4271	区画溝									PL. 13	第11図
23	Q30~33	SD4272	区画溝									PL. 14	第11図
24	Q・R23	SE4275	井戸									PL. 11	第8図

第III区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				上層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III-1期	III-2期	I期	II期	III-1期	III-2期		
25	V-Y 22~24	SA893	矩折部 土塁石垣									PL. 12 PL. 13	第8図 第13図
26	X22・23	SD901	矩折部 石組排水溝									PL. 13	第13図
27	X23	SZ4319	矩折部 石組排水溝									PL. 13	第13図

NO	グリッド	遺構	種類	下層				上層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III-1期	III-2期	I期	II期	III-1期	III-2期		
28	V24	SZ914	矩折部 石組排水溝									PL. 13	第13図
29	O-U22	SA892	土塁 石垣									PL. 12 PL. 13	第8図
30	R・S 28・29	SS260	道路									PL. 12 PL. 13	第8図
31	L-N 11~20	SS944	道路									PL. 12	第8図

第IV区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				上層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III-1期	III-2期	I期	II期	III-1期	III-2期		
32	M・N 22・23	S1942	土塁石垣 門									PL. 14	第8図 第14図
33	D-M 21・22	SA265	土塁石垣									PL. 14	第8図 第14図
34	P21 ~42	SA263	土塁石垣									PL. 14	第8図
35	C・D22	S1821	門									PL. 14 PL. 16	第15図
36	C-G31	SA836	柵列									PL. 15	第16図
37	G22~30	SA846	柵列									PL. 15	第16図
38	G22~30	SA844	柵列									PL. 15	第16図
39	G-I 28~30	SA840	柵列									PL. 15	第16図
40	J-L35	SA857	土塀									-	第16図
41	H-K 36~39	SB831 SB832	礎石建物									PL. 16	第16図
42	I-K 33~34	SB838	礎石建物									-	第16図
43	I-L40	SB856	礎石建物									-	第16図
44	H-I 28~30	SB841	礎石建物									PL. 15	第16図
45	H-I 30~32	SB842	掘立柱 建物									PL. 15	第16図
46	H-I27	SB843	礎石建物									-	第16図
47	I-L40	SB869	掘立柱 建物									-	第16図
48	L・M 28・29	SB839	礎石建物									-	第16図
49	D-E 33・34	SB837	礎石建物									PL. 17	第16図
50	D-F 32・33	SG829	庭									PL. 17	第16図
51	J・K 24~27	SX873 SX874	通路									-	第16図
52	N32	SE849	井戸									-	第16図
53	I35	SE847	井戸									-	第16図 第16図
54	F35	SE848	井戸									-	第16図
55	B26	SE850	井戸									-	第16図
56	M48	SF851	石積施設									PL. 16	第16図

6. 遺物 (PL. 45～49 第17～28図、第2表)

第82次調査の遺物は、1～339を掲載した。内訳は第I・II区域の土器(陶磁器類)1～201、土製品202～213、金属製品214～250、石製品251～258、木製品259～280、銭貨281～339である。詳細は第2表に記し、以下、特徴的なものの概要を述べる。

第I・II区域包含層出土土器 (PL. 45・46 第17～21図)

土師器小皿は浅鉢形B類、浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類(文6)で占められた。盤形D類は見られない。38・39・43・46・47・49・50～54には口端部にススが付着し、灯明皿として使用された痕跡を残す。24・25は底部中央が凹むへソ皿である。27の底部には径0.5cmの穿孔があり、小型の容器に少量の液体を入れるのに使用したと考える。59は土師質の香炉の獣脚と考える。瀬戸美濃の鉄釉壺70は口端部に突帯がめぐり、突帯に押圧斜行文を施している。茶入71は底部に回転糸切り痕が残る。水滴72は体部上位に把手が2つ付き、体部中位に注口をもつ。灰釉碗77・79は体部に粗い線刻蓮花文があり青磁碗の模倣品と考える。捏鉢80～82の底部周縁には3つの粘土塊の脚が付く。瓦質土器の火鉢83～85は短く立ち上がる口縁部の上下に突帯をめぐらせ、突帯内に三角柱状文の押印が充填されている。青磁花入114は頸部に縦方向の連続綾杉文と3段の雷文を陰刻し、第24次調査747、第15次調査破片と同一個体と考える。香炉117には算木文が陽刻されている。白磁皿128は内面底部周縁が円形に露胎し、赤色塗彩がされていた。

第I区域遺構出土土器 (PL. 46 第21～23図)

SB4274 出土 (PL. 46 第22図) 中国瑠璃釉壺156は濃紺青色の釉が外面にかかる。高台は削出高台である。

SK4309 出土 (PL. 46 第22・23図) 越前焼大甕165～169が出土した。165・167・168には笠状のヘラ記号、169にはT字状のヘラ記号が刻まれる。朝鮮象嵌壺164は粉青沙器の壺であり、白象嵌で2～4条の線を描き、間に蓮弁文・半弧文を描く。胴部上位の四角形の枠中に縦方向に「慶尚」の文字が並列する。

SE4275 出土 (PL. 47 第24図) 染付皿188は底面に褐釉の魚文が配される。

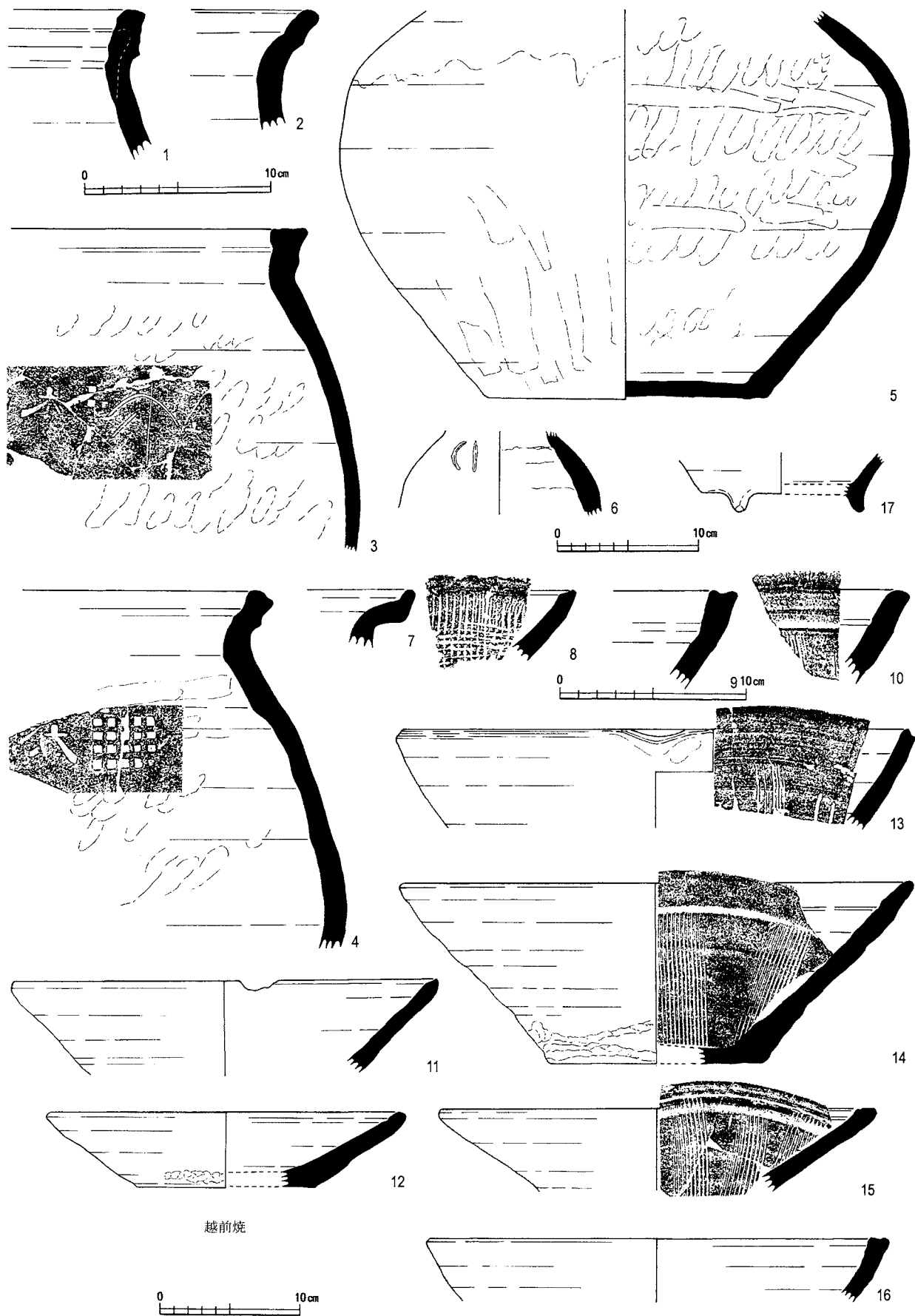
土製品 (PL. 47 第24図) 土錘202～205は大型品であり、棒巻き付け技法で成形している。202はヘラケズリで重量を調整した痕がある。土製円盤206～211は越前焼の破片を円形に粗く打ち欠いたもので、209を除き、第II区域SE4275から出土した。盤上遊戯の駒として用いられたと考える。共伴する10枚の銭貨との関連がうかがわれる。

金属製品 (PL. 47 第24～25図) 火箸217は長さ42.7cmを測る稀有な大型品である。銅製品であり、第I区域SE4276から出土した。上端を環状に曲げ、S字状金具を2つ繋げている。鞘233・234は木葉形に2つの円孔をもつ銅製品であり、2本の紐をまとめる金具である。小札247～250は鉄板に黒漆を厚く盛り、札頭の形状から247・248は本小札、249・250は伊予札に分類される。

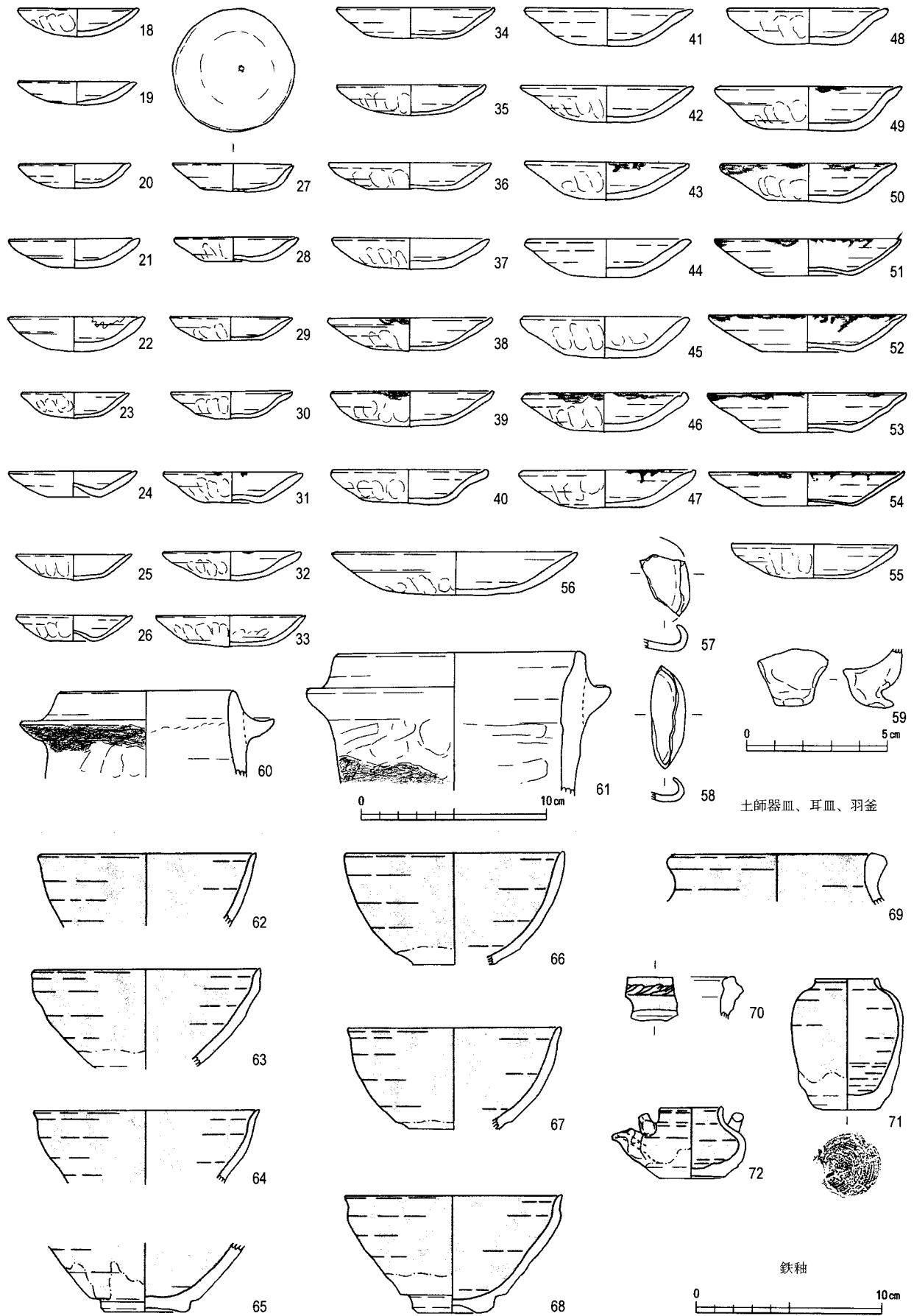
石製品 (PL. 48 第25・26図) バンドコ257は0形バンドコの蓋である。第I区域SE4277から出土した。SE4277は洗場を備えた井戸であり、摩耗しているため、道具として転用したとも考えられる。

木製品 (PL. 48 第26・27図) 第I区域SE4276のものが主体を占める。漆器皿259・261は黒漆地に朱漆で開扇文を描く。法量もほぼ同じだが、260はカツラ属、261はハンノキ属であり、樹種を異にする。SE4276では、蓋259、桶262、曲物264、折敷266～273、箸275～280に加え、木刀265、棒斎串274も含まれ、これらは井戸祭祀に使用された可能性もある。

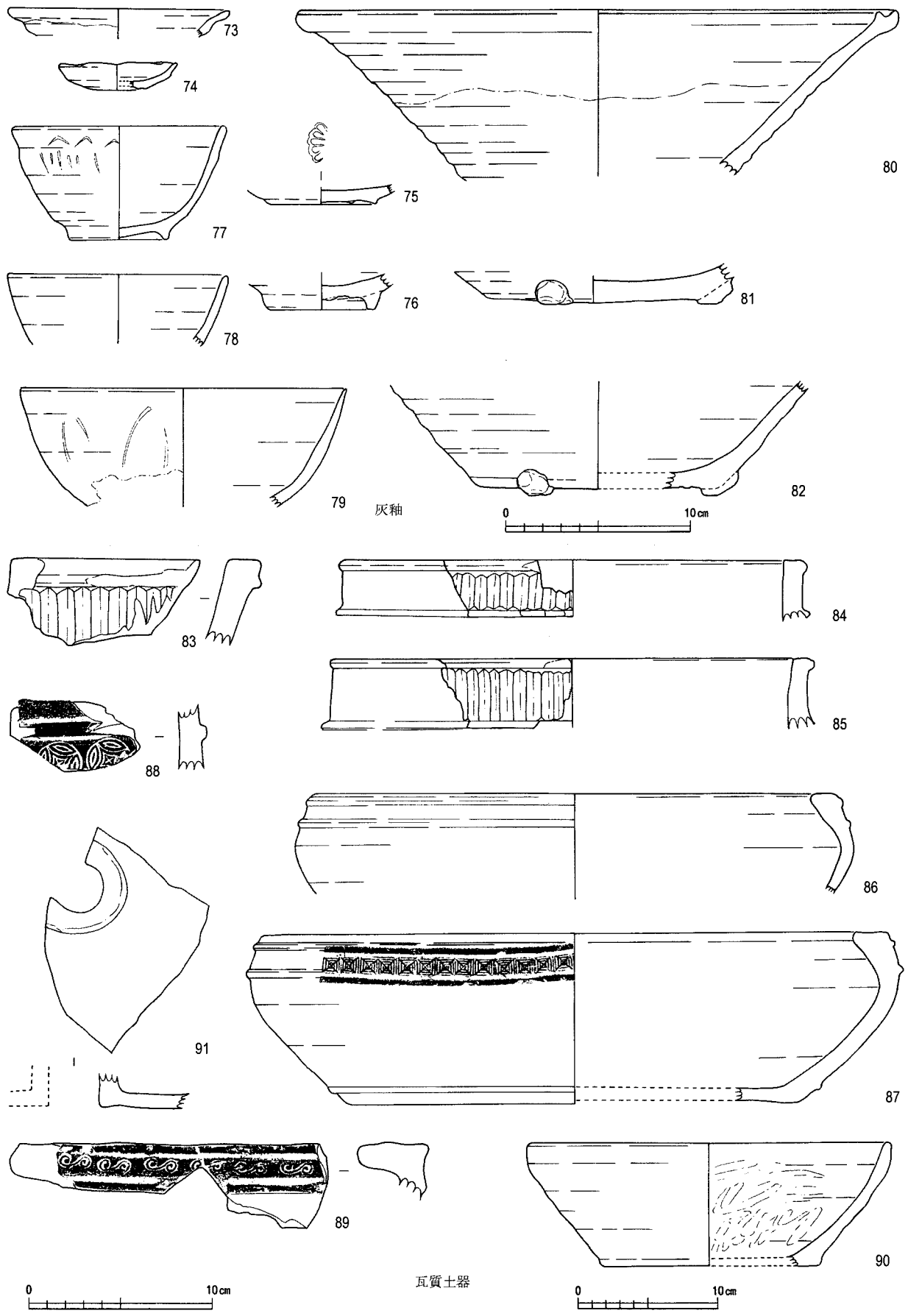
銭貨 (PL. 49 第27・28図) 銭貨281～339が出土した。第I区域SK4317で5枚(嘉定通寶321～325)、第II区域SE4275で10枚(開元通寶281・282、景德元寶286、治平元寶298、元豊通寶307、元佑通寶310、紹聖元寶318、洪武通寶331、永樂通寶334、不明337)が出土した。SK4317のものは地鎮具と考える。



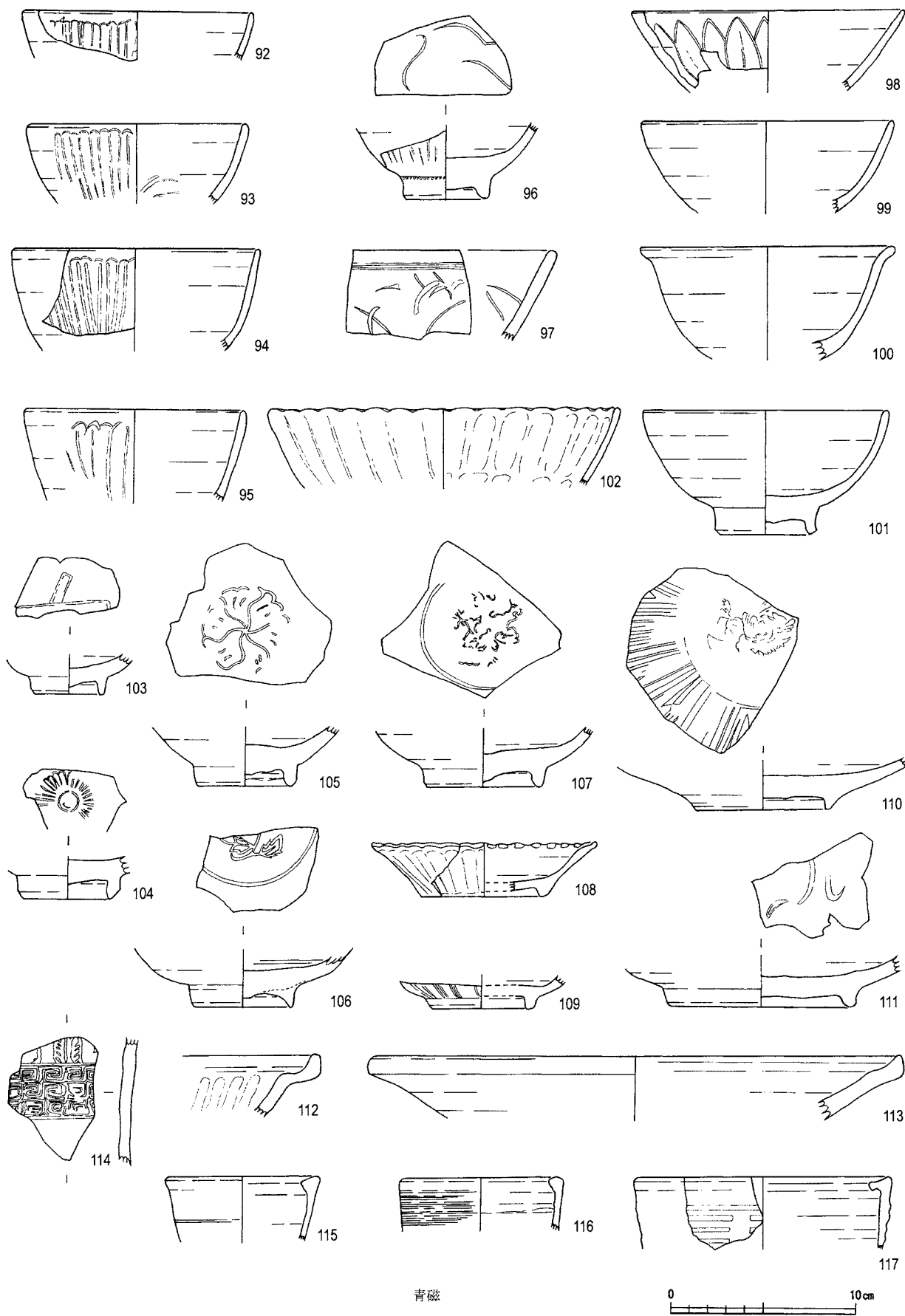
第17图 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)



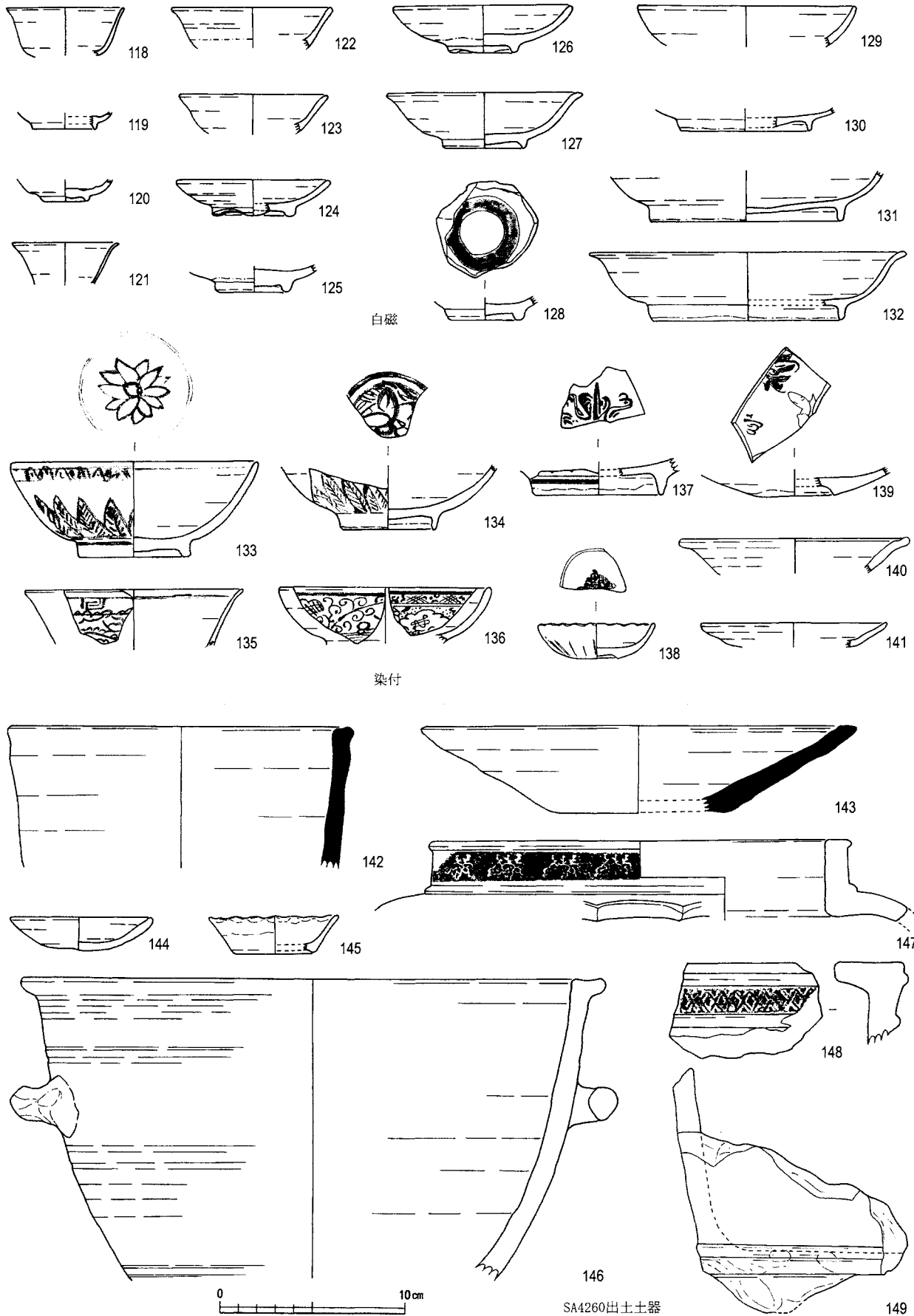
第 18 図 第 82 次調査 第 I・II 区域包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)



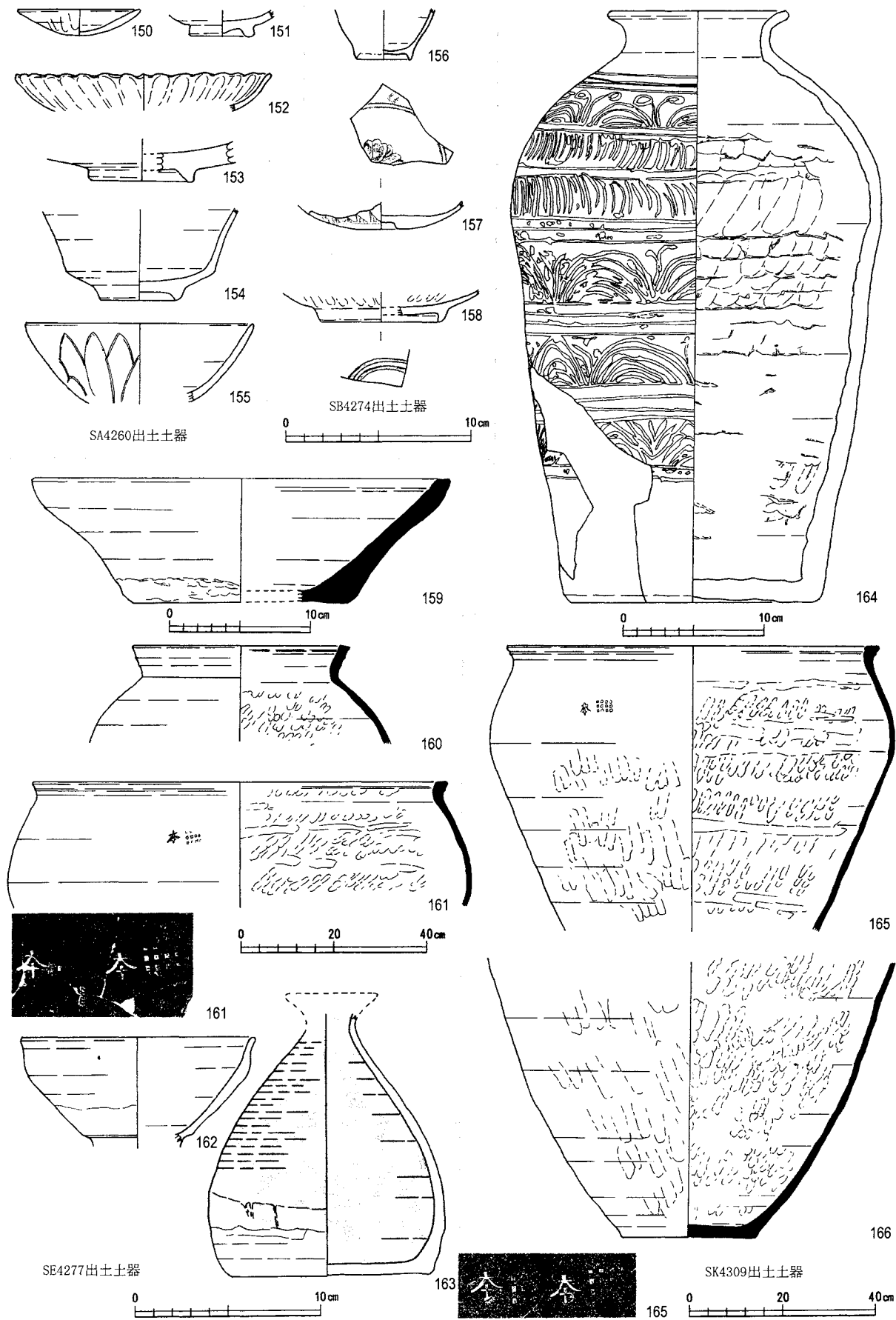
第19图 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



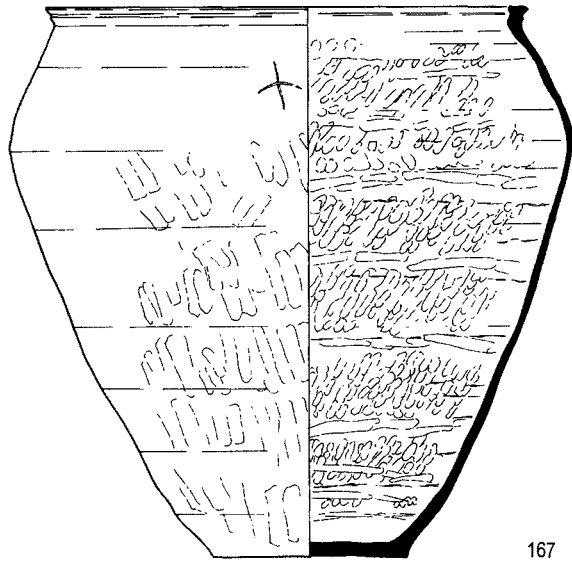
第20図 第82次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器(縮尺1/3)



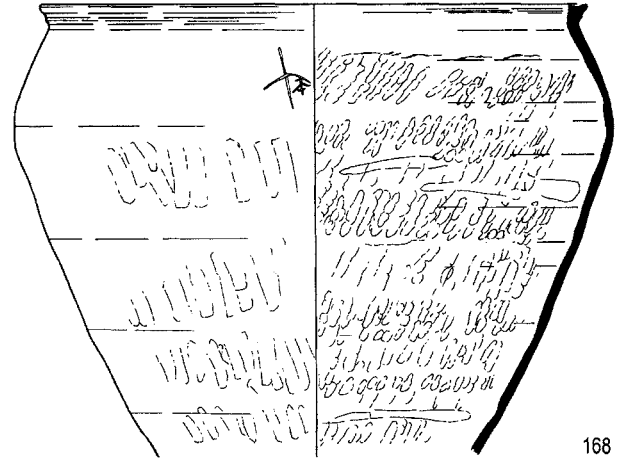
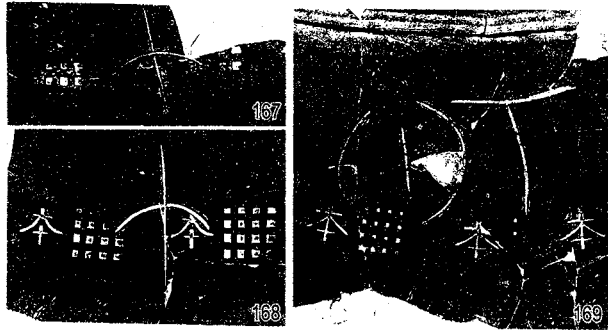
第 21 图 第 82 次調査 第 I・II 区域包含層出土土器、第 I 区域遺構出土土器(縮尺 1/3)



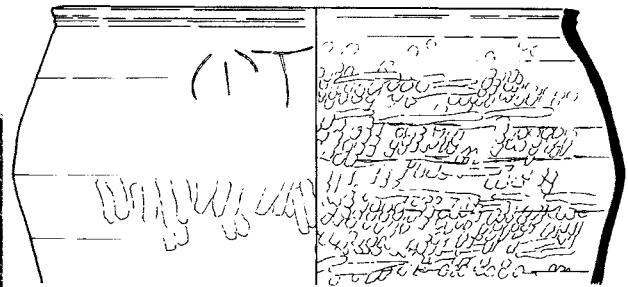
第22図 第82次調査 第I区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/12)



167

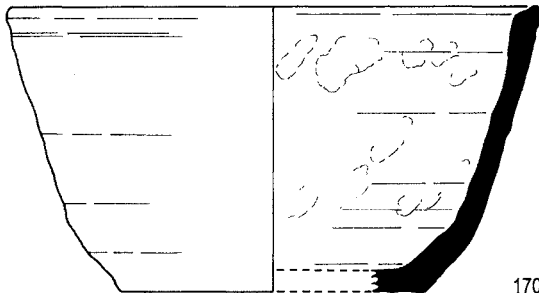
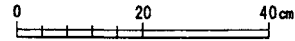


168



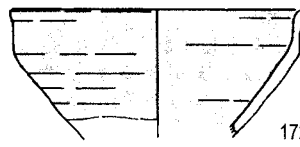
SK4309出土土器

169

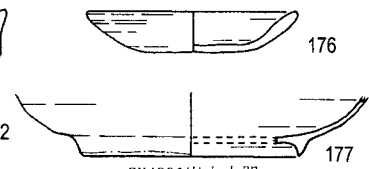


170

SB4273出土土器



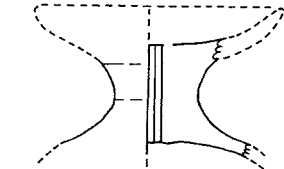
172



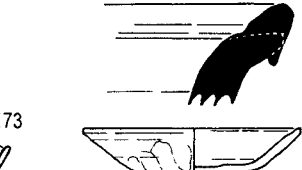
176

177

SX4290出土土器

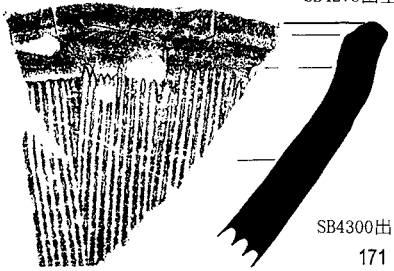


173



178

179



171

SB4300出土土器



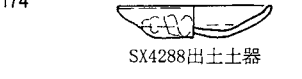
174

SX4303出土土器



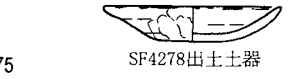
175

SX4295出土土器



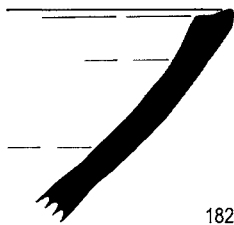
180

SX4288出土土器



181

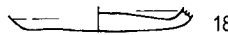
SF4278出土土器



182



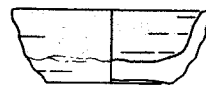
183



184

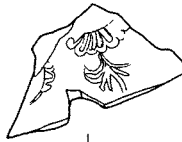


185



186

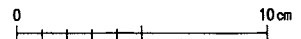
SE4275出土土器



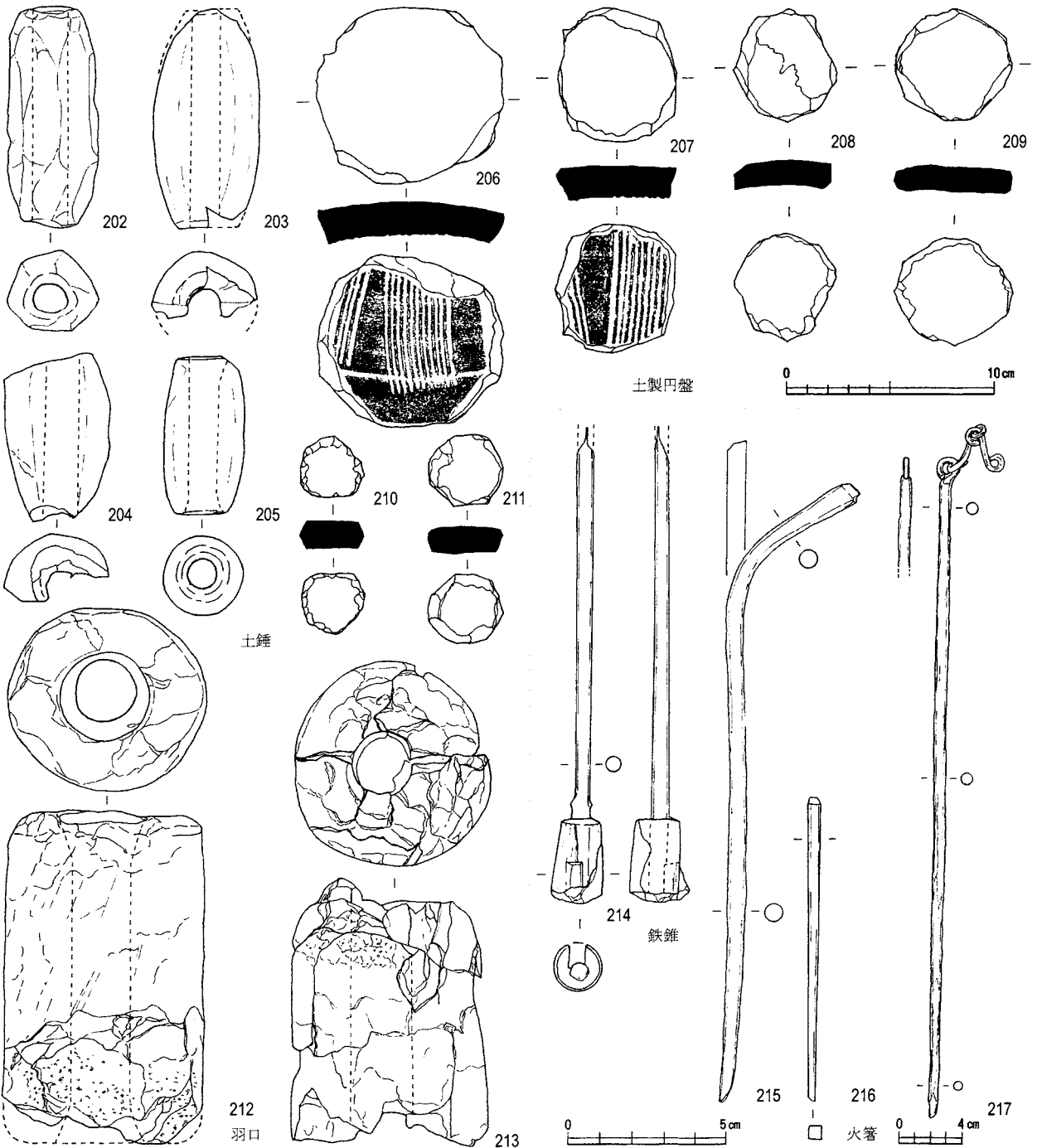
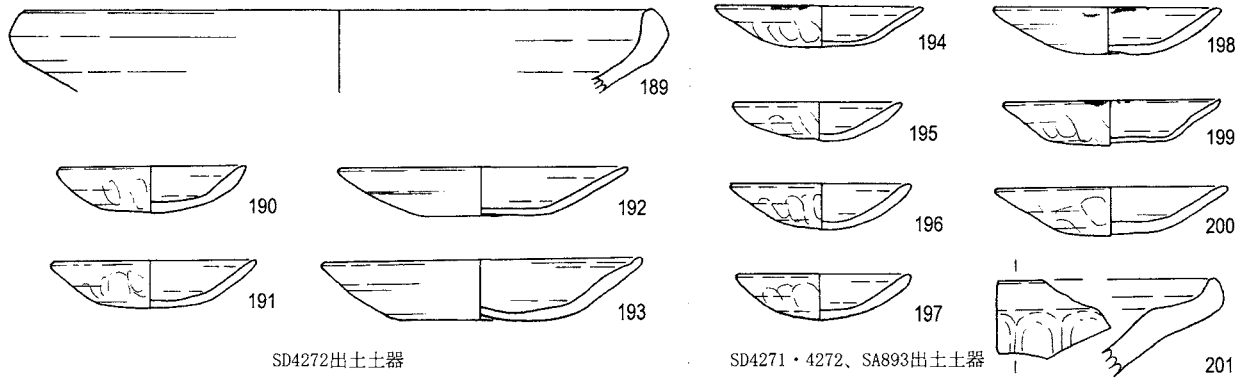
187



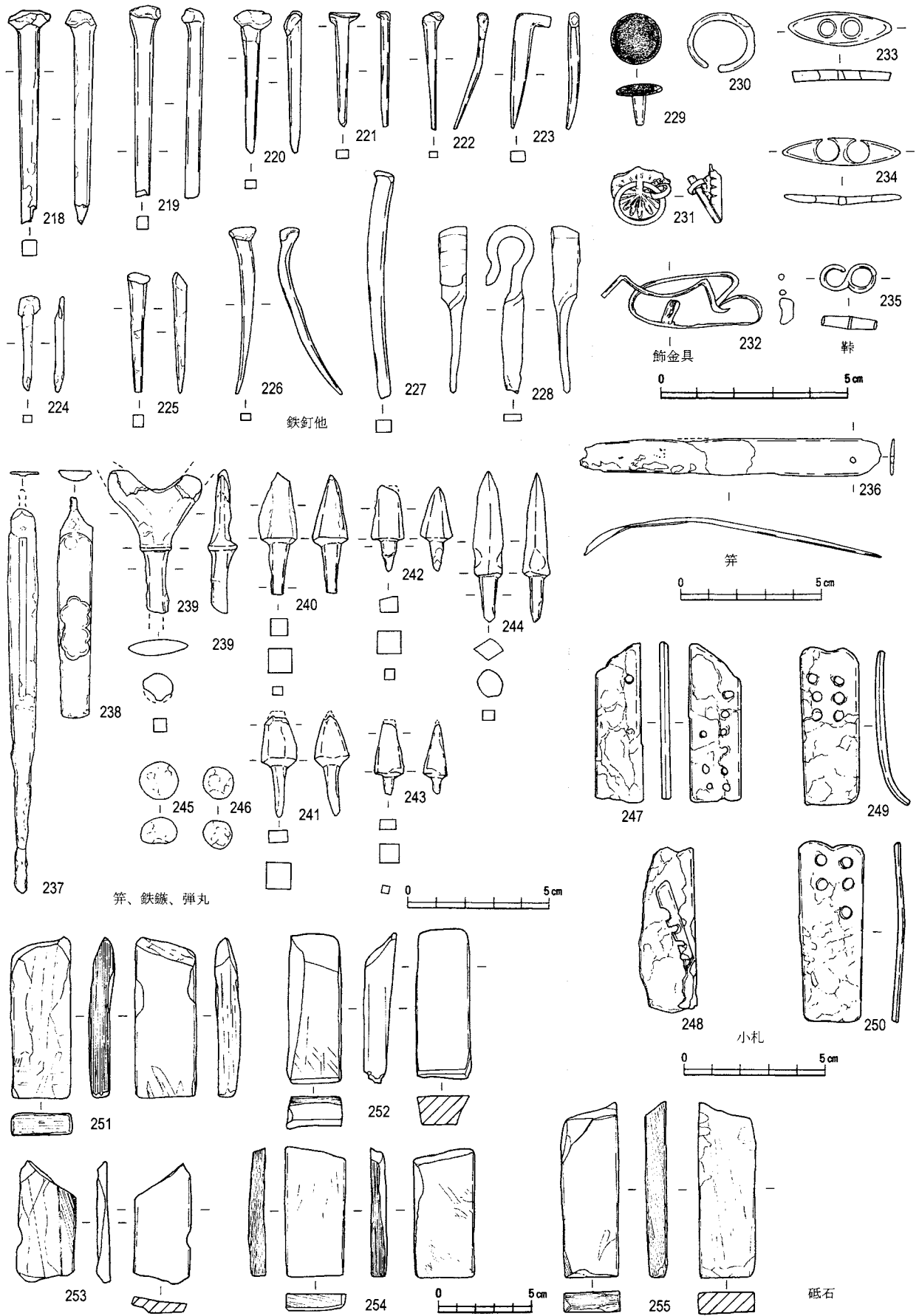
188



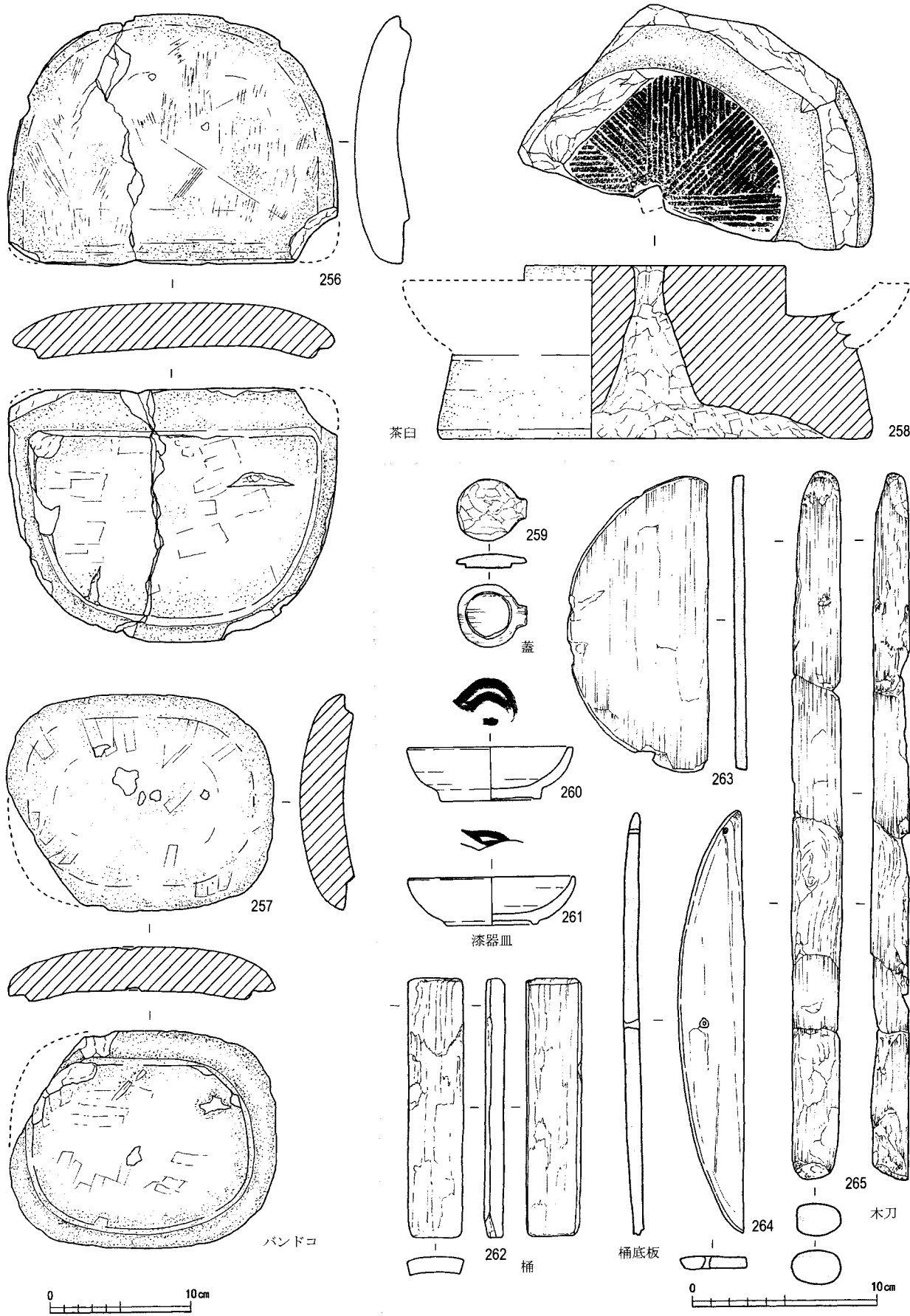
第23图 第82次調査 第I・II区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/12)



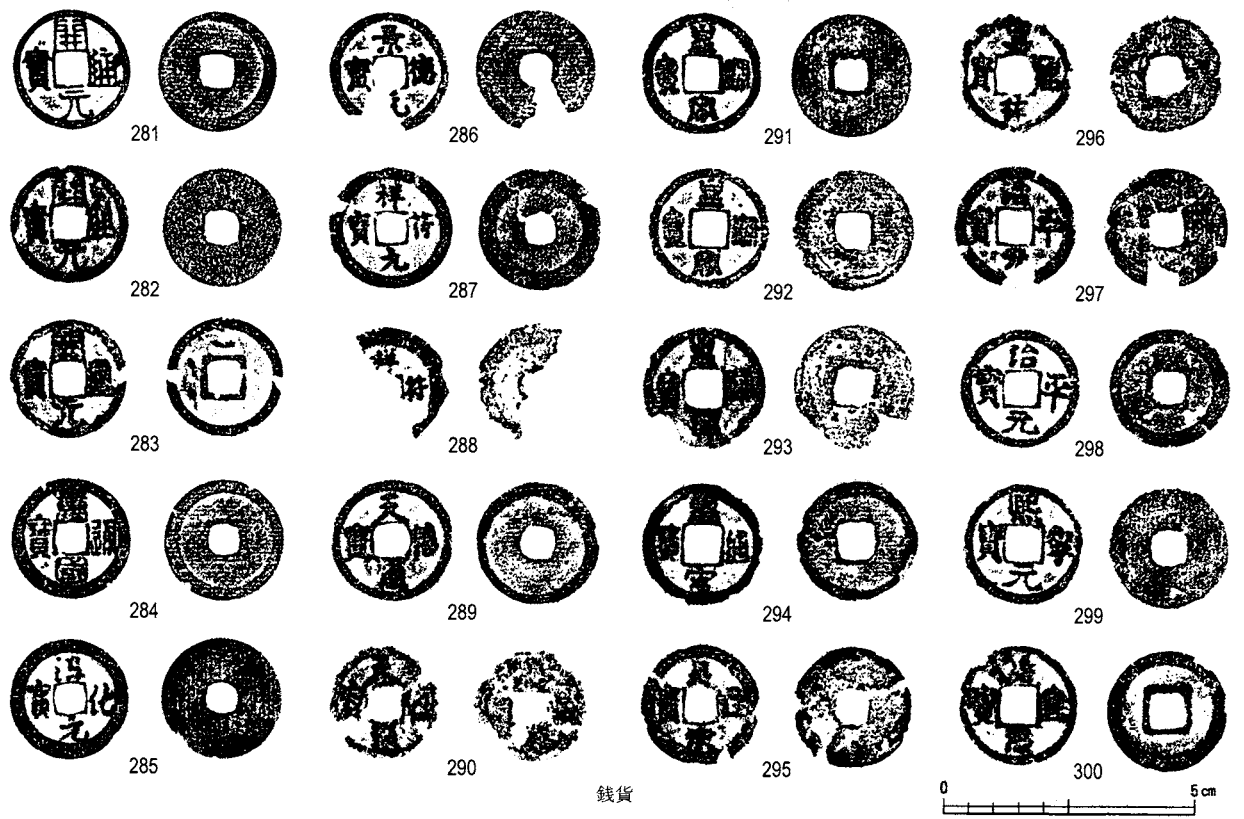
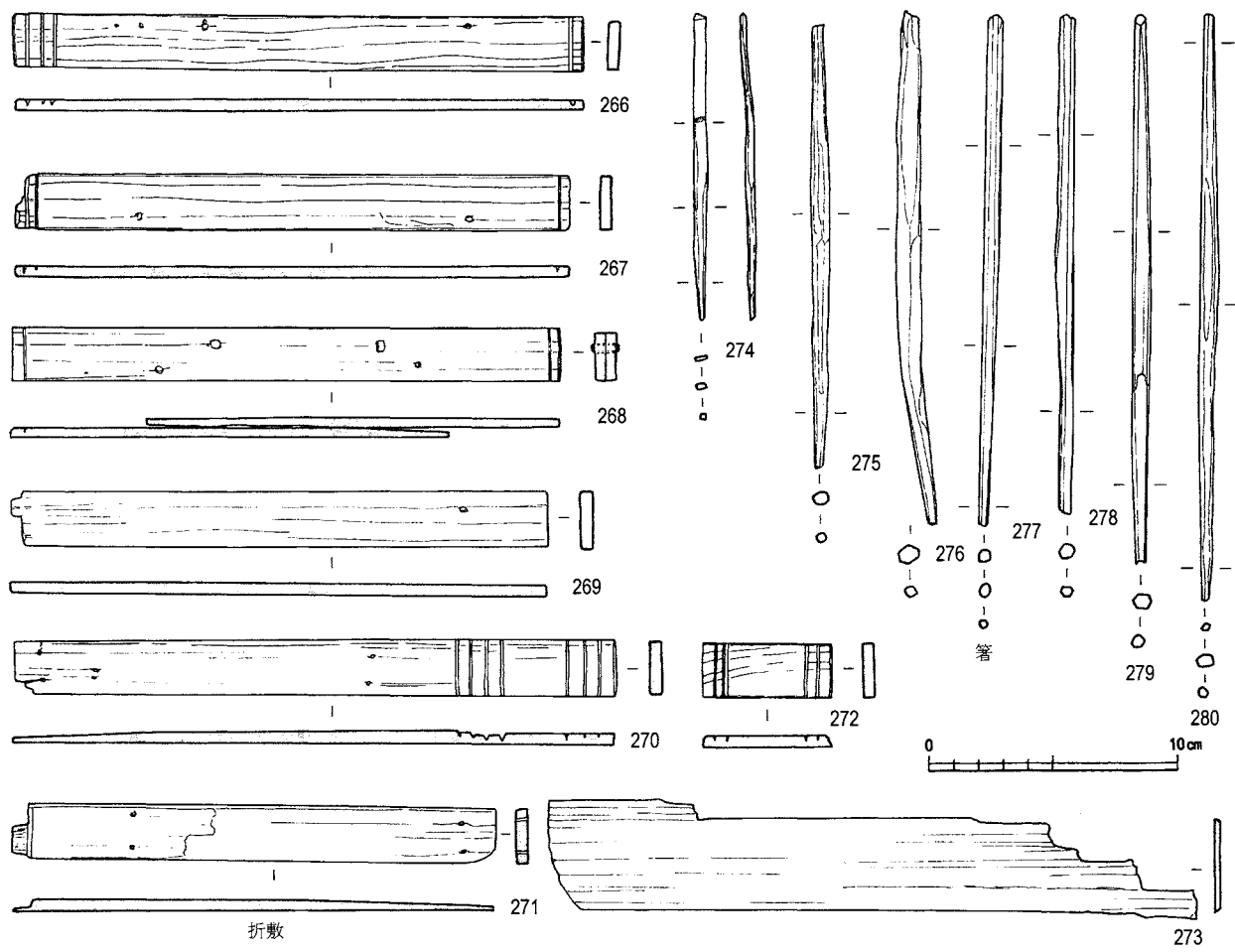
第24図 第82次調査 第Ⅱ区域遺構出土土器、土製品、金属製品(縮尺1/2、1/3、1/4)



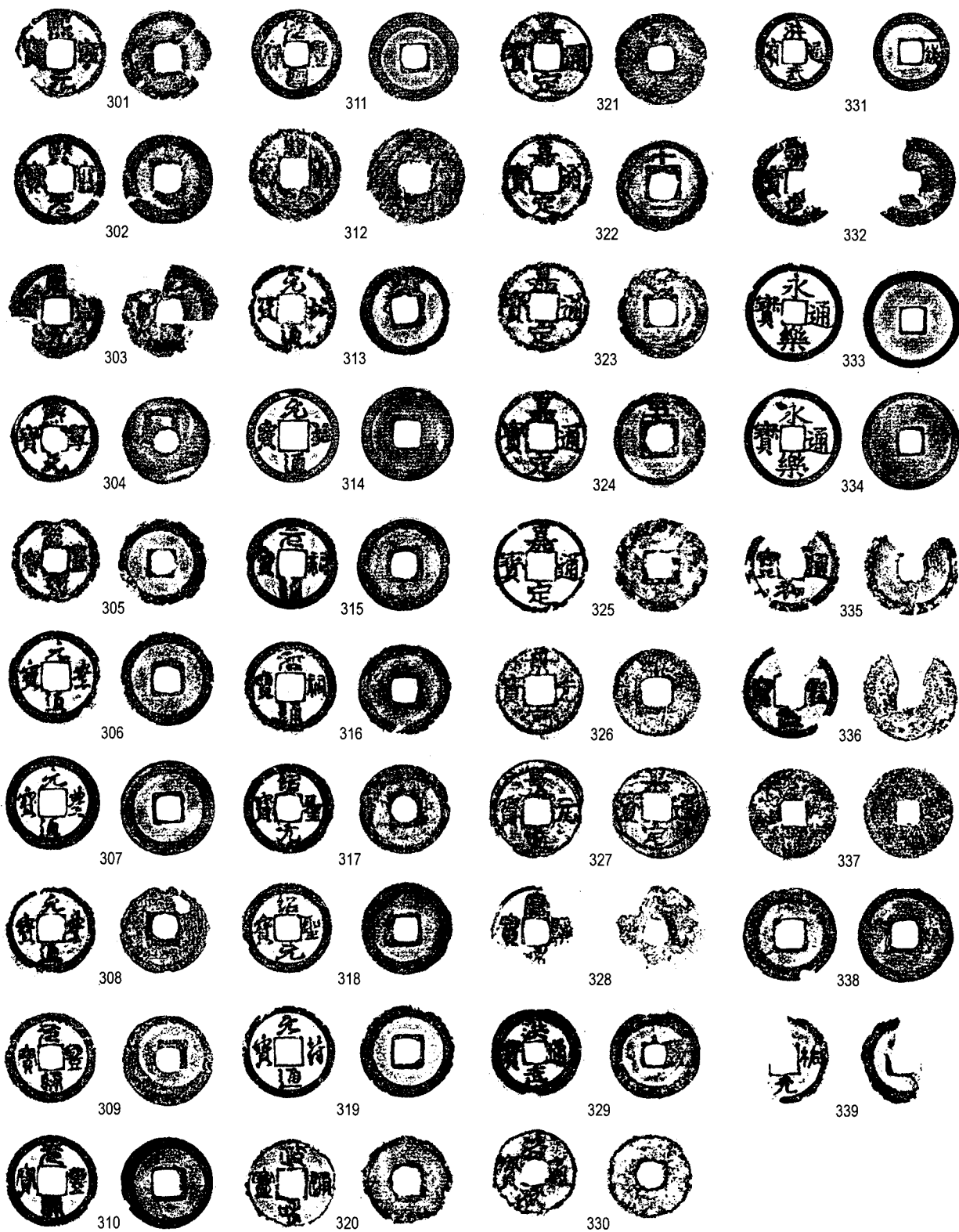
第25圖 第82次調査 金属製品、石製品(縮尺1/2、1/3、2/3)



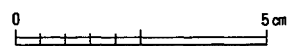
第 26 図 第 82 次調査 石製品、木製品(縮尺 1/3、1/4)



第 27 図 第 82 次調査 木製品、錢貨(縮尺 1/3、2/3)



錢貨



第 28 圖 第 82 次調查 錢貨(縮尺 2/3)

第2表 第82次調査出土遺物観察表(PL.45～51 第17～28図)

第I・II区域包含層出土土器(PL.45・46 第17～21図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼 大甕	-	焼: やや不良 色: 淡灰茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口 端部内側に段をもつ/口唇部は丸く収める	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	第II区域 O26・27/床土
2	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 淡赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外反して立ち上がる/口端部 内側に段をもつ/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/1条の沈線がめ ぐる 内: 口縁部～頸部ヨコナデ	第II区域 P22・23/砂利混暗褐色土 内: 降灰
3	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 暗灰茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口 端部内側に段をもつ/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/2種類 のヘラ記号 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕後ナデ	第I区域 T40/炭・焼土
4	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 明赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口 端部内側に段をもつ/口唇部は平坦	外: 口縁部～胴部中位ヨコナデ/胴部上位2 種類のヘラ記号 内: 口縁部ヨコナデ/頸部ユビナデ/胴部上 位指頭痕/シャープな仕上げ	第II区域 S22・23/砂利混褐色土 T24/床土
5	越前焼 壺	高: 27.0 最: 40.5 底: 20.0	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	胴部: 中位で大きく肩が張る 底部: 平坦	外: 胴部ナデ/底部未調整 内: 指頭痕3段・ユビナデ	第II区域 U29/炭混暗褐色土 U30/床土
6	越前焼 小壺	高: 5.0 最: 14.2	焼: 良好 色: 淡赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	胴部: 上位で大きく肩が張る	外: 胴部上位ナデ/2種類のヘラ記号 内: 輪積痕3段	第I区域 V38/炭混暗褐色土 W38/炭混暗褐色土
7	越前焼 壺	-	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から屈曲して受口状に短く立 ち上がる/口端部内側に段をもつ/口唇部 は丸く収める。	外: 口縁部～頸部回転ナデ 内: 口縁部～頸部回転ナデ/シャープな仕 上げ	第II区域 P22・23/砂利混暗褐色土 内: 降灰
8	越前焼 搦鉢	-	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面平坦	外: 口縁部～体部回転ナデ/底部周縁縄目 痕/底面ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.9cm・11条 の卸目/底面卸目	第I区域 T38/床土
9	越前焼 搦鉢	-	焼: 良好 色: 淡赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面に沈線1条めぐる	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	表土
10	越前焼 搦鉢	-	焼: 良好 色: 明赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面丸くおさめる/口端部内側に段あり	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ/卸目/シャープな仕上 げ	第II区域 W28/床土下茶色土
11	越前焼 搦鉢	口: 30.6 高: 6.6	焼: 良好 色: 暗灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面凹面	外: 口縁部回転ナデ/口縁部の一部を打ち 欠いて片口にする 内: 口縁部回転ナデ/シャープな仕上げ	表土 外・内: 降灰
12	越前焼 搦鉢	口: 25.8 高: 5.4 底: 12.8	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面丸くおさめる/口端部内側に凹線1 条めぐる 底部: 平坦	外: 口縁部～体部回転ナデ/底部周縁縄目 痕/底面未調整 内: 口縁部～体部回転ナデ	第II区域 W29/床土下茶色土
13	越前焼 搦鉢	口: 37.1 高: 7.0	焼: 不良 色: 白色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端面に沈線1条めぐる	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.5cm・7条 のヘラ描き卸目と粗い卸目がめぐる	第I区域 U40/炭混暗褐色土 V41・42/山土整地土
14	越前焼 搦鉢	口: 36.5 高: 13.0 底: 18.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面丸く収める/口端部内側に浅い凹 線めぐる 底部: 平坦	外: 口縁部～体部回転ナデ/底部周縁縄目 痕/底面未調整 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅3.1cm・12条 の卸目/シャープな仕上げ	第II区域 V29/床土下炭混暗褐色土 外: 口縁部ヤキムラ
15	越前焼 搦鉢	口: 31.0 高: 6.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ開く/口端面 平坦/口端部内側浅く屈曲	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.5cm・9条 の卸目/シャープな仕上げ	第II区域 S35/床土 外: スス附着
16	越前焼 搦鉢	口: 33.0 高: 4.5	焼: 良好 色: 赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端面に沈線1条めぐる	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部ヨコナデ	第II区域 U28/炭混黒色土
17	越前焼 香炉	高: 4.3 底: 11.8	焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	体部: 外傾して直線状に上方へ立ち上 がる 底部: 平坦/三角形の平坦な脚を底部周縁 に3ヶ所付ける/脚部で接地	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ	第I区域 V42・43/床土
18	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ヨコナデ	第I区域 T29
19	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.3 底: 2.3	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第II区域 U33/床土下暗褐色土 片口状に歪む
20	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.4 底: 2.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	第II区域 R・S35/床土下暗褐色土 片口状に歪む
21	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.5 底: 2.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 体部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	第II区域 T32/床土下暗褐色土 片口状に歪む 口縁部2ヶ所に意図的 な打欠

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
22	土師器 小皿	口: 7.2 高: 2.0 底: 2.2	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 体部に段あり/口唇部は丸く収める/内側 に条線1 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T28 片口状に歪む 内:赤色化粧土
23	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
24	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.6 底: 2.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅰ区域 W42/床土下炭混暗褐色土 外:附着物
25	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.4 底: 3.0	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
26	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.4 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 体部に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅱ区域 T29
27	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.5 底: 3.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅰ区域 V38/床土 片口状に歪む 底部に径2.5mmの穿孔
28	土師器 小皿	口: 6.4 高: 1.3 底: 3.4	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅰ区域 U37/床土 片口状に歪む
29	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.3 底: 3.2	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む 内外:赤色化粧土
30	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 2.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口端部内側に受口状の 段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
31	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.6 底: 3.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 S25・26/砂利混土 口端部一部スス附着
32	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.3 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T22・23/砂利混土 片口状に歪む 口端部一部スス附着
33	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
34	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 4.4	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
35	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.6 底: 3.8	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外方へ屈曲/口端部内側 に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅱ区域 T29/炭混黒色土 片口状に歪む
36	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.5 底: 4.8	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅱ区域 T29
37	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.6 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U30/床土下炭混暗褐色土
38	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 3.3	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部に段あり/口端 部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/炭混黒色土 口端部半周スス附着
39	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端部内側に段あり 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅱ区域 U29/炭混黒色土 片口状に歪む 口端部全周スス附着
40	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8 底: 4.6	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口端部内側に受口状の 段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T29 片口状に歪む
41	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
42	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土下炭混暗褐色土 片口状に歪む
43	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕/底部ス ノコ状圧痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 U31/床土下暗褐色土 片口状に歪む 口端部全周スス附着
44	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅰ区域 W42/床土下炭混土 片口状に歪む

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
45	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 Q35/床土下暗褐色土 内:赤色化粧土 片口状に歪む 口端部半周スス附着
46	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第I区域 U41/床土下暗褐色土 片口状に歪む 口端部半周スス附着
47	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第II区域 U29/床土下暗褐色土 片口状に歪む 内:口端部一部スス附着
48	土師器 小皿	口: 8.7 高: 2.0 底: 3.6	焼: 良好 色: 淡茶黒色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第I区域 U37/床土 片口状に歪む
49	土師器 小皿	口: 10.1 高: 2.5 底: 4.2	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める/ 体部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 T37/床土下暗褐色土 片口状に歪む 口端部一部スス附着
50	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 U31/床土下暗褐色土 片口状に歪む 外内:口端部全周スス附着
51	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 4.9	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 U29/床土下暗褐色土 外内:口端部全周スス附着
52	土師器 小皿	口: 10.8 高: 2.0 底: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:平底/やや中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 O28/床土下炭混暗褐色土 外内:口端部全周スス附着
53	土師器 小皿	口: 10.8 高: 2.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 U29/床土下炭混暗褐色土 外内:口端部全周スス附着
54	土師器 小皿	口: 10.6 高: 1.8 底: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第II区域 U29/床土下炭混暗褐色土 外内:口端部3/4周スス 附着
55	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.7 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 T28/炭混黒色土 片口状に歪む
56	土師器 小皿	口: 13.4 高: 2.3 底: 6.8	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 体部に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 U31/床土下暗褐色土
57	土師器 耳皿	口: 1.4 高: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:左右の口縁部を内側に折る 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第II区域 U29/炭混暗褐色土
58	土師器 耳皿	-	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:左右の口縁部を内側に折る 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第II区域 U29/炭混暗褐色土
59	土師器 香炉	-	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	脚部:獣脚のみ残存	外:ナデ	第II区域 P25・Q25
60	土師器 羽釜	口: 9.2 高: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:内傾して短く立ち上がる/口唇部 は丸く収める 受部:平滑/幅1.2cm	外:口縁部~受部回転ナデ/体部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部回転ナデ	第II区域 T28・29/床土下炭混暗 褐色土 外:受部全周スス附着
61	土師器 羽釜	口: 13.4 高: 7.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:直上に短く立ち上がる/口唇部は 丸く収める 受部:平滑/幅1.0cm	外:口縁部~受部回転ナデ/体部ナデ 内:口縁部~体部ナデ	第II区域 T37/床土下 外:受部~体部スス 附着
62	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.5 高: 4.0	焼: 良好 色: 淡茶色	精緻 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ 内:口縁部~体部中位回転ナデ	第II区域 V28・29/床土下炭混暗 褐色土
63	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.1 高: 5.3	焼: 良好 色: 茶色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 T32/床土下炭混暗褐色土 体部下位露胎 中国製か?
64	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 4.0	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 S28/床土下炭混暗褐色土 体部下位露胎
65	瀬戸美濃 鉄釉 皿	高: 3.8 底: 4.4	焼: 良好 色: 茶色	精緻 1/6	底部:削出高台	外:体部下位回転ナデ 内:体部下位回転ナデ	第II区域 T30/床土下炭混暗褐色土 体部下位露胎
66	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.8 高: 6.0	焼: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 U29/床土下炭混黒色土 体部下位露胎
67	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.2 高: 5.6	焼: やや不良 色: 茶色	軟質 1/2	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 T29 体部下位露胎
68	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.6 高: 6.3 底: 3.8	焼: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める 底部:蛇ノ目高台	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 S41・42床土 体部下位露胎
69	瀬戸美濃 鉄釉 壺	口: 11.8 高: 2.8	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端部 はやや平坦	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	第II区域 S29/床土下炭混暗褐色土

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
70	瀬戸美濃 鉄釉 壺	-	焼色: 良好 黒色	精緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口端部下 位に押型波状文の突帯がめぐる	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第Ⅱ区域 U29/床土
71	瀬戸美濃 鉄釉 茶入	口: 3.2 高: 7.0 底: 3.0	焼色: 良好 黒茶色	精緻 1/1	口縁部: 短く上方へ立ち上がる 体部~底部: 体部上位で張り出す 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部回転 糸切り痕 内: 口縁部~底部回転ナデ	第Ⅰ区域 S38/床土 体部下位露胎
72	瀬戸美濃 鉄釉 水滴	口: 3.2 高: 3.8 底: 3.4	焼色: 良好 透濃茶色	精緻 1/2	口縁部: 短く上方へ立ち上がる 体部~底部: フラスコ形/体部中位で張り 出す/体部上位に2つの把手が付く/体部下 位に注口が付く 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部回転 糸切り痕 内: 口縁部~底部回転ナデ	第Ⅰ区域 U36/焼土・炭混褐色土 体部下位露胎
73	灰釉 小皿	口: 12.0 高: 1.6	焼色: 良好 灰緑色	軟質 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅰ区域 U40/床土下炭混土 体部~底部露胎
74	灰釉 小皿	口: 6.4 高: 1.5 底: 2.8	焼色: 良好 灰緑色	堅緻 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや内側に屈曲/5弁状に弱い挟 りを入れる 底部: 平底	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~底部回転ナデ	第Ⅰ区域 V38/床土
75	灰釉 皿	高: 1.3 底: 5.3	焼色: 良好 灰緑色	軟質 1/4	底部: 削出高台	外: 体部下位~底部回転ナデ 内: 体部下位~底部回転ナデ/中央に菊花 文スタンプ陰刻	第Ⅰ区域 V37/床土
76	灰釉 碗	高: 1.8 底: 5.8	焼色: 良好 透黄緑色	極砂粒 堅緻 1/4	体部: 内湾して外方へ開く 底部: 削出高台/底部中央周辺凹む	外: 底部回転ナデ 内: 底部回転ナデ	第Ⅰ区域 S43/床土 外: 高台端面にも釉あり
77	灰釉 碗	口: 11.6 高: 6.2 底: 5.6	焼色: 良好 淡黄緑色	極砂粒 堅緻 1/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がり/ 口端部で上方に弱く屈曲して外反/口唇部 は丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/線刻蓮花 文がめぐる/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~底部回転ナデ	第Ⅱ区域 O28/床土 O29/砂利混褐色土 青磁碗の模倣
78	灰釉 碗	口: 12.0 高: 4.0	焼色: 良好 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ 内: 口縁部~体部中位回転ナデ	第Ⅱ区域 T29
79	灰釉 碗	口: 17.8 高: 6.5	焼色: 良好 黄緑色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/線刻蓮花 文がめぐる/ 内: 口縁部~体部中位回転ナデ	第Ⅱ区域 T・U30/床土下炭混暗 褐色土
80	灰釉 捏鉢	口: 32.6 高: 9.0	焼色: 不良 白色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部凹線がめぐる	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第Ⅰ区域 W39/床土下炭混暗 褐色土 外内: 体部下位露胎
81	灰釉 捏鉢	高: 2.2 底: 12.5	焼色: 良好 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	底部: 周縁に粘土塊の脚が3ヶ所	外: 体部下位回転ヘラケズリ/底部回転ヘ ラ切り 内: 底部ナデ	第Ⅰ区域 W41~43 外・内: 体部下位露胎
82	灰釉 捏鉢	高: 6.0 底: 12.7	焼色: 良好 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	体部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部: 周縁に粘土塊の脚が3ヶ所	外: 体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラ ケズリ/底部粗い回転ヘラ切り 内: 体部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T27・28/床土
83	瓦質土器 火鉢	-	焼色: 良好 灰黒色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に突帯がめぐる/三角柱状押印文が めぐる	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 V29・30/暗褐色土
84	瓦質土器 火鉢	口: 26.0 高: 3.8	焼色: 良好 灰黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦/口端部上・下端に突帯がめぐる /突線の間に三角柱状押印文がめぐる	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ/摩耗 シャープな仕上げ	出土区域不明
85	瓦質土器 火鉢	口: 24.8 高: 3.0	焼色: 良好 灰黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端部 は平坦/口端部上・下端に突帯がめぐる/突 線の間に三角柱状の押印がめぐる	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 W35
86	瓦質土器 風炉	口: 37.4 高: 7.5	焼色: 良好 灰黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 内湾して窄まる/口端部平坦/2つ の突帯がめぐる 体部: 体部下位~上位に直線状に斜め外方 へ立ち上がる	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ シャープな仕上げ	第Ⅰ区域 O40 第Ⅱ区域 P29/砂利混褐色土
87	瓦質土器 風炉	口: 44.8 高: 12.3 底: 32.0	焼色: 良好 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 内湾して窄まる/口端部平坦/2つ の突帯がめぐる/突帯間に3個1単位の雷文 の押印がめぐる 体部: 体部下位~上位はきつく内湾して斜 め外方へ立ち上がる	外: ナデ 内: ナデ シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 T32 外内: スス付着
88	瓦質土器 風炉	-	焼色: 良好 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端 部下端に突帯がめぐる/突帯の下に内行文 の押印あり	外: ナデ 内: ナデ シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 R22・23/床土下砂利混 褐色土
89	瓦質土器 風炉	-	焼色: 良好 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/外方 へ直角に屈曲する/口端部平坦/口縁部にS 字渦巻押印文がめぐる	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 P29/砂利混褐色土 U27・28床土
90	瓦質土器 捏鉢	口: 26.2 高: 9.0 底: 15.6	焼色: 不良 淡灰色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/浅鉢 底部: 平坦	外: 口縁部~体部ナデ 内: 口縁部~体部ナデ後ミガキ	第Ⅱ区域 R26・27/砂利混褐色土 外内: 一部スス付着
91	瓦質土器 風炉	-	焼色: 良好 暗灰色	極砂粒 軟質 1/10以下	底部: 円筒状の脚部のみ残存	外: ナデ 内: ナデ	出土区域不明
92	青磁 碗	口: 12.4 高: 2.6	焼色: 良好 淡オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に線刻蓮花文	第Ⅰ区域 U41/床土下炭混暗褐色土 W33・34/褐色土
93	青磁 碗	口: 11.8 高: 4.4	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/8	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に線刻蓮花文	第Ⅱ区域 T29
94	青磁 碗	口: 13.0 高: 5.5	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に線刻蓮花文	第Ⅰ区域 U・W39/床土下炭混暗 褐色土
95	青磁 碗	口: 11.8 高: 5.0	焼色: 良好 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に線刻蓮花文	第Ⅱ区域 T25

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
96	青磁碗	高: 4.0 底: 4.2	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削り出し高台	外:体部に線刻蓮花文/底部に斜行刻目文 内:底面に陰刻花文	第1区域 Q35/礫混暗褐色土 外:高台底面露胎
97	青磁碗	-	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる	外:口縁部に条線2/体部に陰刻花文 内:体部に陰刻花文	第II区域 U37/床土
98	青磁碗	口: 14.8 高: 4.5	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる	外:体部に鑄蓮花文	第I区域 T40/床土下炭混土
99	青磁碗	口: 13.4 高: 5.0	焼: 良好 色: 灰オリーブ	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる		第II区域 Q31~33/床土
100	青磁碗	口: 13.6 高: 6.2	焼: 良好 色: 灰緑色	軟質 1/6	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反		第II区域 R26・27/床土下炭混暗褐色土 外:発色不良
101	青磁碗	口: 13.0 高: 6.6 底: 4.8	焼: 不良 色: 暗灰白色	精緻 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下位回転ヘラケズリ/底部回転ヘラケズリ	第II区域 U29/床土下炭混暗褐色土 外:ナマヤケ/高台一部露胎
102	青磁輪花碗	口: 19.0 高: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め、緩い波状に成形し花弁状にする	外:口縁部に鑄蓮花文 内:口縁部に鑄蓮花文	第II区域 S30/床土下炭混暗褐色土
103	青磁碗	高: 2.0 底: 3.8	焼: やや不良 色: 淡灰オリーブ	堅緻 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻	第II区域 U24/表土 外:高台底面~端面露胎
104	青磁碗	高: 2.2 底: 4.6	焼: 良好 色: 暗オリーブ	精緻 1/6	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻菊花文	第II区域 Q29/炭混暗褐色土 外:高台底面~端面露胎
105	青磁碗	高: 3.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 灰緑色	精緻 1/4	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻花文	第II区域 O33/炭混暗褐色土 外:高台底面~端面露胎 外:漆継ぎの痕
106	青磁碗	高: 3.2 底: 5.2	焼: 良好 色: 暗灰オリーブ	精緻 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻花文	第I区域 Q40/床土 外:高台底面~端面露胎 /発色不良
107	青磁碗	高: 3.3 底: 6.0	焼: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻花文	出土区域不明 表土 外:高台底面周縁露胎
108	青磁稜花皿	口: 12.0 高: 3.0 底: 6.6	焼: 良好 色: 白褐色	軟質 1/8	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部を押圧して波状に成形し花弁状にする 底部:削出高台		第II区域 S35/炭混暗褐色土 外:高台端面露胎
109	青磁稜花皿	高: 1.8 底: 5.4	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/花弁状に鑄を入れる 底部:削出高台		第II区域 R32/炭混暗褐色土 外:高台底面~端面露胎
110	青磁盤	高: 2.8 底: 7.0	焼: 良好 色: 明オリーブ	精緻 1/6	体部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻花文/体部に放射状の線刻文	出土区域不明 表土 外:高台底面~端面露胎
111	青磁盤	高: 2.8 底: 9.6	焼: 不良 色: 淡暗灰色	精緻 1/20以下	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に陰刻花文	出土区域不明 表土 外:高台底面周縁~端面露胎
112	青磁盤	-	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部は受口状に屈曲	内:体部に鑄蓮花文	第II区域 R29/炭混暗褐色土
113	青磁盤	口: 28.0 高: 3.5	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部は受口状に屈曲		第I区域 V38/炭混暗褐色土 T39/床土下炭混土
114	青磁花入	-	焼: 良好 色: 明オリーブ	精緻 1/10以下	頸部:やや外傾しながら上方へ立ち上がる	頸部:タテ方向に並行綾杉文を陰刻、下位に3段の雷文を陰刻	第II区域 S35/床土 第24次114の個体と同一
115	青磁香炉	口: 8.0 高: 3.4	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:寸胴形/やや外傾して直線状に上方へ立ち上がる/口端部内側突出/口端部平坦	外:体部中に1条の条線	第II区域 S35/炭混暗褐色土
116	青磁香炉	口: 8.8 高: 3.0	焼: 良好 色: 暗灰オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる/口端部内側突出/口端部丸く収める	外:口縁部~体部カキメ	第II区域 T30/炭混暗褐色土
117	青磁香炉	口: 13.8 高: 3.9	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる/口端部内側突出/口端部浅く凹む	外:口縁部~体部算木文	出土区域不明 表土
118	白磁杯	口: 6.2 高: 2.6	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに外反して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		第I区域 U37/床土 内:底部周縁露胎
119	白磁杯	高: 1.0 底: 3.2	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台		第II区域 S35/床土下炭混暗褐色土
120	白磁杯	高: 1.3 底: 2.4	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	底部:削出高台		第II区域 R31/床土下炭混暗褐色土 内:底部周縁露胎
121	白磁杯	口: 5.6 高: 2.4	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める		第I区域 V40/床土下炭混暗褐色土
122	白磁皿	口: 8.6 高: 2.2	焼: 良好 色: 白褐色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める		第II区域 W31/炭・焼土混褐色土

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
123	白磁皿	口: 8.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める		第Ⅱ区域 S34/礫混暗褐色土
124	白磁皿	口: 8.0 高: 1.9 底: 4.1	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台/割り高台		第Ⅱ区域 Q28/礫混褐色土
125	白磁皿	高: 1.4 底: 3.8	焼: 良好 色: 淡白褐色	精緻 1/6	底部:削出高台		第Ⅱ区域 P33/床土下暗褐色土 漆継ぎ痕 外:底面~高台露胎
126	白磁皿	口: 9.4 高: 2.4 底: 3.3	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/5	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台/割り高台		第Ⅱ区域 R26・27/礫混暗褐色土 外:底面~体部下位露胎
127	白磁皿	口: 10.4 高: 3.0 底: 4.1	焼: 不良 色: 淡白褐色	精緻 1/3	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅱ区域 T30/床土下炭混暗褐色土 T29/炭混黒色土 T30・31・R26・27/床土 外:底面露胎
128	白磁皿	高: 1.3 底: 3.8	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/6	底部:削出高台		第Ⅱ区域 R26・27/礫混暗褐色土 外:底面~体部下位露胎 内:底面周縁露胎/赤色塗彩
129	白磁皿	口: 11.6 高: 2.2	焼: 良好 色: 明白灰色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		第Ⅰ区域 U37/床土
130	白磁皿	高: 1.3 底: 6.8	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	底部:削出高台		第Ⅰ区域 S38/床土 外:高台端面露胎
131	白磁皿	高: 2.5 底: 10.0	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/6	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第Ⅱ区域 O26/床土下砂利混土 O27・28/床土 P28/床土下暗褐色土 外:高台端面露胎
132	白磁皿	口: 16.9 高: 3.7 底: 10.0	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅰ区域 V39・40・W38/床土下炭混暗褐色土 外:高台端面露胎
133	染付碗	口: 13.1 高: 5.2 底: 5.9	焼: 良好 色: 灰白色	精緻 2/3	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須の圏線2・波濤文/体部に呉須の芭蕉文/底部に圏線1 内:口端部に圏線1/底部周縁に圏線1/底面中央に蓮花文	第Ⅱ区域 S-U30・V29/床土下炭混暗褐色土
134	染付碗	高: 3.3 底: 5.0	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/8	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に呉須の芭蕉文 内:底部周縁に圏線1/底面中央に蓮花文	第Ⅰ区域 S36/床土 外:高台端面露胎
135	染付碗	口: 11.6 高: 3.2	焼: 良好 色: 透明白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線1・雷文/体部に細刻唐草文 内:口縁部に圏線2	第Ⅱ区域 P22・23/砂利混暗褐色土
136	染付皿	口: 11.4 高: 3.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線1/体部に呉須唐草文 内:口縁部に圏線3・斜行格子文帯/体部にアラベスク文	第Ⅱ区域 S30/炭混暗褐色土
137	染付皿	高: 2.0 底: 6.8	焼: 良好 色: 透灰青色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:高台に呉須圏線2 内:底面にアラベスク文	出土区域不明 表土 外:高台端面露胎
138	染付皿	口: 6.2 高: 1.8 底: 2.2	焼: 良好 色: 白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め、花卉状に成形 底部:碁笥底	外:体部に花卉状の線刻	第Ⅱ区域 P29・30/床土 外:底面~体部下位露胎
139	染付皿	高: 1.5 底: 4.0	焼: 良好 色: 灰青色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:碁笥底	内:底部に呉須の文様・褐釉の魚文	出土区域不明 表土 外:高台端面露胎
140	朝鮮雑釉皿	口: 12.4 高: 2.0	焼: 良好 色: 淡茶灰色	軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部屈曲/口唇部は丸く収める/口端部内側が受口状に凹む	外:口縁部~体部回転ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ	第Ⅱ区域 W29/床土茶色土
141	朝鮮白磁皿	口: 9.9 高: 1.3	焼: 良好 色: 透明灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部回転ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ	第Ⅱ区域 O31・32/床土下褐色土
142	越前焼火桶	口: 24.8 高: 10.0	焼: 良好 色: 淡こげ茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む	外:口縁部~胴部中位回転ナデ 内:口縁部~胴部中位回転ナデ	第Ⅰ区域 X37~41/SA4260 V40/床土下炭混土
143	越前焼控鉢	口: 31.0 高: 6.3 底: 12.5	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側に段あり 底部:平坦	外:口縁部~胴部中位回転ナデ 内:口縁部~胴部中位回転ナデ	第Ⅰ区域 X39/SA4260 第Ⅱ区域 S29/床土下炭混暗褐色土
144	土師器小皿	口: 7.2 高: 1.8 底: 3.3	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅰ区域 W36/SA4260 片口状に歪む
145	灰釉小皿	口: 7.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 不良 色: 淡灰緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/押圧して花卉状に成形 底部:碁笥底	外:口縁部~底部回転ナデ 内:口縁部~底部回転ナデ	第Ⅰ区域 X37~41/SA4260 外:底面露胎

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
146	瀬戸美濃 鉄釉 鉢	口: 31.0 高: 16.2	焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部:内湾して外方へ開く/口端部は外 方へ屈曲/口端面は平坦	外:口縁部~胴部下位回転ナデ/胴部上・ 中・下位に凹線2条がめぐる/胴部中位に 半環状の把手がヨコ方向に2つ付く 内:口縁部~胴部下位回転ナデ	第1区域 W30~32/SA4260 W31/炭・焼土混濁色土 第102次調査表土
147	瓦質土器 火鉢	口: 30.0 高: 5.8	焼: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦/口端部上・下端に突帯がめぐ る/突線の間に花文のスタンプがめぐる	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位に透孔あり 内:口縁部ヨコナデ/頸部面取り シャープな仕上げ	第1区域 W33/SA4260
148	瓦質土器 火鉢	-	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦で内側に突出/口端部上・下端に 突帯がめぐる/突線の間に菱文のスタンプ がめぐる	外:口縁部黒色磨研 内:口縁部黒色磨研	第1区域 W33/SA4260
149	瓦質土器 壺	-	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	体部:直線状に外傾して上方へ立ち上がる /箱状の盤 底部:平坦/四隅に鈍い三角板状の脚部が 付く	外:口縁部黒色磨研 内:口縁部黒色磨研	第1区域 W33/SA4260
150	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.4 底: 2.2	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第1区域 P37/SE4276 片口状に歪む
151	白磁 皿	高: 1.4 底: 3.2	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第1区域 W31・32/SA4260 外:底部~体部下位露胎
152	白磁 輪花皿	口: 13.6 高: 2.0	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収め、口端部を花卉状に成形す る	外:口縁部に鑄蓮花文 内:口縁部に鑄蓮花文	第1区域 X37~41/SA4260
153	白磁 皿	高: 2.3 底: 5.3	焼: 不良 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第II区域 W25~27/SA4260 外:高台端面露胎
154	白磁 杯	高: 4.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/4	体部:体部下位で屈曲し、やや外反して立 ち上がる 底部:削出高台		第1区域 X38/SA4260 W37/床土 外:底面~高台端面露胎
155	青磁 輪花碗	口: 12.1 高: 4.4	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外:口縁部~体部鑄蓮花文	第1区域 X37~41/SA4260
156	中国 瑠璃釉 壺	高: 2.7 底: 3.0	焼: 良好 色: 濃紺青色	精緻 1/4	体部:やや内湾して上方へ立ち上がる/ 中位で膨らむ 底部:削出高台		第1区域 U39/SB4274 外:底面~高台端面露胎
157	染付 皿	高: 1.5 底: 3.0	焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/5	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部:基筒底	外:体部下位に呉須の芭蕉文 内:底部周縁に呉須の墨線2・中央に菊花 文	第1区域 V38/SB4274 V38/床土 外:高台端面周縁露胎
158	白磁 輪花皿	高: 1.6 底: 6.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部:削出高台	外:体部下位に鑄蓮花文/底部に呉須墨線2 内:体部下位に鑄蓮花文	第1区域 U39/SB4274 外:高台端面露胎
159	越前焼 捏鉢	口: 30.0 高: 8.9 底: 15.5	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部:やや外反して外方へ開く/口端 部は浅く凹む/口端部内側は凹状の段をもつ 体部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部指頭痕	第1区域 T41/SE4277 S40・038/床土
160	越前焼 甕	口: 47.2 高: 21.3	焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:外傾して外方へ開く/口端面は浅 く凹む/口端部内側は凹状の段をもつ 胴部:中位で大きく肩が張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/シャープな 仕上げ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上~中位指頭痕	第1区域 T42/SE4277 U40/SK4309-P1 R37・S40/床土
161	越前焼 大甕	口: 88.4 最: 97.6 高: 27.5	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く外方へ開く/口端 部は平坦/段をもつ 胴部:上位で肩が張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位に ヘラ記号/シャープな仕上げ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上~中位に3段の 輪積み痕・指頭痕・ユビナデ	第1区域 T42/SE4277 U40/SK4309-P1 U40/床土下炭混土 外:胴部上位降灰・ヤ キムラ
162	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.4 高: 6.0	焼: 良好 色: 透黒茶色	精緻 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がり、口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ 内:口縁部~体部中位回転ナデ	第1区域 T42/SE4277 外:体部下位露胎
163	瀬戸美濃 鉄釉 水瓶	高: 14.0 底: 10.0	焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 4/5	頸部~底部:徳利形/体部下位で張り出す 底部:平坦	外:頸部~体部中位回転ナデ/底部回転ヘ ラ切り痕 内:頸部~底部回転ナデ	第1区域 T42/SE4277 外:底部~体部下位露 胎/逆位で軸を漬けかけ
164	朝鮮 象嵌 壺	口: 13.0 高: 42.7 底: 17.8	焼: 良好 色: 透灰色	精緻 5/6	口縁部:短く外反して立ち上がる/口唇部 は丸く収める 胴部:寸胴形/胴部上位で張り出す 底部:平坦	外:体部上位に「慶尚」の象嵌2/体部上位 ~中位に半円重弧文帯1段、三日月形弧文 帯2段・平行条線帯3段/体部中位~下位に 半円重弧文帯3段・平行条線帯4段 内:胴部上位~下位に輪積み成形・指頭痕	第1区域 T40/SK4309 T42/SE4277 W31・32/SA4260 S42・R37/床土 全体歪む 外:底部露胎
165	越前焼 大甕	口: 80.0 最: 86.8 高: 61.5	焼: 良好 色: 橙茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:直線状に短く外方へ開く/口端 部は平坦/段をもつ 胴部:上位で肩が張る/下位で窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位に ヘラ記号/胴部中位~下位ヘラナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上~下位に7段の 輪積み痕・指頭痕・ユビナデ	第1区域 U39/SK4309-P1 T42/SE4277 U40/床土下炭混土

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
166	越前焼 大甕	最: 88.0 高: 60.0 底: 28.8	焼: 良好 色: 淡灰茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	胴部: 上位で肩が張る/下位で窄まる 底部: 平坦	外: 胴部中位~下位ヘラナデ 内: 胴部中~下位に6段の輪積み痕・指頭 痕・ユビナデ/底部ナデ	第Ⅰ区域 U39/SK4309-P3・P1 X37・38/SA4260
167	越前焼 大甕	口: 76.5 高: 89.2 最: 87.6 底: 30.8	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 3/5	口縁部: 短く外傾して立ち上がる/口端面 は平坦/口縁部中央に段あり/口端部内側 に沈線1 胴部: 上位で大きく張る/上位~底部にか けて窄まる 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/胴部上 位に1種類のヘラ記号と押印文(格子文)/ 中位~下位ヘラナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部は幅10.0cmの粘 土板を推定9段以上輪積み/接合部ユビナ デ・指頭痕/上位~下位指頭痕7段/底部ナ デ	第Ⅰ区域 T40/SK4309/P4・P1 W36/SF4278 X37~41/SA4260 第Ⅱ区域 T23/砂利混褐色土 X28/SD4268 外: 胴部上位降灰 内: 胴部中位~下位降灰
168	越前焼 大甕	口: 87.0 高: 72.5 最: 94.8	焼: 良好 色: 赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部: 短く外傾して立ち上がる/口端面 は浅く凹む/口縁部中央に段あり/口端部 内側に段あり 胴部: 上位で大きく張る/上位~底部にか けて窄まる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/ 胴部上位に1種類のヘラ記号と押印文(格 子文)/中位~下位ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部は幅10.0cmの粘 土板を推定7段以上輪積み/接合部ユビナ デ・指頭痕/上位~下位指頭痕8段	第Ⅰ区域 T40/SK4309/P3・P1・P5 T42/SF4277 X37~41/SA4260 第Ⅱ区域 T・U35/SB4273 外: 半身降灰・ヤキムラ
169	越前焼 大甕	口: 83.8 高: 44.5 最: 97.0	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部: 短く外傾して立ち上がる/口端面 は平坦/口縁部中央凹面/口端部内側に段 あり 胴部: 上位で大きく張る/上位~底部にか けて窄まる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ヨコナデ/胴 部上位に2種類のヘラ記号と押印文(格子 文)/中位~下位ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部は幅10.0cmの粘 土板を推定5段以上輪積み/接合部ユビナ デ・指頭痕/上位~下位指頭痕5段	第Ⅰ区域 T40/SK4309/P5・P1 T42/SF4277 W36/SF4278 第Ⅱ区域 W・X28/SA4260
170	越前焼 捏鉢	口: 28.3 高: 15.0 底: 16.4	焼: 良好 色: 淡灰茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 4/5	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口 端面は浅く凹む 体部: 体部下位で窄まる 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位ナデ 内: 口縁部指頭痕/体部中位~下位回転ナ デ・指頭痕	第Ⅱ区域 V34/SB4273 S27/床土下炭混暗褐色土 第Ⅰ区域 T36/床土下炭混暗褐色土 外: 歪み、ヤキムラ
171	越前焼 溜鉢	-	焼: 良好 色: 淡灰色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端部はや や上方に屈曲/口端面内側浅く凹む	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅2.8cm・10条 の卸目	第Ⅱ区域 O34/SB4299 外: 片口
172	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.8 高: 5.1	焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 堅緻 1/3	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸 く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅰ区域 P・Q37/SX4303 外: 体部下位露胎
173	瓦質土器 瓦燈蓋	-	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	受部: 緩やかに内湾して外方へ開く/底面 に径5mmの穿孔/体部: 釣鐘形	外: 受部~天井部黒色磨研 内: 受部・底部黒色磨研 シャープな仕上げ	第Ⅰ区域 P・Q37/SX4303
174	白磁 輪花皿	口: 12.0 高: 2.3	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収め、緩い波状に成形し花弁状 にする	外: 体部に浅い錦蓮花文 内: 体部に浅い錦蓮花文	第Ⅰ区域 Q37/SX4303 第Ⅱ区域 Q35・/SX4298
175	瀬戸美濃 鉄釉 瓶	高: 3.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 黒褐色	焼: 良好 色: 黒褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	底部: 平坦/内湾して立ち上がる	外: 体部下位回転ナデ/手部回転ヘラケズ リ 内: 体部下位~底部回転ナデ	第Ⅱ区域 S35/SX4295 S35/礫混暗褐色土 外: 底部~体部下位露胎
176	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.7 底: 4.3	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ/口縁部条線1 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T30/SX4290 T30/炭混黒色土 片口状に歪む
177	白磁 皿	高: 2.5 底: 8.6	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/8	体部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削出高台		第Ⅱ区域 T30/SX4290 T30/炭混黒色土 外: 高台端面露胎
178	越前焼 甕	-	焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 外反して立ち上がる/口端部下位 は下に突出し口縁帯をつくる/口端部内側 に段をもつ	外: 口縁部ヨコナデ 内: 口縁部ヨコナデ/シャープな仕上げ	第Ⅱ区域 S・T29/SX4288 S・T29/炭混黒色土
179	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.9 底: 4.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部に条線1/口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅱ区域 T29・30/SX4288 T29・30/炭混黒色土 片口状に歪む
180	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅱ区域 T29/SX4288 T29/炭混黒色土 片口状に歪む
181	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.5 底: 2.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅰ区域 W36/SF4278 外・内: 口端部半周ス ス付着

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
182	越前焼 捏鉢	-	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ開く/口端面は浅く凹む	外: 口縁部~胴部中位回転ナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部~胴部中位回転ナデ	第II区域 R23/SE4275 内: 摩耗
183	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.0 底: 4.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 R23/SE4275 片口状に歪む
184	土師器 小皿	高: 1.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める	外: 底部ナデ 内: 底部ナデ	第II区域 R23/SE4275 片口状に歪む
185	白磁 稜花皿	口: 10.2 高: 1.6	焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は押しつけて波状に成形する	外: 口縁部~体部蒔蓮花文 内: 口端部に蓮花文がめぐる	第II区域 R23/SE4275 024/床土下砂利混土
186	灰釉 壺	口: 8.0 高: 3.0 底: 5.0	焼: 良好 色: 淡灰緑色	軟質 1/4	胴部: 下位の欠損面を研磨して平坦面の口縁部をつくる/壺を杯にした再生品 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部回転糸切り痕/親子亀の墨書 内: 口縁部~底部回転ナデ	第II区域 R23/SE4275 外: 胴部下位露胎
187	青磁 盤	-	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	底部: 平坦	内: 底面に陰刻花文	第II区域 T35/SB4273 R31~33/床土
188	染付 皿	高: 1.0 底: 3.8	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台/碁笥底	内: 底面中央に呉須の花文、褐釉の魚文	第II区域 R23/SE4275 外: 高台接地面露胎
189	瓦質土器 焙烙	口: 24.8 高: 3.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ開く/口端面は把厚	外: 口縁部ナデ 内: 口縁部ナデ	第II区域 W29・30/SD4270 外: ヤキムラ
190	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.8 底: 2.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第I区域 W36/SD4270 片口状に歪む
191	土師器 小皿	口: 8.2 高: 2.0 底: 4.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 W36/SD4270 片口状に歪む
192	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.0 底: 5.2	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 W40/SD4270 片口状に歪む
193	土師器 小皿	口: 12.8 高: 2.4 底: 6.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 W36/SD4270 片口状に歪む
194	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.6 底: 3.6	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 Q33/SD4272 片口状に歪む 外・内: スス部分的に 付着
195	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.5 底: 3.6	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第II区域 Q33/SD4272 片口状に歪む
196	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.9 底: 2.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第II区域 Q33/SD4272 片口状に歪む
197	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.8 底: 2.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第II区域 Q33/SD4272 片口状に歪む
198	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 Q32/SD4272 外・内: 口端部3/4周 スス付着
199	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.8 底: 4.3	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 P29/SD4271 P29/炭混暗褐色土 片口状に歪む 外・内: 口端部部分的 にスス付着
200	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.0 底: 3.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 Q30/SD4271 片口状に歪む
201	青磁 盤	-	焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部: 斜め外方へ立ち上がる/口端部で受口状に屈曲/口唇部は丸く収める	外: 口縁部下位に沈線1 内: 体部に蓮花文	第II区域 W25・26/SA893

土製品(PL. 47 第24図)

単位:cm/g

No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
202	土錘	10.5	—	1/1	土師質 橙褐色	上下端面平坦/ヘラク スリ/棒巻き付け技法	第Ⅱ区域 U35/炭混褐色土
203	土錘	10.4	—	1/2	土師質 橙褐色	下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	第Ⅰ区域 W38/炭混暗褐色土
204	土錘	5.0	1.2	1/3	土師質 橙褐色	下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	第Ⅰ区域 W39/炭混暗褐色土
205	土錘	7.5	—	1/1	土師質 橙褐色	上下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	第Ⅱ区域 U35/炭混褐色土
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
206	土製 円盤	8.4	1.9	1/10	越前焼 淡灰褐色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅱ区域 R23/SE4275
207	土製 円盤	6.3	1.6	1/10	越前焼 淡灰褐色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅱ区域 R23/SE4275
208	土製 円盤	5.4	1.3	1/10	越前焼 濃赤茶色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅱ区域 R23/SE4275
209	土製 円盤	5.4	1.3	1/10	越前焼 淡茶色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅰ区域 W39/床土
210	土製 円盤	2.9	1.3	1/10	越前焼 濃茶色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅱ区域 Q23/SE4275
211	土製 円盤	3.4	1.2	1/10	越前焼 灰色	鉢縁の破片周囲を打 ち欠く	第Ⅱ区域 R23/SE4275
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
212	羽口	15.3	3.0	4/5	土師質 灰白色	上端面平坦/ナデ/全 体被熱/棒巻き成形	第Ⅰ区域 U37/SX4316
213	羽口	9.6	2.8	4/5	土師質 橙褐色	上端面平坦/ナデ/ 全体被熱/棒巻き成形	第Ⅰ区域 U37/SX4316

金属製品(PL. 47・48 第24・25図)

単位:cm/g

No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
214	鉄錐	14.8	1.5	1/4	鉄製品	先端欠損/断面円形/ 木柄との境に棘状開	第Ⅱ区域 U40/炭混土
215	火箸	21.4	0.5	4/5	銅製品	先端鋭く加工/断 面円形	第Ⅱ区域 T33/燦混暗褐色土
216	火箸	9.7	0.4	2/3	銅製品	先端鋭く加工/断 面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
217	火箸	42.3	0.5	1/1	銅製品	大型火箸/上端環状/ S字金具2/断面円形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
218	鉄釘	7.7	0.6	4/5	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅱ区域 P28/砂利混褐色土
219	鉄釘	7.0	0.5	4/5	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅱ区域 P26/砂利混土
220	鉄釘	5.2	0.5	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
221	鉄釘	4.0	0.3	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
222	鉄釘	4.3	0.3	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
223	鉄釘	4.2	0.4	4/5	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅱ区域 Q29/暗褐色土
224	鉄釘	3.5	0.3	1/1	鉄製品	釘頭は扇状に潰す /断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
225	鉄釘	4.3	0.4	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
226	鉄釘	6.0	0.4	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
227	鉄釘	8.2	0.3	1/1	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後平坦/断面方形	第Ⅰ区域 P37/SE4276
228	吊り 金具	5.9	0.3	2/3	鉄製品	先端を環状に成形	第Ⅱ区域 T29/SX4290
229	銅鎚	1.2	0.2	1/1	銅製品	笠部黒漆/先端平坦	第Ⅱ区域 P31~33/床土
230	引手 金具	1.6	0.2	1/1	銅製品	環・円形 断面径0.3cm	第Ⅱ区域 V34/SB4273
231	環座 金具	1.4	0.2	4/5	銅製品	環・楕円形 座金具・菊文陰刻	第Ⅰ区域 V38/SB4274
232	飾金具	4.3	0.2	4/5	銅製品	モール状の縁金具/ 突起1/金箔付着	第Ⅰ区域 Q38/表土
233	靴	2.8	0.3	1/1	銅製品	形状:木葉形/中央 に径5mmの円孔2	第Ⅰ区域 V40/炭混土
234	靴	3.2	0.2	1/1	銅製品	形状:木葉形/中央 に径6mmの円孔2	第Ⅱ区域 Q30/SD4272
235	靴	1.4	0.3	1/1	銅製品	形状:S字形/径5mm の円孔2	第Ⅱ区域 S30/床土
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
236	筭	10.5	1.2	2/3	銅製品	径0.3cmの円孔 黒漆下地/金箔付着	第Ⅱ区域 T28

単位:cm/g

No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
237	筭	13.8	1.2	4/5	銅製品	鑄突突線	第Ⅱ区域 P32/暗褐色土
238	筭	8.0	0.5	2/3	銅製品	雲形金具/突起側に 半円状の段	第Ⅱ区域 P34/燦混暗褐色土
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
239	鉄鎌	5.2	0.4	1/2	鉄製品	雁又/鎌身部:3.0cm/ 断面レンズ	第Ⅱ区域 P30/炭混暗褐色土
240	鉄鎌	4.2	0.5	2/3	鉄製品	征矢/鎌身部:2.4cm/ 断面方形	第Ⅱ区域 T39/床土
241	鉄鎌	3.7	0.4	4/5	鉄製品	征矢/鎌身部:2.0cm/ 断面方形	第Ⅱ区域 R28/炭混暗褐色土
242	鉄鎌	3.0	0.4	4/5	鉄製品	征矢/鑿頭/鎌身 部:1.8cm/断面方形	第Ⅱ区域 R29~30
243	鉄鎌	2.5	0.6	4/5	鉄製品	征矢/鑿頭/鎌身 部:1.8cm/断面方形	第Ⅱ区域 R31/暗褐色土
244	鉄鎌	5.5	0.4	1/1	鉄製品	征矢/鑿頭/鎌身部:3.7 cm/断面菱形/両切り	第Ⅱ区域 Q24/砂利混土
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
245	彈丸	1.3	0.9	1/1	鉛製品	使用による潰れ	第Ⅱ区域 P33/暗褐色混土
246	彈丸	1.0	0.9	1/1	鉛製品		第Ⅰ区域 Q36/床土
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
247	小札	5.8	0.3	1/1	鉄製品	本小札/13穴/黒漆 の盛上小札	第Ⅱ区域 T31/暗褐色混土
248	小札	5.9	0.25	1/1	鉄製品	本小札/13穴/黒漆 の盛上小札	第Ⅱ区域 R30/炭混暗褐色混土
249	小札	5.6	0.3	1/1	鉄製品	伊予札/14穴/黒漆 の盛上小札	第Ⅱ区域 R30/SD4271
250	小札	6.5	0.25	1/1	鉄製品	伊予札/14穴/黒漆 の盛上小札	第Ⅱ区域 R28~31

石製品(PL. 48 第25・26図)

単位:cm/g

No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
251	砥石	8.6	1.3	4/5	凝灰岩 黄白色	砥面4/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅰ区域 T38/床土下
252	砥石	8.1	1.5	1/1	凝灰岩 黄土色	砥面3/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅱ区域 T33/砂利混土
253	砥石	6.5	0.8	—	凝灰岩 褐色土	砥面4/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅱ区域 Q29/暗褐色土
254	砥石	6.9	1.0	4/5	凝灰岩 白色	砥面5/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅱ区域 T30/SX4290
255	砥石	9.4	1.0	4/5	凝灰岩 黄白色	砥面4/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅰ区域 V37/暗褐色土
No	器種	幅	厚	残	材質	特徴	出土地点
256	バンドコ	23.5	4.0	1/1	笏谷石 灰緑色	D形バンドコの蓋 外:笠状に成形 内:身と接合する周 縁に段をつくる/右 隅欠損	第Ⅱ区域 R34/暗褐色土
257	バンドコ	18.8	4.0	1/1	笏谷石 灰緑色	O形バンドコの蓋 外:笠状に成形	第Ⅰ区域 T42/SE4277
No	器種	幅	厚	残	材質	特徴	出土地点
258	茶臼	19.3	12.4	1/2	安山岩 灰茶色	1.8cmの方形軸受 穴を穿孔/播面主 溝8分画・副溝11 条/意図的な打欠	第Ⅰ区域 W41/SA4260

木製品(PL. 48 第26・27図)

単位:cm/g

No	器種	口	底	残	材質	特徴	出土地点
259	蓋	3.7	2.5	1/1	ヒノキ 板目材	方形の突出部が付 く/内面に段あり	第Ⅰ区域 P37/SE4276
260	漆器皿	9.0	5.4	4/5	カツラ 属 横木板目材	外:黒漆/内:黒漆/ 底面中央に朱漆の 開扉文	第Ⅰ区域 R37/SE4276
261	漆器皿	9.0	4.6	1/2	ハンノキ 属 横木板目材	外:黒漆/内:黒漆/ 底面中央に朱漆 開扉文	第Ⅰ区域 R37/SE4276
No	器種	長	厚	残	材質	特徴	出土地点
262	桶	13.9	1.0	1/1	ヒノキ 板目材	桶側板/下端面側 ケズリ	第Ⅰ区域 P37/SE4276
263	曲物 底板	15.8	0.6	1/2	ヒノキ 板目材	周縁斜めケズリ	第Ⅱ区域 R23/SE4275

単位:cm/g

No	器種	長幅	厚	残存	材質木取り	特徴	出土地点
264	曲物底板	22.7 3.4	0.9	1/10 以下	スギ板目材	周縁斜めケズリ/ 径3mmの穿孔	第I区域 R37/SE4276
265	木刀	50.8 3.5	2.5	1/2	コナラ属 コナラ節 柾目材	刀背平坦/刃部h字状/ 全体摩耗	第I区域 T42/SE4277
266	折敷側板	22.5 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端切込み3/右端 切込み1/木釘孔3	第I区域 P37/SE4276
267	折敷側板	21.9 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端切込み2/右端 切込み1/木釘孔2	第I区域 P37/SE4276
268	折敷側板	21.6 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端切込み1/右端切 込み2/横巻き孔2	第I区域 P37/SE4276
269	折敷側板	21.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端切込み2/ホノノ/ 木釘孔2	第I区域 P37/SE4276
270	折敷側板	23.8 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	右端切込み4・3/ 木釘孔6	第I区域 P37/SE4276
271	折敷側板	19.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端ホノノ/木釘孔4/ 右半分ケズリ	第I区域 P37/SE4276

単位:cm/g

No	器種	長幅	厚	残存	材質木取り	特徴	出土地点
272	折敷側板	5.0 2.2	0.5	1/1	ヒノキ板目材	左端切込み2/右端 切込み2	第I区域 R37/SE4276
273	折敷側板	25.5 4.6	0.25	4/5	ヒノキ板目材	隅切り	第I区域 R37/SE4276
274	棒斎串	12.4 0.6	0.3	1/1	ヒノキ柾目材	下端尖鋭/上端両 刃状	第I区域 R37/SE4276
275	箸	17.6 0.7	0.5	1/1	ヒノキ芯去り材	両箸/粗いケズリ	第I区域 R37/SE4276
276	箸	20.4 0.9	0.7	1/1	スギ芯去り材	両箸/粗いケズリ	第I区域 R37/SE4276
277	箸	20.4 0.6	0.5	4/5	ヒノキ芯去り材	両箸/ケズリ後研磨	第I区域 R37/SE4276
278	箸	19.9 0.8	0.7	4/5	スギ芯去り材	両箸/粗いケズリ/ 断面多角形	第I区域 R37/SE4276
279	箸	21.7 0.8	0.6	4/5	スギ芯去り材	両箸/粗いケズリ/ 断面多角形	第I区域 R37/SE4276
280	箸	23.5 0.8	0.8	1/1	スギ芯去り材	両箸/粗いケズリ/ 断面多角形	第I区域 R37/SE4276

銭貨(PL.48・49 第27・28図)

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
281	開元通寶 4861	2.4	0.09	3.0	1/1	唐 初鑄621年	第II区域 Q23/SE4275
282	開元通寶 15476	2.4	0.10	2.9	1/1	唐 初鑄621年	第II区域 Q23/SE4275
283	開元通寶 4862	2.4	0.13	1.9	1/1	唐 初鑄621年	第II区域 S33/礫混暗褐色土
284	唐国通寶 15477	2.4	0.10	1.6	1/1	南唐 初鑄959年	第II区域 Q33/SD4272
285	淳化元寶 4292	2.4	0.08	1.6	1/1	北宋 初鑄990年	第I区域 P37/SX4281
286	景德元寶 4357	2.4	0.10	2.0	5/6	北宋 初鑄1004年	第II区域 Q23/SE4275
287	祥符元寶 1653	2.5	0.11	2.1	1/1	北宋 初鑄1009年	出土区域不明 床土
288	祥符元寶 1653	2.4	0.11	1.1	4/5	北宋 初鑄1009年	第II区域 P33/暗褐色土
289	天禧通寶 18787	2.4	0.08	1.5	1/1	北宋 初鑄1017年	第II区域 T29/炭混暗褐色土
290	天禧通寶 27057	2.2	0.12	1.3	1/1	北宋 初鑄1017年	第I区域 U36/炭・焼土混褐色土
291	皇宋通寶 7008	2.5	0.13	2.5	1/1	北宋 初鑄1038年	第II区域 P35/暗褐色土
292	皇宋通寶 7804	2.4	0.11	2.5	1/1	北宋 初鑄1038年	第II区域 Q34/礫混暗褐色土
293	皇宋通寶 14491	2.5	0.10	2.1	4/5	北宋 初鑄1038年	第II区域 S30/炭混暗褐色土
294	皇宋通寶 33259	2.4	0.10	3.1	1/1	北宋 初鑄1038年	第I区域 V43・44/床土
295	皇宋通寶 30714	2.4	0.12	1.8	1/1	北宋 初鑄1038年	第II区域 V33/暗褐色土
296	嘉祐通寶 188	2.3	0.11	1.8	1/1	北宋 初鑄1056年	出土区域不明 表土
297	治平元寶 890	2.4	0.10	1.4	1/1	北宋 初鑄1064年	出土区域不明 表土
298	治平元寶 4863	2.4	0.10	2.1	1/1	北宋 初鑄1064年	第II区域 Q23/SE4275
299	熙寧元寶 2962	2.4	0.11	2.5	1/1	北宋 初鑄1068年	第II区域 P31～33/床土
300	熙寧元寶 3627	2.4	0.14	2.2	1/1	北宋 初鑄1068年	第I区域 P36/床土
301	熙寧元寶 11222	2.5	0.14	2.0	1/1	北宋 初鑄1068年	第II区域 R30/暗褐色土
302	熙寧元寶 14775	2.4	0.12	1.6	1/1	北宋 初鑄1068年	第II区域 S31/暗褐色土
303	熙寧元寶 27180	2.4	0.11	1.4	3/4	北宋 初鑄1068年	第I区域 U37/床土
304	熙寧元寶 33275	2.3	0.1	3.0	1/1	北宋 初鑄1068年	第I区域 V43・44/床土
305	元豐通寶 453	2.3	0.13	2.0	1/1	北宋 初鑄1078年	出土区域不明 表土
306	元豐通寶 2160	2.4	0.12	2.4	1/1	北宋 初鑄1078年	第II区域 P26/礫混暗褐色土
307	元豐通寶 4355	2.4	0.12	3.6	1/1	北宋 初鑄1078年	第II区域 Q23/SE4275
308	元豐通寶 469	2.3	0.19	1.0	1/1	北宋 初鑄1078年	排土
309	元豐通寶 1656	2.5	0.11	3.1	1/1	北宋 初鑄1078年	不明
310	元豐通寶 21848	2.4	0.11	2.0	1/1	北宋 初鑄1078年	第II区域 T31
311	元豐通寶 7803	2.4	0.13	3.1	1/1	北宋 初鑄1078年	第II区域 Q34/礫混暗褐色土

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
312	元豐通寶 7315	2.4	0.11	1.3	1/1	北宋 初鑄1078年	第II区域 Q33/SD4272
313	元祐通寶 33260	2.3	0.12	2.3	1/1	北宋 初鑄1086年	第I区域 V43・44/床土
314	元祐通寶 9474	2.4	0.12	3.6	1/1	北宋 初鑄1086年	第II区域 R23/SE4275
315	元祐通寶 29344	2.4	0.12	2.2	1/1	北宋(模鑄錢) 初鑄1086年	第II区域 V29/炭混暗褐色土
316	元祐通寶 33258	2.4	0.12	3.3	1/1	北宋(模鑄錢) 初鑄1086年	第II区域 V29/炭混暗褐色土
317	紹聖元寶 4291	2.4	0.10	2.3	1/1	北宋 初鑄1094年	第I区域 P38/SX4281
318	紹聖元寶 9475	2.5	0.11	2.5	1/1	北宋 初鑄1094年	第II区域 R23/SE4275
319	元符通寶 33449	2.4	0.11	2.4	1/1	北宋 初鑄1098年	第I区域 V39/床土
320	政和通寶 31303	2.3	0.10	1.8	1/1	北宋 初鑄1111年	第I区域 V37/床土
321	嘉定通寶 31480	2.4	0.11	2.3	1/1	南宋 初鑄1208年	第I区域 V37/SX4317
322	嘉定通寶 31482	2.3	0.12	2.3	1/1	南宋 初鑄1208年	第I区域 V37/SX4317
323	嘉定通寶 31481	2.4	0.10	2.5	1/1	南宋 初鑄1208年	第I区域 V37/SX4317
324	嘉定通寶 31483	2.4	0.12	2.8	1/1	南宋 初鑄1208年	第I区域 V37/SX4317
325	嘉定通寶 31484	2.4	0.12	2.8	1/1	南宋 初鑄1208年	第I区域 V37/SX4317
326	景定元寶 4293	2.3	0.07	1.7	1/1	南宋 初鑄1260年	第I区域 P38/SX4281
327	景定元寶 7805	2.4	0.31	7.2	1/1	南宋 初鑄1260年	第II区域 Q34/礫混暗褐色土
327	嘉定通寶 7806	2.4	0.31	7.2	1/1	南宋 初鑄1208年	第II区域 Q34/礫混暗褐色土
328	宣和通寶 13279	2.4	0.11	1.2	3/4	南宋 初鑄1208年	第II区域 S28/炭混暗褐色土
329	洪武通寶 32048	2.3	0.14	2.3	1/1	明 初鑄1368年	第I区域 V38/炭混暗褐色土
330	洪武通寶 189	2.3	0.11	1.9	1/1	明 初鑄1368年	出土区域不明 表土
331	洪武通寶 4356	2.0	0.17	3.8	1/1	明 初鑄1368年	第II区域 Q23/SE4275
332	洪武□寶 27247	2.3	0.14	0.9	1/1		第II区域 U37/炭混暗褐色土 不明
333	永樂通寶 36277	2.5	0.14	2.7	1/1	明 初鑄1408年	不明
334	永樂通寶 36277	2.5	0.11	3.6	1/1	明 初鑄1408年	第II区域 Q23/SE4275
335	□和通寶 4354	2.5	0.1	1.2	2/3		第II区域 P34/床土
336	□聖元寶 14492	2.5	0.14	2.0	4/5		第II区域 S30/炭混暗褐色土
337	□□□□ 4864	2.3	0.08	2.2	1/1		第II区域 Q23/SE4275
338	□□□□ 15477	2.5	0.22	5.6	1/1		第II区域 S33/礫混暗褐色土
338	□□□□ 15478	2.5	0.22	5.6	1/1		第II区域 S33/礫混暗褐色土
339	□祐元寶 27350	2.4	0.15	1.2	1/2		第II区域 U37/炭混暗褐色土

IV. 第 102・104 次調査【城戸ノ内町字齊藤】

1. 遺構の概要 (PL. 18～40 第 29～40 図 第 3 表)

第 102・104 次調査区は、城戸ノ内町字齊藤に位置し、朝倉館跡から北東へ約 95m 隔てた一乗谷川右岸に立地している。調査前は畑地であった。前章で述べた第 82 次の武家屋敷跡の北方に位置し、第 102 次、104 次調査の成果を照合した結果、西側の山裾において、土塁石垣や道路で区画された 3 つの武家屋敷跡を確認することができた。北東の月見山の尾根先端には、次章で述べる月見櫓跡が隣接しており、これらは一連の遺構と捉えることができる(第 29 図)。

3 つの武家屋敷跡 A・B・C(旧武家屋敷 I・II・III)は、T 字になって交差する南北道路 SS260 と東西道路 SS4822 で仕切られ、そのうち南北道路 SS260 の西側を占める大規模武家屋敷 A については、「齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」中の「さいとうひょうぶだゆうあと齋藤兵部大輔跡」に由来する可能性が高いこと、立地・規模から見て、「齊藤」の主要部の様相を呈していることから、5 代朝倉義景の側室であるこしょうしょう少少将の父、「齋藤兵部少輔」の屋敷と有力視された。

第 102 次調査区は、大規模武家屋敷 A の南側に位置し、全体の約 1/3 の面積を占め、第 104 次調査区は北側に位置し、全体の 2/3 の面積を占める。地形的には、南に隣接する第 82 次調査区の武家屋敷跡から約 1.5m の落差をもって急激に下り、標高は、第 102 次調査区で約 50.2m、第 104 次調査区で約 50.4m を測る。

第 102 次調査区は、調査面積 2,300 m² を測り、南北道路 SS260 の西側と東側を対象とした。調査期間は平成 10 年(1998)4 月 1 日～同年 12 月 20 日を要した(文 7)。第 104 次調査区は、調査面積 2,000 m² を測り、第 102 次調査区の北側を対象とした。調査期間は平成 11 年(1999)4 月 8 日～同年 12 月 24 日を要した(文 8)。ただ、第 104 次調査中に実施した第 102 次調査区の再調査分の記録に不十分な点があることや、調査中のグリッド番号の誤解等があり、遺物の注記や記録類に整合性がとれていない点の一部がある。

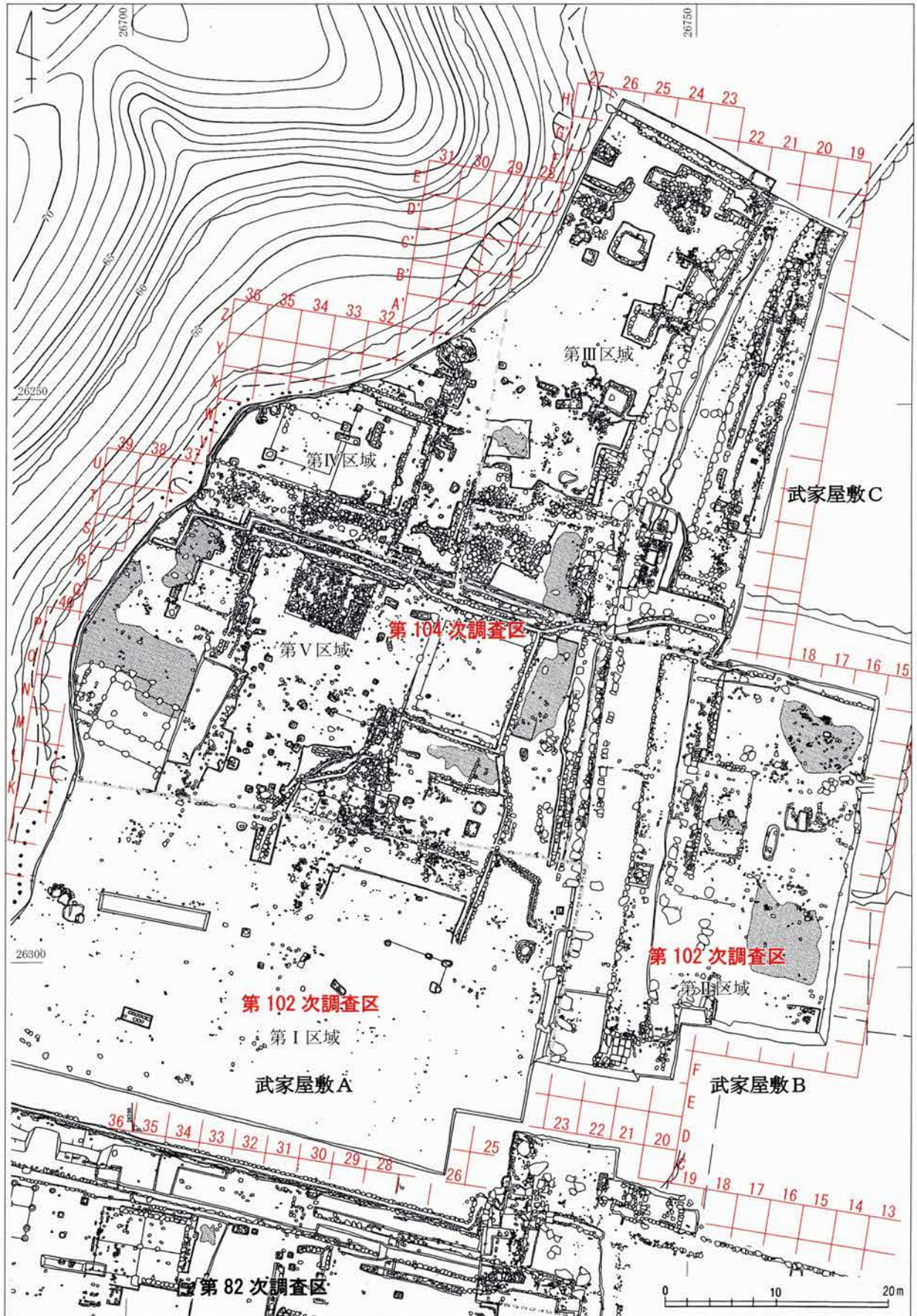
調査当時の水田畦畔を基にした区割りでは、第 102 次調査区は「9MIM-0 地区」、第 104 次調査区は「9MIM-P 地区」と称したが、本報告書では、武家屋敷全体の様相を把握するため、第 102 次調査区を西から第 I・II 区域、第 104 次調査区を北から第 III～V 区域に改めて整理・区分した。

調査の方法は、地形に沿って、1 辺 3m を測る任意方向の方形グリッドを設定し、東西方向に 16～41、南北方向に C～Z、A'-H' の番号を付し、遺構の記録、遺物の採集に用いた(第 29 図)。また、遺構の分布・密度・前後関係を把握するため土層観察用のアゼを 9 本設定し、第 I 区域の東西方向に a-a' 断面(H39～25)、第 II 区域の東西方向に b-b' 断面(N21～16)、南北方向に c-c' 断面(J-G20)を設定し(第 31 図)、第 III～V 区域の東西方向に d-d' 断面(Z29～23)、e-e' 断面(A'23～20)、f-f' 断面(U36～24)、g-g' 断面(P39～25)、南北方向に h-h' 断面(L-X33)、i-i' 断面(L-A'28)を設定して観察を行った(第 32 図)。

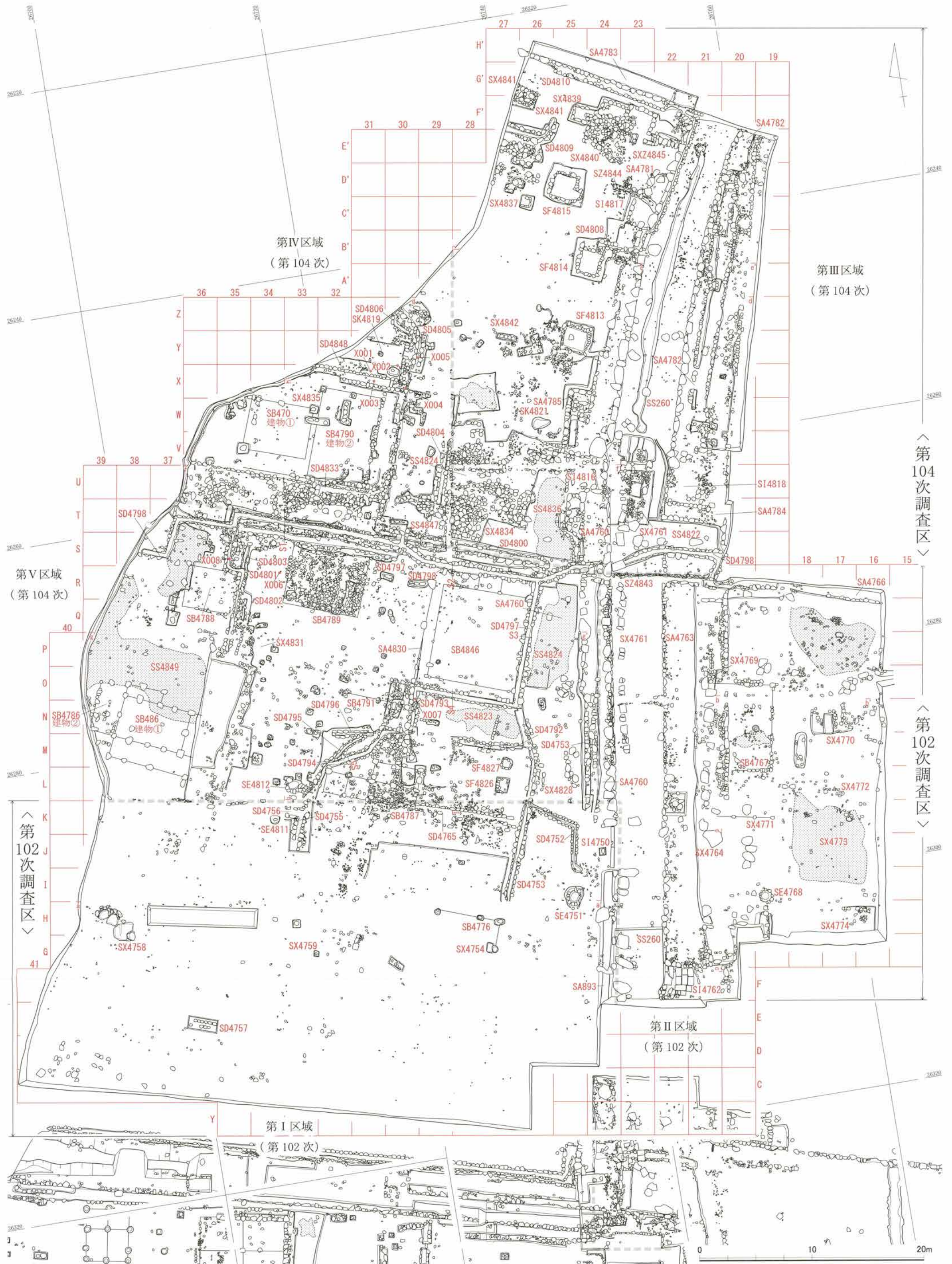
大規模武家屋敷 A は、外寸で北辺 17m 以上×東辺 98m×南辺 50m 以上×西辺 109m 以上を測り、敷地面積約 3,700 m² 以上の規模をもつと推定される。主要な遺構は、第 102 次調査の第 I・II 区域において、土塁石垣 2、門 2、道路 1、礎石建物 1、溝 5、井戸 3、庭 1、石敷遺構 2 等を検出し、第 III～V 区域において、土塁石垣 7、門 2、道路 2、通路 3、礎石建物 6、溝 18、暗渠 2、井戸 1、石積施設 5、石敷遺構 4 等を検出した。

大規模武家屋敷 A の東側に立地する二つの中規模屋敷跡は、敷地の全体規模は不明であるが、東西道路南側の武家屋敷 B に関連する主要遺構は、第 II 区域において土塁石垣 1、門 1、道路 1 を検出した。東西道路北側の武家屋敷 C に関連する主要遺構は、第 III 区域において土塁石垣 2、門 1、道路 1 を検出した。

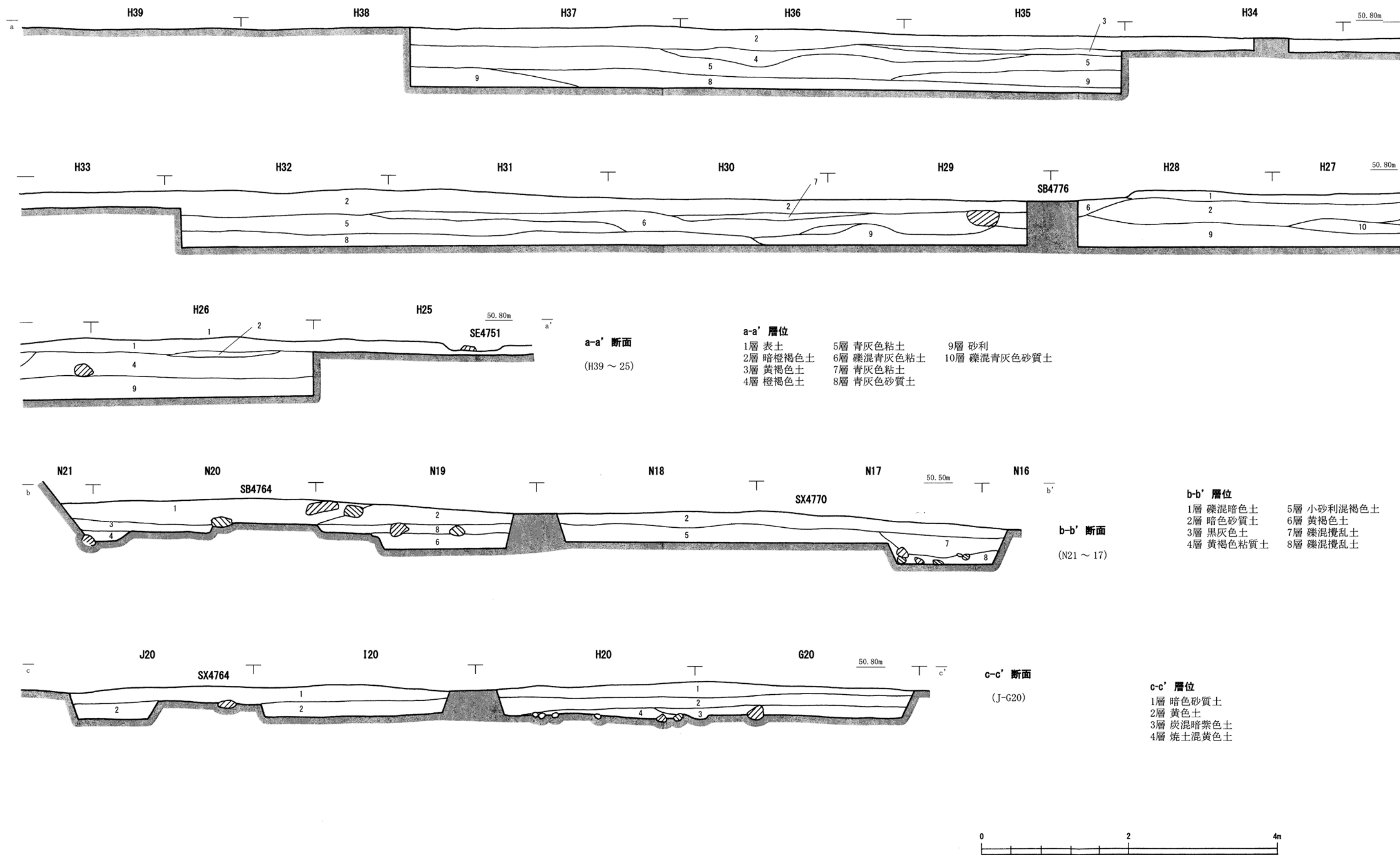
遺構の時期については、土塁石垣構築前が I 期、土塁石垣構築後、町並み整備がされた時期が II 期、朝倉氏滅亡期を III 期として第 3 表にまとめた。以下、主要な遺構の概要を述べる。



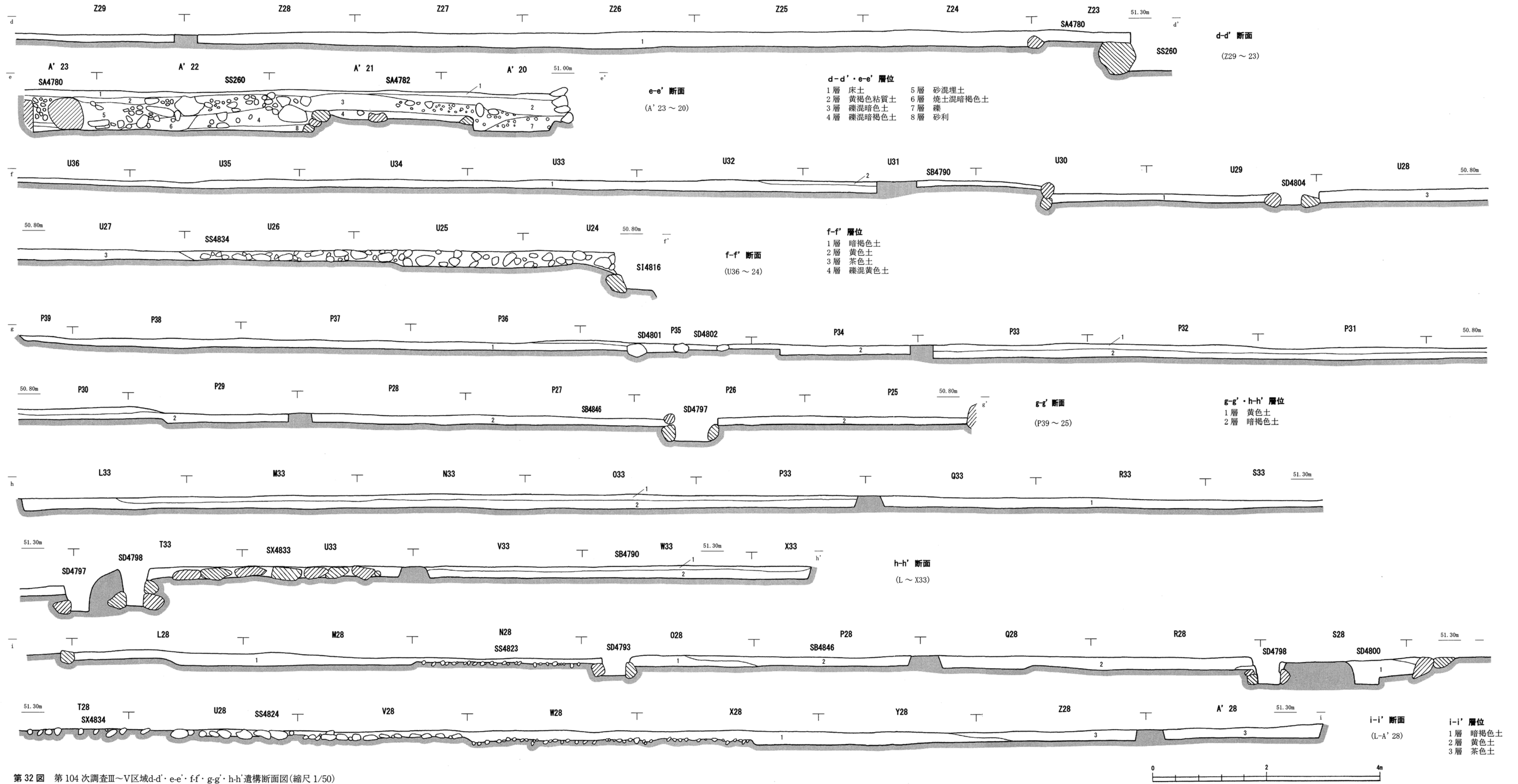
第29図 第102・104次調査位置図(縮尺1/500)



第30図 第102・104次調査遺構全体図 (縮尺1/300)



第 31 図 第 102 次調査第 I 区域a-a'、第 II 区域b-b'・c-c' 遺構断面図(縮尺 1/50)



第32図 第104次調査Ⅲ~Ⅴ区域d-d' · e-e' · f-f' · g-g' · h-h'遺構断面図(縮尺 1/50)

2. 第 I 区域 (PL. 18～23 第 30・31・33 図)

第I区域は第 102 次調査区の西側を占め、C-K24～41の範囲に相当する(第 8 図)。遺構の層位はa-a'断面、で観察した(第 30 図)。遺構の密度は希薄だが、全体に砂利面の広がり³⁾が確認され、この区域は大規模武家屋敷Aの広庭のような空間として利用された可能性がある。

【大規模武家屋敷A】

土塁石垣

SA893(PL. 21 第 30 図) F-I24に位置。大規模武家屋敷Aの東側土塁石垣南端である。主軸はN9° Eに向き、全長約 12m、基底幅 1.3mを測る。大きく破壊を受けていたが、並行する南北道路SS260 側に100～150 cm以上の巨石が6 石崩落していた。おそらく1.5m以上の比高差がある南側の矩折部に接続するため、高さを増す必要があり、下城戸跡に見られるような巨石の石垣が組まれていた可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

門

SI4750(PL. 23 第 33 図) J・K24に位置。大規模武家屋敷Aの南端に構えられた門である。主軸はN9° Eに向き、門の外側内寸幅 3.8m、内側内寸幅 3.6m、奥行き2.4mを測る。東側土塁石垣SA4760とSA893の間に構築され、南北道路SS260に向かって一定の幅で開口する。SS260の道路面より0.2m高い。北側の門柱石には120 cm大の石が1 石据えられていた。南側の門柱石は倒壊し、180 cm大を測る。門の外側には、長さ180 cm、幅 30 cm、高さ40 cmを測る笏谷石製の暗渠を倒立させて2 本並べ、門の中央から南寄りに門扉を支える礎石と推定される40 cm大の石が1 石検出された。門の内側には砂利敷き面が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

遺物は、土師器皿 98・99、鉄釉広口壺 100、青磁皿 101・102、染付皿 103・104が出土した。

区画溝

SD4752(PL. 21・23 第 30 図) J・K25・26に位置。石組排水溝である。主軸はSI4750の間口と並行した後、N34° Wに向き、長さ8.5m、幅 0.3m、深さ0.2mを測る。門SI4750から西進することを阻み、南北通路SS4824へ導くように区画する。30～50 cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。砂利敷き面が広範囲に検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は、灰釉小皿 105、越前焼捏鉢 106、青磁稜花皿 107、白磁皿 108が出土した。

SD4753(PL. 21・23 第 30 図) I-K26・27に位置。石組排水溝である。主軸は、L26までN20° E、M26でN11° Wに向き、長さ17.5m、幅 0.3m、深さ0.2mを測る。SB4787の敷地の東側区画溝と考える。南端から3.5mまでは20～30 cm大の石を溝の両側に並べ、SD4752と合流するK27付近までは40～50 cm大の石を溝の両側に配置していた。底石はない。第V区域のM26で西にやや屈折し、最終的に東西道路SS4823を横断する部分は埋めてしまった可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿 109、青磁稜花皿 110・皿 111・碗 112・香炉 113、銭貨「祥符通寶」163が出土している。

SD4765(PL. 21・23 第 30 図) H SX4765である。K27～29に位置。石組排水溝である。主軸は、N71° Wに向き、長さ10.0m、幅 0.4mを測る。SB4787の敷地の南側の区画溝と考える。30～40 cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。南側に小規模の礎石建物または東西通路が存在した可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4755・4756(PL. 21～23 第 30 図) J・K33に位置。石組排水溝である。主軸は、N20° Eに向き、合流点まで長さ8.0m、幅 0.4mを測る。SD4755は第V区域M32でSD4794と合流する。30～40 cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。SD4756は、K33において、SE4811とSD4755の1.5m間を結んでいた。覆土は焼土・炭化物が多く含まれていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は、SD4755において越前焼壺 114・甕 115、土師器皿 116～118、青磁杯 119・花入 120・皿 121・輪花皿 122、白磁稜花皿 123・杯 124、染付皿 125に加え、和鉄 150、銭貨「照寧元寶」170・「政□通寶」173が出土した。

井戸

SE4751(PL. 23 第30図) I25に位置。石組の井戸である。20～40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約1.0m、内寸短軸0.9mを測る。底面は不明である。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。南側に砂利敷面が検出された。

SE4811(PL. 23 第30図) K43に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さは0.4m掘削したが底面は不明である。SD4756を切って構築され、時期はⅢ期と考える。

庭

SG4758(PL. 23 第33図) G・H38・39に位置。旧SX4758である。100cm大の平石2石と210cm大の巨石が東西に直線状に並び、北辺に小礫が8石以上並べられていた。特殊な形状から庭と考える。時期はⅢ期と考える。

3. 第Ⅱ区域(PL. 24～26 第30・31・33図)

第Ⅱ区域は第102次調査区の東側に相当し、F-R16～24の範囲に相当する(第30図)。遺構の層位はb-b'断面、c-c'断面で観察した(第31図)。調査の結果、土塁石垣で区画された中規模武家屋敷Bの西側を検出した。

【中規模武家屋敷B】

土塁石垣

SA4763(PL. 24・25 第30図) G-R22に位置。中規模武家屋敷Bの西側土塁石垣である。主軸はN10°Eに向き、全長約34m分を検出した。幅は1.3mと推定される。北端はSD4798まで延び、南端の矩折部までを含めると、全長48m以上の規模になる。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁碗127、灰釉捏鉢128が出土した。

門

SI4762(PL. 26 第33図) F22に位置。中規模武家屋敷Bの南西に構えられた門である。主軸はN10°Eに向き、門の外側内寸幅2.5m、内側内寸幅2.4m、奥行き2.5mを測る。西側土塁石垣SA4763の南端に構築され、南北道路SS260に向かって西側に開口する。50～90cm大の11石の笏谷石の板石を石畳状に敷いて構築していた。11石の板石は笏谷石であった。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は染付皿129が出土した。

道路

SS260(PL. 24・25 第30図) 第Ⅱ区域では、F-R22～24に位置。南側の矩折部から北上する南北道路である。区域内で全長38m、幅4.3mを測る。路面は砂利面だが下層遺構面は確認できなかった。遺物は越前焼甕130・131・壺132、鉄釉大海茶入133、青磁皿134・稜花碗135・皿136・碗137・香炉138、染付碗139が出土した。

石敷遺構

SX4761(PL. 24・25 第30図) 第M-R23に位置。SS260内の西寄りに、全長15.0mにわたって、1辺30～50cm大の笏谷石の板石が飛石状に約20石配置されていた。機能については不明である。時期はⅢ期と考える。

SX4764(PL. 24 第30図) 第J・K20・21に位置。下層で検出した石敷遺構である。100～150cm大の巨石が直線状に5石検出された。性格は不明である。時期はⅠ期と考える。遺物は中国製鉄釉四耳壺140が出土した。

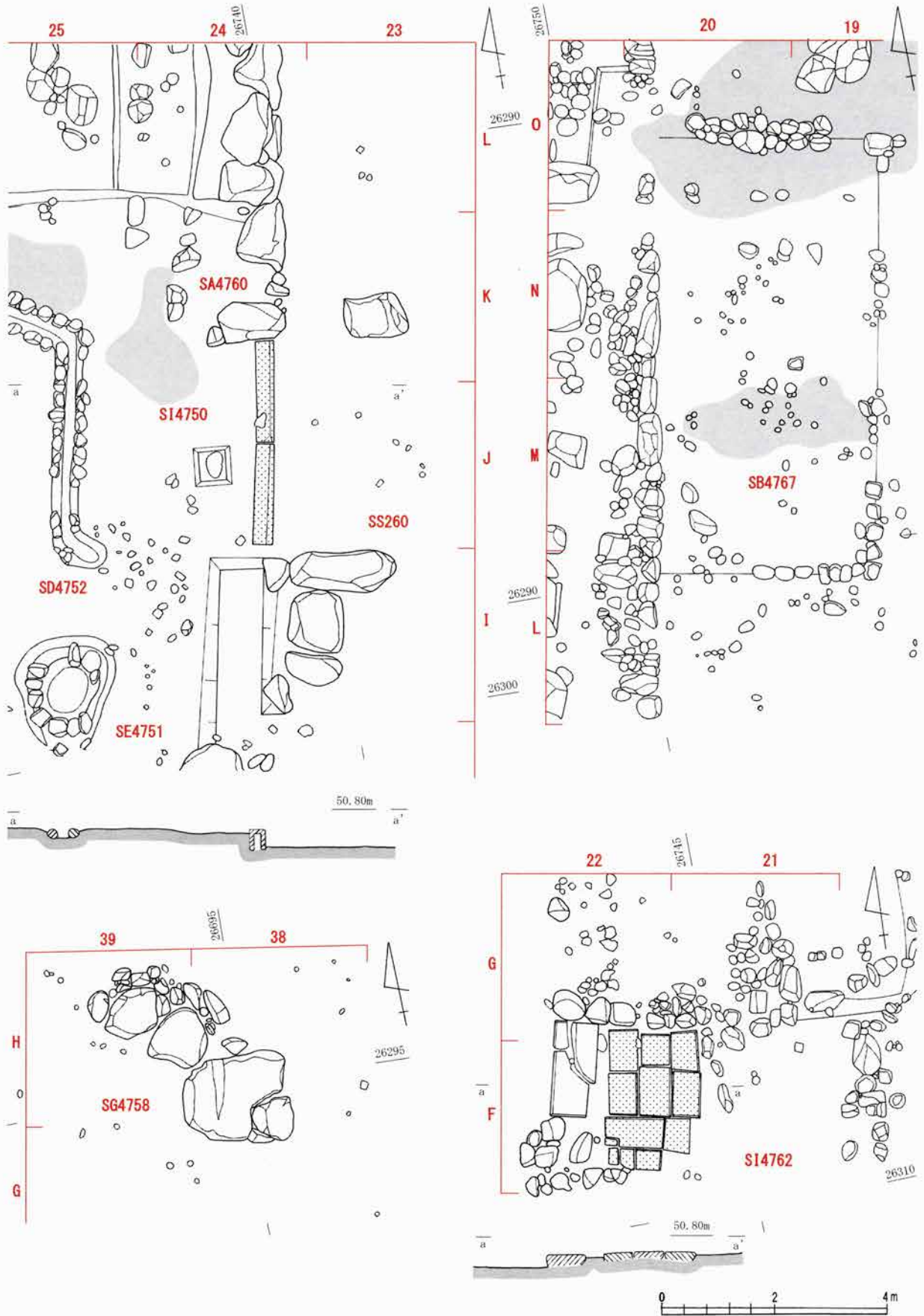
建物

SB4767(PL. 26 第33図) 第L-019・20に位置。中規模武家屋敷Bの北西隅寄りに構築された礎石建物である。建物西辺は近代の水田畦畔の石垣により破壊されていた。桁行4間、梁間2間と推定される。主軸はN10°Eに向き、桁行7.8m、桁間寸法1.5～2.4m、梁間は3.6m分が検出され、梁間寸法2.0mを測る。床面積は推定約40㎡を測る。建物中央付近で焼土が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁碗142が出土した。

井戸

SE4768(第30図) I25に位置。石組の井戸である。20～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.9mを測る。底面は不明である。時期はⅠ期と考える。遺物は越前焼捏鉢141が出土した。

3. 第II区域



第33图 第I区域S14750、SG4758、第II区域SB4767、S14762 (缩尺1/100)

4. 第Ⅲ区域(PL. 27～32 第30・34～37図)

第Ⅲ区域は、第104次調査区の南北道路の東側を含めた北東部に遺構のまとまりを見出し、S-H'19～28を範囲とする(第30図)。遺構の層位はd-d'断面、e-e'断面、f-f'断面、i-i'断面で観察した(第32図)。調査の結果、中規模武家屋敷Cの西側土塁石垣と、大規模武家屋敷Aの北東部を検出した。

【中規模武家屋敷C】

土塁石垣

SA4782(PL. 27～29 第30図) V-E'20～22に位置。中規模武家屋敷Cの西側土塁石垣である。主軸はA'21まではN20°E、以北はN30°Eに向き、全長約29.5m分を検出した。南北道路SS260に面した外側では、30～50cm大の石が基底石として検出され、W・X22付近では80～100cm大も散見される。内側の基底石はY・Z21、C'20で一部が残存し、外寸幅は1.3mと推定される。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。内側に1.5m隔てて石列が並行しており、武者走りのような段を設けていたと考える。調査区東壁の石列は近代の水田畦畔であった。

SA4784(第30図) T21・22に位置。中規模武家屋敷Cの南側土塁石垣である。主軸はN76°Wに向き、全長約5.0m分を検出し、幅1.6mを測る。基底部のみ検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿120、越前焼壺121・播鉢122・鉢123、白磁皿124・125が出土した。

門

SI4818(第37図) U22に位置。中規模武家屋敷Cの南西に構えられた門である。主軸はN20°Eに向き、門の外側内寸幅2.8m、内側内寸幅3.2m、奥行き2.5mを測る。西側土塁石垣SA4782の南端に構築され、南北道路SS260に向かって西側に開口する。SS260を挟んで、西側の大規模武家屋敷の門SI4816と相対する。SS260の道路面より0.1m高い。北側には50cm大の石を4石用い、南側は南側土塁石垣SA4784の内側で仕切られていた。外側には10～40cm大の石が10石据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

道路

SS260(PL. 27 第30図) S-E'20～23に位置。中規模武家屋敷Cと大規模武家屋敷Aの境となる南北道路である。南端はSD4798で仕切れ、主軸はA'22まではN20°E、以北はN30°Eに向き、全長約41.0m分を検出した。幅は中央付近で5.0mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はバンドコ451・455が出土した。

SS4822(第30図) S・T21・22に位置。SS260とT字状に直交して接続する東西道路である。主軸はN76°Wに向き、全長約5.0m分を検出した。幅は2.5mを測る。道路南側にはSD4798が側溝となっていた。

石敷遺構

SX4761(PL. 25・27 第30図) 第S-U23に位置。SD4798以北で、第Ⅱ区域から引き続き、SS260内の西寄りに全長9.0mにわたって、1辺30～50cm大の笏谷石の板石が飛石状に約8石配置されていた。東側には10～20cm大の石が長さ4.5m、幅2.0mの範囲で敷かれていた。機能については不明である。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

【大規模武家屋敷A】

土塁石垣

SA4783(PL. 28・29 第30図) F'-H'21～26に位置。大規模武家屋敷Aの北側土塁石垣である。主軸はN70°Wに向き、全長約15.5m分を検出した。外寸幅は1.0mと推定される。外側は30～50cm大の石を用い、内側は20～40cm大の石を用いていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SA4781・4780・4785・4760(PL. 27～29 第30・35図) S-F'22～24に位置。第Ⅲ区域において北から大規模武家屋敷Aの東側土塁石垣を構成する。SA4760は主軸がN10°Eに向き、以降、SA4780はW24でN20°E、SA4781はC'23でN29°Eに向く。南端を暗渠SZ4843とすると、北端まで全長42.5mを測り、幅2.1～2.3mを測る。

矩折部を構築する第Ⅰ区域SA893の南端まで含めば、大規模武家屋敷Aの東側土塁石垣は全長 98mとなる。

SA4781は、東側にSD4810を設け、外側の基底石には60～100 cm大の大石を用いていた。内側の基底石はほぼ破壊されていた。E' 22で暗渠SZ4845が横断する。

SA4780は、外側の基底石には40～90 cm大の大石、内側の基底石には20～30 cm大の石を用いていた。V-X25付近では土塁石垣内側に30～50 cm大の石を用いて、長さ5.0m、幅2.0mの張出部SA4785を構築していた。SA4760は、第Ⅲ区域ではSZ4843から北端の6.0m分までが含まれ、外側の基底石には50～80 cm大の大石、内側の基底石には20～30 cm大の石を用いていた。ここでも内側に30～50 cm大の石を用いて、長さ3.5m、幅2.0mを測る長方形の張出部が構築されていた。SA4785と共に、門SI4816に伴う基壇と考える。

門

SI4817(PL.30 第35図) B'23に位置。大規模武家屋敷Aの北東に構えられた門である。主軸はN29° Eに向き、門の外側内寸幅1.8m、内側内寸幅2.5m、奥行き2.5mを測る。SS260より0.3m高い。北端を東側土塁石垣SA4781、南端を東側土塁石垣SA4780に挟まれて構築され、南北道路SS260に向かって東側に開口する。

門の北端は、SA4781の南端幅から0.5m程内側へ拡張し、北へ1.8m隔てた位置に、敷地内の排水をする暗渠SZ4844はゆるやかに曲線状を呈して設けられていた。門の南端は、石組排水溝SD4808で区画されていた。門の規模は小規模だが、内側の拡張状況からSI4816と同様に南北に「袖塀」が設けられた可能性がある。

門の外側には笏谷石の板石が階段状に2段敷かれ、1段目には長さ140 cm、幅30 cm板石が1石、2段面には長さ55～65 cm、幅40～50 cm大の板石が2石据えられていた。各段の板石の下には10～20 cm大の根石が10石前後据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は越前焼播鉢 126・捏鉢 127・短頸壺 128が出土した。

SI4816(PL.30 第37図) U24に位置。大規模武家屋敷Aの東に構えられた正門と考える。主軸はN10° Eに向き、門の外側内寸幅3.0m、内側内寸幅3.4m、奥行き3.8mを測る。北端を東側土塁石垣SA4780、南端を東側土塁石垣SA4760に挟まれて構築され、南北道路SS260に向かって東側に開口する。SS260の道路面より0.4m高い。北端のSA4780と南端のSA4760の内側に張出部を設けることで門の奥行きを拡張し、北と南に袖塀が設けられた可能性が高い。北側のSA4780との間に不明瞭な石組排水溝が検出された。

門の外側には、石列が2段配置され、1段目には50 cm大の石が中央に2石据えられ、それらを挟むように30 cm大の石が2石据えられていた。2段目には門柱の礎石と考えられる40 cm大の石が南北端に2.4m隔てて2石据えられ、中間にも30 cm大の礎石が1石検出された。北端の礎石には柵の木組を嵌めた痕が残っていた。

門の内側には、石列が1段配置され、30 cm大の石が張出部の面に合わせて8石以上据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は白磁碗 129、染付碗 130が出土した。

溝

SD4809(PL.31 第30図) E'26・27に位置。SX4841の南東隅の区画溝と考える。主軸は、南辺でN75° Wに向き、長さ3.5m、幅0.4mを測り、東辺でN40° Eに向き、長さ2.0m、幅0.4m、深さ0.4mを測る。30～50 cm大の石をL字状に据え、石積は2～3段で底石はない。時期はⅢ期と考える。遺物は土師器皿 131が出土した。

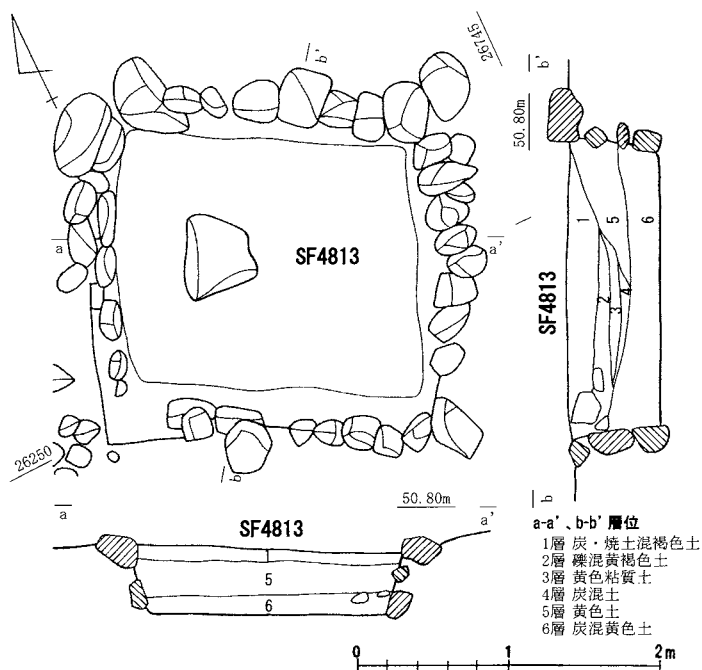
SD4808(PL.31 第35図) B'24に位置。SI4817の南側を流れる石組排水溝である。主軸は、N70° Wに向き、長さ1.8m、幅0.4m、深さ0.3mを測る。30～50 cm大の石をくの字状に据え、溝の両側に1段積んでいた。底石はない。上層の遺構であり、時期はⅢ期と考える。遺物は越前焼火桶 132、青磁碗 133が出土した。

SD4810(PL.31 第30図) C'-F'21・22に位置。門SI4817の北端からSA4781に沿って北流する石組排水溝である。主軸は、N30° Wに向き、長さ11.0m、幅0.3m、深さ0.3mを測る。SS260の西側側溝であり、30～50 cm大の石を直線状に据え、溝の外側に1段積んでいた。底石はない。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

暗 渠

SZ4845(PL. 31 第30図) E'22・23に位置。西側のSX4840に関連する暗渠である。主軸は、N70°Wに引き、長さ3.0m、幅0.3m、深さ0.3を測る。30～50cm大の石を直線状に据え、溝の両側に1段積んでいた。天井部には、一部転用材を用い、50～60cm大の石を5石架構していた。底石はない。東側土塁石垣SA4781の下を通り、東端はSD4810に接続していたが、II期の段階では塞がれていたと考える。西端は30cm大の石を2石用いて仕切りとされていた。時期はI・II期と考える。

SZ4844(PL. 31 第35図) C'・D'23に位置。門SI4817から北へ1.5m隔てて構築された暗渠である。主軸は、N70°Wに引き、長さ5.0m、幅0.3m、深さ0.3mを測る。石材の大部分が引き抜かれていたが、本来は30～50cm大の石を溝の両側にやや弧状に据えていたと考える。天井部には50～60cm大の石が1石、底石には20～40cm大の石が6石残存していた。SZ4845と同様に、東側土塁石垣SA4781の下を通り、東端はSD4810に接続していたが、SZ4844と同様にII期の段階では塞がれていたと考える。時期はI・II期と考える。



第34図 第三区域SF4813(縮尺1/50)

SF4814(PL. 32 第35図) A'・B'24・25に位置。大型石積施設である。20～40cm大の石を底面から約11°の勾配をもって3段積み、方形を呈す。主軸はN30°Eに引き、内寸南北長軸1.9m、内寸短軸1.5m、深さ0.4mを測る。SD4808が付属する。遺物は鉄釉大海茶入142、銭貨「永楽通寶」478が出土した。

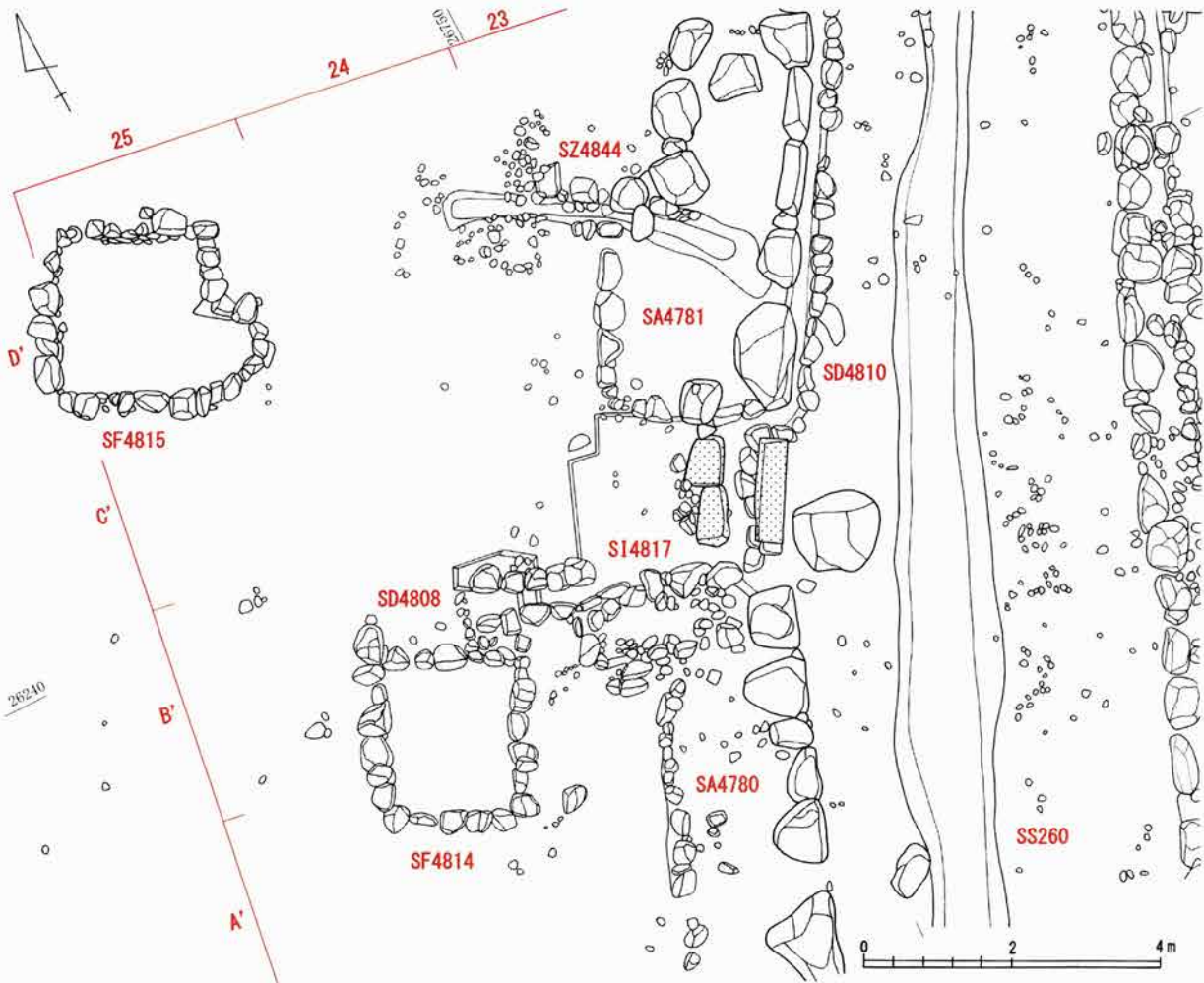
SF4815(PL. 32 第35図) D'25に位置。大型石積施設である。主軸はN30°Eに引き、内寸南北長軸2.0m、内寸東西短軸1.9m、深さ0.6mを測る。20～40cm大の石を底面から約11°の勾配をもって3段積み、方形を呈すが、南東隅に半円形の突出部を有す。張り出部は内寸短軸から東側へ0.7m張り出していた。SF4813・4814も含め、時期はII・III期と考える。遺物は土師器皿146、青磁皿147、鉄釉四耳壺148、茶臼443が出土した。

石敷遺構

SX4834(PL. 32 第37図) S-U26～28に位置。SI4816とSB4790の間に位置する石敷遺構である。主軸はN20°Eに引き、南北長軸7.5m、東西短軸8.0mを測る。30～50cm大の石が方形に敷き詰められていた。西辺はSD4804で区画されていた。石敷中央に門SI4816とSB4790を結ぶ、通路SS4824がある。石敷自体は南北に分かれるが、機能は不明である。時期はIII期と考える。遺物は白磁皿149、染付皿150、越前焼播鉢151が出土した。

石積施設

SF4813(PL. 32 第34図) Y25に位置。大規模武家屋敷Aの北東で検出された3つの大型石積施設のひとつである。主軸はN30°Eに引き、内寸南北長軸2.0m、内寸短軸2.1m、深さ0.5mを測る。20～40cm大の石を底面から約11°の勾配をつけて3段積み、平面形は歪んだ方形を呈す。底面で50cm大の板石が1つ検出された。覆土は、上層に炭化粒、焼土を含む褐色土、中層に黄色土、下層に炭化粒を多く含む黄色土が堆積していた。中層と下層の間には厚さ8cmの炭化層が挟まれていた。遺物は土師器皿134～141、青磁碗143、染付杯144・皿145が出土した。



第35図 第III区域SA4780・4781、SI4817、SZ4844、SD4808・4810、SF4814・4815(縮尺1/100)

5. 第IV区域(PL. 33・34 第30・32・36・37図)

第IV区域は、第III区域の西側を対象とし、T-Z29～39を範囲とする。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に二分するSD4798以北に遺構のまとまりを見出した(第30図)。遺構の層位はf-f'断面、h-h'断面で観察した(第32図)。調査の結果、大規模武家屋敷Aの主殿と見られる建物と、建物北側で甲冑片を含む溝などを検出した。

【大規模武家屋敷A】

建 物

SB4790(PL. 33 第37図) T-X30～36に位置。大規模武家屋敷Aの主殿と見られる大型礎石建物である。建物西辺は山裾と接し、西半は大きな破壊を受けていた。全体の規模は不明である。わずかに残った礎石で推定すると、SB4790は西側の建物①と東側の建物②に区分された。

建物①は、桁行2間、梁間2間で長方形を呈し、主軸がN21°Wに向き、桁行6.5m、桁間寸法3.2m、梁間5.0m、梁間寸法2.2～2.8mを測り、床面積約33㎡の建物と推定される。西側にまだ拡張する可能性が高い。

建物②は、桁行3間、梁間2間で長方形を呈し、主軸がN20°Wに向き、桁行8.4m、桁間寸法2.2～2.8m、梁間5.5m、梁間寸法2.8mを測り、床面積約45㎡の建物と推定される。共に建物南辺が直線状に並ぶことから、同一の礎石建物と考え、SB4790は床面積約78㎡以上を測る建物と推定される。

建物①・②は、長辺18.5m、短辺9.7mを測る基壇の中に建てられ、基壇の東に幅2.0m、北に幅1.0mの通路状の空間が認められた。基壇は、30～50cm大の石を直線状に1段並べて構築されており、基壇北辺は

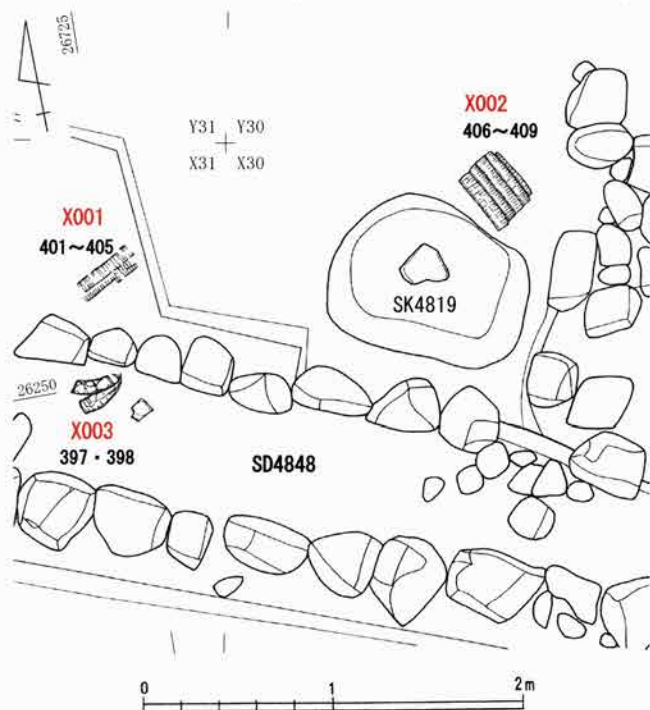
SD4847の外側の石と並行し、基壇南辺はSD4833の外側の石と並行する。基壇東辺はSD4833を遮るように1.5m程南下して構築されており、SD4798・4797を横断してSB4789へ至る通路があったことを想起させる。この通路はSD4798の手前で西側にも屈曲し、通路中央で50cm大の平石が飛石状に5石検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は、灰釉天目碗 165・三筋壺 166、青磁盤 167、白磁碗 168・171・皿 169、煙管 390が出土した。

石敷遺構

SX4835(PL. 33 第37図) 第W32に位置。SB4796の建物②の北西よりで検出されたL字状の石敷遺構である。20～30cm大の石を南北に6石、東西に3石並べていた。建物との関連は不明である。時期はⅢ期と考える。

通路

SS4847(PL. 33 第37図) IHX4847である。T-Z28～30に位置。SB4790とSD4808の間で検出された、屋敷の敷地内中央を南北に通る道路である。砂利敷面が部分的に残り、第Ⅳ区域において長さ18.0m、幅4.6mを測る。南のN31まで延びることが確認された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿 172・173が出土した。



第36図 第Ⅳ区域SD4848周辺甲冑X001～003(縮尺1/40)

9.5m、幅0.3mを測る。30cm大の石を溝の外側にのみ並べ、底石はない。溝の外側には、障壁と考えられるSA4849が長さ8.0m、幅1.0～1.8mの規模で並行していた。

SD4804(PL. 32 第37図) T-V29に位置。石敷遺構SX4834の西辺区画溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ11.0m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べていた。底石はない。SB4790東辺基壇と並行する。北端はSD4848へ接続する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は銭貨「元豊通寶」471が出土した。

SD4805(PL. 33 第37図) X-Y29に位置。石組排水溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ3.2m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べていた。底石はない。SD4806に後出する。北側は大きく破壊されていた。時期はⅢ期と考える。遺物は、溝中のX005地点で兜鞆 399・400が出土した。

SD4806(第37図) X-Z30に位置。石組排水溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ7.5m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べ、クランク状に屈曲する。底石はない。SD4805構築時に破壊され、時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿 175～182、鉄釉壺 183、灰釉瓶子 184、染付皿 185が出土した。

区画溝

SD4848(PL. 33・34 第36・37図) 本報告で新規に遺構番号を付した。X30～32に位置。SB4790の北辺を区画する石組排水溝である。30～50cm大の石を溝の外側にのみ並べ、底石はない。主軸はN68°Wに向き、長さ8.5m、幅0.3mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

遺物は、鉄釉湯茶入 174と溝の北側付近を中心に甲冑の破片が部分的に検出された(第36図)、X001地点で草摺 401～405、X002地点で大袖 406～409、溝の中のX003地点で兜鞆 397・398、溝の東端付近X004地点で草摺 410～416が出土した。

SD4833(PL. 32 第37図) IHX4833である。X30～32に位置。SB4790の南辺を区画する石組排水溝である。主軸はN68°Wに向き、長さ



第 37 图 第三区域SA4780·4760·4785、SS260·SI4816·4818、SX4834·4836、第四区域SB4790、SD4804~4806、SD4847、SX4833·4847(縮尺 1/100)

6. 第V区域 (PL. 35～40 第30・32・38～40図)

第V区域は、第Ⅲ・Ⅳ区域の南側を対象とし、大規模武家屋敷Aの敷地を南北に二分するSD4798以南の遺構にまとまりを見出した。L-T24～39を範囲とする(第30図)。遺構の層位はg-g'断面、h-h'断面i-i'断面で観察した(第32図)。調査の結果、大規模武家屋敷Aの南側で複数の礎石建物、土蔵、区画溝等を検出した。

【大規模武家屋敷A】

建物

SB4789(PL. 36・40 第39図) Q-S31～33に位置。SB4790に付属する土蔵と考える。最大で桁行4間、梁間4間の規模を有していたと推定される。主軸はN75°Wに向き、桁行6.1m、桁間寸法1.2～1.8m、梁間5.2m、梁間寸法1.2～1.5mを測り、床面積約32㎡の建物と考える。北辺はSD4797と接し、西辺中央に幅1.3m、奥行き1.2mの入口を設けていたと考える。内部でも外壁に沿って、礎石列が南辺で4間、西辺で2間確認され、棚などの内部施設を支えた礎石の可能性はある。石敷面は2面確認できたが、上層はほぼ破壊されていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はX006地点で藁屑と共に板材が検出された。

SB4788(第39図) Q-S35・36に位置。SB4788から南西へ3.2m隔てて構築された礎石建物である。大きく破壊を受け、規模は不明だが、南辺に礎石列らしき石列がわずかに残り、東辺がSD4801の西辺と同一とすれば、小規模ながら桁行3間、梁間2間の規模を有し、主軸はN70°Wに向き、桁行5.5m、梁間3.9m、梁間寸法1.9mを測り、床面積約21㎡の建物と推定される。建物北西側には広く砂利敷が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類187～196、金匙387・388、小柄393が出土した。

SB4786(PL. 37 第39図) L-036～39に位置。SB4788から南へ9.0m隔てて構築された礎石建物である。建物西辺は山裾と接し、東辺は大きな破壊を受けていた。建物は、東西南北に小規模礎石建物が付属していたと考える。まず、中心となる建物①は、桁行5間、梁間2間を測り、長方形を呈す。主軸はN64°Wに向き、桁行6.3m、桁間寸法1.3～1.9m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測り、床面積約24㎡と推定した。

建物①の西辺には、桁行2間、梁間1間の規模の建物②が接続し、北辺には桁行2間、梁間1間の廂のような施設が付属したと考える。建物①の南辺には、桁行4間以上、梁間1間の規模の建物が接続し、東辺にも西辺と同規模の建物が接続していた可能性がある。単純にこれらを一つの建物と見た場合、SB4786は床面積65㎡以上の建物と推定される。時期はⅢ期と考える。SB4786の北辺では、長さ11.0m、幅4.2mの砂利敷面が検出され、南北通路SS4847と直交する東西通路SS4849が想定された。遺物は土器類197～199が出土した。

SB4846(PL. 35・37 第39図) 第0-R26～29に位置。西側のSB4788と対称をなすように東側に9.0m隔てて構築された礎石建物である。敷地の北辺・東辺・南辺は区画溝SD4798・4797・4793で区画され、西辺は石列SV4830で区画されていた。SV4830は板塀と考える。

礎石の残存状況が悪く、建物全体の規模は不明である。石組排水溝で区画された礎石建物が敷地一杯まで占有する傾向があることを踏まえれば、SB4846は、桁行4間、梁間3間の規模と推定される。主軸はN20°Eに向き、桁行8.6m、梁間は6.0mを測り、床面積は約52㎡と推定する。

北東隅の区画溝の石組配列から、SB4846の北・東・南辺には幅1.5～1.8mを測る廂が設けられ、区画溝は屋根の雨落溝の役割も兼ねていたと考える。南辺東側に長さ2.2mの石列があり、入口と推定できる。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は染付碗203、朝鮮陶器鉢204が出土した。

SB4787(PL. 37 第39図) 第K-N29～32に位置。西側のSB4846の南側に8.0m隔てて構築され、東西に長い総柱の礎石建物である。敷地の北辺・東辺・南辺は区画溝SD4793・4753・4765で区画され、北西部分は最終的にSD4794の構築によって破壊されていた。桁行4間、梁間2間の規模を測る。主軸はN69°Wに向き、桁行8.4m、

桁間寸法 2.1m、梁間 3.6m、梁間寸法 1.8mを測り、床面積約 30 m²と推定する。礎石は50 cm大のものが多く、頑丈さが求められる倉庫または馬小屋などが想定される。東側にSD4792・4765で仕切られた空間を有し、L字状に屈曲する通路SS4823を介してSB4846と相互に関連した建物と考えられ、SB4846の副次的な建物と想定される。時期はⅡ期と考える。遺物は土器類 200～202、銭貨「皇宋通寶」462が出土した。

区画溝

SD4850 (PL. 35 第 38・39 図) N-R26・27に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4846の東辺を区画する。主軸はN20° Eに向き、長さ11.8m、幅 0.3m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。北端はR26でSD4798と直交し、南端はN27でSD4793と直交する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4797 (PL. 38 第 38・39 図) S-T30～35に位置。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に仕切る石組排水溝である。礎石建物SB4789の北辺を区画する。主軸はN70° Wに向き、長さ14.5m、幅 0.4m、深さ0.2mを測る。構築時はSD4801と接続し、クランク状に屈曲した後、SD4800へ接続したと考える。30～50 cm大の石を両岸に並べ、底石はない。時期はⅡ期と考える。遺物は土器類 209～227、木刀 432、鉄釘 383、責金具 385、炉壇 448、バンドコ452が出土した。

SD4798 (PL. 38 第 38・39 図) S-T21～37に位置。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に区画する石組排水溝である。所々で屈曲するが、全体的にSD4797に並行して構築されていた。SD4797と交差後、SB4846の北辺の区画溝となる。主軸はN20° Eに向き、長さ55.5m、幅 0.4m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両岸に並べ、底石はない。西端はS37でクランク状に屈曲する。主軸はN90° Eに向け、SD4800を切って、暗渠SZ4843を通り、東西道路SS4822の南側の側溝となって東へ流れていたと考える。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 228～299、土錘 366、切羽 395、漆器椀蓋 417・椀 418、曲物 420、桶 422、箱 426、砥石 434・436・439、石硯 442、風炉 447、銭貨「元豊通寶」472が出土した。

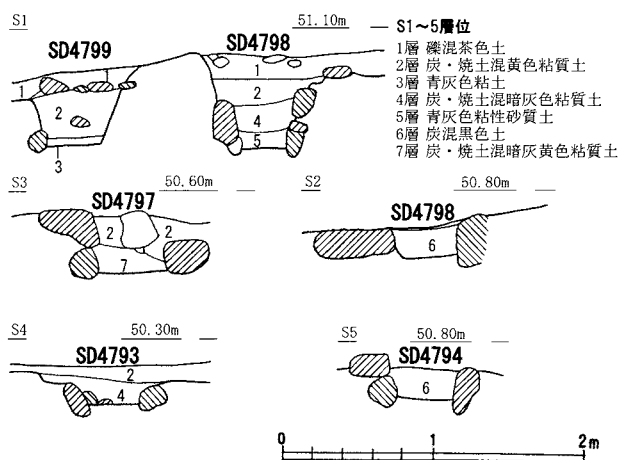
SD4794・4795・4796 (PL. 39 第 38・39 図) L-N31～32に位置。石組排水溝である。M31・32において小規模の溝の切り合いを検出した。いずれも30～50 cm大の石を直線状に溝の両岸に並べ、底石はない。

SD4794は、SD4795を切り、南側で主軸をN80° E、N30から主軸をN20° Eに向け、長さ10.0m、幅 0.3mを測る。障壁SA4830の外側を通っていたと考える。SD4795は、第Ⅰ区域SD4755の延長にあり、主軸がN60° Eに向き、長さ7.0m、幅 0.3m、深さ0.2mを測る。北端はSD4796に切られていた。SD4796は、東半分が破壊されているが、本来はSD4793へ接続していたと考える。各溝の覆土には焼土、炭化物が多く含まれていた。これらの溝は2回改変を受けており、当初は、南端のSD4755・4795を構築して、左へゆるやかな曲線を描きながらSD4793・4850へ接続

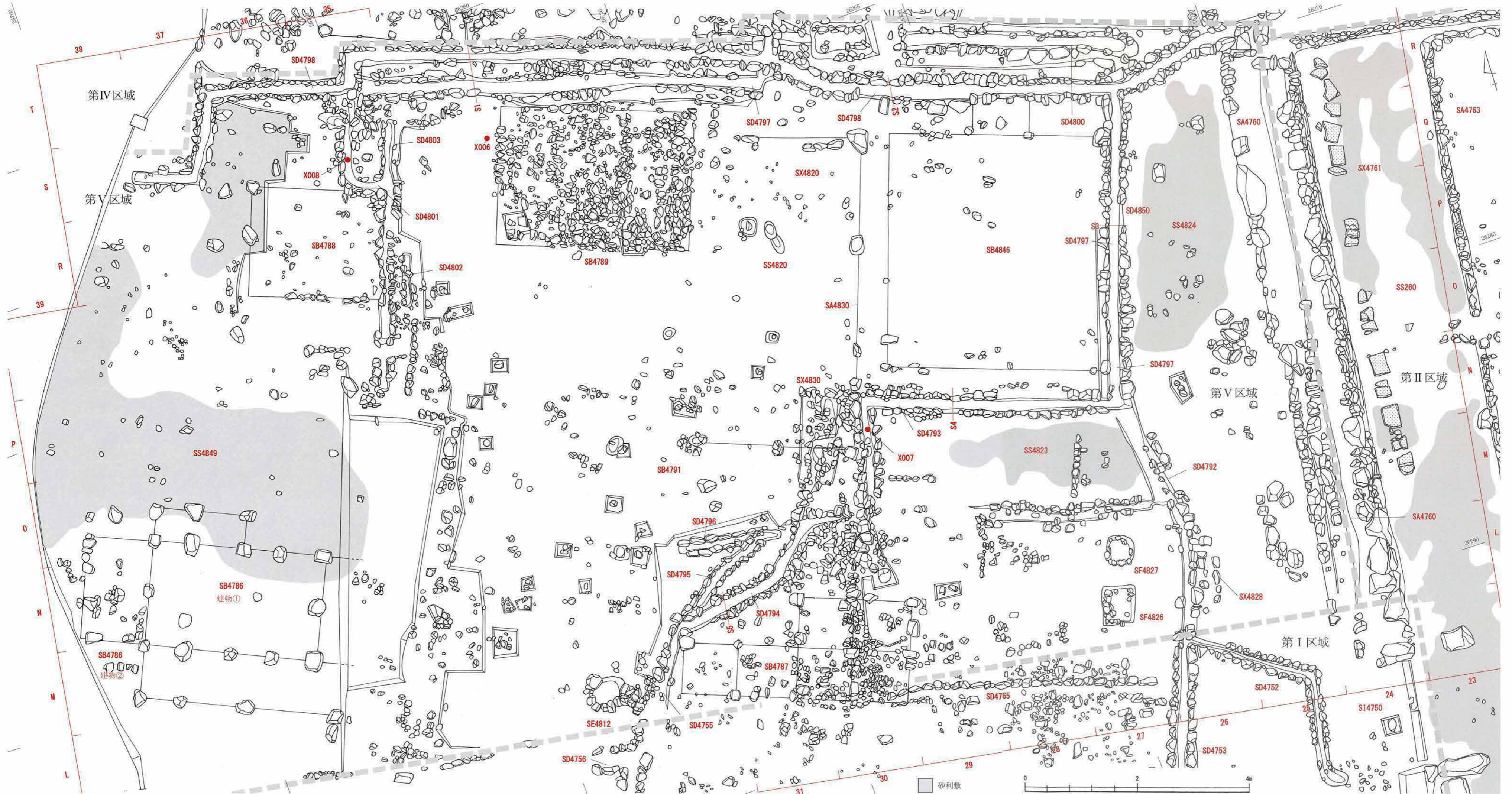
していたが、1回目の改変で、SD4796がSD4795の北端を切って直線状にSD4793へ接続し、2回目の改変で、SD4794を構築して、SD4796を破壊し、SD4793へ接続したと考える。

遺物は、SD4794から土師器皿 300～302、銭貨「元豊通寶」470・「咸淳元寶」476、SD4795から土器類 303～305、SD4796から土器類 306～308が出土した。

SD4753 (PL. 35・39 第 39 図) L-N26に位置。第Ⅰ区域のI26に南端をもち、北端はSD4793と合流する。SB4787の敷地の東辺を区画する。主軸はN20° Eに向き、M25でやや屈曲し、主軸をN10° Wに向ける。



第 38 図 第Ⅴ区域S1～5(縮尺1/50)



第39图 第V区域SB4789·4788·4786·4846·4787、SD4850·4797·4798·4794~4796·4753·4793、4792·4801、SS4823·4824·4849、SF4826·4827、SE4812、X006~008(縮尺1/100)

全長 18.0m、幅 0.4m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に両側に積む、時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁瓶 309が出土した。

SD4793(PL.37・40 第39図) N-027～29に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4787の敷地と北側の礎石建物SB4846を区画する。主軸はN70°Wに向き、029で直角に3.5m南下して屈曲する。長さ9.5m、幅0.5m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石をL字状に溝の両側に並べ、底石はない。覆土に焼土、カヤ、炭化物が多く含まれていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 311～315、土錘 368が出土した。

SD4792(PL.37 第39図) M27・28に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4787の敷地の北東側に設けられた砂利敷の通路SS4823の南辺を区画する。主軸はN71°Wに向き、長さ7.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。溝の南辺は大きく破壊されていた。SD4765と並行することで、SB4787の東側に6.5m×6.0mの空間を形成し、空間内には東寄りに石積施設が2基、南北に並んで構築されていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4801(PL.38 第39・40図) P-S35に位置。SB4788の東辺を区画する石組排水溝である。主軸はN20°Eに向き、R35でSD4803を切り、クランク状に屈曲して北上し、北端はSD4797へ接続していたと考える。全長 12.8m、幅 0.4m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。当初は北端をSD4803として、長さ 10.0m、幅 0.4m、深さ0.2mを測る直線状の溝として構築されたと考える。Q35においてSD4802が並行する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 326～364、刃物容器 423、障子棧 427～429が出土した。

通路

SS4823(PL.37 第39図) M・N27～29に位置。SB4846の南辺に面した東西通路である。砂利敷面が検出された。主軸はN70°Wに向き、N29で南下してL字状に屈曲する。全長 15.0m、幅 4.0mを測る。遺物は土器類 318～321が出土した。

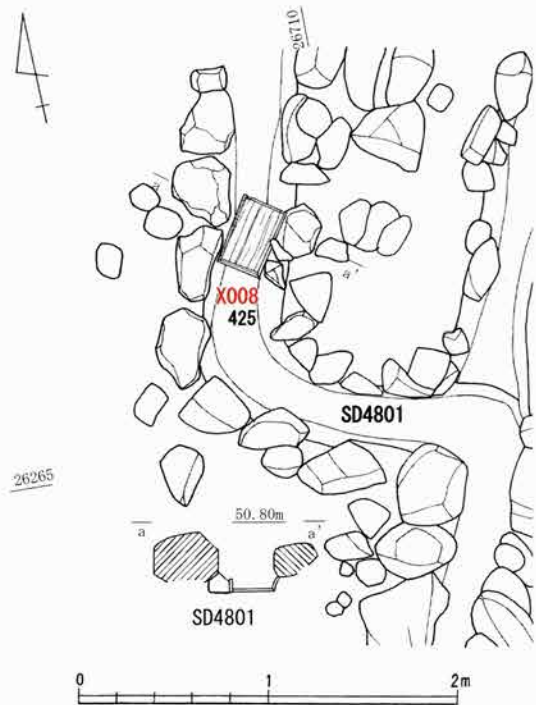
SS4824(PL.35 第39図) O-R25・26に位置。SA4760の内側に沿った砂利敷通路である。主軸はN10°Eに向き、長さ33.0m、幅 3.5～5.5mの規模を測る。北上して第Ⅲ区域SS4836と接続し、第V区域SI4750と第Ⅲ区域SI4816間を結ぶ南北通路と考える。遺物は土器類 322～325、土錘 370が出土した。

石積施設

SF4826・4827(PL.39 第39図) 旧SX4826・4827である。L・M27に位置。基底石のみが残存していた。平面形は方形を呈す。SF4826は主軸がN20°Eに向き、内寸南北長軸 0.6m、内寸短軸 0.5m、深さ0.1mを測る。SF4827は主軸がN20°Eに向き、内寸南北長軸 0.8m、内寸短軸 0.7m、深さ0.1mを測る。周辺に焼土の広がり確認された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はSF4814から銭貨「永楽通寶」478が出土した。

井戸

SE4812(PL.40 第39図) L33に位置。石組の井戸である。20～40 cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約 1.1m、内寸短軸 0.8m、深さは崩壊が危惧され、0.4mほど掘削したが底面は不明である。時期はⅢ期と考える。



第40図 第V区域X008：SD4801硯箱(縮尺1/40)

第3表 第102・104次調査主要遺構観察表(PL.21~40 第30・33~40図)

第I区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層	写真 図版	挿図
				I期	II期	III期			
1	F-I24	SA893	土塁石垣					PL. 21	第30図
2	J-K24	SI4750	門					PL. 23	第33図
3	J-K 25・26	SD4752	区画溝					PL. 21 PL. 23	第30図
4	I-K 26・27	SD4753	区画溝					PL. 21 PL. 23	第30図
5	K27~29	SD4765	区画溝					PL. 21 PL. 23	第30図
6	J-K33	SD4755	区画溝					PL. 21 ~23	第30図
7	J-K33	SD4756	区画溝					PL. 21 ~23	第30図
8	T42	SE4751	井戸					PL. 23	第30図
9	K43	SE4811	井戸					PL. 23	第30図
10	G-H 38・39	SG4758	庭					PL. 23	第33図

第II区域【武家屋敷B】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
10	G-R22	SA4763	土塁石垣							PL. 24 PL. 25	第30図
11	F22	SI4762	門							PL. 26	第33図
12	F-R 22~24	SS260	道路							PL. 24 PL. 25	第30図
13	M-R23	SX4761	石敷遺構							PL. 24 PL. 25	第30図
14	J-K 20・21	SX4764	石敷遺構							PL. 24	第30図
15	L-O 19・20	SB4767	礎石建物							PL. 26	第33図
16	I25	SE4768	井戸							PL. 23	第30図

第III区域【武家屋敷C】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
17	V-E 20~22	SA4782	土塁石垣							PL. 27 ~29	第30図
18	T 21・22	SA4784	土塁石垣								第30図
19	U22	SI4818	門								第37図
20	S-E 20~23	SS260	道路							PL. 27	第30図
21	S-T 21・22	SS4822	道路								第30図
22	S-U23	SX4761	石敷遺構							PL. 25 PL. 27	第30図

第III区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
23	F-H 21~26	SA4783	土塁石垣							PL. 28 PL. 29	第30図
24	S-F 22~24	SA4781	土塁石垣							PL. 27 ~29	第30図 第35図
25	S-F 22~24	SA4780	土塁石垣							PL. 27 ~29	第30図 第35図
26	S-F 22~24	SA4785	土塁石垣							PL. 27 ~29	第30図 第35図
27	S-F 22~24	SA4760	土塁石垣							PL. 27 ~29	第30図 第35図
28	B' 23	SI4817	門							PL. 30	第35図
29	U24	SI4816	門							PL. 30	第37図
30	E' 26・27	SD4809	区画溝							PL. 31	第30図
31	B' 24	SD4808	区画溝							PL. 31	第35図
32	C-F 21・22	SD4810	区画溝							PL. 31	第30図

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
33	E' 22・23	SZ4845	暗渠							PL. 31	第30図
34	C'・D' 23	SZ4844	暗渠							PL. 31	第35図
35	Y25	SF4813	石積施設							PL. 32	第34図
36	A'・B' 24・25	SF4814	石積施設							PL. 32	第35図
37	M50	SF4815	石積施設							PL. 32	第35図
38	S-U 26~28	SX4834	石敷遺構							PL. 32	第37図

第IV区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
39	T-X 30~36	SB4790	礎石建物							PL. 33	第37図
40	W32	SX4835	石敷遺構							PL. 33	第37図
41	T-Z 28~30	SS4847	通路							PL. 33	第37図
42	X 30~32	SD4848	区画溝							PL. 33 ・34	第37図
43	X 30~32	SD4833	区画溝							PL. 32	第37図
44	T-V29	SD4804	区画溝							PL. 32	第37図
45	X・Y29	SD4805	区画溝							PL. 33	第37図
46	X-Z30	SD4806	区画溝							PL. 33	第37図

第V区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
47	Q-S31 ~33	SB4789	礎石建物							PL. 36 ・40	第39図
48	Q-S 35・36	SB4788	礎石建物							PL. 35 PL. 36	第39図
49	L-O 36~39	SB4786	礎石建物							PL. 37	第39図
50	O-R 26~29	SB4746	礎石建物							PL. 35 PL. 37	第39図
51	K-N 29~32	SB4787	礎石建物							PL. 37	第39図
52	N-R 26・27	SD4850	区画溝							PL. 35	第38図 第39図
53	S・T 30~35	SD4797	区画溝							PL. 38	第38図 第39図
54	S・T 21~37	SD4798	区画溝							PL. 38	第38図 第39図
55	L・N 31~32	SD4794	区画溝							PL. 39	第38図 第39図
56	L・N 31~32	SD4795	区画溝							PL. 39	第38図 第39図
57	L・N 31~32	SD4796	区画溝							PL. 39	第38図 第39図
58	L・N26	SD4753	区画溝							PL. 35 PL. 39	第39図
59	N-O 27~29	SD4793	区画溝							PL. 37 PL. 40	第39図
60	M27・28	SD4792	区画溝							PL. 37	第39図
61	P-S35	SD4801	区画溝							PL. 38	第39図 第40図
62	M・N 27~29	SS4823	通路							PL. 37	第39図
63	O-R 25・26	SS4824	通路							PL. 35	第39図
64	L・M27	SF4826	石積施設							PL. 39	第39図
65	L・M27	SF4827	石積施設							PL. 39	第39図
66	L33	SE4812	井戸							PL. 40	第39図

7. 第102次調査遺物(PL. 49～51 第41～47図、第4表)

第102次調査の遺物は、1～173を掲載した。ほとんどが第I区域の包含層、遺構から出土したもので占められる。内訳は第I・II区域の土器(陶磁器類)1～144、土製品145～149、金属製品150～155、骨角製品156、石製品157～163、銭貨164～173である。詳細は第4表に記し、以下、特徴的なものの概要を述べる。

第I区域包含層出土土器(PL. 49 第41～43図)

第102次における包含層とは、表土から上層遺構の検出面に至るまでの複数層を指す。越前焼甕1～3・4・9は口縁部の無文帯の幅が狭く、口端部内側に段をもつ。Ⅲ群Cに分類される。播鉢12は口端部が受口状に成形され、器厚も薄いつくりであることから最終末期のものと考えられる。13～15は口端部内側に段をもち、14は体部上位に扇状に卸目を施している。捏鉢16は口径62.6cm、高さ15.0、底径21.4cmを測る大型品であり、内面は摩耗し、外面底部は未調整である。17は片口を備える。播鉢18は口径34.3cmを測り、口端部内側に浅い凹線がめぐり、体部下位を回転ヘラケズリで調整するが底部周縁に縄目痕が残る。火鉢19・20は口縁部が直線状に上方へ立ち上がり、口端面は平坦である。口径38.2cmを測る火桶21より小型と考える。

土師器小皿は26～30は浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類(文報告19)があり、盤形D類は見られない。28～30は口端部に強いヨコナデによる段をもつ。29・30には口端部にススが付着し、灯明皿として使用された痕跡を残す。鉄釉天目碗31～35はやや内湾して外方へ立ち上がり、口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める。体部下位～底部は露胎すると考える。広口壺38は胴部上位に半環状の把手が2つ付く。内側の施釉は口端部にとどまる。瓦質土器42・43は香炉であり、42の口縁部は肩衝状に胴部上位で肩が張った後、内側と上方へ短く立ち上がる。43は寸胴形を呈し、底部周縁に三角板の脚部を付ける。体部に列点円形文を施し、ミガキで調整する。風炉44は短く立ち上がる口縁部の上・下端に突帯をめぐらし、突帯内に押印文を施す。46は風炉の脚部であり、先端は丸く成形され外方へ屈曲する。青磁碗47・48には外面体部、51・52は底面中央に陰刻花文が施される。杯55は白磁に多く見られる器種である。白磁杯57は鑄を入れ花形に成形している。底部に呉須の銘款をもつ。杯59の底部には「本」の墨書、60の底部には呉須の銘款が認められる。輪花皿67・68は体部に鑄菊花文を入れ、67の外面底部には「□下太平」と圏線2、68の外面底部には呉須圏線2がある。72は口端部が外反し、切れ込みをいれて花弁状に成形している。76は青白磁碗であり、体部に陰刻花文が施される。77は白磁の梅瓶の底部と考える。染付皿79は口径16.0cmを測り、外面体部に変形唐草文、内面体部にアラベスク文を施している。皿86は内面に宝相華唐草文をもつ。

第II区域包含層出土土器(第43・44図)

越前焼大甕89～92は口端部内側に段をもち、89は外面胴部上位にヘラ記号をもつ。播鉢93は口径46.0cm、高さ12.5cmを測る。底部周縁に縄目痕が残る。内面は幅3.6cm・9条の卸目が施される。土師器羽釜94は体部がヘラナデで調整され、体部下位全面にススが付着する。瓦質土器95は口端部上下に突帯がめぐり、突帯内に扁平十字形の透孔が入る。風炉と形状が似ているが、口径34.6cmあり、火鉢とした。

第I・II区域遺構出土土器(PL. 50 第44・45図)

SI4750 出土(PL. 50 第44図) 青磁碗101は外面体部に陰刻蓮花文、内面底部に陰刻花文を施す。鉄釉広口壺100は38のような口縁部をもつと考える。底部に回転糸切り痕が残る。

SD4752 出土(PL. 50 第44図) 青磁稜花皿107は口径15.4cmを測る。口端部を押圧し花弁状に成形する。内面体部に陰刻花文がめぐり、

SD4753 出土(PL. 50 第44図) 土師器小皿109は口端部全周にススが付着する。青磁稜花皿110は内面体部に107と同様な陰刻花文をもつ。青磁碗111は外面体部に101と同様な陰刻蓮花文を施す。101より器高が1cm低

い。青磁 113は内面底部から体部下位にかけて板状の仕切りをもつ。香炉の破片と考える。

SD4755 出土(PL. 50 第44図) 越前焼壺 114は口端部が厚く、口端面は平坦である。外面胴部上・中・下位に幅 5 cmのヨコハケが施される。内面胴部はナデ後指頭痕、ユビナデで仕上げている。土師器皿 116～118は外面がナデ後指頭痕で調整され、116・118は口端部内側に段をもつ。青磁杯 119は55と同様な八角杯である。花入 120は三角錐を倒立させた形状で、断面は楕円形である。体部上位に径 0.5 cmの円孔を穿つ。口端部は露胎して禿げている。白磁稜花皿 123は口端部を押圧し、花卉状に成形している。染付皿 125は体部に呉須圏線 2・変形唐草文を配し、体部下位に芭蕉文を施す。内面口端部には圏線 1、底部中央に圏線 2・シダの草花文を配す。

SA4763 出土(PL. 50 第44・45図) 青磁碗 127は101と同様に同様の陰刻蓮花文を施す。灰釉捏鉢 128は底部周縁に粘土塊を3つ張り付けた脚部をもつ。

SX4759 出土(PL. 50 第45図) 染付皿 126は外面体部には呉須草花文、内面底部に呉須圏線 2、十字羯磨文を施す。

SS260 出土(PL. 50 第45図) 越前焼 132は広口の口縁部に釣鐘形の胴部をもつ。外面底部は未調整である。鉄釉大海茶入 133は体部上位で大きく張る。外面底部に回転糸切り痕が残る。青磁皿 134は外面体部に線刻蓮花文、内面底部に陰刻花文を施す。稜花皿 135は口径 16.0 cmを測り、口端部を押圧して花形に成形している。外・内体部に陰刻花文を施す。

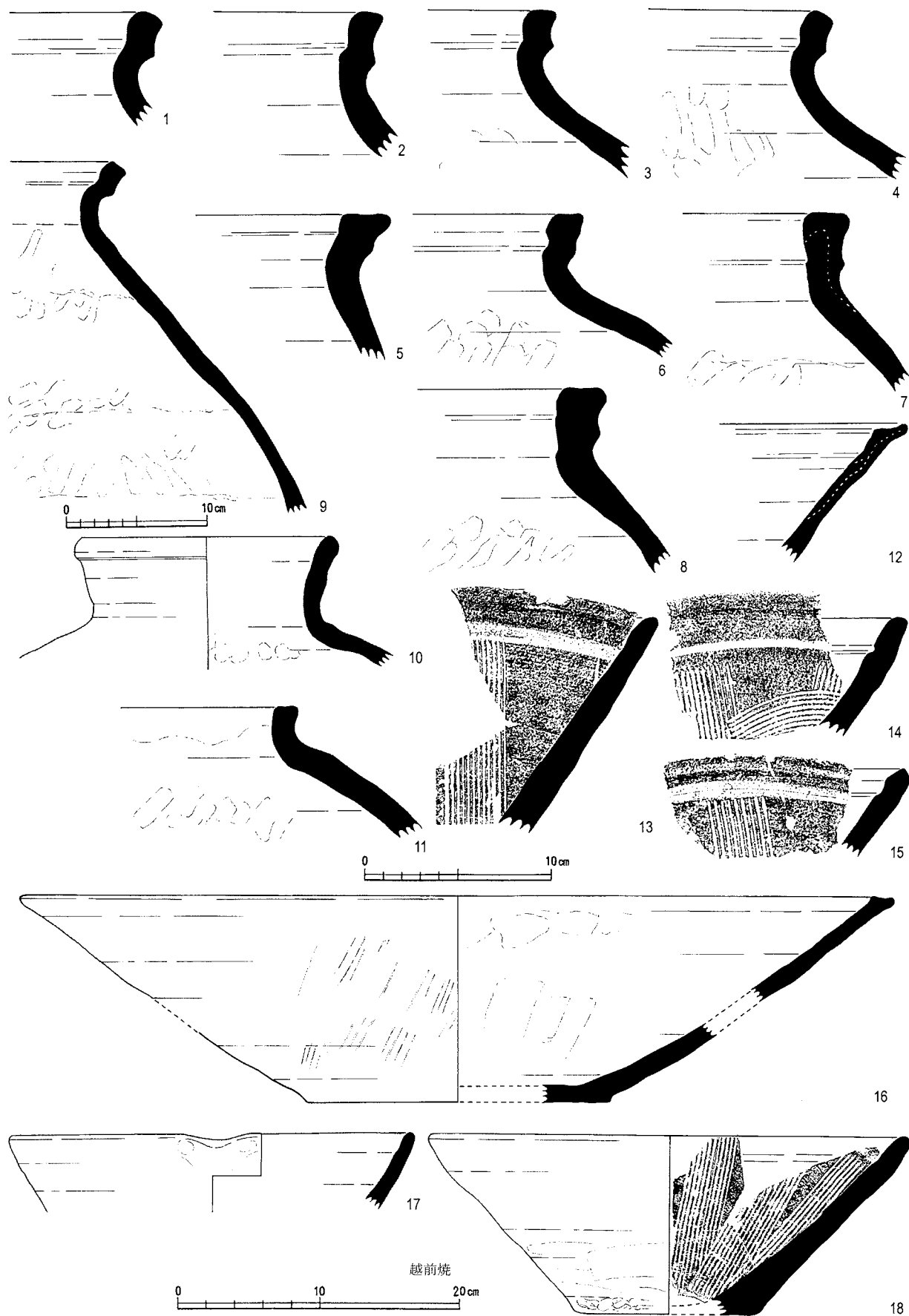
SB4767 出土(PL. 50 第45図) 青磁碗 142は外面体部に線刻蓮花文をもつ。花卉先端の表現はない。

金属製品(PL. 50 第46図) 和鉢 150は鉄製品であり、全長 16.4 cmを測る。第I区域SD4755から出土した。1/2が残存する。151は兜の飾金具であり、鉄製品である。全長 18.0 cmを測る。第I区域SX4759から出土した。兜の前面に付く篠垂または角立金具の一種と考える。下端は三葉文形に成形し、上端に方形孔を穿いている。下端を腰巻板の前面に押し付け、もう一枚の三葉文金具で前後から挟み、三葉文先端に3ヶ所、腰巻板より上部に1ヶ所の鋳留をして固定している。中央の断面は蒲鉾形である。弾丸 152・153は発射後のものであり、いずれも圧潰している。銅鏡 155は双鶴亀菊花文鏡であり、径 5.3 cm、重さ34.2 gを測る小型品である。鏡面は緑青に覆われているが、鏡背の保存状態は良好である。鏡背の内区は2重圏線で囲まれ、圏線内中央に亀を配置し、亀の甲羅を鈕座とする。亀の左右には羽を広げた鶴を配し、亀の頭側に1ヶ所、後足側に菊花文を2ヶ所圏線上に配置する。第25次調査A地区SF908付近出土品(181)(文3)が類似する。

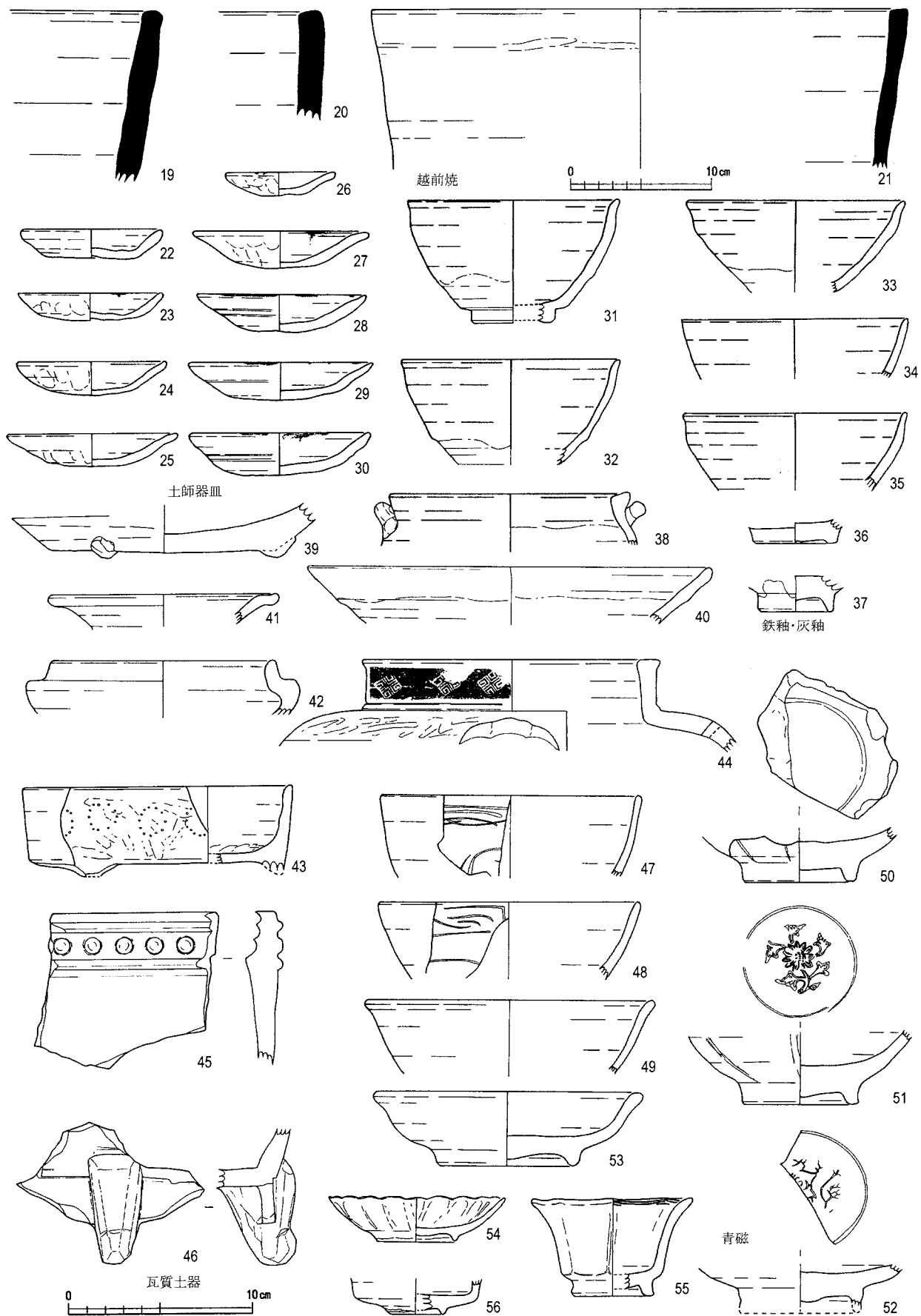
骨角製品、石製品(PL. 50・51 第46・47図) 駒石 157は、半球形を呈し、中央にV字溝を入れた駒と考える。全体は平滑で黒漆が塗布されている。鹿角製と推定される。駒石 158半透明の蠟石製であり、小判形を呈し、表面中央に刺突を6つ入れている。茶臼 160は径 11.3 cmを測る小型品である。側面に付く柄穴の周りを3重菱形文で陽刻している。バンドコ161はO形の身部、バンドコ162はD形の身部である。容量も大きな差はない。共に笏谷石製だが、被熱している。

獅子・狛犬 163は笏谷石製である。台座と腰～後足を欠損しているが、高さ15.5 cmを測る。開口、無角から阿形の獅子と見る。頭部は平坦で左右に小さな耳が付き、両眼は刮目し鼻孔は前面に向く。口角は上がり、上歯 5、下葉 2と舌を出す。両頬と後頭部に垂髪が線刻されている。両前足は太く直下へ踏ん張り、足の付け根に渦文が装飾される。

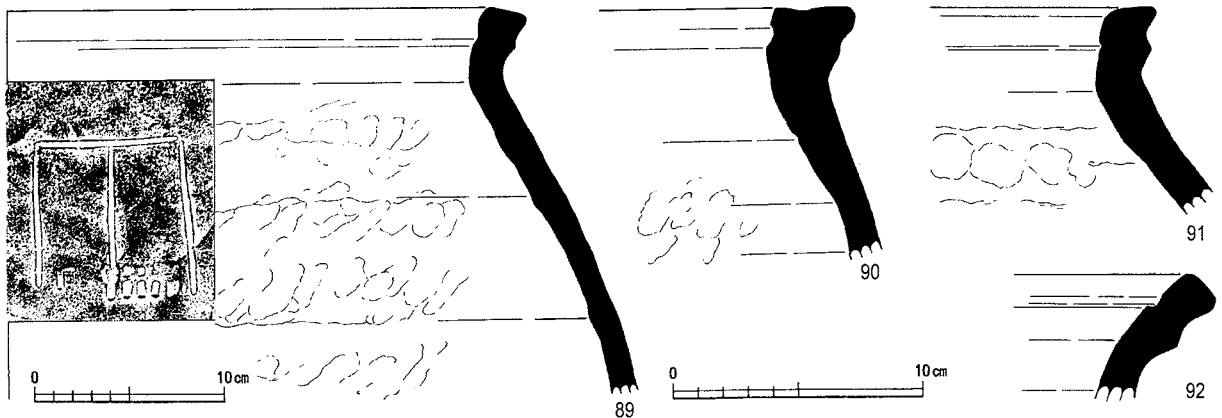
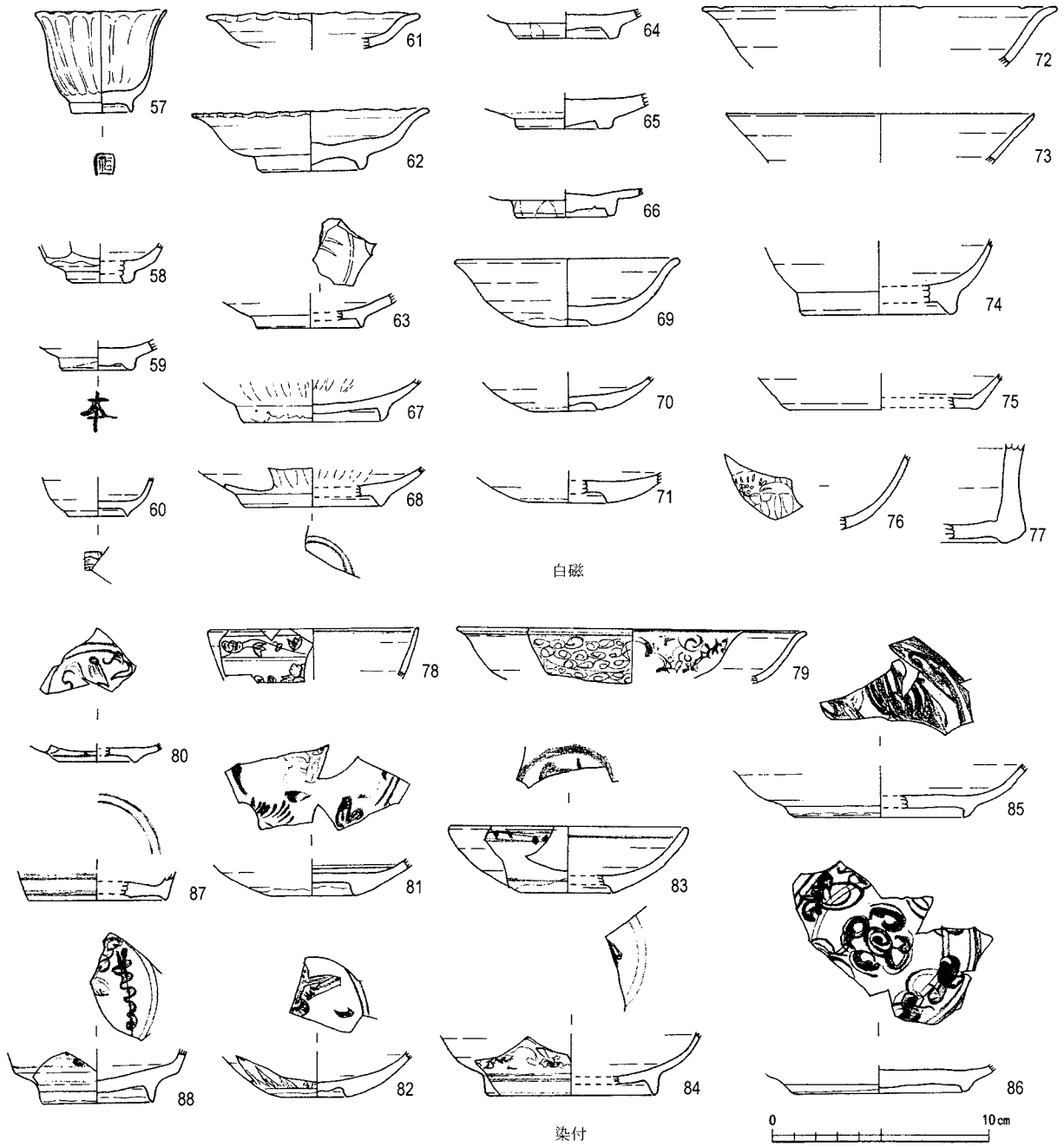
銭貨(PL. 51 第47図) 銭貨 164～173が出土した。第I区域で出土したものが大半を占める。SD4753から出土した「祥符通寶」166、SD4755内から出土した「紹寧元寶」170・「政口通寶」173(政和通寶か?)以外は包含層からの出土にとどまる。



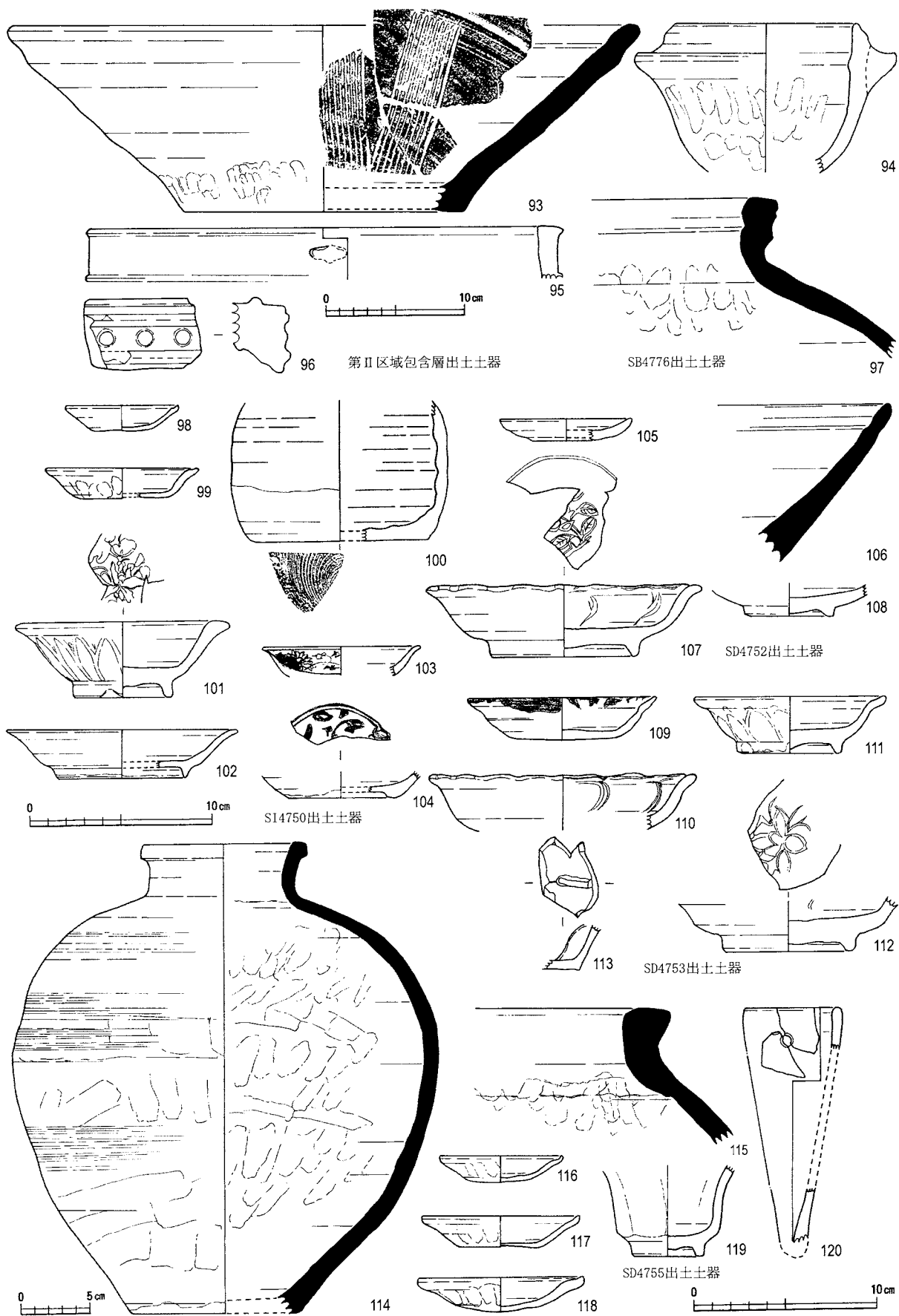
第41図 第102次調査 第I区域遺包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)



第42図 第102次調査 第I区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)

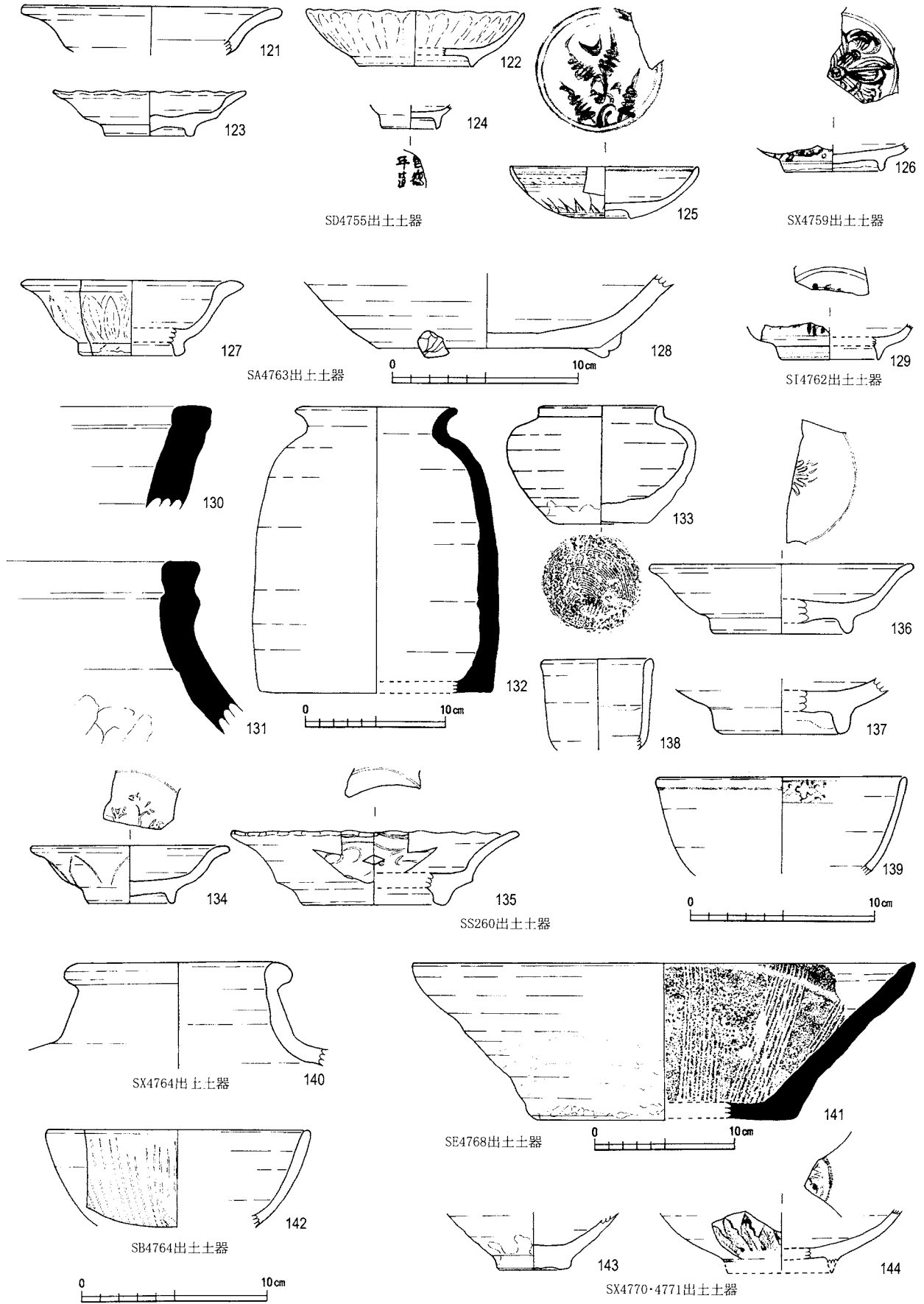


第43図 第102次調査 第I・II区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)

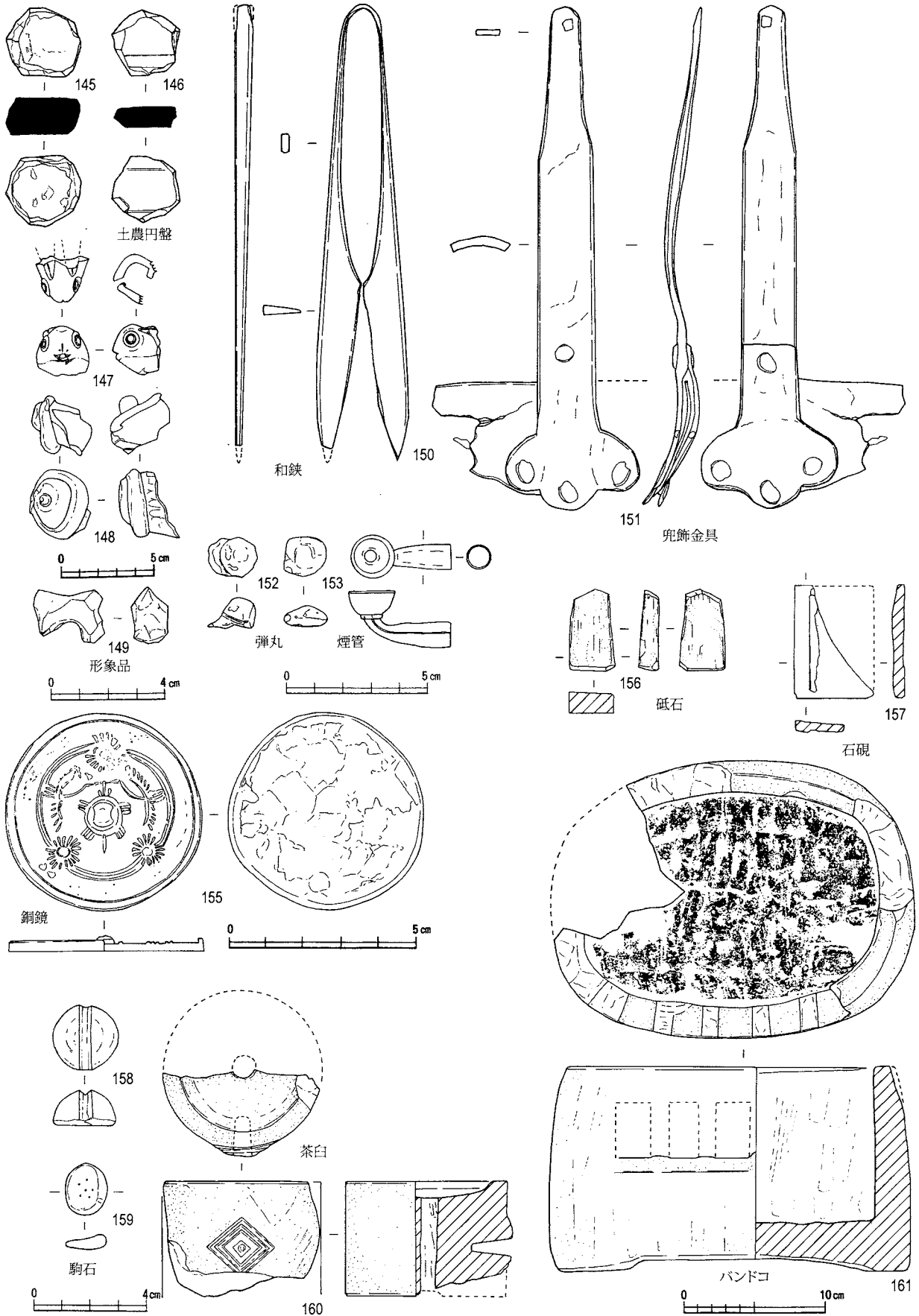


第44图 第102次調査 第II区域包含層出土土器、第I区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

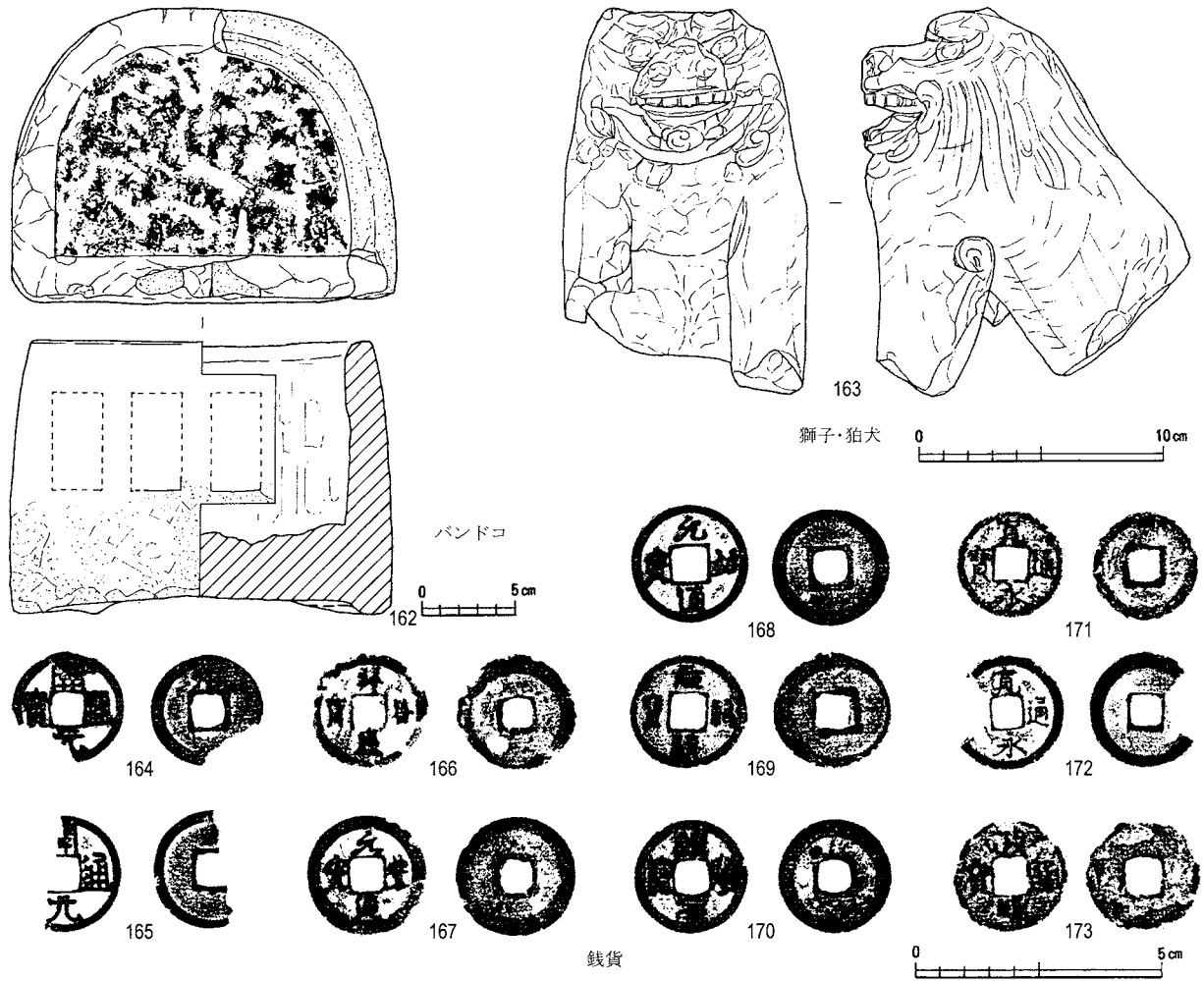
7. 第102次調査遺物



第45図 第102次調査 第I・II区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



第46図 第102次調査 土製品、金属製品、骨角製品、石製品(縮尺 1/2、1/4、2/3)



第47図 第102次調査 石製品、銭貨(縮尺1/3、1/4、2/3)

第4表 第102次調査出土遺物観察表(PL.49~51 第41~45図)

第I区域包含層出土土器(PL.49・50 第41~44図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 灰黒色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に段をもつ/口唇部は丸く収める	外: 口縁部ヨコナデ/頸部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/頸部上位ナデ	第I区域 H29/褐色土
2	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に段をもつ/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/頸部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ/頸部ナデ	第II区域 D35
3	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部: 上方に立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に段をもつ/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	第I区域 H29・30/砂利混土
4	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に段をもつ/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第I区域 H29・30/砂利混土
5	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に条線1/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	出土区域不明 表土 外: 自然軸
6	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は凹面2段/口端部内側に段あり/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第I区域 H・K30 第II区域 SS260 外: 降灰
7	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 灰茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直立して短く立ち上がる/口縁部は凹面/口端部内側に段あり/口唇部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	出土区域不明 表土 外: 自然軸

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
8	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直立して短く立ち上がる/口縁部 は凹面/口端部内側に段あり/口唇部は平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭 痕	出土区域不明 表土 外:降灰
9	越前焼 大甕	-	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部:外傾して短く立ち上がる/口縁部 は凹面/口端部内側に段あり/口唇部は平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/ヘラ記 号 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭 痕	第1区域 H24・I29・30/褐色 砂混土 外:降灰
10	越前焼 壺	口: 14.0 高: 6.5	焼: 良好 色: 茶黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:頸部から屈曲して外傾して短く立 ち上がる/口唇部は丸く収める。	外:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 後指頭痕	第1区域 K32/遺構面 外:降灰
11	越前焼 壺	-	焼: 良好 色: 灰茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:頸部から屈曲して短く立ち上がる/ 口唇部は浅く凹む	外:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 後指頭痕	出土区域不明 表土 外:降灰 内:口縁部自然釉
12	越前焼 捏鉢	-	焼: 良好 色: 明茶赤色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に受口状の凹面	外:口縁部～体部回転ナデ/シャープな仕 上げ 内:口縁部～体部回転ナデ	第1区域 K36/遺構面
13	越前焼 捏鉢	-	焼: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり	外:口縁部～体部回転ナデ/シャープな仕 上げ 内:口縁部～体部回転ナデ	第1区域 E40/遺構面 第Ⅲ区域 Y25・B' 24/遺構面
14	越前焼 搦鉢	-	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める。	外:口縁部～体部回転ナデ/シャープな仕 上げ 内:口縁部～体部回転ナデ/幅2.9cm・11条 の卸目/体部上位肩状の卸目	旧駐車場 表土
15	越前焼 搦鉢	-	焼: 良好 色: 橙赤色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり	外:口縁部～体部ヨコナデ/シャープな仕 上げ 内:口縁部～体部ヨコナデ/幅2.9cm・9条 の卸目	旧駐車場 表土
16	越前焼 捏鉢	口: 62.6 高: 15.0 底: 21.4	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部平坦 底部:平坦	外:口縁部～体部上位回転ナデ/体部中位 ～下位ハケ/底面未調整 内:口縁部～体部ナデ・摩耗/底部摩耗	第1区域 E40/遺構面
17	越前焼 捏鉢	口: 29.0 高: 5.6	焼: 良好 色: 淡橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/片口/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部上位回転ナデ 内:口縁部～体部上位回転ナデ	第1区域 I29/遺構面 外:口縁部ヤカムラ 内:降灰
18	越前焼 搦鉢	口: 34.3 高: 12.8 底: 13.3	焼: 良好 色: 橙赤色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部丸く収める/口端部内側に浅い凹線 めぐる 底部:平坦	外:口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回 転ヘラケズリ/底部周縁縄目痕/底面摩耗 内:口縁部～体部回転ナデ/幅3.1cm・11条 の卸目	第1区域 K35/遺構面
19	越前焼 火鉢	-	焼: 良好 色: 明茶赤色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦/口端部内側へやや突出	外:口縁部ナデ/体部上位ヘラナデ 内:口縁部～体部上位回転ヨコナデ	第1区域 砂利混土
20	越前焼 火鉢	-	焼: 良好 色: 暗茶灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦	外:口縁部ナデ 内:口縁部ナデ	第1区域 調査区外
21	越前焼 火桶	口: 38.2 高: 11.5	焼: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦	外:口縁部ナデ 内:口縁部ナデ	第1区域 グリッド不明
22	土師器 小皿	口: 7.6 高: 1.5 底: 4.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 体部に浅い凹面/口唇部は丸く収める 底部:平底/中央やや凹む	外:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第1区域 C39/遺構面 片口状に歪む 内:中心剥離
23	土師器 小皿	口: 7.6 高: 1.5 底: 4.0	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底/中央やや凹む	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	旧駐車場 片口状に歪む 口端部一部スス付着
24	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.8 底: 3.7	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第1区域 K32/遺構面 片口状に歪む
25	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.8 底: 3.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で外方にやや屈曲/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～底部ヨコナデ	第1区域 F35/遺構面 片口状に歪む
26	土師器 小皿	口: 5.4 高: 1.2 底: 2.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第1区域 K35/遺構面 片口状に歪む
27	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.0 底: 3.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第1区域 H34/遺構面 片口状に歪む 口端部半周スス付着
28	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 3.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に糸線2 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～底部ヨコナデ	第1区域 C39/遺構面 口端部3/4周スス付着
29	土師器 小皿	口: 9.8 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外方に屈曲/口端部に段あり 口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ	第1区域 グリッド不明 片口状に歪む 口端部部分的にスス付着

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
30	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.3 底: 4.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部でやや外方に屈曲/口端部に条 線2/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第1区域 C39/遺構面 片口状に歪む 口端部1/4周スス付着
31	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.6 高: 6.7 底: 4.4	焼: 良好 色: 黒色	堅緻 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める 底部: 蛇の目高台	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ/体部下位回転 ヘラケズリ	第1区域 K35/遺構面 体部下位露胎
32	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 5.9	焼: 良好 色: 黒茶色	堅緻 1/8	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第1区域 J36/遺構面 体部下位露胎
33	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 5.2	焼: 良好 色: 茶黒色	軟質 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に反外/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外: 口縁部~体部回転ナデ/体部下位回転 ヘラケズリ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第1区域 K32/遺構面 体部下位露胎
34	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.2 高: 3.3	焼: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第1区域 J36/遺構面 体部下位露胎
35	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 4.3	焼: 良好 色: 黒色	堅緻 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第1区域 J36/遺構面
36	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	高: 1.3 底: 4.6	焼: 良好 色: 暗紫灰色	軟質 1/8	底部: 蛇の目高台	外: 底部回転ヘラケズリ 内: 底部回転ナデ	第1区域 D35/遺構面 底部露胎
37	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 黒色	軟質 1/8	底部: 削出高台	外: 底部回転ヘラケズリ 内: 底部回転ナデ	第1区域 K32/遺構面 底部露胎
38	瀬戸美濃 鉄釉 広口壺	口: 13.2 高: 2.8	焼: 良好 色: 茶色	軟質 土師質 1/10以下	口縁部: 内傾して立ち上がる/口端部は平 坦 体部/上位に半環状把手2	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	出土区域不明 内: 頸部以下露胎
39	灰釉 控鉢	高: 2.8 底: 12.0	焼: 良好 色: 白色	極砂粒 軟質 1/10以下	底部: 平坦/周縁に粘土塊の脚3ヶ所	外: 底部回転ヘラケズリ 内: 底部摩耗	出土区域不明 外: 底部露胎
40	灰釉 控鉢	口: 21.6 高: 3.6	焼: 良好 色: 淡黄緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める。	外: 口縁部~体部上位回転ナデ/体部中位 回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部上位回転ナデ	第1区域 C39/遺構面 外・内: 体部中位露胎
41	灰釉 皿	口: 12.4 高: 1.7	焼: 良好 色: 淡黄緑色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で外方へ屈曲して受口状を呈す/口唇部 は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第1区域 C・D26・27/褐色土
42	瓦質土器 香炉	口: 12.4 高: 3.2	焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に短く上方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 体部: 碗形/頸部で張り出し内側へ屈曲	外: ヨコナデ/シャープな仕上げ 内: ナデ	第1区域 H33/遺構面
43	瓦質土器 香炉	口: 14.2 高: 4.8	焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に短く上方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 体部: 寸胴形 底部: 周縁に三角形の脚3	外: 口縁部~体部回転ナデ後ミガキ/赤色 化粧土/円形列点文がめぐる/底部ミガキ 内: 口縁部~体部回転ナデ後ミガキ/底部 周縁ケズリ	第1区域 G24/遺構面
44	瓦質土器 風炉	口: 16.4 高: 4.7	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦/口端部上・下端に突帯がめぐる /突帯間に押印文がめぐる 胴部: 上位に三葉文の透孔	外: 黒色磨研のミガキ/シャープな仕上げ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位回転ナデ	出土区域不明 T32 外内: スス付着
45	瓦質土器 火鉢	-	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端 部は平坦/口端部上・下端に突帯がめぐる /突帯間に凹形文がめぐる	外: 口縁部ナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部ナデ	第1区域 C39/遺構面
46	瓦質土器 風炉	-	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	脚部: 先端が反り上がる獸形脚	外: 黒色磨研のミガキ 内: 黒色磨研のミガキ	出土区域不明 44と同一体か?
47	青磁 碗	口: 14.0 高: 4.5	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部にヘラ描き草花文	第1区域 クリッド不明
48	青磁 碗	口: 14.4 高: 4.2	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 口縁部に線刻雷文/体部にヘラ描き草 花文	旧駐車場
49	青磁 碗	口: 16.0 高: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部でやや外反		第1区域 E40/遺構面
50	青磁 碗	高: 2.5 底: 6.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	底部: 削出高台	外: 体部下位にヘラ描き蓮花文 内: 底面周縁に圈線1	旧駐車場 外: 底面周縁露胎
51	青磁 碗	高: 4.1 底: 6.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	底部: 削出高台	外: 体部下位にヘラ描き蓮花文 内: 底面中央に陰刻花文/底面周縁に圈線1	旧駐車場 外: 底面周縁露胎
52	青磁 碗	高: 2.7 底: 6.6	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	底部: 削出高台	内: 底面中央に陰刻花文/底面周縁に圈線1	旧駐車場
53	青磁 皿	口: 14.8 高: 4.0 底: 7.4	焼: 良好 色: 黄オリ ーブ	堅緻 1/3	口縁部: 外反して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部: 削出高台	内: 底面中央に陰刻花文	第1区域 K34・35・37/遺構面 外: 高台周縁露胎
54	青磁 輪花皿	口: 9.4 高: 2.4 底: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/3	体部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/花 弁状に鏝を入れる 底部: 削出高台		第1区域 K37/遺構面 外: 高台端部露胎
55	青磁 杯	口: 8.8 高: 5.3 底: 4.4	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/3	口縁部: 緩やかな波状 体部: 外反して斜め外方へ立ち上がる/八 角杯 底部: 削出高台	外: 体部に花卉状の鏝	第1区域 H・J36/遺構面 外: 底面中央露胎
56	青磁 香炉	高: 2.0 底: 3.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/5	体部: 寸胴形/直線状に上方へ立ち上 がる 底部: 削り出し高台		出土区域不明 表土
57	白磁 杯	口: 5.8 高: 4.7 底: 2.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/2	口縁部: 緩やかに外反して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部~体部に花卉状の鏝/底面に具 須の印文 内: 口縁部~体部に花卉状の鏝	第1区域 K35・37/遺構面 外: 高台端部露胎

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
58	白磁杯	高: 1.8 底: 2.6	焼: 良好 色: 白褐色	精緻 1/4	体部:外反して斜め外方へ立ち上がる/八角杯 底部:削出高台	外:体部に花卉状の菊	旧駐車場 外:高台端部露胎
59	白磁杯	高: 1.4 底: 3.2	焼: 良好 色: 透淡白色	精緻 1/8	底部:削出高台	外:底面に「本」の墨書	第1区域 J36/遺構面 内:底面~高台端部露胎
60	白磁杯	高: 1.8 底: 2.6	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/2	底部:碁笥底	外:底面に呉須の印文	第1区域 I28/黄褐色土 外:高台端部露胎
61	白磁稜花皿	口: 9.8 高: 1.7	焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部を押圧して波状に成形する		第1区域 K35/遺構面
62	白磁稜花皿	口: 10.8 高: 2.8 底: 5.0	焼: 良好 色: 透白褐色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は押圧して波状に成形する	外:底面回転ヘラケズリ	第1区域 K35/遺構面 外:高台端部露胎
63	白磁皿	高: 1.6 底: 4.9	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底面にヘラ描き草花文	出土区域不明 表土 外:高台端部露胎
64	白磁皿	高: 1.3 底: 4.5	焼: 良好 色: 淡灰白色	精緻 1/4	底部:削出高台		第1区域 K35/遺構面 外:底面~高台端部露胎
65	白磁皿	高: 1.3 底: 4.4	焼: 良好 色: 白褐色	精緻 1/5	底部:削出高台		第1区域 D35/遺構面 外:底面~高台露胎
66	白磁皿	高: 1.2 底: 4.5	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	底部:削出高台		第1区域 K36/遺構面 外:底面~高台端部露胎
67	白磁輪花皿	高: 2.0 底: 6.3	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/5	体部:緩やかに斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に錦菊花文/底部中央に呉須「口下太平」と圏線2 内:体部に錦菊花文	第1区域 K35/遺構面 外:高台端部露胎
68	白磁輪花皿	高: 1.9 底: 6.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	体部:緩やかに斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に錦菊花文/底部中央に呉須圏線2 内:体部に錦菊花文	第1区域 K32/遺構面 外:高台端部露胎
69	白磁皿	口: 10.2 高: 3.0 底: 2.8	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める 底部:碁笥底		第1区域 K35/遺構面 外:高台端部露胎
70	白磁皿	高: 1.6 底: 2.6	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:碁笥底		第1区域 K35/遺構面 外:高台端部露胎
71	白磁皿	高: 1.5 底: 3.6	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:碁笥底		第1区域 C39/遺構面 外:高台端部露胎
72	白磁皿	口: 16.2 高: 2.8	焼: 良好 色: 暗灰白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める/切れ込みを入れて花卉状にする	外:口縁部~体部シャープ	第1区域 J35/遺構面
73	白磁皿	口: 13.9 高: 2.3	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		第1区域 K35/遺構面 外:口唇部袖ハゲ
74	白磁碗	高: 3.4 底: 7.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第1区域 G35/遺構面 外:底面~高台端部露胎
75	白磁皿	高: 1.7 底: 8.8	焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/10以下	体部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:ベタ高台	内:陰刻花文	第1区域 K37/遺構面 外:貫入多し
76	青白磁碗	-	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	体部:内湾して外方へ立ち上がる	内:陰刻花文	第1区域 G40/遺構面
77	白磁梅瓶	-	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下			第1区域 表土 外:底面露胎
78	染付碗	口: 9.4 高: 2.4	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須の圏線1・唐草文/体部に呉須の草花文 内:口端部に呉須圏線1	第1区域 K35/遺構面
79	染付皿	口: 16.0 高: 2.5	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線1/体部に呉須変形唐草文 内:口縁部に呉須圏線1/体部にアラベスク文	第1区域 J35/遺構面
80	染付皿	高: 0.8 底: 3.6	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:高台に呉須圏線 内:底面中央に呉須玉抱き獅子文・圏線2	出土区域不明 表土 外:底面~高台端部露胎
81	染付皿	高: 1.7 底: 4.0	焼: 良好 色: 透緑白色	精緻 1/6	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:碁笥底	内:底面中央に呉須草花文・褐釉魚文・圏線2	第1区域 D35/遺構面 外:高台露胎
82	染付皿	高: 2.1 底: 3.0	焼: 良好 色: 透灰青色	精緻 1/8	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:碁笥底	外:体部下位に芭蕉文 内:底面中央に呉須草花文・圏線2	第1区域 E/F29/褐色土 G40/遺構面 外:高台露胎
83	染付皿	口: 10.8 高: 3.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 透緑白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:碁笥底	外:口縁部に圏線2・区画文/体部下位に圏線1 内:口縁部に圏線1/底面中央に呉須絵・圏線1	第1区域 K35/遺構面 外:底面~体部下位露胎
84	染付皿	高: 2.8 底: 7.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下位に呉須唐草文 内:底面中央に呉須草花文・圏線2	第1区域 グリッド不明 外:底面~高台端部露胎

7. 第102次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
85	染付皿	高: 2.4 底: 7.6	焼色: 不良 灰白色	精緻 1/8	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	内: 底面中央に呉須玉抱き獅子文・圏線2	第1区域 K35/遺構面 外: 底面~高台端面露胎
86	染付皿	高: 1.2 底: 7.6	焼色: 不良 灰白色	精緻 1/6	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	内: 底面中央に呉須草花文・圏線4	第1区域 K35/遺構面 外: 高台端面露胎 内: 焼成不良
87	染付向付	高: 1.3 底: 6.0	焼色: 良好 透青白色	精緻 1/10以下	体部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部: ベタ高台/中央蛇の目高台	外: 体部下位に呉須圏線2 内: 底面中央に呉須圏線2	旧駐車場 外: 底面~高台端面露胎
88	染付杯	高: 2.3 底: 5.0	焼色: 良好 透青白色	精緻 1/8	体部: 屈曲して直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 体部下位に草花文・呉須圏線3 内: 底面中央に草花文・呉須圏線2	出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎

第II区域包含層出土土器(PL. 49・50 第43図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
89	越前焼甕	-	焼色: 不良 淡茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は凹面/口縁部内側に段あり/口縁部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/ヘラ記号1種類・スタンプ文2種類 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第II区域 R19/暗褐色土
90	越前焼甕	-	焼色: 不良 紫茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は平坦/口縁部内側に浅い凹線がめぐる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/純い仕上げ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第II区域 N17~19/暗褐色土
91	越前焼甕	-	焼色: 良好 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は平坦/口縁部は凹面/口縁部内側に沈線1がめぐる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第II区域 O22/遺構面
92	越前焼甕	-	焼色: 良好 灰褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外反して短く立ち上がる/口縁部は平坦/口縁部は凹面/口縁部内側に凹線1がめぐる	外: 口縁部ヨコナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部ヨコナデ	第II区域 O22/遺構面
93	越前焼 搦鉢	口: 46.0 高: 12.5 底: 20.0	焼色: 不良 淡黄灰色	極砂粒 軟質 土師質 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める/口縁部に凹面/口縁部内側に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部~体部回転ナデ/底部周縁縄目痕/底面ナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅3.6cm・9条の卸目/体部下位~底面摩擦	第II区域 O・P18・19/暗褐色土
94	土師器 羽釜	口: 10.0 高: 8.0	焼色: 良好 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部: 内傾して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 受部: 平滑/幅1.2cm 体部: 半球形	外: 口縁部~受部回転ナデ/体部ヘラナデ後指頭痕 内: 口縁部回転ナデ/体部ユビナデ	第II区域 P21/旧水田右垣 受部下位全周スス付着
95	瓦質土器 火鉢	口: 34.6 高: 3.8	焼色: 良好 黒色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口縁部は平坦/口縁部上・下端に突帯がめぐる/突帯の間に扁平十字の透孔がめぐる	外: 口縁部ヨコナデ 内: 口縁部ヨコナデ シャープな仕上げ	第II区域 P17/暗褐色土
96	瓦質土器 火舎	-	焼色: 良好 橙褐色	極砂粒 軟質 土師質 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口縁部は平坦で外側に突帯がめぐる/口縁部上・下端および口縁部に突帯がめぐる/突帯の間に円形文の押印がめぐる		第II区域 Q18/床土

第I区域遺構出土土器(PL. 49・50 第44図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
97	越前焼甕	-	焼色: 良好 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口縁部は凹面/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第I区域 H29/SB4776
98	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.4 底: 2.6	焼色: 良好 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第I区域 J24・25/S14750 I23・24/褐色土
99	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.7 底: 4.0	焼色: 良好 白褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部外反/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第II区域 J24・25/S14750 K23・24/茶褐色土
100	瀬戸美濃 鉄釉 広口壺	高: 8.0 底: 9.6	焼色: 良好 暗茶色	極砂粒 堅緻 1/8	胴部: 寸胴形/直線状に立ち上がる 底部: 平坦	外: 胴部上~中位回転ナデ/胴部下位回転ヘラケズリ/底面回転糸切り 内: 胴部上位~底部回転ナデ	第I区域 J・K25/S14750 外: 胴部下位露胎
101	青磁皿	口: 12.0 高: 4.2 底: 5.6	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口縁部外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部~体部に陰刻蓮花文 内: 底面中央に陰刻蓮花文	第I区域 J・K25/S14750 F・H23/SS260 外: 底面~高台端面露胎
102	青磁皿	口: 13.0 高: 2.7 底: 7.0	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/6	口縁部: やや外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第I区域 J25/S14750 K35/遺構面 外: 高台端面露胎
103	染付皿	口: 8.4 高: 1.6	焼色: 良好 白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口縁部外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部に呉須圏線1/体部に呉須唐草文 内: 口縁部に呉須圏線1	第I区域 J・K24・25/S14750
104	染付皿	口: 1.4 高: 5.4	焼色: 良好 透青白色	精緻 1/10以下	体部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 基筒底	内: 底部に呉須草花文・圏線2	第I区域 J・K25/S14750 F・G23/SS260
105	灰釉小皿	口: 7.0 高: 1.2 底: 3.6	焼色: 良好 黄緑色	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第I区域 J25/S14752

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
106	越前焼 捏鉢	-	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面内側に段あり	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第I区域 J25/SD4752 K32/遺構面
107	青磁 稜花碗	口: 15.4 高: 4.0 底: 8.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面を押しし花弁状にする	内:口縁部～体部に陰刻花文がめぐる/底面に陰刻花文	第I区域 K26・27/SD4752 外:底面周縁露胎
108	白磁 皿	底: 4.8 高: 1.8	焼: 良好 色: 淡緑白色	精緻 1/5	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第I区域 J25/SD4752 K35/遺構面 外:底面～高台端面露胎
109	土師器 小皿	口: 10.1 高: 2.3 底: 5.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外傾する/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 I・J27/SD4753 口端部全周スス附着
110	青磁 稜花碗	口: 15.4 高: 3.1	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める/口端面を押しし、花弁状にする	内:口縁部～体部に陰刻花文がめぐる	第I区域 I・J27/SD4753 第V区域 K32/遺構面
111	青磁 皿	口: 10.7 高: 3.2 底: 5.8	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 3/4	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 底部:削り出し高台	外:口縁部～体部に浅い菡蓮花文	第I区域 I・J27/SD4753 外:底面周縁露胎
112	青磁 碗	高: 3.2 底: 7.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	体部:屈曲して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:体部に陰刻花文がめぐる/底面中央に蓮花文陰刻	第I区域 I・J27/SD4753 J29/遺構面 外:底面周縁露胎
113	青磁 香炉?	高: 2.5	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	体部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:ベタ高台	外:飛青磁の褐色釉斑点 内:底部～体部下位に厚さ0.3cmの仕切りをもつ	第I区域 I・J27/SD4753 I28/黄褐色土
114	越前焼 壺	口: 12.0 最: 31.0 高: 34.2 底: 12.0	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部:頸部から屈曲して外反して立ち上がる/口端部は外方へやや突出する	外:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ/胴部中位ヨコハケ/胴部下位ヨコハケ・ヘラナデ/シャープな仕上げ 内:口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ後指頭痕	第I区域 K・J33/SD4755 K35/遺構面
115	越前焼 甕	-	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:やや外傾して短く立ち上がる/口端面は平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第I区域 J33/SD4755 外:胴部上位降灰
116	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外傾する/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 K33/SD4755
117	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.7 底: 5.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 J33/SD4755
118	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外傾する/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第I区域 K33/SD4755 片口状に至む
119	青磁 杯	高: 5.2 底: 3.6	焼: 良好 色: 黄オリーブ	精緻 1/4	体部:外反して斜め外方へ立ち上がる/八角杯 底部:削り出し高台	外:体部に花弁状に鏝を入れる	第I区域 J・K33/SD4755 外:底面露胎
120	青磁 花入	口: 5.7 高: 14.2	焼: 良好 色: 青オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:丸く収める 体部:角杯形/体部上位に径0.5cmの円孔		第I区域 K33/SD4755 外:口端部露胎
121	青磁 皿	口: 14.0 高: 3.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部:体部下位で屈曲		第I区域 K33/SD4755
122	青磁 輪花皿	口: 12.0 高: 3.0 底: 6.2	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面を緩やかな波状にする 底部:削出高台	外:口縁部～体部鏝蓮花文 内:口縁部～体部鏝蓮花文	第I区域 J33/SD4755 第IV区域 Y-U28・29 外:高台端面露胎
123	白磁 稜花碗	口: 10.2 高: 2.5	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面を押しし花弁状にする 底部:削出高台		第I区域 K33/SD4755 K36/遺構面 外:底面～高台端面露胎
124	白磁 杯	高: 1.3 底: 3.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/5	底部:削出高台	外:底面中央に具須「宣徳年造」	第I区域 J33/SD4755 外:高台端面露胎
125	染付 皿	口: 10.1 高: 2.8	焼: 良好 色: 透灰青色	精緻 3/4	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:巻筒底	外:口縁部に具須團線2・変形唐草文/体部に具須色蕉文 内:口縁部に團線1/底面中央に草花文・團線2	第I区域 K33/SD4755 第V区域 N30/SD4793 外:高台端面露胎
126	染付 皿	高: 1.3 底: 5.2	焼: 良好 色: 透灰青色	精緻 1/6	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下位に具須草花文・團線2 内:底面中央に具須十字羯磨文・團線2	第I区域 G32/Sx4759 外:高台端面露胎
127	青磁 碗	口: 12.0 高: 4.2 底: 6.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部～体部に浅い菡蓮花文	第I区域 I22/SA4763 第II区域 H1駐車場 外:高台端面露胎/底面スス附着
128	灰釉 捏鉢	高: 4.0 底: 12.0	焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	底部:平坦/周縁に粘土塊の脚3ヶ所	外:体部下位回転ヘラケズリ 内:体部下位回転ナデ/底部摩耗	第II区域 P22・N21/SA4763 外:体部下位～底部露胎

7. 第102次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
129	染付皿	高: 1.9 底: 5.3	焼色: 良好 透灰青色	精緻 1/6	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下位に呉須草花文・圏線1/高台に圏線2 内:底面中央に呉須草花文・圏線2	第II区域 F22~24/S14762 第V区域 M28・29/SS4823 外:高台端面露胎
130	越前焼 甕	-	焼色: 良好 灰黒色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:やや外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口端部に凹線1	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	第II区域 R23/SS260
131	越前焼 甕	-	焼色: 良好 明灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直立して立ち上がる/口端面は平坦/口端部に凹面/口端部内側に段あり	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭痕	第II区域 P23/SS260 外:頸部スス付着
132	越前焼 壺	口: 11.8 高: 20.6 底: 16.6	焼色: 良好 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部:頸部から短く外反して立ち上がる/口端部は丸く収める 体部:釣鐘形 底部:平坦	外:口縁部~胴部下位ナデ/底部未調整 内:口縁部~胴部下位回転ナデ	第II区域 グリッド不明/SS260 第I区域 K26・27/SD4752
133	瀬戸美濃 鉄袖 大海茶入	口: 6.9 高: 6.6 底: 4.6	焼色: 良好 暗灰色	精緻 2/3	口縁部:直立して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部:体部上位で大きく張る 底部:平坦	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/底部回転糸切り痕 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 F・H23/SS260 外:体部下位~底部露胎
134	青磁 皿	口: 11.0 高: 3.2 底: 4.5	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/5	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部~体部に線刻蓮花文 内:底面中央に陰刻花文	第II区域 F・H23/SS260 外:底面~高台端面露胎
135	青磁 椀花碗	口: 16.0 高: 4.0 底: 7.6	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/5	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面を押圧し花弁状にする 体部:底部で屈曲し外反する 底部:削出高台	内:口縁部~体部に陰刻花文/底面に線刻圏線1	第II区域 F・H24/SS260 第V区域 M28・29/SS4823
136	青磁 皿	口: 14.8 高: 3.9 底: 7.6	焼色: 良好 青オリーブ	精緻 1/3	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	内:底面に圏線1、底面中央に菊花花文	第II区域 F・H23/SS260 外:底面露胎
137	青磁 碗	高: 3.0 底: 6.6	焼色: 良好 淡オリーブ	精緻 1/5	底部:削出高台		第II区域 F・H23/SS260 外:底面~高台内側露胎
138	青磁 香炉	口: 6.2 高: 5.0	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/6	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる 体部:小胴形		第II区域 F・H22/SS260 第I区域 K25/S14750 内:体部下位露胎
139	染付 碗	口: 13.4 高: 5.0	焼色: 良好 明白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須の圏線1 内:口端部にアラベスク文帯1	第II区域 F・H23/SS260
140	中国製 鉄袖 四耳壺	口: 12.0 高: 5.8	焼色: 良好 明茶色	精緻 1/10以下	口縁部:内傾して短く立ち上がる/口端部は把厚させ丸く収める	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	第II区域 L19~22/SX4764 K20~23/SX4764
141	越前焼 捏鉢	口: 36.0 高: 11.3 底: 19.0	焼色: 良好 橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部丸く収める 底部:平坦	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部中位~下位回転ヘラケズリ/体部下位縄目痕/底面未調整 内:口縁部~体部回転ナデ/幅2.4cm・9条の罫目が粗くめぐる/底面卸目	第II区域 I19/SE4768 内:全面スス付着
142	青磁 碗	口: 14.0 高: 5.2	焼色: 良好 オリーブ	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に線刻蓮花文	第II区域 N20/SB4767
143	中国製 鉄袖 天目碗	高: 3.2 底: 4.0	焼色: 良好 黒色	精緻 1/6	体部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:蛇の目高台		第II区域 N16/SX4770 外:底面~高台外側露胎
144	染付 皿	高: 3.0 底: 5.6	焼色: 良好 透灰青色	精緻 1/4	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に呉須色蕉文	第II区域 K20~23/SX4711

土製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
145	土製 円盤	3.9 3.7	2.0 37.3	1/1	越前焼 灰色	甕の破片周囲を打ち欠く	第I区域 K32/遺構面
146	土製 円盤	3.4 3.4	1.1 16.8	1/1	越前焼 濁緑色	甕の破片周囲を打ち欠く/自然袖付着	旧駐車場
147	形象品	2.7 2.9	2.7	1/8	鉄袖 黄土色	鉄袖水滴の注口/ 兎の頭部	第I区域 K29/SD4765
148	形象品	3.3 3.6	3.1	-	灰袖 白色	突起に粘土紐が本 巻かれる/頂部穿孔	第I区域 C40/遺構面
149	形象品	1.8 2.3	1.2	-	青磁 オリーブ	動物の耳/筆架の 飾りか	第I区域 表土

金属製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残 存	材質	特 徴	出土地点
150	和鉄	16.4 3.5	0.6 17.9	1/2	鉄製品	半身欠損/刃幅1.3 cm、刃部長6.4cm	第I区域 J33/SD4755
151	兜 飾金具	18.0 7.4	1.4 113	-	鉄製品	下端は三葉形/上 端に方形孔1/腰巻 き板を表裏から挟 んで4ヶ所鋸留	第I区域 G33/SX4759
152	彈丸	1.6 1.4	1.0 11.7	1/1	鉛製品	使用による潰れ	区域不明 表土
153	彈丸	1.5 1.5	0.8 0.8	1/1	鉛製品	使用による潰れ	第I区域 K31/遺構面

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残 存	材質	特 徴	出土地点
154	禱管	3.6 1.3	2.0 5.9	1/1	銅製品	煙管径0.9cm	旧駐車場
155	銅鏡	5.3 5.3	0.35 34.2	1/1	銅製品	双鳥瑞花亀文鏡 鏡背:圏線2・21弁 の菊花文3・天蓋1 ・亀1を配す/紐孔 半円形	第I区域 D28/炭泥褐色土

骨角製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
156	駒石	2.3 2.3	1.2 7.4	1/1	鹿角 黒色	半球形/中央に幅 0.35cmのV字溝/全 体平滑/黒漆塗り/ 底面平坦	第II区域 K21/暗褐色土

石製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
157	駒石	1.8 1.5	0.4	1/1	蠟石 白色	表面中央に刺突6/ 表裏擦痕	区域不明 表土
158	砥石	5.8 3.3	1.5	4/5	凝灰岩 灰色	紙面4/粒度:やや粗 中紙/軟質	第I区域 F36/遺構面
159	石硯	8.1 5.6	1.0	1/2	粘板岩 黄灰色	表裏面剥落	区域不明 表土
No	器種	上径 下径	高 孔	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
160	茶臼 上臼	11.3 11.3	8.2 1.7	1/2	安山岩 暗灰色	1.7cmの円形輪受穴を 穿孔/槽面欠損/側面 に3重菱形で表飾し た柄孔/全体平滑	第I区域 K32/遺構面
No	器種	幅 奥行	高 厚	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
161	バンドコ	25.7 20.0	14.7 2.5	4/5	笏谷石 淡褐色	0形バンドコの身部 方形透孔5と推定/ 透孔下にケガキ線 1/タタキ調整/全 体被熱	区域不明 表土
162	バンドコ	20.4 16.0	14.9 2.5	1/2	笏谷石 灰緑灰色	D形バンドコの身部 方形透孔4と推 定/タタキ調整/全 体摩耗	第I区域 E40/遺構面
163	獅子・ 狛犬	9.8 13.0	15.5	2/3	笏谷石 灰緑灰色	阿形座像/垂髪・上 歯5・下歯2・舌を 配す/前足後側に渦 文/腰側の断面にス ス付着/台座欠損	第II区域 N20/旧水田石垣

銭貨(PL.50 第47図)

単位:cm/g

No	種 類	法量(最大値)			残 存	時 期	出土地点
	台帳番号	径	厚	重			
164	開元通寶 714	2.3	0.11	1.8	3/4	唐 初鑄621年	出土区域不明 床土
165	開元通□ 1731	2.4	0.11	1.4	1/2	唐 初鑄621年	第I区域 H26・27/黄褐色粘質土
166	祥符通寶 2026	2.4	0.13	2.1	1/1	北宋 初鑄1009年	第I区域 I・J27/SD4753
167	元豊通寶 21848	2.5	0.1	1.7	1/1	北宋 初鑄1078年	第I区域 J32/遺構面
168	元祐通寶 2486	2.3	0.13	2.6	1/1	北宋 初鑄1086年	第I区域 J32/遺構面
169	元祐通寶 1796	2.4	0.10	2.3	1/1	北宋 初鑄1086年	第I区域 H33/遺構面
170	熙寧元寶 4285	2.3	0.11	2.4	1/1	北宋 初鑄1068年	第I区域 K33/SD4755
171	寛永通寶 713	2.3	0.14	2.8	1/1	3期新寛永 1697~1747 1767~1781	区域不明 表土
172	寛永通□ 85	2.4	0.08	1.6	1/1		旧駐車場
173	政和通寶 4284	2.3	0.09	1.8	1/1	政和通寶なら 北宋 初鑄1111年	第I区域 K33/SD4755

8. 第104次調査遺物(PL. 51～64 第48～70図、第5表)

第104次調査の遺物は、1～488を掲載した。大半が第V区域の包含層、遺構から出土した。内訳は第Ⅲ～V区域の土器(陶磁器類)1～364、土製品 365～380、金属製品 381～395、甲冑 396～416、木製品 417～432、石製品 433～458、ガラス玉 459、銭貨 460～488である。詳細は第5表に記し、以下、概要を述べる。

第Ⅲ～V区域包含層出土土器(PL. 51・52 第48～51図)

表土出土の青磁花瓶 11は瓶 284と同一器種と考える。染付皿 16は底部内面に褐釉の魚文が確認できる。染付扁壺 17は胴部の形状から63・64のような玉壺春型の壺の可能性がある。交趾三彩 18は輪花皿である。口径 6.0 cmを測り、色調は鈍い赤色を呈す。

第Ⅲ区域出土の越前焼播鉢 23は内面体部上位に通常に卸目を施した後、扇状に卸目を入れている。鉄釉大海茶入 43は外・内に茶黒色の鉄釉がかかる完形品である。鉄釉壺 45は胴部上位で張り出し、突帯がめぐる。青白磁盤 49は口径 24.0 cmを測り外・内に陰刻花文を施す。青磁台付瓶 51は脚台部であり、蛭口状を呈し、端面は露胎している。青磁蓋 52は酒会壺の蓋であり、笠部に陰刻花文を入れている。青白磁梅瓶 53は胴部上位～下位に唐草文を陰刻し、胴部下位に呉須条線 2条がめぐる。染付扁壺 63・64は玉壺春型の壺である。中国では主に酒器、日本では花生として用いられた。63は外面胴部に呉須の圈線、玉抱き獅子文または風景文を描く。頸部側面に瓔珞文をもつ破片が接合する可能性がある。64は胴部下位に呉須複弁蓮華文が描かれ、高台は楕円形を呈す。

第Ⅳ区域出土の越前焼火桶 66・67は寸胴形を呈し、66は外・内面に赤色化粧土が残る。第V区域出土の土師器皿 81～83は口径 13.8～15.6 cmを測り、81・82は底部未調整である。瓦質土器手焙 89は方形の火鉢であり、体部はミガキで調整され、四隅に脚部をもつ。染付碗 105は外面底部に呉須「天祥年造」の銘款を施す。

第Ⅲ区域遺構出土土器(PL. 53 第51～53図)

SI4817 出土(PL. 53 第52図) 越前焼播鉢 126は口径 42.0 cmを測り、内面体部に幅 2.7 cm・9条の卸目を密に入れる。底面にも卸目が入る。SD4808、SA4781 出土破片と接合した。短頸壺 128は胴部上位に突帯がめぐる。

SI4816 出土(PL. 53 第52図) 染付碗 130は口径 14.8 cm、器高 6.5 cmを測り、外面体部に呉須圈線・草花文・芭蕉文を施し、内面底部に法螺貝を描く。

SF4813 出土(PL. 53 第52図) 土師器皿 137～139・141は口端部にススが付着し、灯明皿として使用されている。青磁碗 143は体部に線刻蓮花文を施す。染付杯 144は内面底部に太湖石を描く。

SF4814 出土(PL. 53 第52図) 鉄釉大海茶入 142は口径 5.3 cm、器高 5.5 cmを測り、完形品である。体部上位で張り出す。外面体部下位～底部は露胎する。

SF4815 出土(PL. 53 第52図) 鉄釉四耳壺 148は胴部上位に4つの把手が付く。胴部下位は露胎している。

第Ⅳ区域遺構出土土器(PL. 53・54 第53図)

SB4790 出土(PL. 53 第53図) 大規模武家屋敷Aの主殿の遺物である。灰釉碗 165は口径 16.5 cmを測り、鉄釉湯天目碗を模している。灰釉三筋壺は最大径でも14.0 cmを測る小型品である。青磁盤 167は第V区域SB4786 出土 198と同様な量と考える。白磁皿 169は口径 9.6 cm、器高 2.0 cmを測る小型品である。

SD4806 出土(PL. 54 第53図) 土師器皿 175～181は灯明皿である。盤 182は口径 17.0 cmを測る。灰釉瓶子 184は口縁部しか残存していないが、口径 5.6 cmを測り、大型品と考える

第V区域遺構出土土器(PL. 54～58 第54～60図)

SB4788 出土(PL. 54 第54図) 青磁盤 195は口径 46.0 cm、器高 10.0 cmを測り、内面体部に鎬蓮花文、底部に陰刻花文を施す。

SB4786 出土 (PL. 54 第54図) 青磁盤 198は195より一回り小さく、口径 38.6 cm、器高 8.2 cmを測り、内面体部に鎬蓮花文を施す

SB4846 出土 (PL. 54 第54図) 染付碗 203は口縁部と体部下位に呉須圏線を施し、内面口縁部に呉須圏線、底部に「福」の文字を入れる。朝鮮鉢 204は扁平な器形であり、側面に注口をもつ。

SB4791 出土 (PL. 54 第54図) 青磁花托 206は口径 9.0 cm、器高 21.1 cmを測り、体部下位に円盤状の突帯が付く。体部に陰刻花文、突帯上下面に斜行文が陰刻される。稜花皿 205の内面口端部には陰刻花文がめぐる。

SD4797 出土 (PL. 54・55 第55図) 越前焼捏鉢 210は口径 31.2 cmを測り、内面体部はカキメを施す。土師器皿 211～221が出土し、218・219は口端部にススの付着はないが、底部内外面に黒斑をもつ。

SD4798 出土 (PL. 55～57 第55～58図) 土師器皿 236～262の半数は口端部にススが付着する。浅鉢形B類、浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類が主体をなすが、260～262のような盤形D類も含まれていた。青磁香炉 282は割り高台であり、283は底部周縁の脚部ではなく底面中央で接地している。瓶 284は胴部に牡丹・唐草文を陽刻し、胴部下位に突線・鎬蓮花文をめぐらす。染付碗 297は内面底部に呉須魚文・唐草文・圏線を描く。タイ製四耳壺 299は胴部上位に半環状の把手が付く。鉄釉は2度掛けしている。

SS4824 出土 (PL. 57 第58図) 染付双耳瓶 325は口縁部に呉須芭蕉文・アラベスク文、胴部上位に鱗文、胴部中位～下位に牡丹・唐草文・宝相文を施す。双耳把手に魚文を描く。明代 16世紀前半～中頃のものと考えられる。

SD4801 出土 (PL. 57・58 第58～60図) 越前焼短頸壺 326は胴部上位が張り、ヘラ記号を刻み、突帯がめぐる。瓶 328は下膨れの器形であり、外面胴部下位をヘラケズリで調整し、底部に回転糸切り痕が残る。鉄釉水滴 343は三葉文状の把手が体部上位に付き、注口部は断面八角形を呈す。青磁酒会壺 348は胴部に陽刻牡丹・唐草文を施す。52のような蓋と組になる。白磁皿 356は口径 17.5 cmを測る中型品である。染付皿 363は内面底部に褐釉の魚文を描く。

土製品 (PL. 58 第61図) 土錘 365～371は大型品であり棒巻き付け技法で成形している。全体はナデ調整である。370・371には使用による紐ずれ痕が残る。土製円盤 372は越前焼甕、373は鉄釉天目碗の底部周囲を打ち欠いたものである。茶入蓋 374は径 2.5 cmを測り、5弁の梅花文を線刻している。青磁装飾の破片 375は第Ⅲ区域SX4836から出土し、板状の表面に円形浮文を7つ表現し、裏面に柱状装飾が付けられている。特殊な形状から筆架または花瓶の脚台の可能性もある。仏像 375はタイ製三彩陶器である。観音座像であり、光背は周縁は炎光で表現されている。薬研 377～379は薬研の舟部である。長方形の板状の底部に細長い舟部を接合させ、越前焼で製作されている。舟部の長さは不明だが、口縁部の幅は10.5～11.2 cm、高さ5.6～7.4 cmを測り、底部は摩耗している。380は薬研の円盤であり、越前焼で製作され、径 14.5 cm、厚さ3.4 cmを測る。中央の軸孔は方形を呈す。

金属製品 (PL. 59 第61図) 鎧金具 384は金銅製の飾金具であり、中央に径 1.0 cmのツマミをもつ。ツマミの頂部には斜行格子文、側面は直線文を縦方向に毛彫りする。押付板の部分にも周囲に圏線を入れ、内部に魚子打や文様を施している。責金具 385は径 3.8 cm、幅 1.1 cmを測る。全体に漆が施されている。紅皿 386は花卉状に成形された銅製の皿であり、菊皿、童子とも言われる化粧皿である。第Ⅴ区域SB4788で出土した。金匙 387・388は鉄製の匙である。匙面両辺はわずかに内側に反る。蓋 389は鉄製であり、浅い寸胴形を呈す。径 8.6 cm、高さ4.0 cm、重量 128.3gを測る。天井面中央に振じりをいれた鈕が付く。鉄鏃 392は征矢である。茎部が屈曲しているが、ほぼ完形であり、長さ15.3 cm、重量 20.6gを測る。切羽 394は銅製で、花形の形状を呈す。猪目、条線を施し、漆で仕上げられている。395は倒卵形の形状を呈し、片面を黒漆、片面を鍍金で仕上げている。

甲 冑 (PL. 59～63 第 61～66 図)

甲冑は、第 104 次調査を代表する遺物であり、大規模武家屋敷Aの主殿SB4790の北東側に近接する第IV区域SD4848の溝内(X003・004 地点)やその周辺(X001・002 地点)とSD4805の溝内(X005 地点)から出土した(第 36・37 図)。ただし、これらを含めて全般的に出土状況の記録が乏しく、一定の形状をとどめながらも出土地点不明な小破片等については本報告から除外した。ここでは図化し得た396～416について述べる。

小札 396はハート形をした札頭の形状から伊予札に分類される。鉄製で緘の穴を6孔有す。兜鞆は兜の後頭部から左右側頭部の下側に付属する甲冑である。兜鞆 397・398はSD4848 内のX003 地点から出土したものである。共に小札は鉄製であり、右上がりの札頭の上位に緘の穴が3、その下に毛立ての穴が2、中位から下位に下緘の穴が8あり、本小札または平小札に分類される。札足 6.8 cm、札幅 2.1 cm、厚さ0.4 cmを測る。397はこの小札を札板としてつなぎ合わせ、上段 22 枚、下段 20 枚で構成する。下緘には細い韋紐を用いていたと考えられ。全体に厚く黒漆が塗られている。兜鞆 399・400はSD4805 内のX005 地点から出土したものである。共に小札は鉄製の本小札であり、札足 6.8 cm、札幅 2.6 cm、厚さ0.3 cmを測る。399・400の札板も下緘に細い韋紐を用いてつなぎ合わされ、黒漆が塗られていた。

草摺は下半身を防御する甲冑であり、草摺 401～405はSD4848の北側に近接したX001 地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、2～3 段分が折り重なって出土しているようにうかがえる。全体的に漆の被膜だけが残存し、固い革ではなく、やわらかい韋製の本小札で札板を構成したと考える。札頭の右上半部分は地の粉(陶器の粉末)と漆を厚く盛り、いわゆる盛上小札にしている。緘の穴の内面にも漆が認められることから、製作手順として、最初に一枚毎に漆を塗布した後、下緘でつなぎ合わせ、仕上げに再度黒漆で仕上げたと考える。405は草摺の最下段であり、下緘を絹糸の束で菱縫し、2 段の菱縫を朱漆で×字に塗る。小札は札足 6.6 cm、札幅 1.8 cm、厚さ0.4 cmを測る。札板の右端には耳札が残存し、左端は欠損しているものの、おそらく約 30 枚の本小札を札板とし、本来の札板の横長は21.5 cm前後と推定できる。401と403、402と404を接合した値もこれを支持し、草摺 1 段分の寸法は横長約 22.0 cm、幅約 6.6 cmと復元でき、少なくともX001 地点では最下段を含めて3 段分の草摺が出土したと考える。

大袖は札板を4 段綴状に重ねた、肩・腕を防御する甲冑である。大袖 406～409はSD4848の北側に近接したX002 地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、札板4段分が裏面を上にして出土していることが確認できる。全体的な様相や製作手順は前述した草摺 401～405と同様である。

409は大袖の最下段であり、約 44 枚の小札をつなぎ、横長 38.8 cm、高さ7.0 cmを測る。下緘を絹糸の束で菱縫し、2 段の菱縫を朱漆で×字に塗る。小札は本小札であり、札足 6.7 cm、札幅 1.8 cm、厚さ0.3 cmを測る。左端の耳札は、緘の穴が1 列だけであり、右上がりの札頭の上位に緘の穴が2、その下に毛立ての穴が1、中位から下位に下緘の穴が4あり、札足 6.0 cm、札幅 1.0 cm、厚さ0.3 cmを測る。

406の札板は、最上段の4 段目で約 48 枚の小札をつなぎ、横長 34.6 cm、高さ6.8 cm、408は3 段目で約 51 枚の小札をつなぎ、横長 36.0 cm、高さ6.5 cm、407は2 段目で約 47 枚の小札をつなぎ、横長 32.0 cm、高さ6.5 cmを測る。左右端に耳札が残る最上段の406と3 段目の408の寸法から見ても、大袖 1 段分の札板は横長 34.6～36.0 cm、高さ約 6.5～6.8 cmを測ることがわかり、X002の大袖を復元すると横長 35.0 cm前後、高さ約 25.0 以上と復元できる。

草摺 410～416はSD4848 東端の溝内X004 地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、410のみが撮影されており、他は厳密には周辺からの出土品の可能性もあるが、X004に含めて扱った。全体的な様相や製作手順は前述した草摺 401～405と同様である。410は草摺の最下段であり、下緘を絹糸の束で菱縫し、2 段の菱縫を

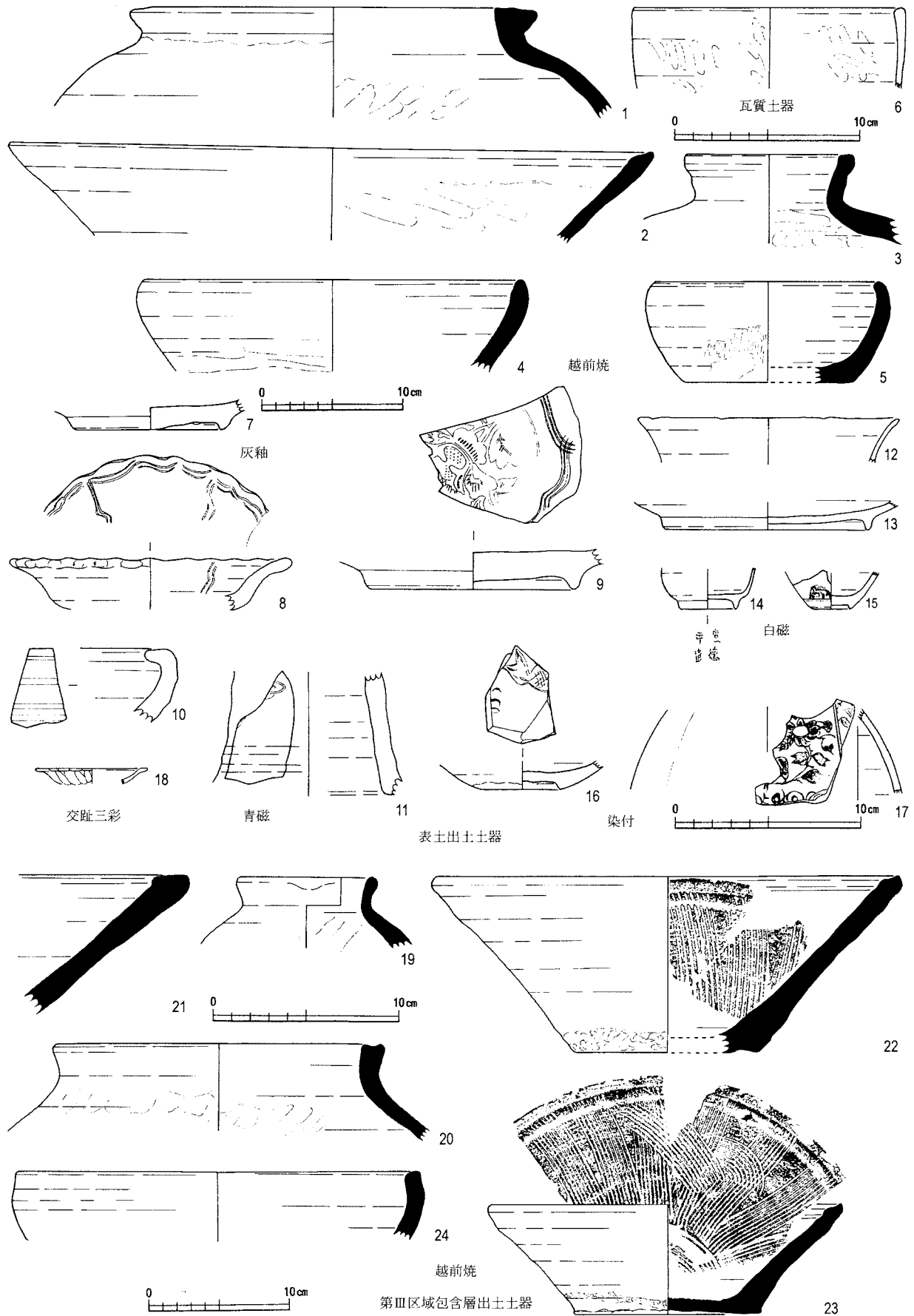
朱漆で×字に塗る。横長18.9cmを測る。札頭を含めた上部を欠損しているが、小札は札足6.8cm、札幅1.8cm、厚さ0.38cmを測ると推定する。札板の左右端には耳札が残存し、29枚の本小札を札板とし、草摺405と同工品と考える。414と416は接合して草摺最下段の札板になる可能性があり、X004付近では少なくとも草摺が2枚出土したことになる。

木製品(PL. 63 第66・67図) 漆器碗蓋417と碗身418と一組になり、儀礼・祭祀で使用するミニチュア品と考える。第V区域SD479から出土した。共に口径4.0cm前後を測り、外面は黒漆、内面は朱漆で仕上げている。既に保存処理済みのため、材質は不明であるが、418は散孔材と観察された。曲物底板419は径5.6cmを測る小型品であり、「背腸(コノワタ)」の墨書が記される。刳物容器423はトチノキを縦木取りした製品である。第V区域SD4801から出土した。内外に黒漆の痕が残る。掛花生424はタケ亜科であり、体部中位に径0.7cmの円孔を2つ穿つ。内面は黒色に炭化している。手箱蓋425は長さ21.3cm、幅9.8cm、高さ2.3cmを測る。第V区域SD4801内のX008地点から出土した。未接合断片から樹種はヒノキと判明した。四辺の角は面取りし、黒漆塗布後、外面に金象嵌で瑞果・荔枝文を施している。箱の身部側辺と考えられる部品も厚く黒漆を塗り、底部と接合する長辺にカキゾコを設け、木釘穴が6ヶ所残る。障子棧427～429の樹種はヒノキ科である。第V区域SD4801から出土した。426は下端を合欠し、428は上端を印籠継のホゾに加工している。429は下位にホゾ穴を設けるが貫通はしない。木柄430は蒲鋒形の板材を2枚合わせて一組とする刀子の柄である。樹種はヒノキ科である。外面上端は段状に加工し、下端に凹線を彫り、樹皮等を巻いて固定したと考える。内面にはわずかなケズリの痕跡が残る。木刀431の樹種はスギである。刃部側と刀背部側に関があり、柄頭は鈍角状に加工されている。432の樹種はヒノキ科であり、柄部に径0.4cmの円孔を穿つ。

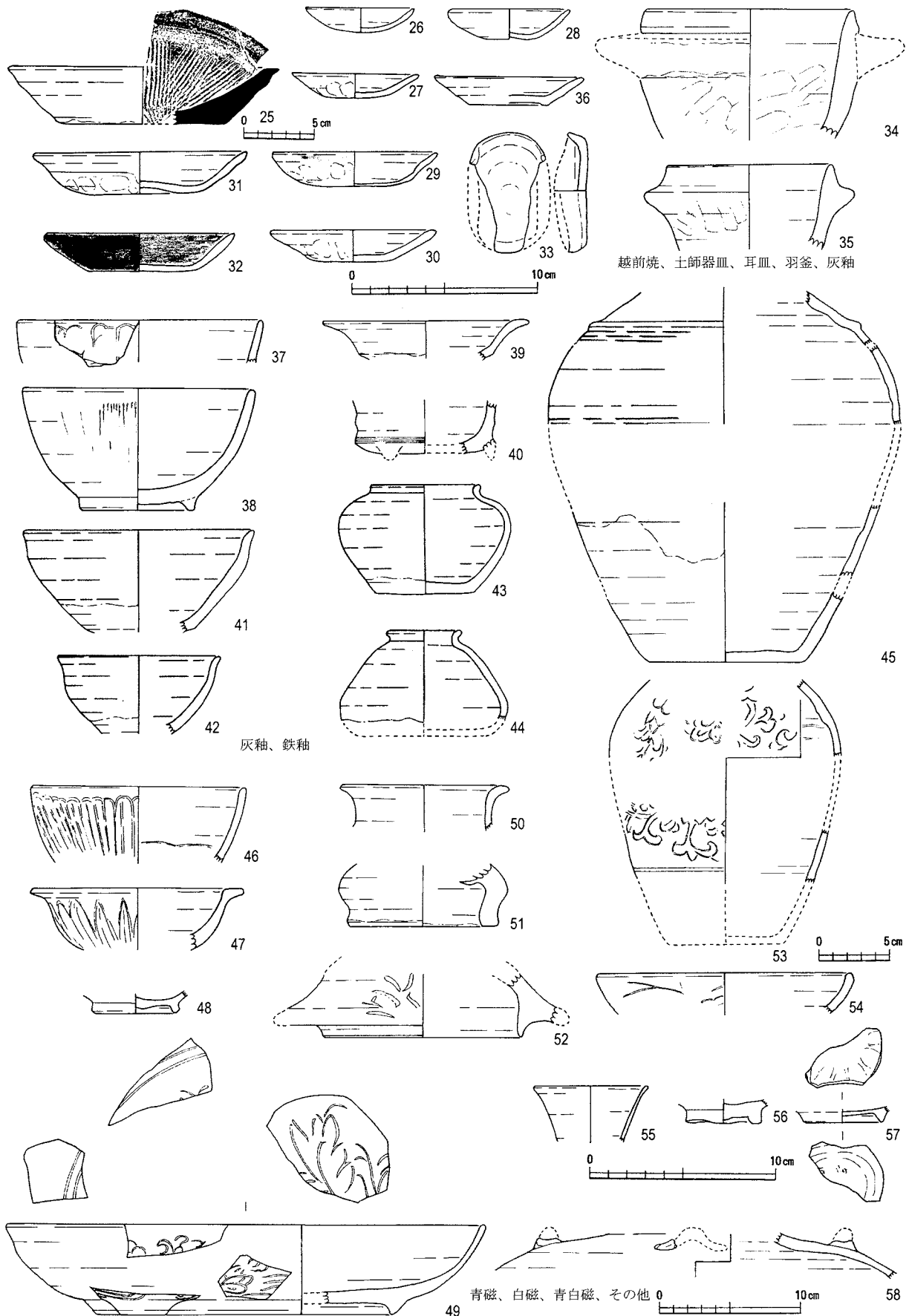
石製品(PL. 63・64 第67～69図) 砥石433～442は全て第V区域から出土した。中砥、中仕上げ砥石、仕上げ砥で占められる。SD4798から434・436・439が出土した。石硯440～442は頁岩製である。440は表面に雲形文が陽刻されている。441は長さ15.0cmを測り、海が小さく岡が細長い。442は長さ14.5cm、幅8.3cmを測り、裏面は挿手処に成形されている。茶臼の下臼443は斑晶質安山石製である。中央に径1.7cmの軸受穴を穿ち、播面は主溝7分画、副溝9条である。播面周縁に径34.7cmの皿状の受部が付く。444は花崗岩製であり、播面は不明。播面周縁に径33.0cmの鉢状の受部が付く。廃棄時に意図的な打欠をしたと考える。石臼の上臼445・446は笏谷石製である。445は小型品で径21.3cmを測り、播面は主溝8分画、副溝8条である。446は径31.0cmを測り、播面は主溝8分画、副溝4条である。炉壇448は笏谷石製で第V区域SD4797から出土した。幅49.5cm、奥行28.1cm、高さ23.5cmを測る。底面四隅に脚部が付く。全体は灰褐色に被熱している。バンドコ449～457は笏谷石製であり、全体は被熱している。O形は449・450・452～455であり、452・453の身部は幅15cm前後、器高10.0cm前後の小型品である。454・455の身部は幅25cm前後、器高14.5cmを測る。D形は蓋451のみである。長方形は蓋456・457が出土し、幅23.5～25.6cm、奥行15.6～16.5cmを測る。

ガラス製品(PL. 64 第69図) ガラス玉459は径0.75cm、高さ0.55cm、孔径0.18cm、重量0.4gを測る。第Ⅲ区域SF4814から出土した。透明なコバルトブルーの色調を呈す。第130次でガラス玉工房が確認されているが、弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。第100次調査では翡翠製勾玉(247)も出土しており、3～4世紀の集落の存在を示唆する。

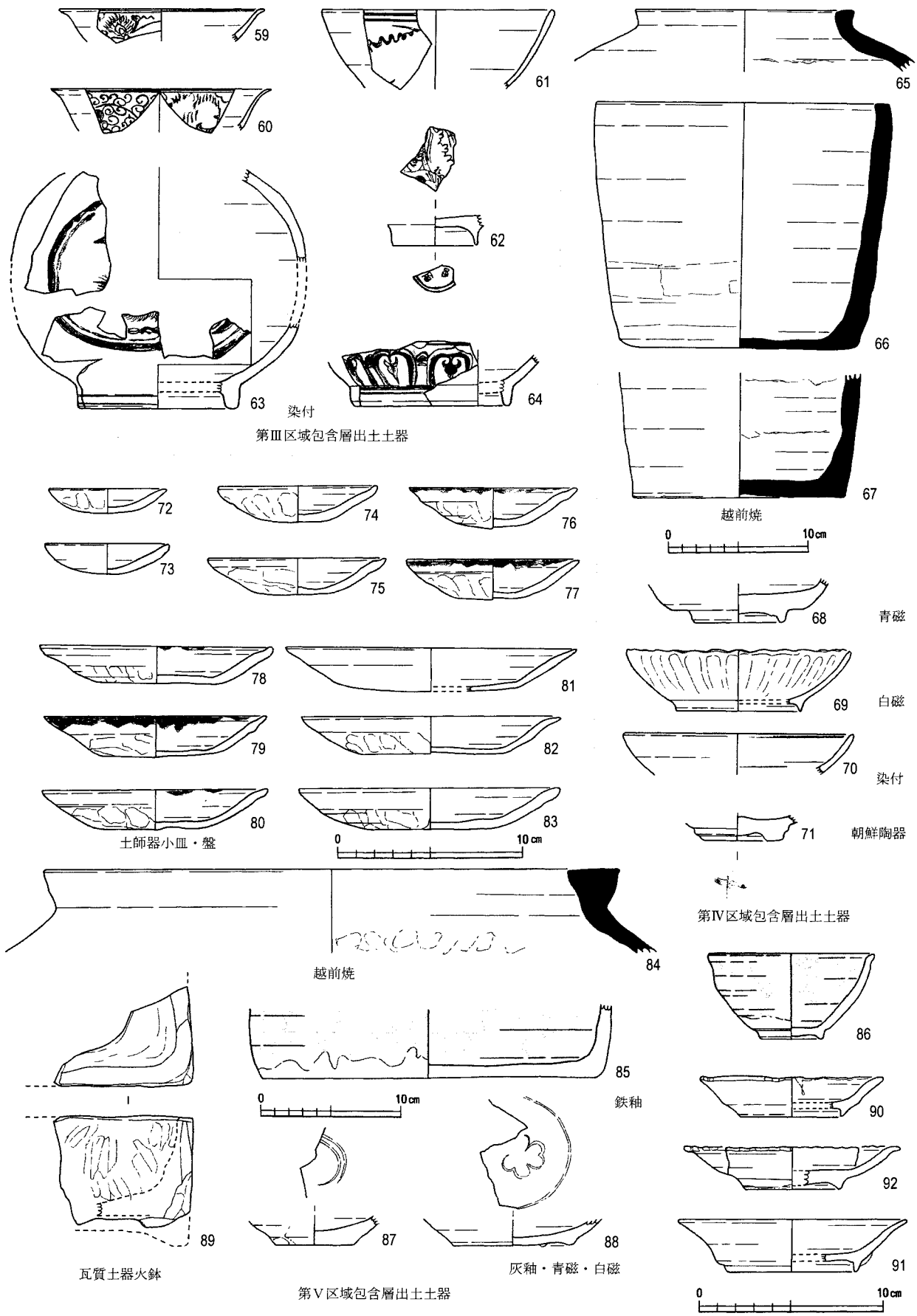
銭貨(PL. 64 第69・70図) 銭貨460～488が出土した。第5表中の第Ⅰ・Ⅱ区域の出土銭貨は、第104次調査時に再発掘して出土したものであり、第104次調査のものと便宜的に扱った。第Ⅳ区域SD4804から「元豊通寶」471、SD4798から「元豊通寶」472、第Ⅴ区域SB4787から「皇宋通寶」462、SD4799から「紹寧元寶」468、SD4794から「元豊通寶」470・「咸淳元寶」476が出土した。



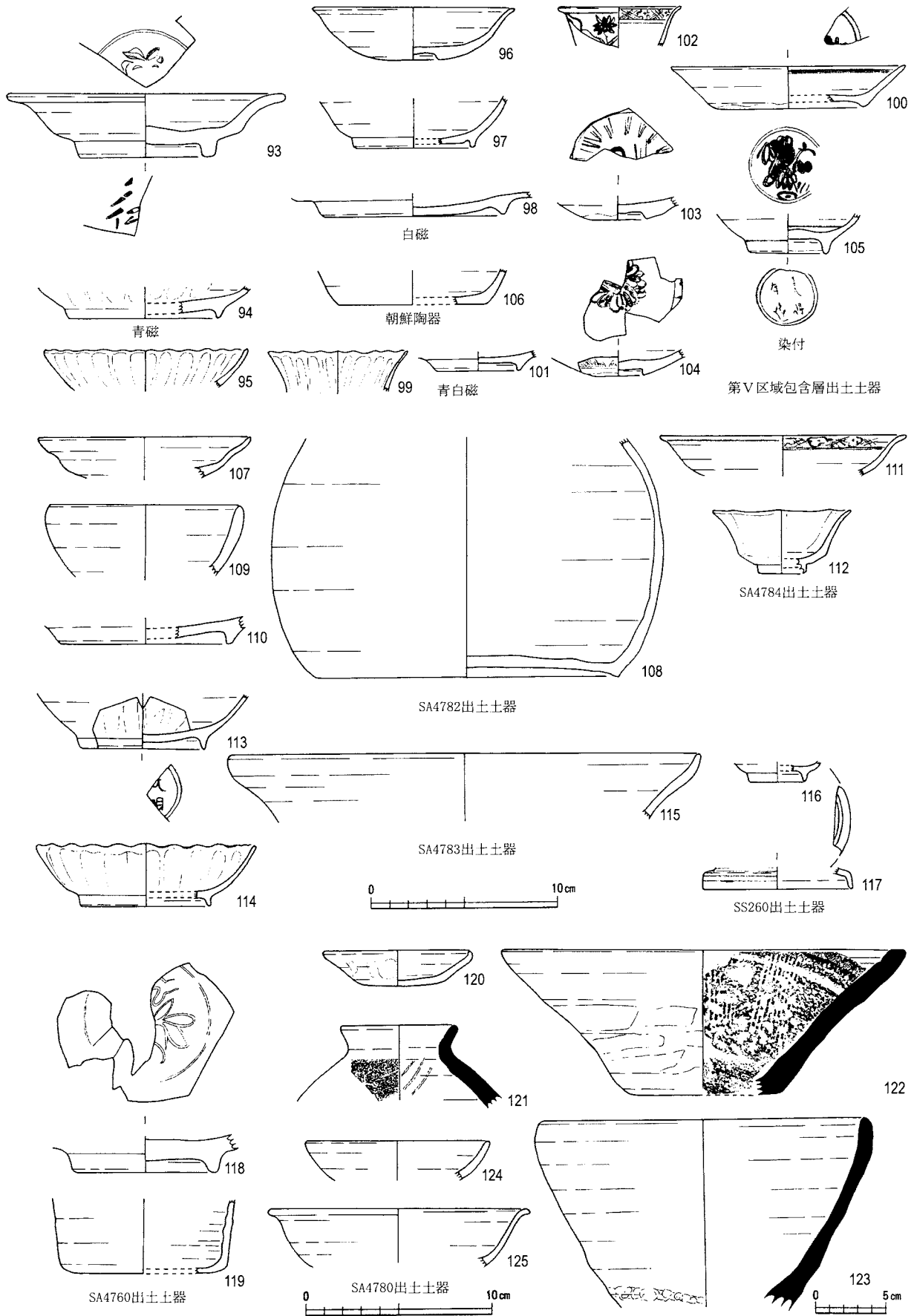
第48図 第104次調査 表土、第Ⅲ区域包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)



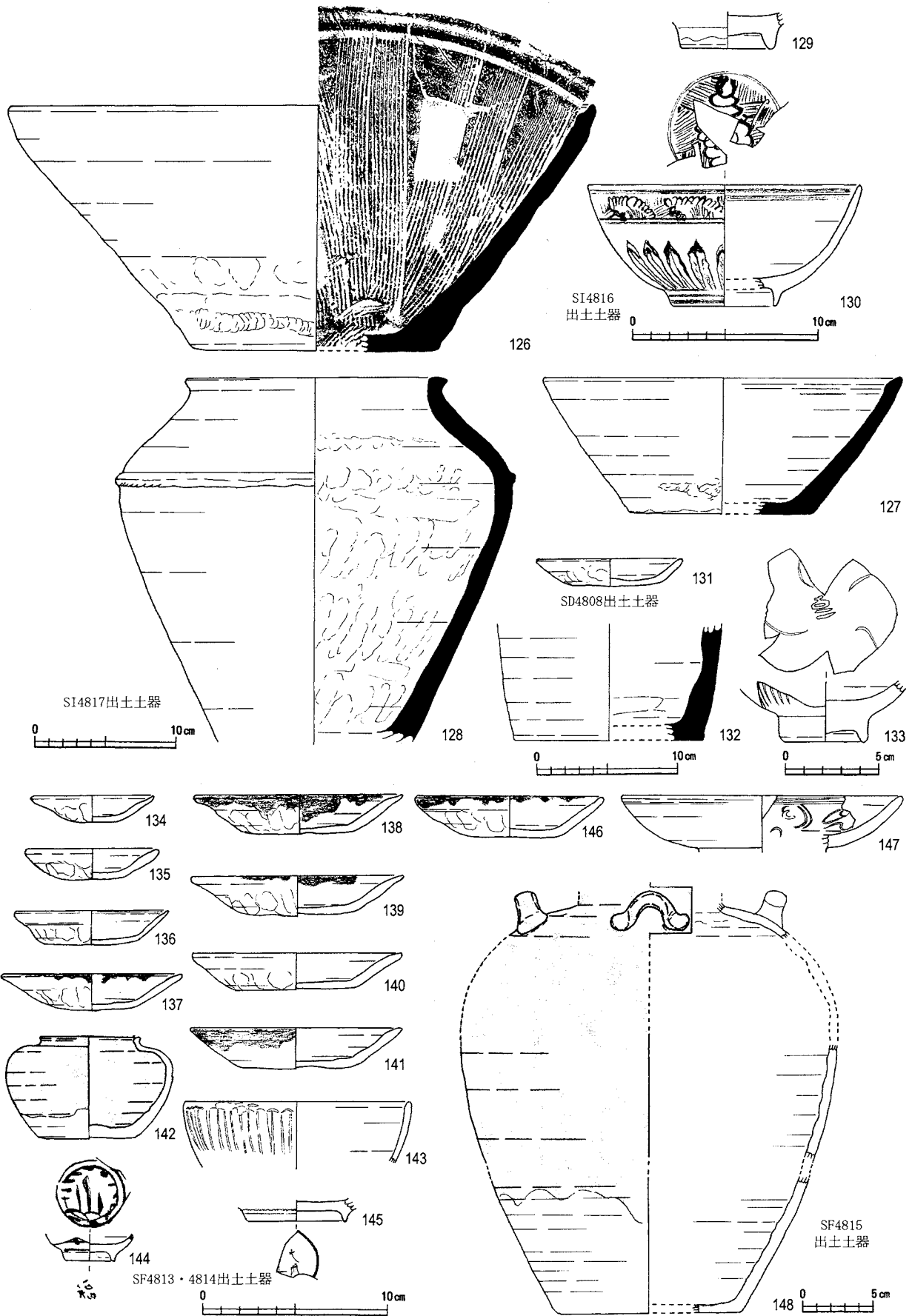
第49図 第104次調査 第三区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



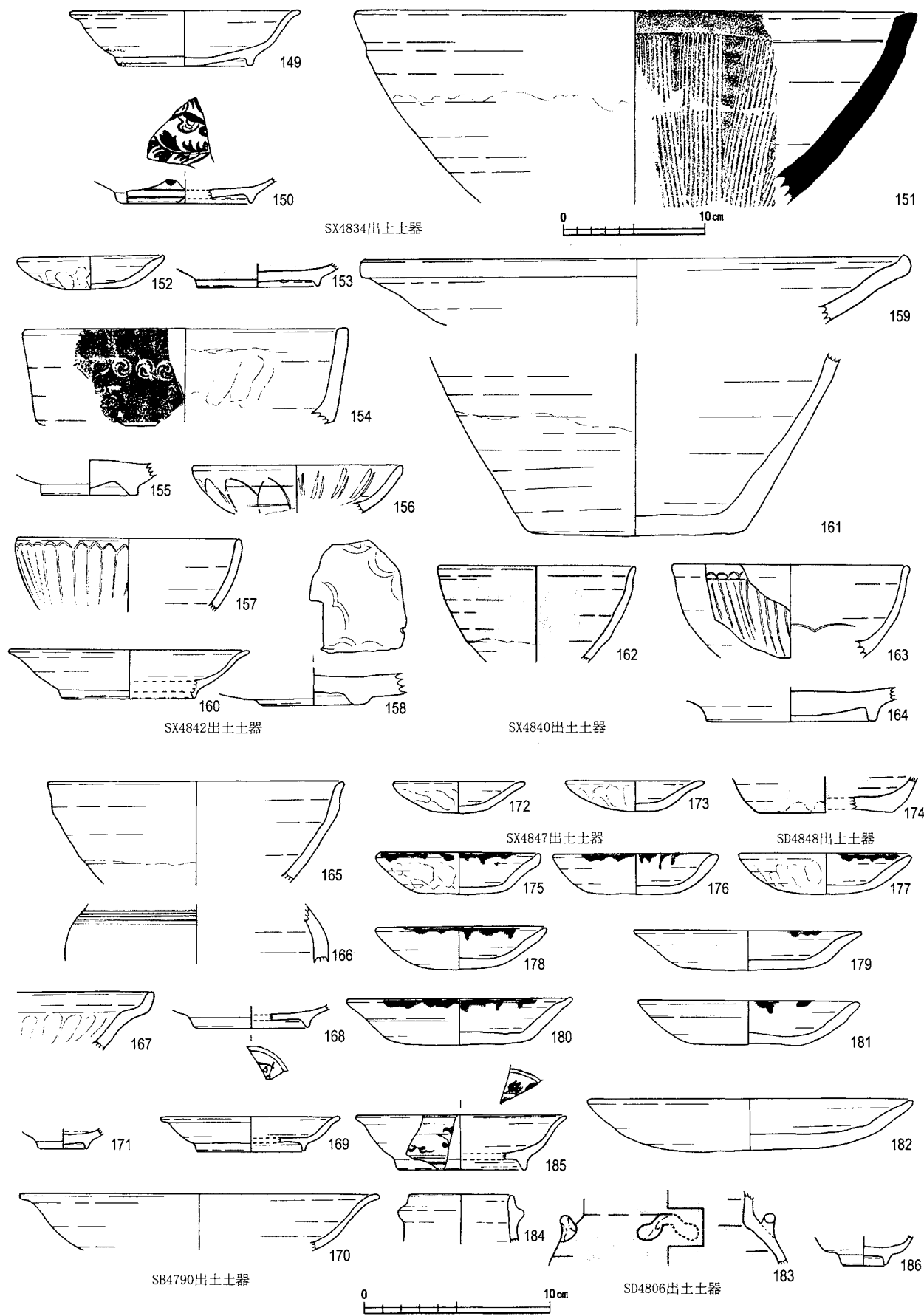
第50图 第104次調査 第III~V区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



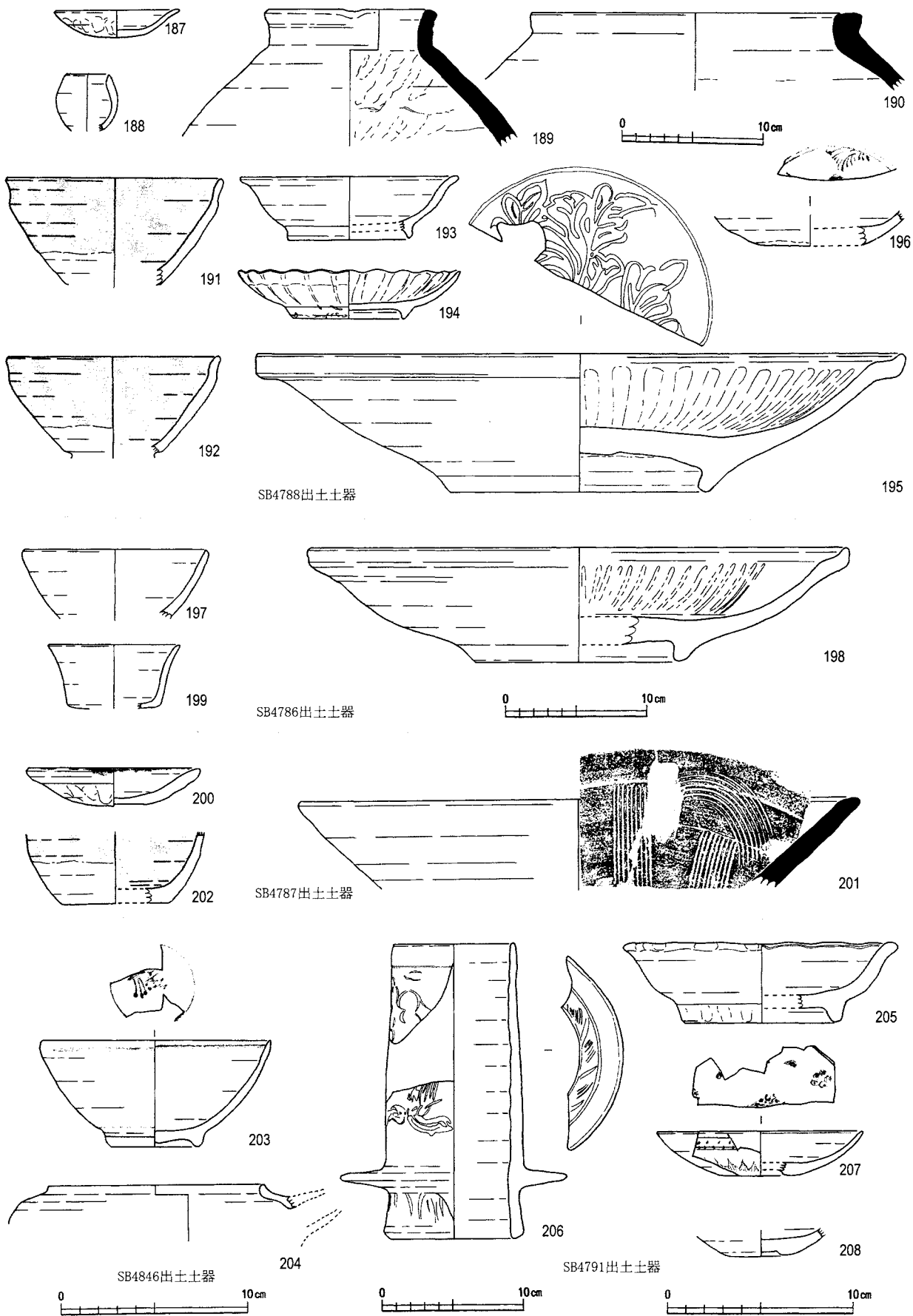
第51図 第104次調査 第V区域包含層出土土器、第Ⅲ区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



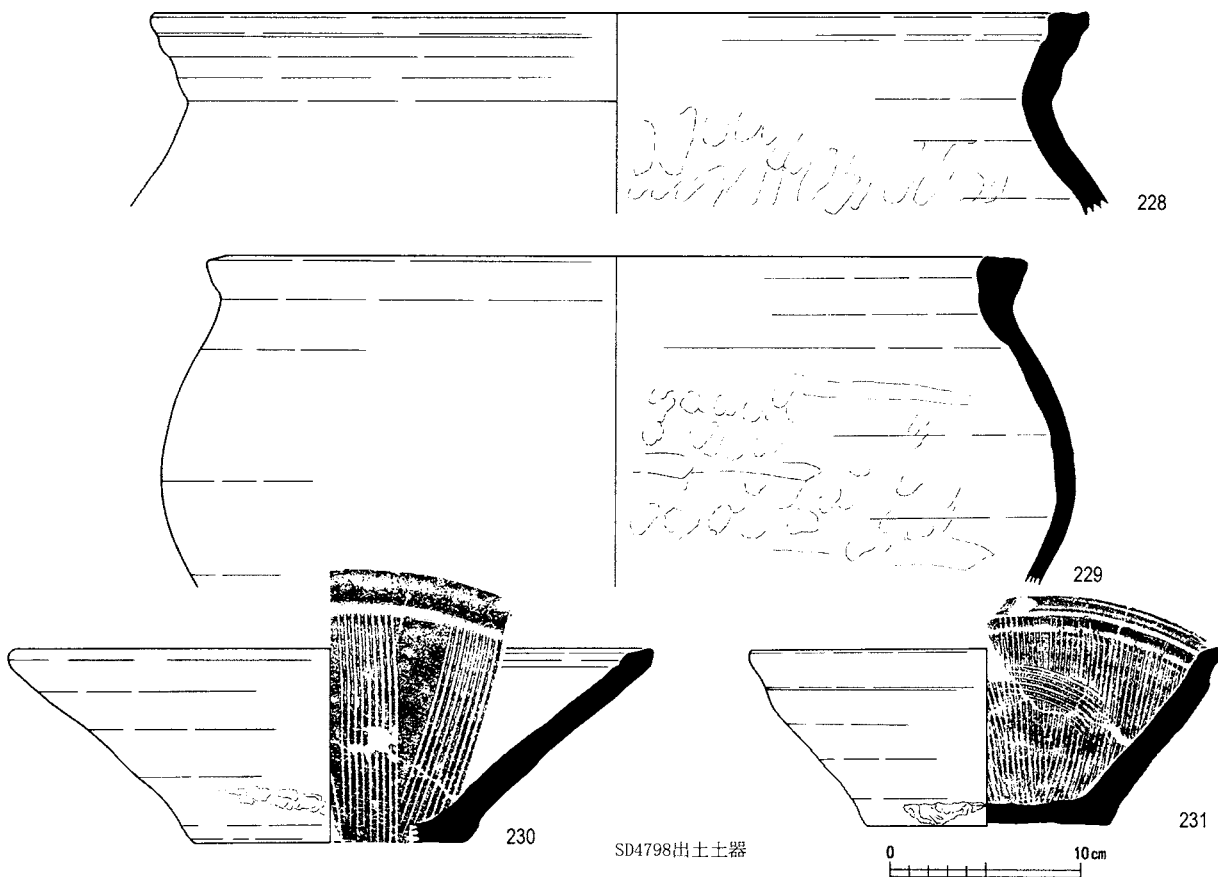
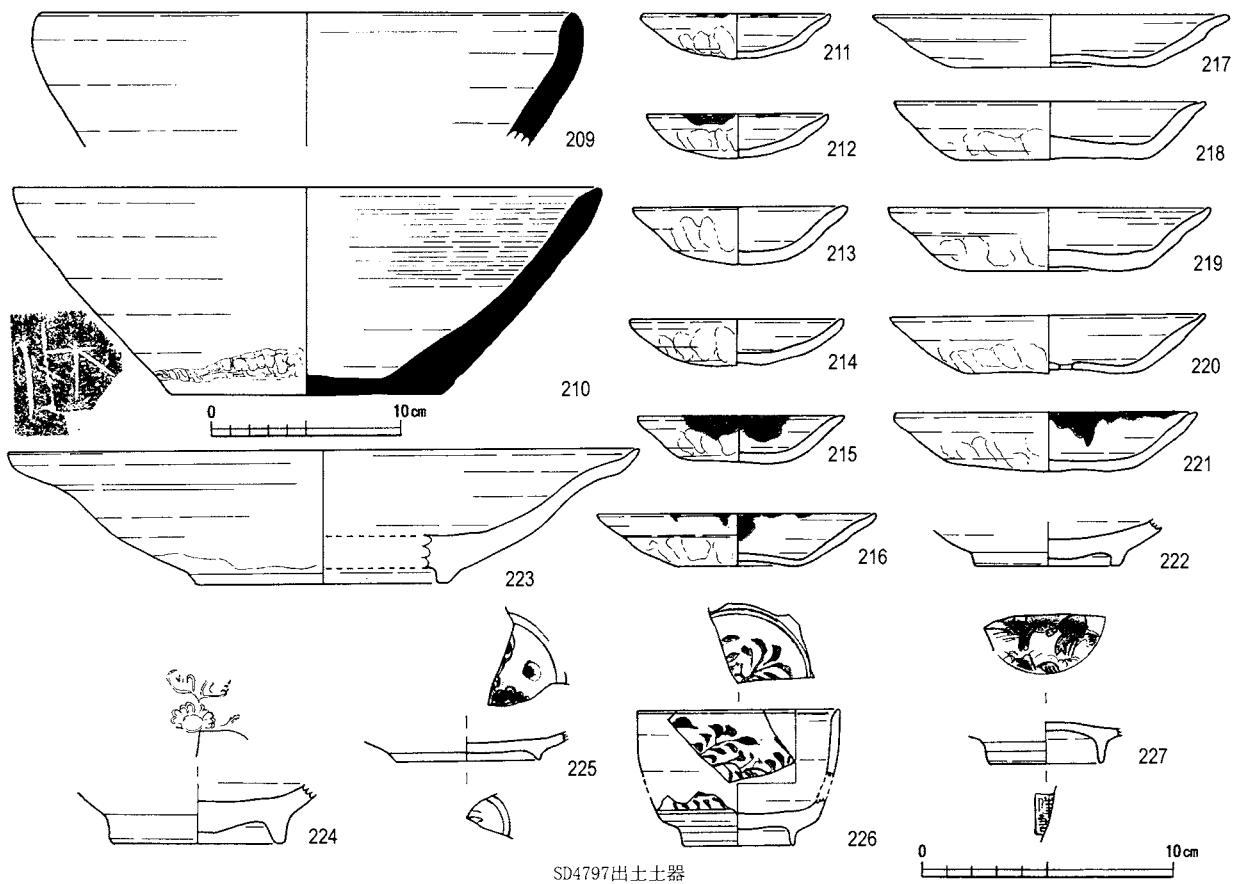
第 52 図 第 104 次調査 第三区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



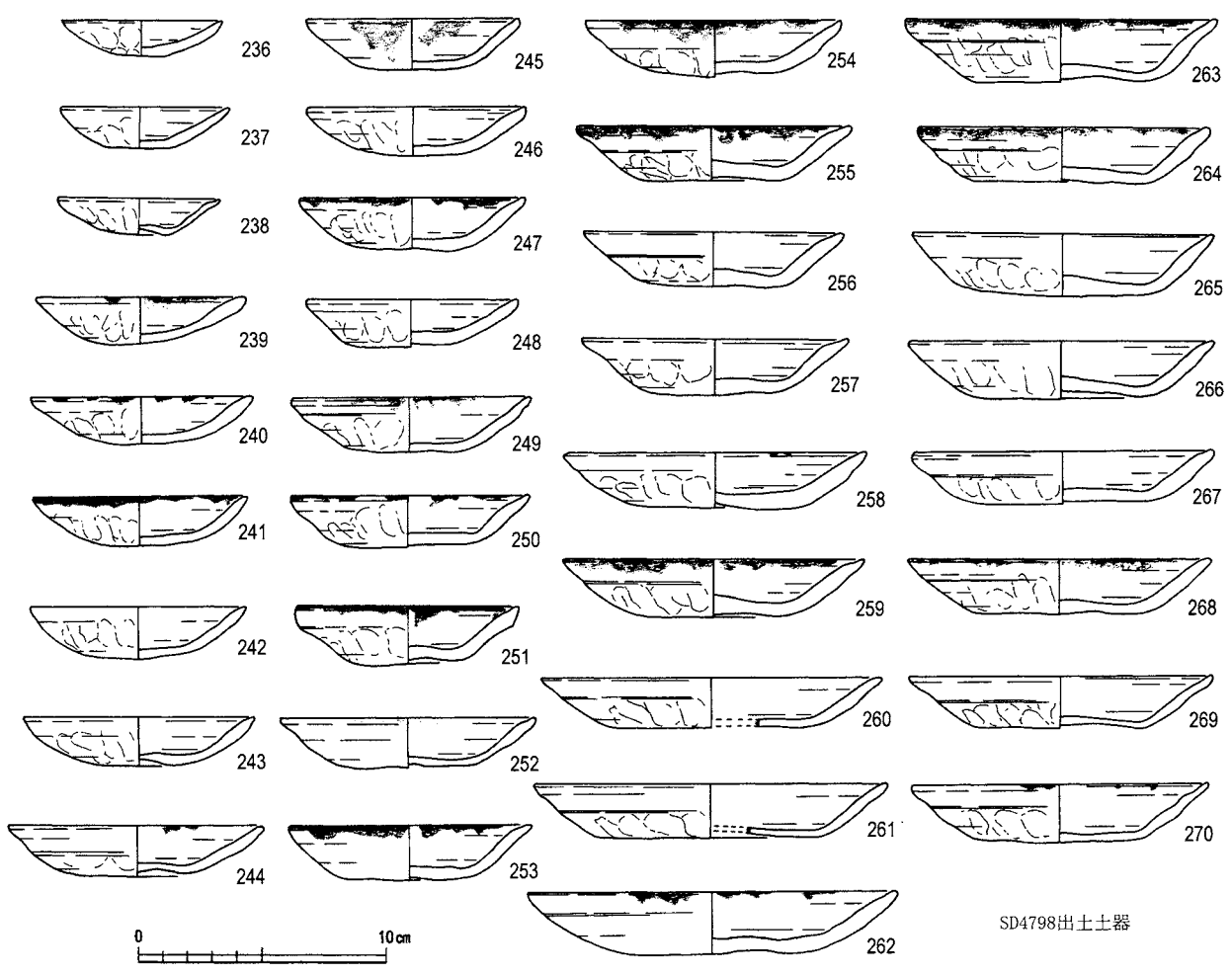
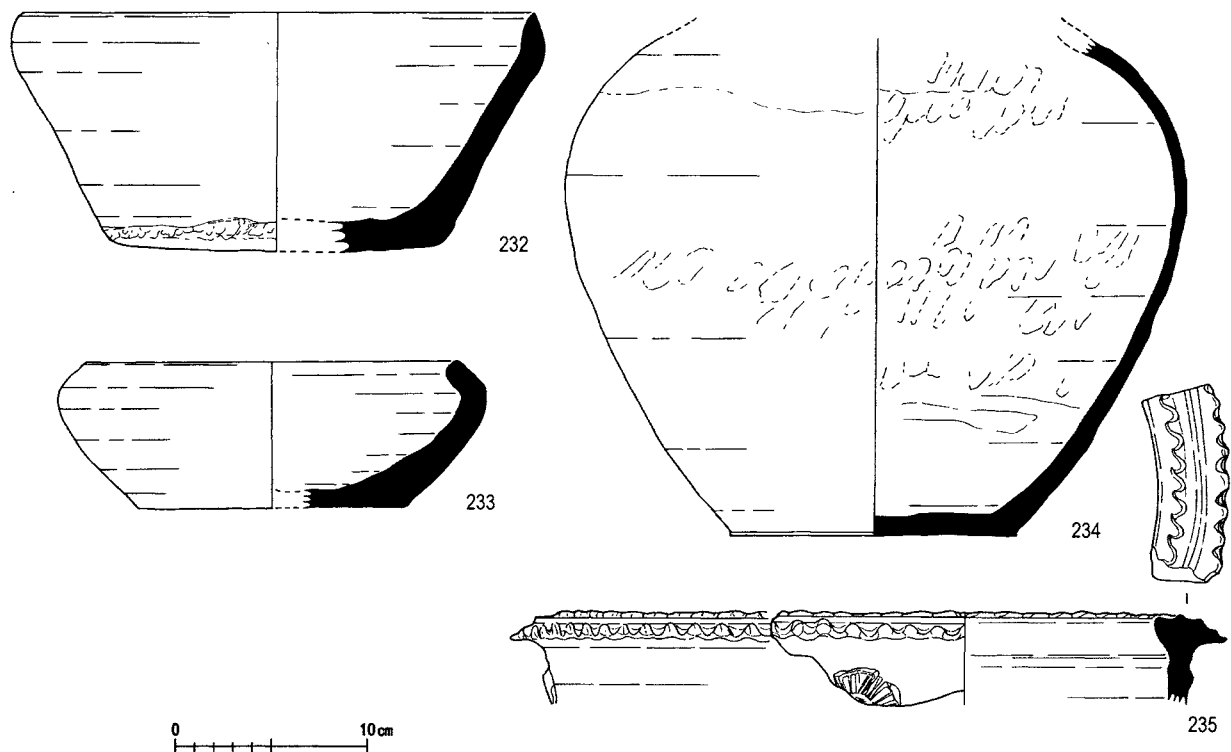
第53图 第104次調査 第三・IV区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



第 54 図 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

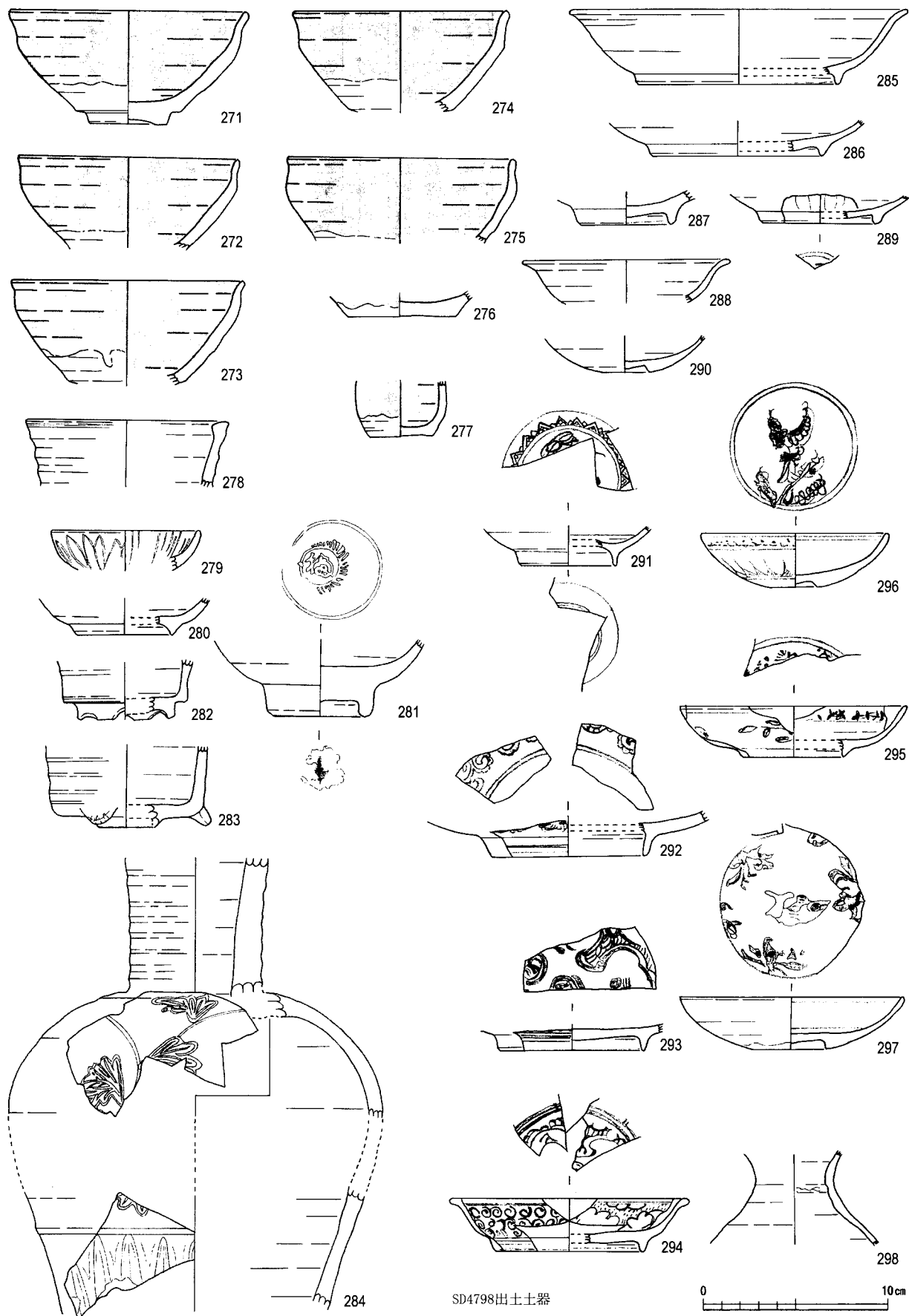


第55図 第104次調査 第V区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

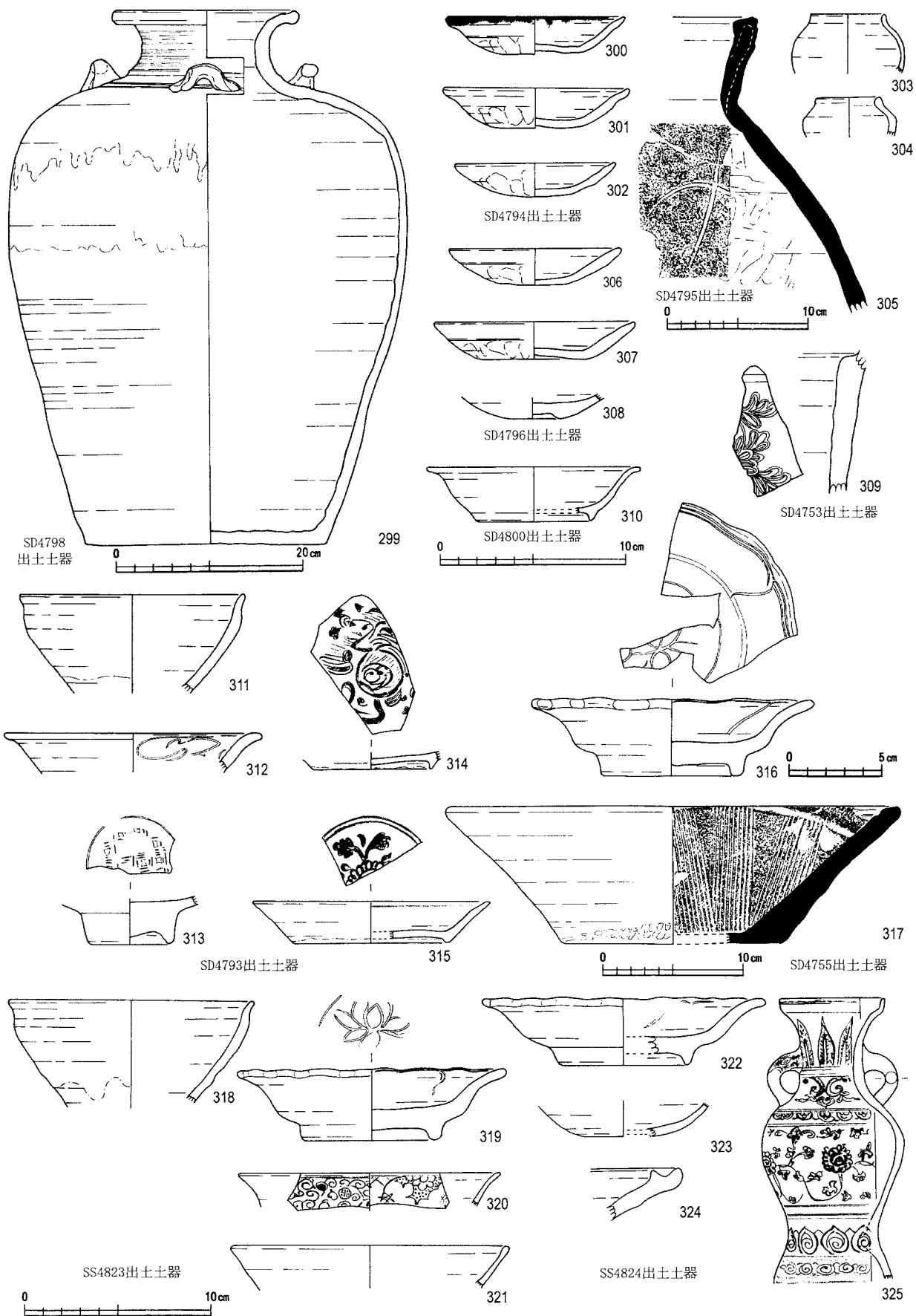


SD4798出土土器

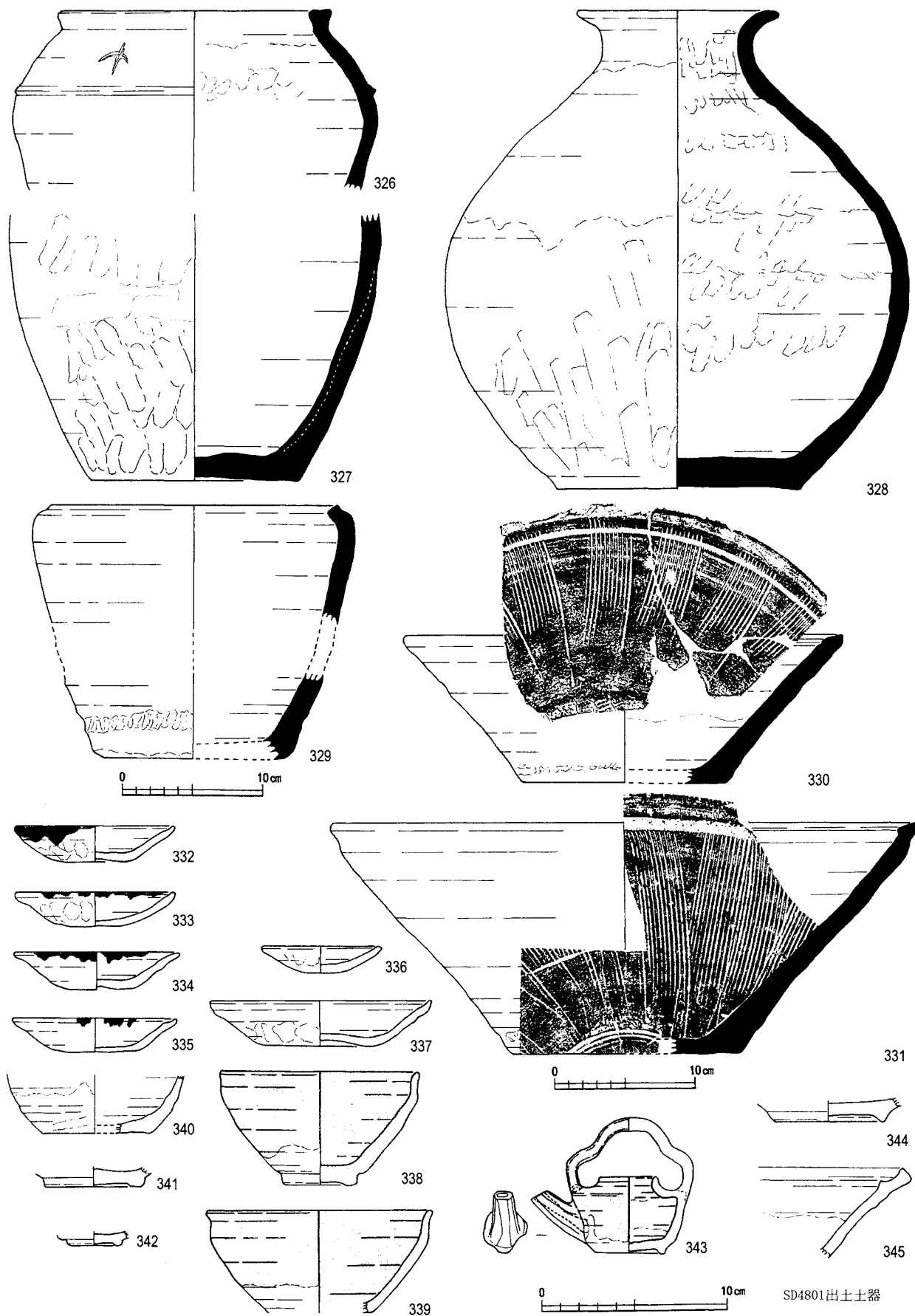
第 56 図 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



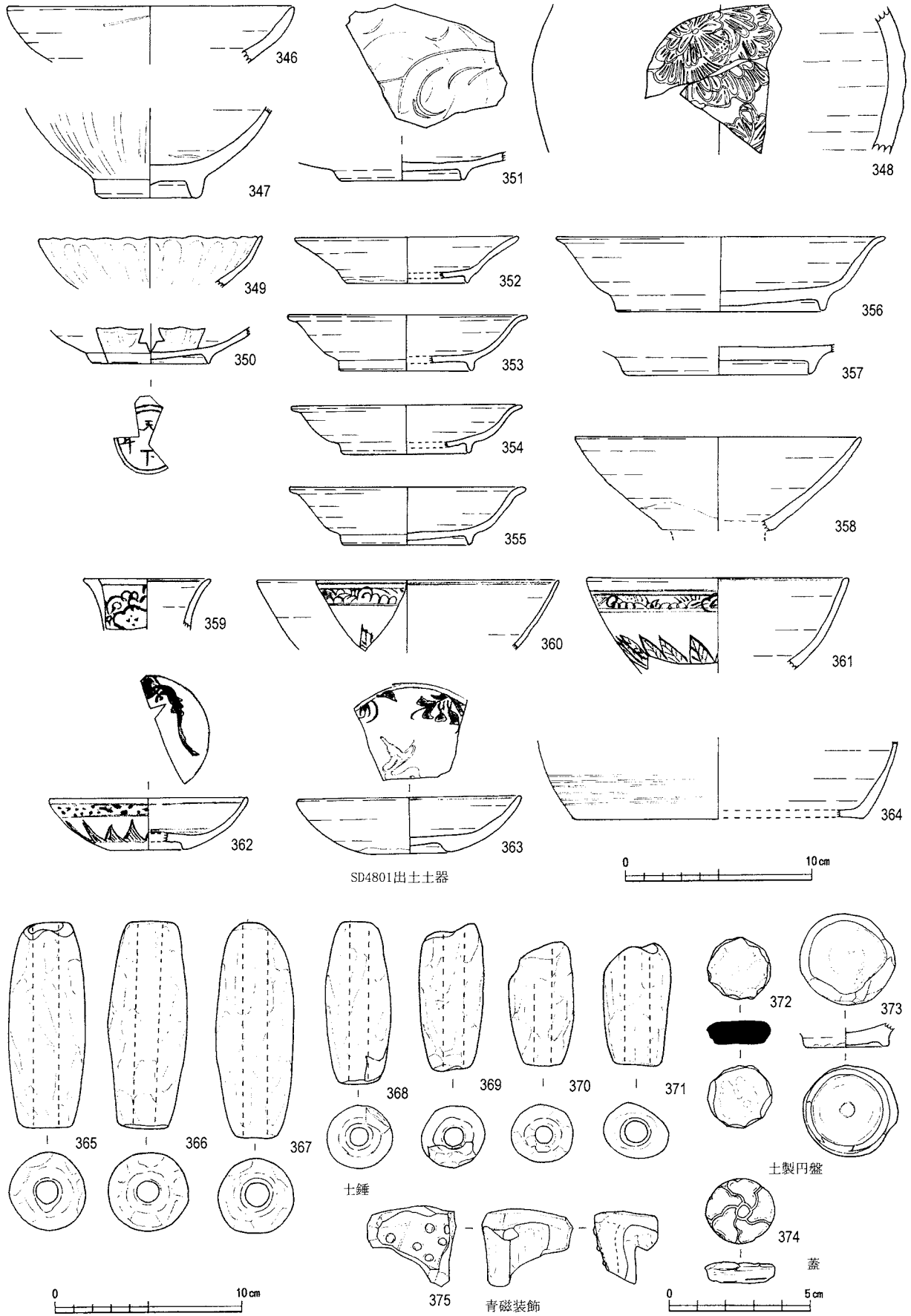
第 57 图 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3)



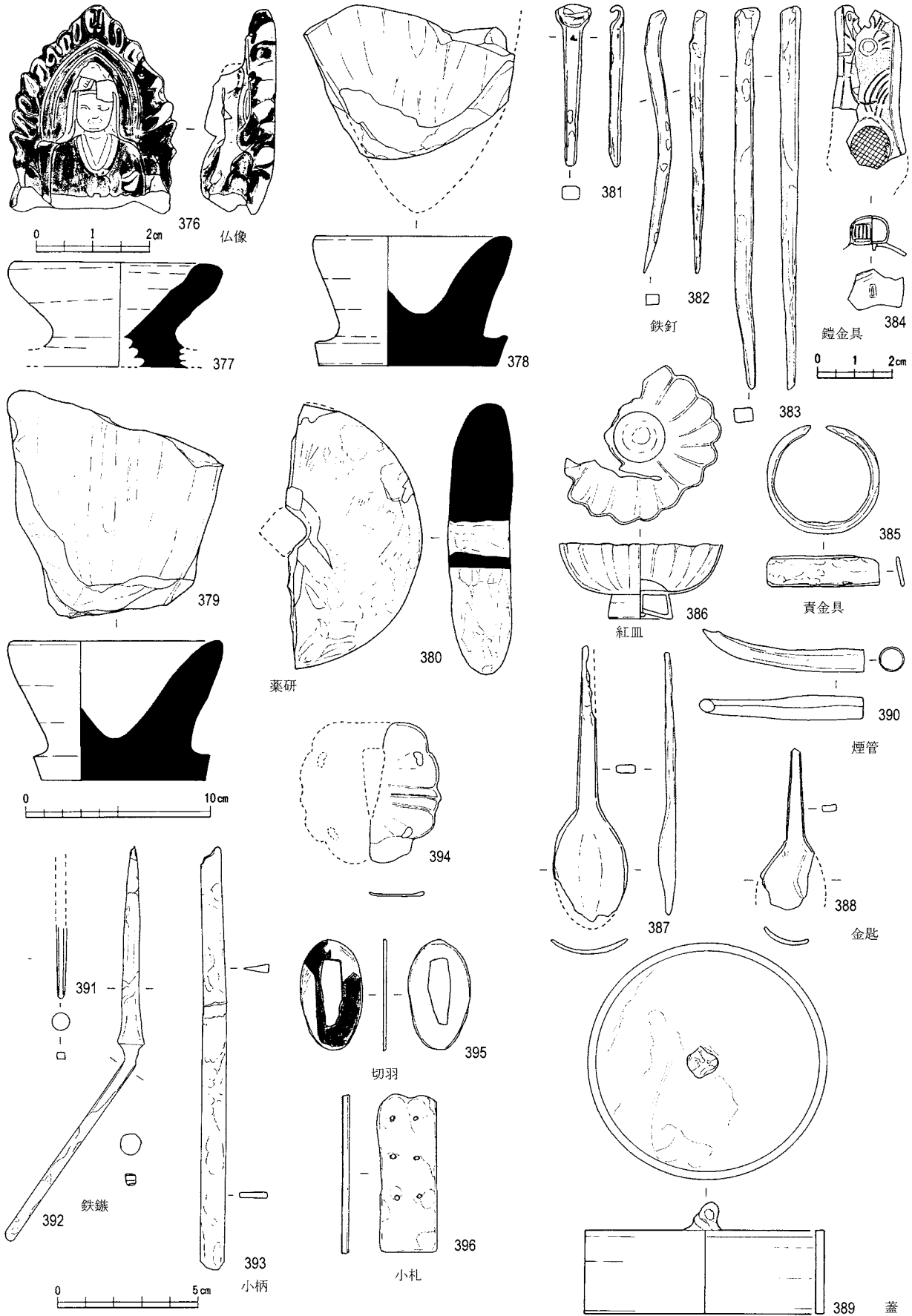
第 58 図 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6)



第 59 図 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



第60図 第104次調査 第V区域遺構出土土器、土製品(縮尺1/2、1/3)



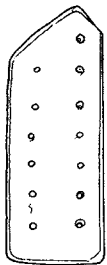
第 61 図 第 104 次調査 土製品、金属製品、甲冑(縮尺 1/1、1/2、1/3、2/3)



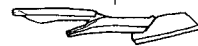
397



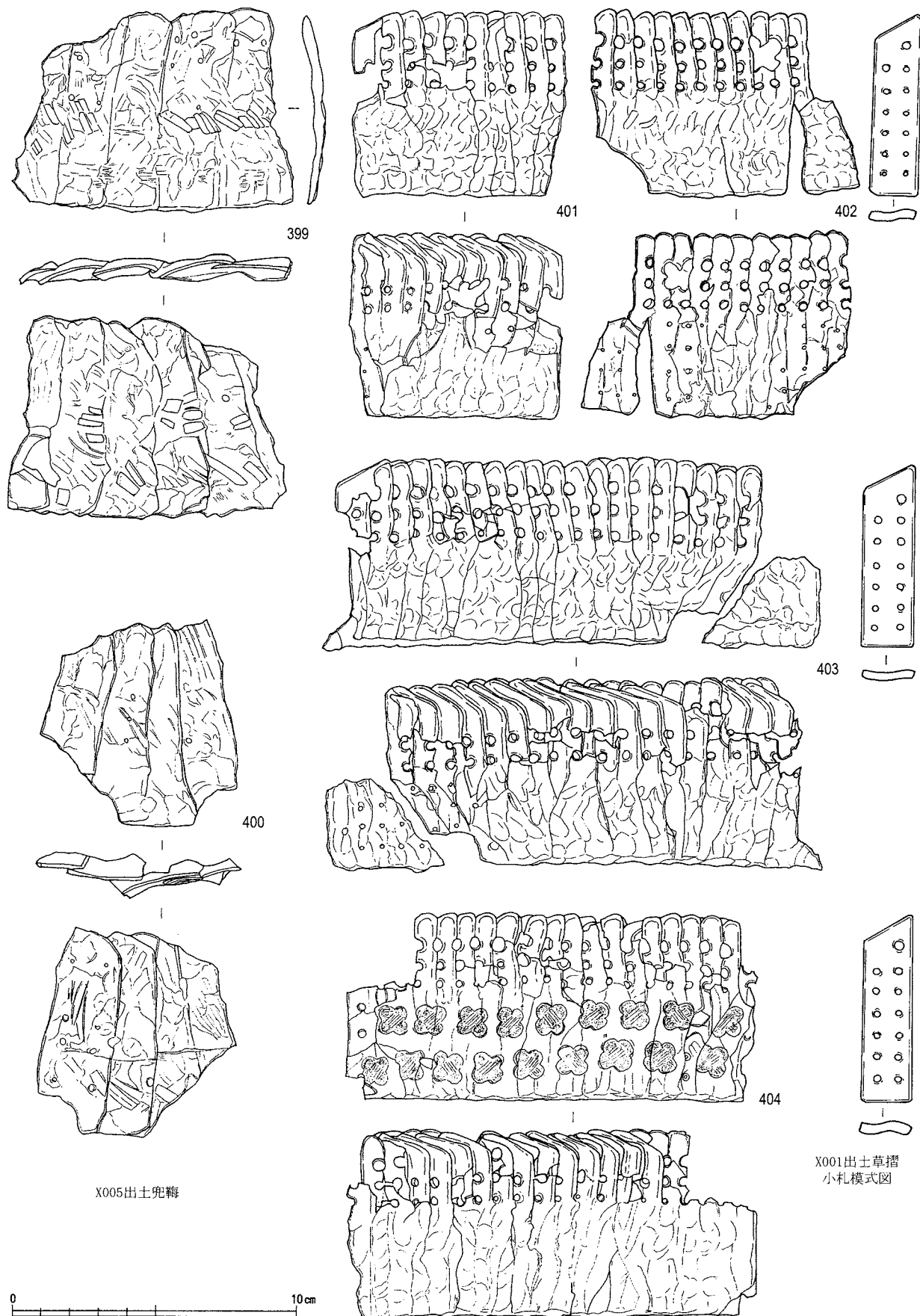
398



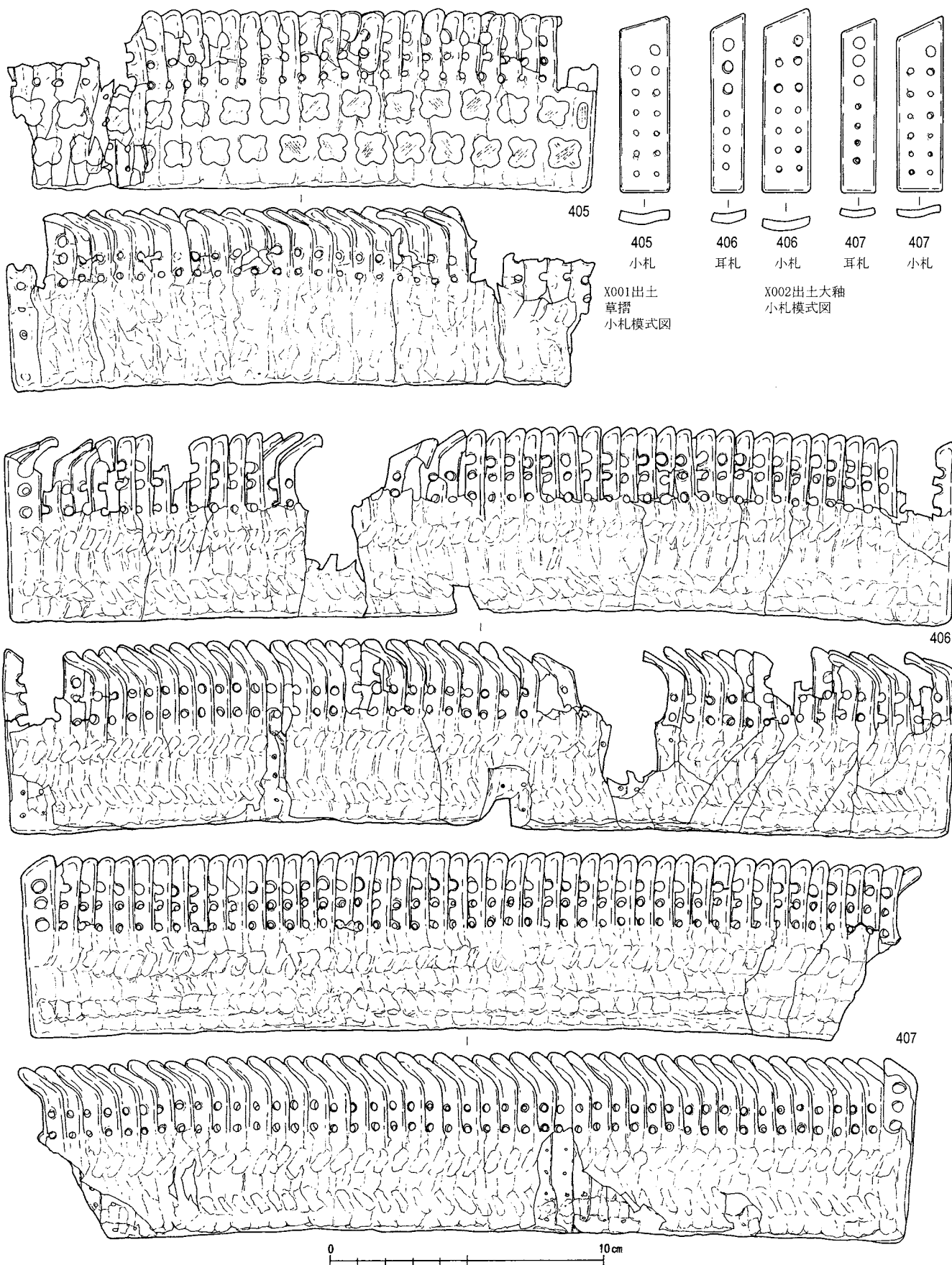
X003出土兜鞆
小札模式図



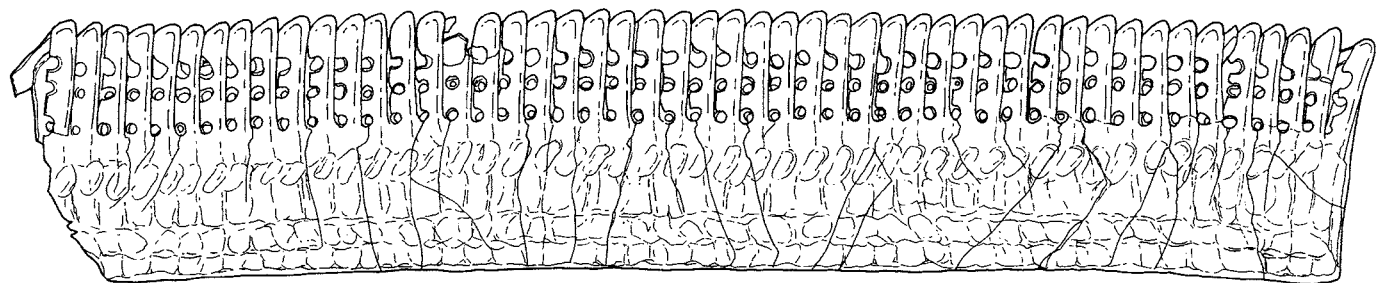
第 62 図 第 104 次調査 甲冑X003 土出兜鞆(縮尺 1/2)



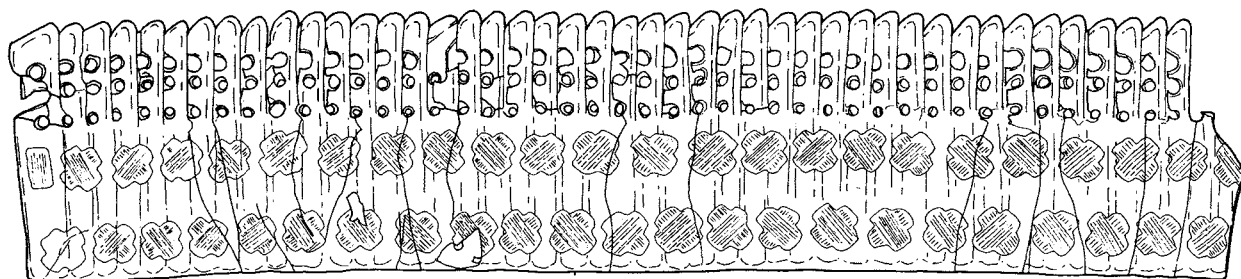
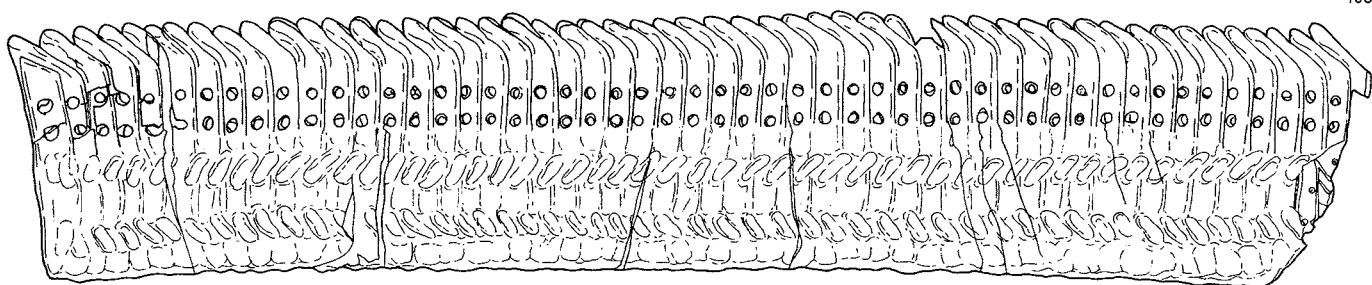
第 63 图 第 104 次調査 甲冑X005 出土兜鞬、X001 出土草摺(縮尺 1/2)



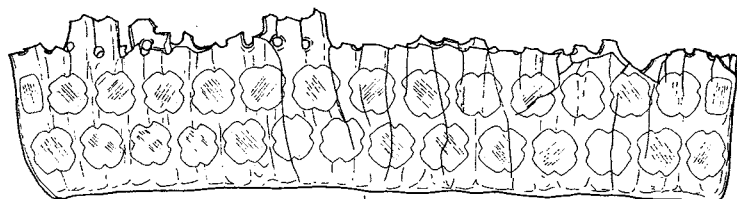
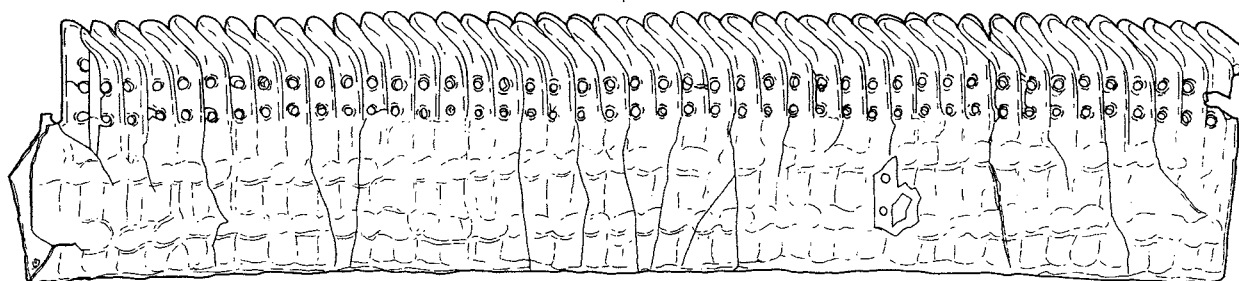
第 64 図 第 104 次調査 甲冑X001 出土草摺、X002 出土大袖(縮尺 1/2)



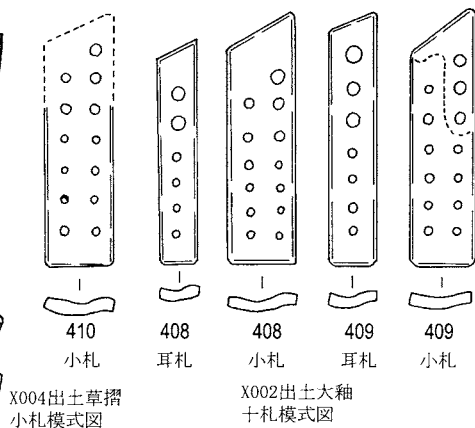
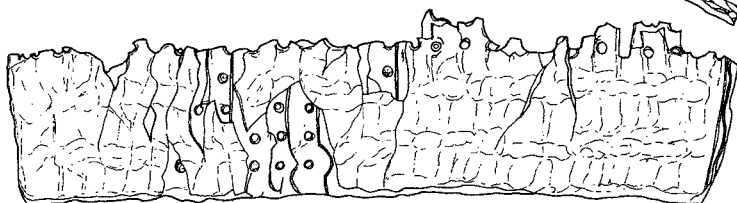
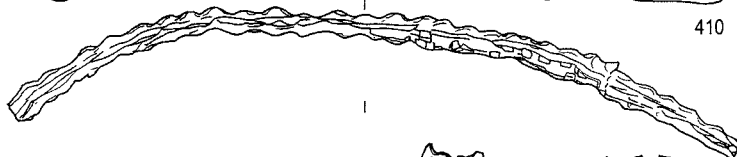
408



409

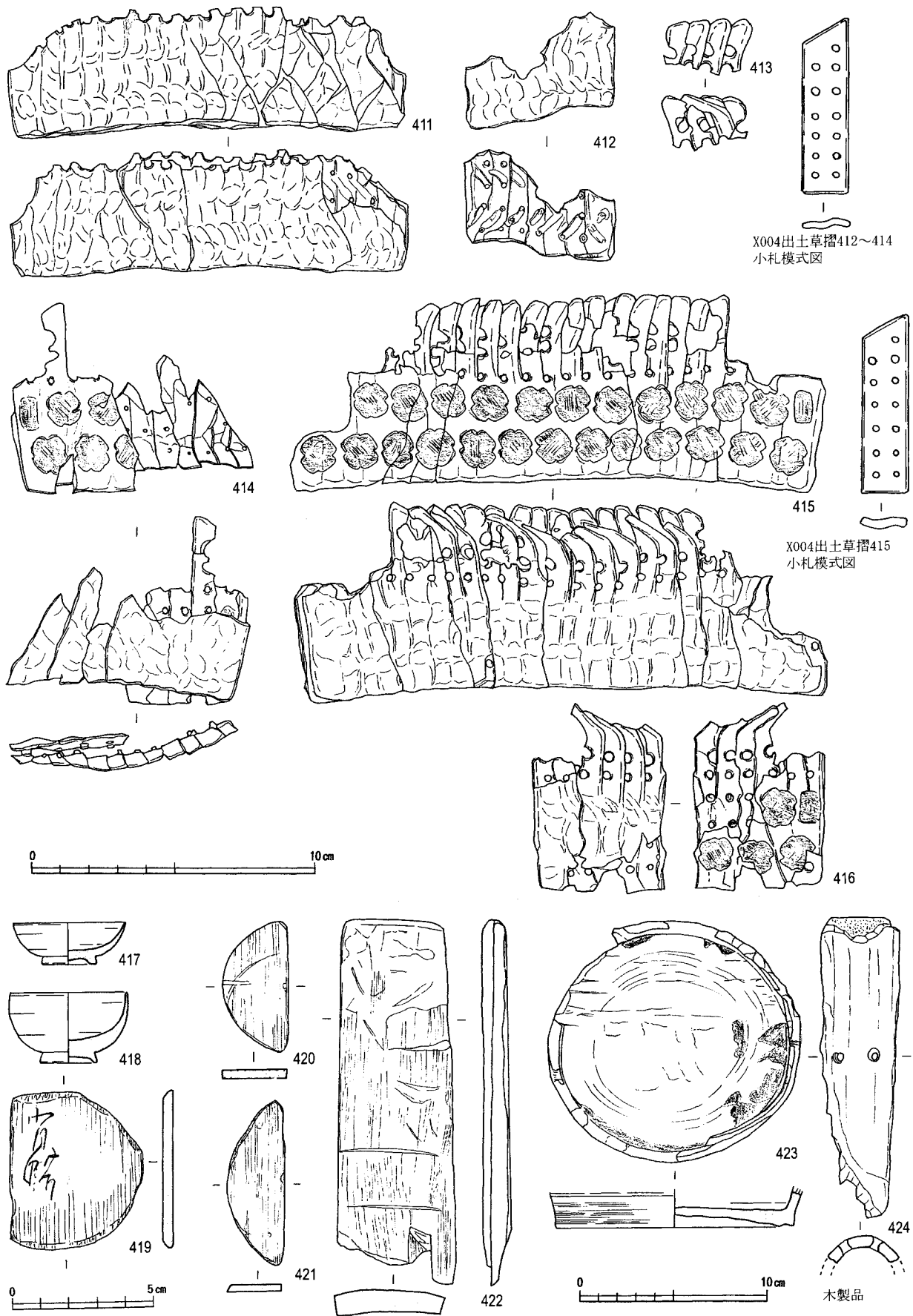


410

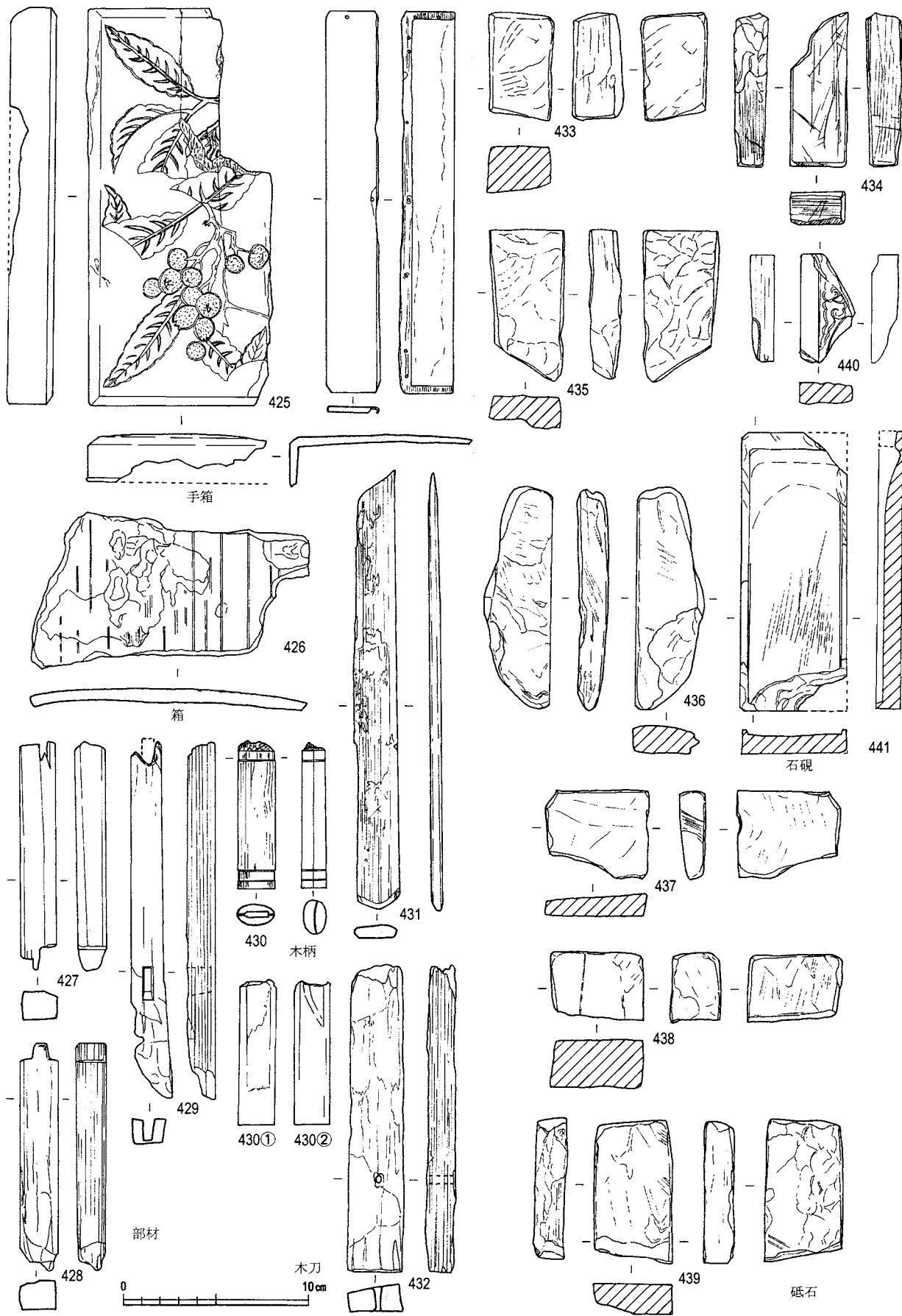


0 10cm

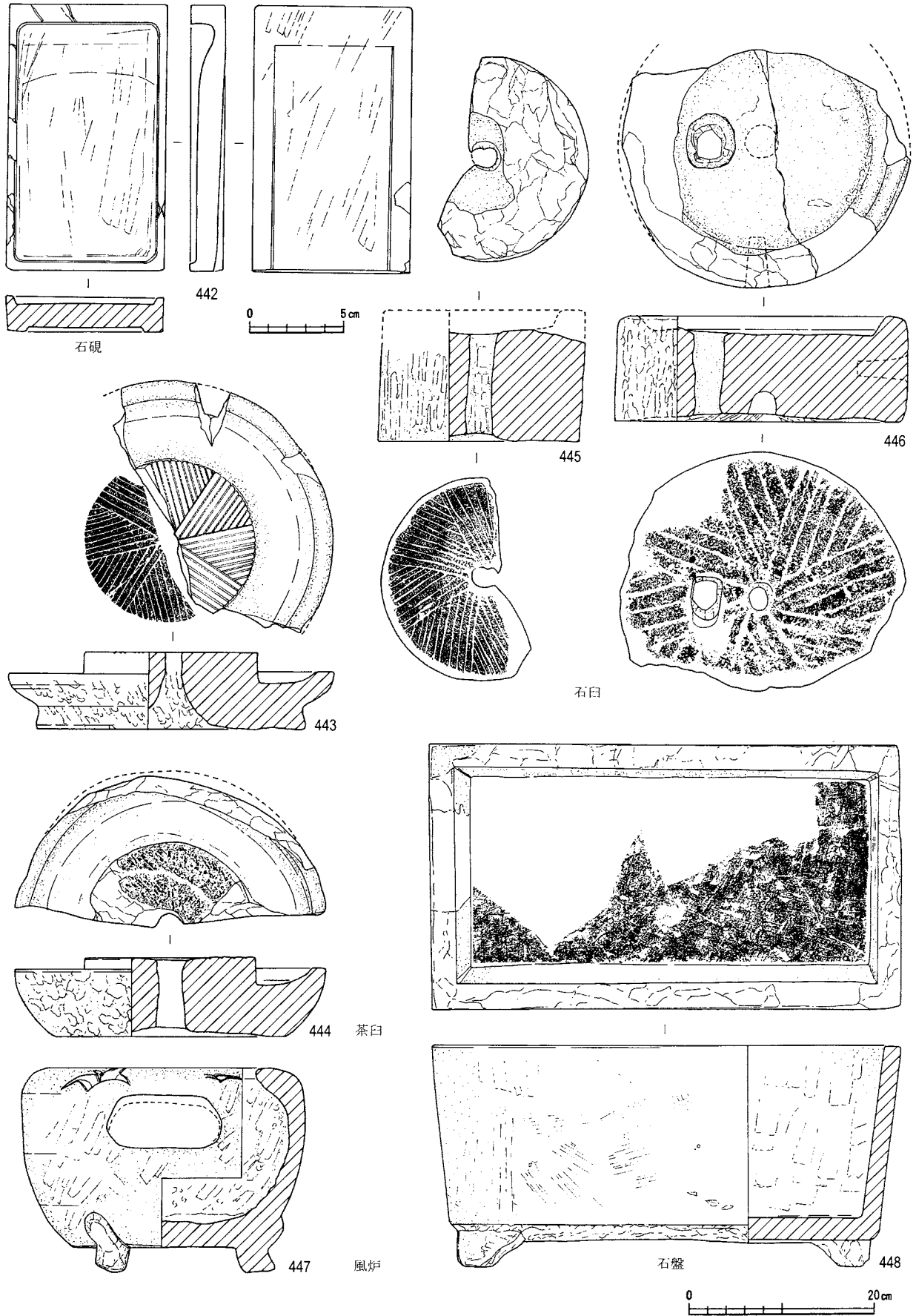
第 65 图 第 104 次調査 甲青X002 出土大袖、X004 出土草摺(縮尺 1/2)



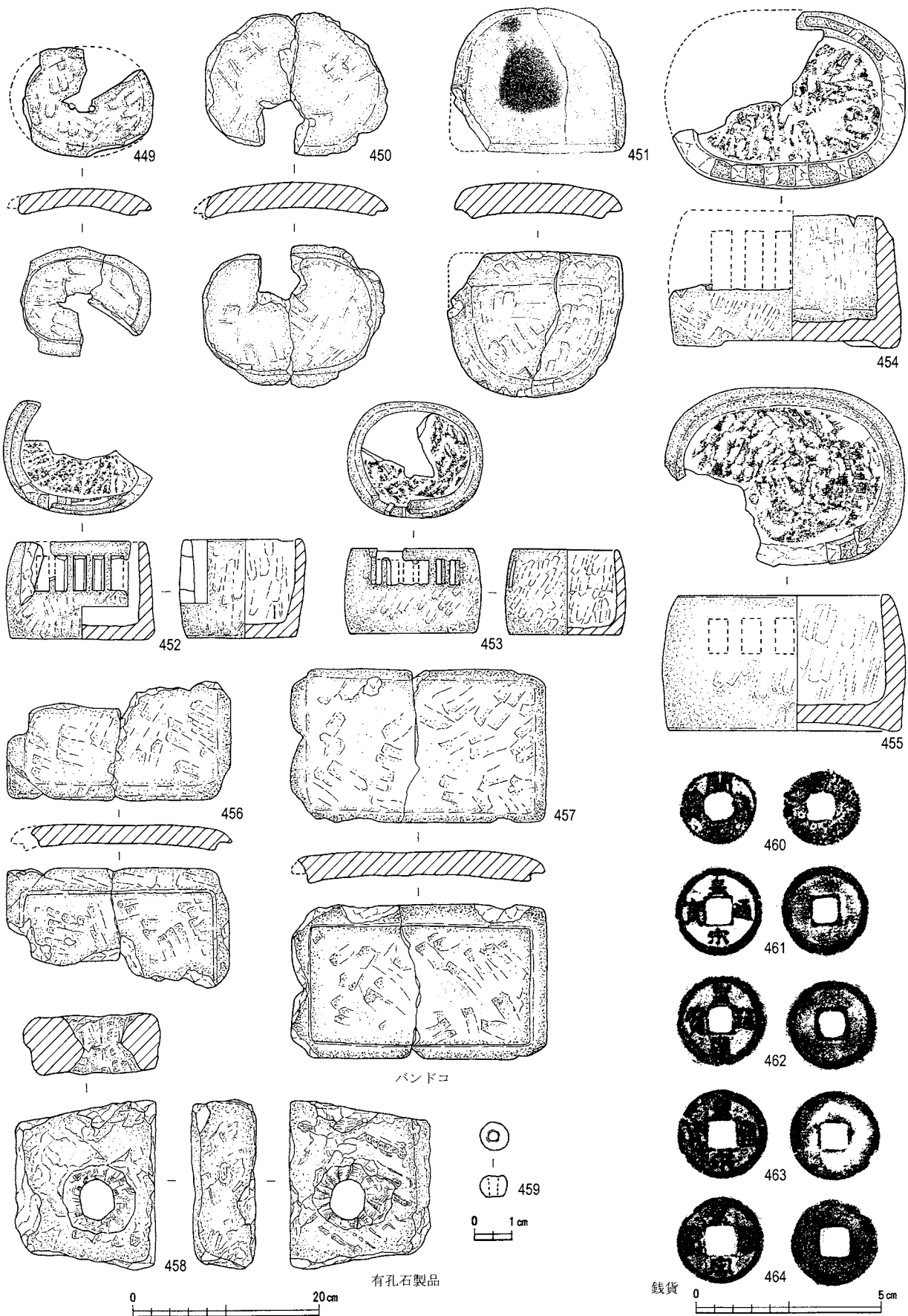
第 66 図 第 104 次調査 甲冑X004 他出土草摺、木製品(縮尺 1/2、1/3)



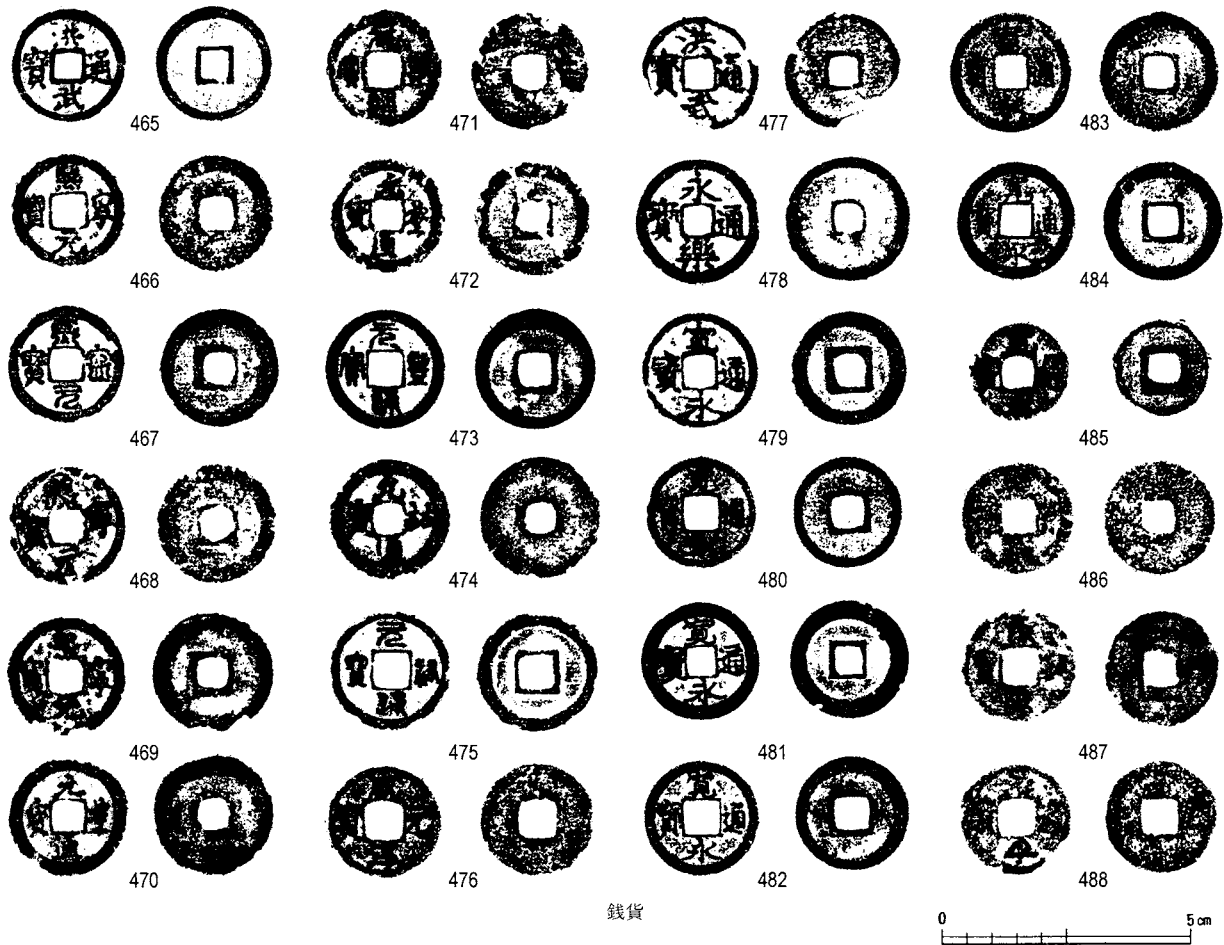
第 67 図 第 104 次調査 木製品、石製品(縮尺 1/3)



第 68 図 第 104 次調査 石製品(縮尺 1/3、1/6)



第 69 図 第 104 次調査 石製品、銭貨(縮尺 2/3、1/6)



第70図 第104次調査 錢貨(縮尺2/3)

第5表 第104次調査出土遺物観察表(PL. 51~64 第48~70図)
表土出土土器(PL. 49・50 第48~50図)

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼 釜	口: 29.0 高: 8.0	焼: 良好 色: 明灰茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:頸部から屈曲して短く立ち上がる/ 口端部内傾/口端部に条線1 胴部:上位で張る	外:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 後指頭痕	出土区域不明 表土 外:口端部~胴部上位 自然軸
2	越前焼 捍鉢	口: 46.0 高: 6.5	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部平坦/口端部内側に段あり	外:口縁部ヨコナデ/体部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部上位ヘラナデ/	出土区域不明 表土
3	越前焼 壺	口: 12.0 高: 6.5	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:頸部から屈曲して外傾して短く立 ち上がる/口端部は把厚/口端部平坦/口縁 部面取り	外:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ユビ ナデ・指頭痕	出土区域不明 表土 外:胴部上位降灰
4	越前焼 鉢	口: 27.0 高: 6.7	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:鉢形/直線状に斜め外方へ立ち 上がる/口端部内傾/口唇部丸く収める	外:口縁部回転ナデ/体部中位以下回転ヘ ラケズリ/シャープな仕上げ 内:口縁部~体部回転ナデ	出土区域不明 表土
5	越前焼 鉢	口: 16.0 高: 7.3 底: 12.0	焼: 良好 色: 淡灰茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:鉢形/やや内湾して斜め外方へ 立ち上がる/口端部内傾/口唇部丸く収める 底部:平坦	外:口縁部~体部下位回転ナデ/体部下位 ハケ 内:口縁部~底部回転ナデ	出土区域不明 表土
6	瓦質土器 香炉	口: 14.4 高: 4.3	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口唇 部丸く収める 体部:寸胴形	外:黒色磨研 内:黒色磨研	出土区域不明 表土

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
7	灰釉皿	高: 1.5 底: 7.6	焼: 良好 色: 透緑色	極砂粒 精緻 1/6	底部: 削出高台/底部周縁トチン付着		出土区域不明 表土
8	青磁 稜花皿	口: 15.0 高: 2.8	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める/口端面を押し花弁状にする	内: 口縁部～体部に陰刻花文	出土区域不明 表土
9	青磁 盤	高: 2.2 底: 11.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	底部: 削出高台	内: 底部周縁に3条のヘラ描き波状平行線/底面中央にアラベスク文陰刻	出土区域不明 表土 外: 底面周縁露胎
10	青磁 盤	-	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/口端部内側に屈曲/口唇部は丸く収める/口端面平坦	外: 口縁部～体部凹線3条	出土区域不明 表土
11	青磁 花瓶	頸: 9.2 高: 6.5	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	頸部: 直線状に内傾して立ち上がる	外: 頸部下位浅い凹線2/頸部中位唐草文 内: 頸部回転ナデ	出土区域不明 表土
12	白磁 稜花碗	口: 14.0 高: 2.5	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	口縁部: 外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面に切れ込みを入れ花弁状にする		出土区域不明 表土
13	白磁 皿	高: 1.6 底: 11.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	底部: 削出高台		出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎
14	白磁 杯	高: 2.3 底: 2.8	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/4	体部: やや内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 底面に「宣徳年造」呉須印	出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎
15	染付 杯	高: 2.2 底: 2.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/5	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 基筒底	外: 体部下位に呉須波濤文	出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎
16	染付 皿	高: 1.5 底: 4.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部: ゆるやかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 基筒底	内: 底面中央に呉須草花文・褐釉の魚文	出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎
17	染付 扁壺	-	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	胴部: 玉壺春型/内湾して上方へ立ち上がる/左右両側面は平坦気味に成形	外: 胴部上位～中位に呉須蓮花文・唐草文 内: 回転ナデ	出土区域不明 表土 外: 高台端面露胎
18	交趾三彩 輪花皿	口: 6.0 高: 0.9	焼: 良好 色: 赤色	精緻 1/6	口縁部: やや内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端面を緩やかな波状にする	外: 口縁部～体部蓮花文	出土区域不明 表土

第Ⅲ区域包含層出土土器(PL. 51・52 第48～51図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
19	越前焼 壺	口: 7.6 高: 3.5	焼: 良好 色: 明灰白色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から短く外傾して立ち上がる/口端部は丸く収める	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位シボリ	第Ⅲ区域 W27/遺構面
20	越前焼 甕	口: 23.6 高: 6.2	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口端面は凹面	外: 口縁部ヨコナデ/頸部上位ヘラナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部粗いヨコナデ/頸部上位ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 B'24/遺構面 外: 降灰
21	越前焼 捏鉢	-	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部平坦/口端部内側突出	外: 口縁部～体部ナデ 内: 口縁部～体部ナデ	第Ⅲ区域 E'22・23/遺構面
22	越前焼 掃鉢	口: 33.6 高: 12.7 底: 13.6	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側浅く凹み、段あり 底部: 平坦	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.9cm・8条の卸目	第Ⅲ区域 W27/遺構面
23	越前焼 掃鉢	口: 25.8 高: 8.0 底: 17.0	焼: 良好 色: 橙茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側浅く凹み、段あり 底部: 平坦	外: 口縁部～体部回転ヘラケズリ/底部周縁細目痕/底面未調整 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.8cm・15条の卸目/底面卸目	第Ⅲ区域 Z25/遺構面
24	越前焼 鉢	口: 28.8 高: 5.0	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 鉄鉢形/直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内傾/口端面平坦	外: 口縁部回転ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ	第Ⅲ区域 グリッド不明/遺構面
25	越前焼 卸皿	口: 19.4 高: 4.1 底: 11.6	焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部: 直線状に短く斜め外方へ立ち上がる/ 口端面平坦 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ/シャープな仕上げ/底部ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.4cm・9条の卸目/底面卸目	第Ⅲ区域 E'24/遺構面
26	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.0	焼: 良好 色: 茶灰色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	第Ⅲ区域 B'25/遺構面 片口状に歪む
27	土師器 小皿	口: 6.7 高: 1.3 底: 2.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第Ⅲ区域 E'22/遺構面 片口状に歪む

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
28	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.6 底: 2.5	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅲ区域 B' 25/遺構面 片口状に歪む
29	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.8 底: 5.3	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方にやや屈曲/口端部内側に 段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 D' 24/遺構面 片口状に歪む 外:半身スス付着 内:口端部3/4周スス付着
30	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.7 底: 3.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 A' 28/暗褐色土
31	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 C' 26/遺構面 片口状に歪む
32	土師器 小皿	口: 10.1 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 C' 24/遺構面 片口状に歪む 外・内:スス付着
33	土師器 耳皿	口: 6.5 高: 1.8 底: 5.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:左右を内側へ折り込む 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅲ区域 B' 25/遺構面
34	土師器 羽釜	口: 11.0 高: 7.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は 丸く収める 受部:欠損 体部:半球形	外:口縁部～受部回転ナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部回転エビナデ	第Ⅲ区域 D'・E' 26/遺構面
35	土師器 羽釜	口: 9.0 最: 11.0 高: 4.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は 丸く収める 受部:体部上位で外方に突出 体部:半球形	外:口縁部ヨコナデ/受部下位～体部ヘラ ナデ 内:口縁部～体部ナデ	第Ⅲ区域 Z26/遺構面
36	灰釉 小皿	口: 8.0 高: 1.5 底: 4.0	焼: 良好 色: 濁緑色	精緻 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:ベタ高台		第Ⅲ区域 W27/遺構面
37	灰釉 碗	口: 13.0 高: 2.3	焼: 良好 色: 透灰緑色	軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部に線刻蓮花文	第Ⅲ区域 B' 24/遺構面
38	灰釉 碗	口: 12.2 高: 6.5 底: 5.8	焼: 良好 色: 透緑白色	堅緻 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部:削出高台/端部内側で輪トチン痕	外:口縁部～体部に線刻花文/体部下位回 転ヘラケズリ	第Ⅲ区域 E' 25/遺構面
39	灰釉 皿	口: 11.0 高: 2.0	焼: 良好 色: 透緑灰色	堅緻 1/10以下	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第Ⅲ区域 W27/遺構面 外:体部下位露胎
40	灰釉 香炉	高: 2.3 底: 7.4	焼: 良好 色: 透緑灰色	軟質 1/10以下	体部:寸胴形 底部:周縁に三角形の脚3/底面で接地	外:体部回転ナデ/体部下位に条線2 内:体部回転ナデ	第Ⅲ区域 W27/遺構面 外:底面露胎
41	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.2 高: 5.5	焼: 良好 色: 透黄茶色	堅緻 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ/体部下位回転 ヘラケズリ	第Ⅲ区域 Z26/遺構面 外:体部下位～底面 露胎
42	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 8.6 高: 4.2	焼: 良好 色: 黒茶色	軟質 1/3	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ/体部下位回転 ヘラケズリ	第Ⅲ区域 Z26/遺構面 外:体部下位露胎
43	瀬戸美濃 鉄釉 大海茶入	口: 5.8 最: 9.1 高: 5.9 底: 5.0	焼: 良好 色: 茶黒色	精緻 1/1	口縁部:直立して短く立ち上がる/口唇部 は丸く収める 体部:体部上位で大きく張る 底部:平坦	外:口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ/底部ナデ 内:口縁部～体部下位回転ナデ/底部右渦 巻文	第Ⅲ区域 Z28/遺構面 外:体部下位～底部 露胎
44	瀬戸美濃 鉄釉 水滴	口: 4.0 高: 5.0	焼: 良好 色: 黒色	堅緻 1/8	口縁部:短く外反して立ち上がる/口唇部 は丸く収める 体部:下膨れ	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第Ⅲ区域 グリッド不明/表土 外:体部下位露胎
45	瀬戸美濃 鉄釉 壺	最: 25.0 高: 26.7 底: 11.0	焼: 良好 色: 茶色	堅緻 1/10以下	胴部:上位で張り出し突帯1がめぐる 底部:平坦	外:胴部上位～中位回転ナデ/胴部下位～ 底部回転ヘラケズリ 内:胴部上位～下位回転ナデ	第Ⅲ区域 W27・28/炭混濁褐色土 X27・28/炭混濁褐色土 外:体部下位～底部露胎
46	青磁 碗	口: 11.6 高: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/4	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部に線刻蓮花文 内:体部下位に草花文	第Ⅲ区域 E' 26/遺構面
47	青磁 碗	口: 11.2 高: 3.2	焼: 不良 色: オリーブ	軟質 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端 部外方へ屈曲/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部に鎬蓮花文	第Ⅲ区域 W27/遺構面 外:貫入多し
48	青磁 皿	高: 1.2 底: 4.2	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	底部:削出高台		第Ⅲ区域 W28/遺構面 外:底面～高台端部露胎 内:底面露胎
49	青白磁 盤	口: 25.4 高: 4.8 底: 15.8	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/6	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部～体部に草花文 内:底面中央に草花文・圈線3	第Ⅲ区域 Z23・B' 24/遺構面 第Ⅳ区域 V33/遺構面 外:高台端部露胎

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
50	青磁 香炉	口: 9.0 高: 2.6	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める		第Ⅲ区域 W26/遺構面
51	青磁 台付瓶	高: 3.3 底: 7.8	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/10以下	脚台部:脚台は蛙口状/短くS字に屈曲して上方に立ち上がる		第Ⅲ区域 B' 24/遺構面 外:脚台端面露胎
52	青磁 蓋	最: 15.8 高: 3.3 口: 10.5	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/10以下	天井部:笠状/下位で外方へ張り出す 合口部:やや内傾して接地/口唇部は丸く収める	外:天井部に陰刻草花文/シャープな仕上げ	第Ⅲ区域 C' 24/遺構面 外:合口部露胎
53	青白磁 梅瓶	最: 12.2 高: 16.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	胴部:上位で張り出す	外:胴部上位~中位陰刻唐草文/体部下位 呉須条線2 内:胴部上位~下位回転ナデ後ユビナデ	第Ⅲ区域 L26・W27・Y28・026/ 遺構面
54	白磁 皿	口: 13.8 高: 2.3	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部陰刻草花文	第Ⅲ区域 W27/遺構面
55	白磁 杯	口: 6.0 高: 3.1	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに外反してへ立ち上がる/ 口唇部は丸く収め		第Ⅲ区域 B' 25/遺構面
56	白磁 皿	高: 1.3 底: 4.0	焼: 良好 色: 白褐色	精緻 1/8	底部:割出高台		第Ⅲ区域 B' 26/遺構面
57	白磁 輪花皿	高: 0.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台/楕円形	外:底面に呉須「□□年造」の銘款 内:底面周縁に花卉状の鐫	第Ⅲ区域 E' 24/遺構面
58	中国製 褐釉 四耳壺		焼: 良好 色: 褐色	堅緻 1/10以下	胴部:上位で張り出す/胴部上位に耳状把手4	外:胴部上位回転ナデ 内:胴部上位回転ナデ	第Ⅲ区域 B'・C' 25/遺構面
59	染付 皿	口: 11.0 高: 1.8	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須團線2・蓮華文・唐草文 内:口縁部に呉須團線1	第Ⅲ区域 Y25/遺構面
60	染付 皿	口: 12.0 高: 2.7	焼: 良好 色: 透青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須團線3/体部に唐草文 内:口縁部に呉須團線2/体部にアラベスク文	第Ⅲ区域 E' 22/遺構面
61	染付 碗	口: 12.4 高: 4.2	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須團線2/体部に草花文 内:口縁部に呉須團線2	第Ⅲ区域 W27/遺構面
62	染付 皿	高: 1.5 底: 4.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:高台に呉須團線2/底面に團線2・銘款 内:底面中央に呉須玉抱き獅子文	第Ⅲ区域 V26/遺構面
63	染付 扁壺	高: 12.8 底: 8.4	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	胴部:玉壺春型/楕円形/表裏面平坦/左右両側面は平坦気味に成形 底部:円形貼付高台	外:胴部表面に呉須團線2・玉抱き獅子文/ 頸部に瓔珞文をもつ破片が接合 内:胴部回転ナデ後ユビナデ/中位露胎	第Ⅲ区域 V23・B' 25・C' 27 ・D' 25/遺構面 第Ⅳ区域 X33
64	染付 扁壺	高: 3.2 底: 8.2	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	胴部:玉壺春型/楕円形/表裏面平坦/左右両側面は平坦気味に成形 底部:楕円形貼付高台	外:胴部表面下位に呉須複弁蓮花文/高台に團線2	第Ⅲ区域 Y27/遺構面 第Ⅳ区域 X30/遺構面

第Ⅳ区域包含層出土土器(PL. 51・52 第50図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
65	越前焼 短頸壺	口: 15.8 高: 4.6	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:頸部から屈曲して短く立ち上がる/ 口端部平坦	外:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ	第Ⅳ区域 Z32/遺構面
66	越前焼 火桶	口: 21.0 高: 17.8 底: 16.5	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 土師質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口端部は平坦 体部:寸胴形 底部:平坦	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 ヘラナデ/底部ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ/底部ナデ	第Ⅳ区域 Y31/黄色土 外・内:赤色化粧土
67	越前焼 火桶	高: 9.0 底: 15.1	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	体部:寸胴形 底部:平坦	外:体部ナデ/底部未調整 内:体部下位回転ナデ/底部ナデ	第Ⅳ区域 T34/遺構面
68	青磁 碗	高: 2.4 底: 4.6	焼: 良好 色: オリブ	精緻 1/10以下	底部:削出高台		第Ⅳ区域 U36/遺構面 外:底面~高台端面露胎
69	白磁 輪花皿	口: 12.0 高: 3.3 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部を緩やかな波状にする 底部:削出高台	外:口縁部~体部鎊蓮花文 内:口縁部~体部鎊蓮花文	第Ⅳ区域 W34/遺構面 外:高台端面露胎
70	染付 皿	口: 12.2 高: 2.2	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	内:口縁部に呉須團線1/体部下位に團線1	第Ⅳ区域 U36/遺構面
71	朝鮮 碗	高: 1.6 底: 4.3	焼: 良好 色: 橙褐色	軟質 1/10以下	底部:蛇の目高台	外:底面に「十」の墨書	第Ⅳ区域 X33/遺構面 外:底面~高台露胎 内:スス付着

第Ⅴ区域包含層出土土器(PL. 52 第50・51図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
72	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.3	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅴ区域 S30/遺構面 片口状に歪む

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
73	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部型押し成 形未調整 内:口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 片口状に垂む
74	土師器 小皿	口: 8.5 高: 2.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ底部ナデ	第V区域 R37/遺構面 片口状に垂む 口端部意図的に打欠1
75	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 3.8	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で外方にやや屈曲/口端部内側に段 あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 口端部意図的に打欠2
76	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.2	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で外方にやや屈曲/口端部内側に段 あり 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 口端部全周スス付着
77	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.1 底: 2.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底/中央凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 口端部全周スス付着 片口状に垂む
78	土師器 小皿	口: 12.4 高: 2.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口端部に段あり/口端部内側 に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 口端部一部分スス付着
79	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.2 底: 5.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後ユ ビナデ 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 口端部全周スス付着
80	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.1 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部丸く収める/口端部 に段あり/口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ヘラケズ リ 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 片口状に垂む 口端部部分的スス付着
81	土師器 小皿	口: 15.6 高: 2.4 底: 9.4	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ/底部未調整 /シャープな仕上げ 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 外:油染み
82	土師器 小皿	口: 13.8 高: 2.0 底: 7.2	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部丸く収める/口端 部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S33・34/褐色土 片口状に垂む 内:油染み
83	土師器 小皿	口: 14.0 高: 2.2 底: 7.2	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部丸く収める/口端 部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 M34・35/礫混褐色土 O34・35/礫混褐色土 片口状に垂む 外:油染み
84	越前焼 罌	口: 41.0 高: 6.0	焼: 良好 色: 暗紫灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:頸部から短く上方へ立ち上がる/ 口端部幅広平坦	外:口縁部~胴部上位ヨコナデ/シャープ な仕上げ 内:口縁部ヨコナデ/頸部指頭痕	第V区域 P35/遺構面 外:降灰
85	瀬戸美濃 鉄釉 壺	高: 5.0 底: 24.0	焼: 良好 色: 暗茶色	堅緻 1/8	胴部:下膨れ寸胴形 底部:平坦	外:胴部回転ナデ/底部回転ヘラケズリ 内:胴部下位回転ナデ	第V区域 S35・36/砂利混暗褐色土 外:胴部下位露胎
86	瀬戸美濃 鉄釉 大目碗	口: 9.0 高: 4.7 底: 3.4	焼: 良好 色: 茶黒色	精緻 1/2	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾 し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~底部回転ナデ	第V区域 S35・37/砂利混暗褐色土 外:胴部下位露胎
87	灰釉 皿	高: 1.2 底: 4.2	焼: 良好 色: 緑灰色	堅緻 1/8	底部:平坦	外:底部回転系切り痕 内:底部中央に陰刻圈線2	第V区域 P36/遺構面 外:胴部下位露胎
88	灰釉 皿	高: 1.3 底: 6.2	焼: 良好 色: 緑灰色	堅緻 1/4	底部:ベタ高台	外:底部輪トナシ痕 内:底部中央に梅花文・陰刻圈線1	第V区域 P36・T34/遺構面 外:高台端面露胎
89	瓦質土器 手焙		焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 堅緻 土師質 1/10以下	体部:箱形 底部:四隅に脚	外:体部ミガキ	第V区域 Q25/遺構面 外:口端面スス付着
90	青磁 輪花皿	口: 10.0 高: 1.9 底: 5.4	焼: 良好 色: 透青オリーブ	精緻 1/3	口縁部:外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端面に切込6か所 入れ、花卉状にする 底部:削出高台		第V区域 M35/遺構面 外:高台端面露胎
91	青磁 皿	口: 12.2 高: 2.8 底: 7.0	焼: 良好 色: 透青オリーブ	精緻 1/6	口縁部:やや外反して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 S35・36/砂利混褐色土 外:底面~高台端面露胎
92	白磁 稜花皿	口: 11.6 高: 2.3 底: 5.0	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/3	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部は丸く収める/口端面 を押しし、花卉状にする 底部:削出高台	外:底面回転ヘラケズリ	第V区域 M34・35/礫混褐色土 N34・35/礫混褐色土 第I区域 K33/遺構面 外:底面~高台端面露胎

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
93	青磁皿	口: 15.2 高: 3.4 底: 7.4	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	口縁部:外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:底部に墨書 内:底面中央に陰刻花文/底面周縁に圏線1	第V区域 I27・28/砂利混黄褐色土 外:底面~高台端面露胎
94	青磁 輪花皿	高: 1.7 底: 8.0	焼: やや不良 色: 淡オリーブ	精緻 1/10以下	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に鑄蓮花文 内:体部に鑄蓮花文	第V区域 O・N・M34・35/礫混 褐色土 外:高台端面露胎
95	白磁 輪花皿	口: 11.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇面を押しし花卉 状にする	外:体部に鑄蓮花文 内:体部に鑄蓮花文	第V区域 P32/遺構面
96	白磁 皿	口: 10.6 高: 2.8 底: 3.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/3	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:碁笥底		第V区域 S29・30/暗褐色土 L36/遺構面 第1区域 I・J25/茶褐色土 外:高台端面露胎
97	白磁 皿	高: 2.8 底: 6.2	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第V区域 M33・35/遺構面 外:高台端面露胎
98	白磁 皿	高: 1.3 底: 9.8	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/5	底部:削出高台		第V区域 グリッド不明/表土 外:高台端面露胎
99	白磁 杯	口: 7.4 高: 2.2	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに外反して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に鑄花卉 内:口縁部~体部に鑄花卉	第V区域 M35/遺構面
100	染付 皿	口: 12.4 高: 2.2 底: 8.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:ベタ高台	内:口縁部に呉須圏線1/底部に草花文・圏 線2	第V区域 M33/遺構面 外底面~高台端面露胎
101	青白磁 皿	高: 1.2 底: 4.4	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台		第V区域 S35/炭・砂利混土 外:高台端面露胎
102	染付 杯	口: 6.6 高: 2.1	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線1/体部に草花文 内:口縁部に呉須アラベスク文・圏線1	第V区域 M34・35/礫混暗褐色土 N34・35/礫混暗褐色土
103	染付 皿	高: 1.2 底: 3.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	底部:碁笥底	内:底部中央に呉須松葉文・圏線1	第V区域 S36/遺構面 外:高台端面露胎
104	染付 皿	高: 1.3 底: 2.0	焼: 良好 色: 透青灰色	精緻 1/8	底部:碁笥底	外:体部下位に呉須芭蕉文・圏線1・唐草 文 内:底部中央に呉須菊花文・圏線2	第V区域 M29・35/遺構面 外:高台端面露胎
105	染付 碗	高: 2.3 底: 4.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/4	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部:削出高台	外:高台に呉須の圏線1/底面に「天祥年造 」の銘款・圏線2 内:底部中央に呉須花文・圏線2	第V区域 Q34/遺構面 外:高台端面露胎
106	朝鮮 壺	高: 1.8 底: 8.0	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	体部:膨らみをもって上方へ立ち上がる 底部:平坦	外:底部回転ヘラケズリ	第V区域 Q35/焼土混土 外:体部下位~底面露胎

第III区域遺構出土土器(PL.53 第50~53図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
107	朝鮮 皿	口: 11.4 高: 2.4	焼: 良好 色: 暗灰色	精緻 1/8	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で受口状に外方へ屈曲/口唇部は丸 く収める	外:口縁部~体部回転ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ	第III区域 X21/SA4782
108	朝鮮 壺	高: 12.9 最: 20.8 底: 16.3	焼: 良好 色: 濁褐色	精緻 須恵質 1/4	胴部:下膨れ寸胴形 底部:平坦/中央上げ底気味	外:胴部回転ナデ/底部周縁トチン 内:胴部回転ナデ/底部ナデ	第III区域 X21/SA4782 B'24・25/遺構面
109	灰釉 碗	口: 10.0 高: 4.2	焼: 良好 色: 透灰緑色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部回転ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ	第III区域 A'21/SA4782
110	白磁 皿	高: 1.4 底: 9.0	焼: 良好 色: 透明灰色	精緻 1/8	底部:削出高台		第III区域 X21/SA4782 外:高台端面露胎
111	染付 皿	口: 13.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線1 内:口縁部に呉須アラベスク文・圏線1	第III区域 T22/SA4784
112	白磁 杯	口: 7.2 高: 3.4 底: 2.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/3	口縁部:緩やかな波状 体部:外反して外方へ立ち上がる/八角杯 底部:削出高台	外:体部に鑄を入れる	第III区域 T22/SA4784 外:高台端面露胎
113	白磁 輪花皿	高: 3.0 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に鑄蓮花文/底面中央に呉須銘款 ・圏線2 内:体部に鑄蓮花文	第III区域 G'25/SA4783 外:高台端面露胎
114	白磁 輪花皿	口: 11.8 高: 3.3 底: 6.8	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/4	口縁部:緩やかな波状/口唇部は丸く収め る 体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に鑄蓮花文 内:体部に鑄蓮花文	第III区域 G'25/SA4783 外:高台端面露胎
115	青白磁 盤	口: 25.0 高: 3.6	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内湾/口唇部は丸く収める		第III区域 G'25/SA4783

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
116	白磁杯	高: 1.2 底: 3.0	焼色: 良好 透白色	精緻 1/8	底部: 削出高台		第Ⅲ区域 W22・23/SS260 外: 高台端面露胎
117	染付 合子蓋	天: 7.8 高: 1.1 口: 8.0	焼色: 良好 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部に呉須圏線2/天井部に圏線1	第Ⅲ区域 Y23/SS260
118	青磁皿	高: 2.0 底: 7.4	焼色: 良好 透オリーブ	精緻 1/5	底部: 削出高台	内: 底面中央に陰刻花文/底面周縁に圏線1	第Ⅴ区域 O24/SA4760 M29/SS4823 外: 底部周縁露胎
119	瀬戸美濃 鉄釉 香炉	高: 4.0 底: 7.0	焼色: 良好 黒色	軟質 1/8	体部: 寸胴形 底部: 平坦	外: 体部回転ナデ 内: 体部回転ナデ	第Ⅴ区域 O25/SA4760 外: 底面露胎

第Ⅲ区域遺構出土土器(PL. 53 第51~53図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
120	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.9 底: 4.0	焼色: 良好 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 A' 23/SA4780 片口状に歪む
121	越前焼 壺	口: 6.2 高: 4.0	焼色: 良好 灰色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から屈曲して外傾して短く立 ち上がる/口唇部は丸く収める。 胴部: 中位で膨らむ	外: 口縁部~胴部上位ヨコナデ/胴部上位 にヘラ記号 内: 口縁部~頸部ヨコナデ/胴部上位シボリ	第Ⅲ区域 Y24/SA4780 外: 頸部降灰
122	越前焼 播鉢	口: 28.8 高: 10.5 底: 10.0	焼色: 不良 白褐色	極砂粒 軟質 土師質 1/8	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部平坦/口端部内側に浅い凹線1 底部: 平坦	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 ヘラケズリ/全体摩耗 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅2.6cm・9条 の卸目/体部下位~底面摩耗	第Ⅲ区域 W24/SA4780
123	越前焼 鉢	口: 23.0 高: 12.0	焼色: 良好 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部: 鉄鉢形/直線状に斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや内湾/口唇部丸く収め る	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部周縁 縄目痕 内: 口縁部~体部回転ナデ	第Ⅲ区域 A' 23/SA4780
124	白磁皿	口: 9.8 高: 2.2	焼色: 良好 白褐色	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める		第Ⅲ区域 Y24/SA4780
125	白磁皿	口: 14.0 高: 3.0	焼色: 良好 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める		第Ⅲ区域 A' 23/SA4780
126	越前焼 播鉢	口: 42.0 高: 17.6 底: 17.5	焼色: 良好 淡茶灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側浅く凹む/口端部内側に浅い 凹線1 底部: 平坦	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 へ押し痕/底部周縁縄目痕/底部未調整/シ ャープな仕上げ 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅2.7cm・9条 の卸目/底面卸目	第Ⅲ区域 B' 23/S14817 B' 24/SD4808 C' 23/SA4781 D' 24/遺構面
127	越前焼 捏鉢	口: 25.6 高: 9.8 底: 13.0	焼色: 良好 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に傾斜して平坦/口端部内側に 浅い凹線1 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部周縁 縄目痕/底部ナデ/シャープな仕上げ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第Ⅲ区域 B' 23/S14817 D' 24/遺構面 V・W21/遺構面 内: 降灰
128	越前焼 短頸壺	口: 18.8 高: 26.4	焼色: 不良 淡赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口 端部平坦 胴部: 上位で張り出し下位で窄まる	外: 口縁部~胴部上位ヨコナデ/胴部上位 に突帯/胴部中位~下位ナデ 内: 口縁部粗いヨコナデ/胴部上位~下位 ナデ後指頭痕・ユビナデ	第Ⅲ区域 B' 22/S14817 W' 24/SS260 U27・28/SS4834 C' 23/SZ4844 C' 24/遺構面
129	白磁碗	高: 1.8 底: 5.0	焼色: 良好 透白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台		第Ⅲ区域 V24/S14816 A' 28/遺構面 外: 底面~高台端面露胎
130	染付碗	口: 14.8 高: 6.5 底: 5.4	焼色: 良好 透青白色	精緻 2/3	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部に呉須圏線3・草花文/体部に芭 蕉文 内: 口縁部に呉須圏線2/底面中央に雲状文 ・斜行三角文・圏線1	第Ⅲ区域 U25・26/S14816 W28・Y28・Y29/遺構面 外: 高台端面露胎
131	土師器 小皿	口: 7.9 高: 1.5 底: 4.5	焼色: 良好 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 E' 26/SD4809
132	越前焼 火桶	高: 8.5 底: 13.6	焼色: 不良 明茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	体部: 寸胴形 底部: 平坦	外: 体部回転ナデ/底部ナデ 内: 体部下位回転ナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 B' 24/SD4808 外: 赤色化粧土上の痕
133	青磁碗	高: 3.3 底: 4.3	焼色: 良好 透オリーブ	精緻 1/3	体部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 体部下位に線刻蓮花文 内: 底面中央に文字・陰刻花文	第Ⅲ区域 B' 24/SD4808 B' 25/遺構面 外: 底面周縁露胎
134	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.6 底: 2.3	焼色: 良好 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部型押し成 形 内: 口縁部~底部ナデ/赤色化粧土	第Ⅲ区域 Z25/SF4813 片口状に歪む
135	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.7 底: 3.3	焼色: 良好 黄褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕/赤色化粧土 内: 口縁部~底部ナデ/赤色化粧土	第Ⅲ区域 Z25/SF4813 片口状に歪む

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
136	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.8 底: 4.3	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外方に屈曲/口端部に段あり/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む 内:油染み
137	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.0 底: 3.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む 口端部半周スス付着
138	土師器 小皿	口: 11.2 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外方に屈曲/口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む 外・内スス付着
139	土師器 小皿	口: 11.5 高: 2.1 底: 5.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外方に屈曲/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む 口端部一部スス付着
140	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む
141	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 5.3	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Z25/SF4813 片口状に歪む 口端部半周スス付着 外:油染み
142	瀬戸美濃 鉄釉 大海茶入	口: 5.3 最: 9.0 高: 5.5 底: 5.0	焼: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/1	口縁部:直立して短く立ち上がる/口唇部 は丸く収める 体部:体部上位で大きく張る 底部:平坦	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部中位 ~下位回転ヘラケズリ/底部ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第三区域 A'24/SF4814 外:体部下位~底部露胎
143	青磁 碗	口: 12.0 高: 3.3	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に線刻蓮花文	第三区域 Z25/SF4813 W27・28/遺構面
144	染付 杯	高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部:削出高台	外:体部下位に呉須文様 内:底面中央に呉須太湖石文と團線2	第三区域 Z25/SF4813 外:高台端面露胎
145	染付 皿	高: 1.0 底: 5.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:高台に呉須團線2 内:底面中央に呉須草花文・團線1	第三区域 Z25/SF4813 外:高台端面露胎
146	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.2 底: 5.2	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 D'25/SF4815 片口状に歪む 口端部3/4周スス付着
147	青磁 皿	口: 15.0 高: 3.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部条線1 内:口縁部条線2/体部に陰刻花文	第三区域 D'25/SF4815 外:貫入多し
148	鉄釉 四耳壺	高: 29.3 最: 27.0 底: 13.0	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/6	胴部:上位で張り出す/胴部上位に耳状把 手4 底部:平坦	外:胴部上位回転ナデ/胴部中位~底部回 転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内:胴部上位~下位回転ナデ	第三区域 D'25/SF4815 B'25/遺構面 第四区域 Y30・Z30/遺構面 外:体部下位露胎 内:底部降灰
149	白磁 皿	口: 12.2 高: 2.9 底: 7.0	焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 2/3	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第三区域 T29・28/SX4834 S30/遺構面 外:高台端面露胎・ 溶着
150	染付 皿	高: 1.3 底: 7.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:高台に呉須團線2 内:底面中央に呉須草花文	第三区域 U27/SX4834 外:高台端面露胎・ 溶着
151	越前焼 搦鉢	口: 40.0 高: 14.0	焼: 不良 色: 暗灰茶色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端面やや平坦/口端部段あり/口端部内 側に段あり	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ/幅2.9cm・10条 の深い卸目/密	第三区域 T29・28/SX4834 C'26・27/遺構面 外:口縁部スス付着 内:降灰
152	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.8 底: 3.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第三区域 Y27/SX4842 片口状に歪む
153	鉄釉 皿	高: 1.2 底: 6.4	焼: 良好 色: 暗茶色	堅緻 1/10以下	底部:削出高台	内:底面に輪トナ	第三区域 Y・227・28/SX4842
154	瓦質土器 香炉	口: 17.2 高: 5.2 底: 15.8	焼: 不良 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 土師質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/口唇 部はやや平坦 体部:寸胴形	外:口縁部~体部ナデ/体部中位に条線2・ 条線内に渦巻押印文を充填 内:口縁部~体部ナデ	第三区域 Z26・27/SX4842
155	青磁 碗	高: 1.9 底: 5.0	焼: やや不良 色: 淡オリーブ	堅緻 1/10以下	底部:削出高台		第三区域 Z26/SX4842 外:底部~高台露胎
156	青磁 皿	口: 11.0 高: 2.6	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に線刻蓮花文 内:口縁部~体部に放射状線	第三区域 Y27/SX4842

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
157	灰釉碗	口: 12.0 高: 4.0	焼: 良好 色: 淡緑灰色	堅緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に線刻蓮花文	第Ⅲ区域 Z26/SX4842 青磁碗の写し
158	青磁皿	高: 2.0 底: 5.4	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	底部:削出高台	内:底面中央に陰刻花文	第Ⅲ区域 Z26/SX4842
159	青磁盤	口: 29.1 高: 3.6	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり		第Ⅲ区域 Z26/SX4842
160	白磁皿	口: 12.8 高: 2.6 底: 7.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅲ区域 Y27/SX4842 外:高台端面露胎
161	中岡製 褐釉壺	高: 9.5 底: 11.2	焼: 良好 色: 褐色	堅緻 土師質 1/10以下	胴部:上位で張り出す 底部:平坦	外:胴部下位回転ナデ後回転ヘラケズリ/ 褐釉ハケ塗り/シャープな仕上げ/底部回 転ヘラケズリ 内:胴部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 Z26/SX4842 B'・C'23・24/遺構面 外:胴部下位~底部露胎 内:底面自然釉
162	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 10.4 高: 5.2	焼: 良好 色: 明茶色	堅緻 1/3	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内:口縁部~底部回転ナデ	第Ⅲ区域 E'24/SX4840 外:体部下位露胎
163	青磁碗	口: 12.6 高: 5.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に線刻蓮花文 内:体部下位に草花文	第Ⅲ区域 E'24/SX4840
164	青磁皿	高: 1.8 底: 8.8	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	底部:削出高台		第Ⅲ区域 E'24/SX4840 C'27/遺構面 外:底面周縁露胎

第Ⅳ区域遺構出土土器(PL. 54 第53図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
165	灰釉 天目碗	口: 16.0 高: 5.6	焼: 良好 色: 透緑灰色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ 内:口縁部~体部中位回転ナデ	第Ⅳ区域 X35・36/SB4790 外:体部下位露胎
166	灰釉 三筋壺	高: 3.1 底: 14.0	焼: 良好 色: 灰緑色	堅緻 1/10以下	体部:胴部上位で張り出す	外:胴部上位回転ナデ/胴部上位条線3 内:胴部上位回転ナデ	第Ⅳ区域 W33/SB4790
167	青磁盤		焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり	内:体部に錦蓮花文	第Ⅳ区域 V36/SB4790
168	白磁碗	高: 1.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底面中央に具須文・墨線2	第Ⅳ区域 X33/SB4790 外:高台端面露胎
169	白磁皿	口: 9.6 高: 2.0 底: 5.8	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/2	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅳ区域 X33/SB4790 外:高台端面露胎
170	白磁皿	口: 19.2 高: 3.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅳ区域 X33/SB4790
171	白磁碗	高: 1.1 底: 2.4	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台		第Ⅳ区域 V33/SB4790 内:底面周縁露胎
172	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.7	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅳ区域 U30・31/SX4847 片口状に歪む 手握ね成形
173	土師器 小皿	口: 7.3 高: 1.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅳ区域 U30・31/SX4847 片口状に歪む 手握ね成形
174	瀬戸美濃 鉄釉 茶入	高: 1.9 底: 7.0	焼: 良好 色: 黒色	軟質 1/10以下	体部:体部下位内湾して立ち上がる 底部:平坦	外:体部下位回転ヘラケズリ/底部ナデ 内:体部下位回転ナデ	第Ⅳ区域 X32/SD4848 外:底部露胎/体部下位 スス付着
175	土師器 小皿	口: 8.6 高: 2.3 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~底部ヨコナデ	第Ⅳ区域 Z30/SD4806 片口状に歪む 口端部全周スス付着 外:油染み
176	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.2 底: 4.5	焼: 良好 色: 明橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅳ区域 Z30/SD4806 片口状に歪む 口端部全周スス付着
177	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅳ区域 Z30/SD4806 片口状に歪む 口端部3/4周スス付着
178	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 3.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅳ区域 Z30/SD4806 口端部全周スス付着

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
179	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.1 底: 6.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で外方にやや屈曲/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ/シャープな仕上げ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 Z30/SD4806 口端部一部スス付着 外:底部黒斑 内:底部黒斑
180	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.5 底: 6.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部中位に段あり/口端部内側に段あり/ 口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 Z30/SD4806 口端部全周スス付着 片口状に歪む 外:底部周縁黒斑 内:底部黒斑
181	土師器 小皿	口: 11.6 高: 2.3 底: 6.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部中位に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底/中央やや凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 Z30/SD4806 口端部一部スス付着 片口状に歪む 内:底部黒斑
182	土師器 盤	口: 17.0 高: 2.8 底: 7.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 Z30/SD4806
183	鉄釉 壺	高: 4.0 最: 12.7	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	胴部:上位で張り出す/胴部上位に耳状把手2または4	外:頸部~胴部上位回転ナデ 内:頸部~胴部上位回転ナデ	第IV区域 Z30/SD4806
184	灰釉 瓶子	口: 5.6 高: 2.7	焼: 良好 色: 緑灰色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内傾して上方に短く立ち上がる/ 口端部に突帯がめぐる	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	第IV区域 Z30/SD4806
185	染付 皿	口: 10.0 高: 3.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収 める 底部:削出高台	外:口縁部に具須園線1/体部に唐草文/体 部下位に園線2/高台に園線1 内:底面中央に具須唐草文・園線2	第IV区域 Z30/SD4806
186	白磁 杯	高: 1.6 底: 2.2	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/6	体部:体部下位は屈曲して外方へ立ち上 がる 底部:削出高台		第IV区域 T31・32/SD4833 外:高台端面露胎 内:底面周縁露胎

第V区域遺構出土土器(PL. 54~58 第54~60図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
187	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.5	焼: 良好 色: 黄白色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第V区域 S36/SB4788 片口状に歪む 手捏ね成形
188	土師器 鉢	口: 2.2 高: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/口端 部内側面取り 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第V区域 R36/SB4788 片口状に歪む 手捏ね成形
189	越前焼 壺	口: 12.2 高: 10.0	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部:やや外傾して短く立ち上がる/口 端面平坦/片口 胴部:上位で張り出し下位で窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/口縁部 に浅い凹線1 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ後指頭 痕・ユビナデ	第V区域 R36/SB4788 S35・36/砂利混暗色土 外:自然釉
190	越前焼 短頸壺	口: 23.6 高: 6.2	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:やや外傾して短く立ち上がる/口 端面は平坦	外:口縁部~胴部ヨコナデ 内:口縁部~胴部ヨコナデ	第V区域 R36/SB4788
191	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.6 高: 5.9	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 R36/SB4788 R36/焼土 外:体部下位露胎
192	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.4 高: 5.5	焼: 不良 色: 褐緑色	精緻 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸 く収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 R36/SB4788 R35・36/砂利混暗色土 外:体部下位露胎
193	白磁 皿	口: 11.4 高: 3.7 底: 6.4	焼: 良好 色: 明灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 P36/SB4788 外:高台端面露胎
194	青磁 輪花皿	口: 11.8 高: 2.5 底: 6.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 4/5	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口唇部 は丸く収める/口端部を緩やかな波状に する 底部:削出高台	外:口縁部~体部鍋蓮花文 内:口縁部~体部鍋蓮花文	第V区域 P36/SB4788 Q35/SD4801 L/M36・37/SB4786 外:高台端面露胎
195	青磁 盤	口: 46.0 高: 10.0 底: 18.4	焼: 良好 色: 濃オリーブ	精緻 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部外方へ屈曲/口端部内側に受 口の段あり 底部:削出高台	外:口縁部シャープな仕上げ 内:口縁部~体部鍋蓮花文/底部中央に陰 刻花文/園線1	第V区域 S35・36/SB4788 S32~35/SD4798 外:底部周縁露胎

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
196	染付皿	高: 1.6 底: 5.5	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	底部:基筒底	内:底面中央に呉須唐草文・圏線2	第V区域 R36/SB4788 外:高台端面露胎
197	灰軸 天目碗	口: 10.0 高: 3.8	焼: 良好 色: 透灰色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部中位回転ナデ 内:口縁部～体部中位回転ナデ	第V区域 N・039/SB4786 貫入多し
198	青磁盤	口: 38.6 高: 8.2 底: 14.8	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へやや屈曲/口端部内側に 受口状の段あり 底部:削出高台	外:口縁部シャープな仕上げ 内:口縁部～体部蓮華文	第V区域 N・039/SB4786 S35/SD4801 T35・36/SD4798 第III区域 V23・24/SI4816 外:底部周縁露胎
199	白磁杯	口: 6.4 高: 3.4	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める		第V区域 L・M37/SB4786 外:口唇部露胎
200	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部中位に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 L31/SB4787 片口状に歪む 口端部全周スス付着
201	越前焼 搦鉢	口: 40.0 高: 7.0	焼: 不良 色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 土師質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部～体部回転ナデ/幅2.7cm・9条 の卸目/粗/体部上位に扇状に卸目	第V区域 M30・31/SB4787 N32/遺構面 第III区域 R27/遺構面
202	瀬戸美濃 鉄軸 茶入	高: 3.7 底: 6.0	焼: 良好 色: 茶黒色	精緻 1/10以下	体部:体部下位内湾して立ち上がる 底部:平坦	外:体部下位～底部回転ヘラケズリ 内:体部下位回転ナデ	第V区域 L29・30/SB4787 外:体部下位露胎
203	染付碗	口: 12.0 高: 5.7 底: 4.6	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部に呉須圏線1/体部下位に圏線1/ 高台に圏線1 内:口端部に呉須圏線1底面中央に呉須「 福」・圏線1	第V区域 Q27/SB4846 Q36/SB4788 R35/SD4801 外:底部～高台端面 露胎
204	朝鮮 鉢	口: 11.6 高: 3.0	焼: 良好 色: 暗赤茶色	精緻 1/10以下	口縁部:上方に短く屈曲して立ち上がる 体部:扁球形/内湾して立ち上がる/注口が 付く	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第V区域 Q27/SB4846 026/SS4824
205	青磁 稜花皿	口: 14.6 高: 4.0 底: 8.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端 部外反/口唇部は丸く収める/口端面を押 圧し、花卉状にする	内:口縁部に陰刻花文がめぐる	第V区域 032/SB4791 026/SS4824 外:底部周縁露胎
206	青磁 花托	口: 9.0 高: 21.1 底: 10.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/2	口縁部:やや内傾して直線状に上方へ立ち 上がる 体部:円筒形/下位に円盤状の突帯をもつ 底部:やや外方へ開く	外:口縁部～底部回転ナデ/口端部に浅 い条線1/体部に草花文陰刻/突帯上・下面 に圏線2・斜行線文陰刻/底部草花文陰刻 内:口縁部～体部回転ナデ	第V区域 032/SB4791 R・S35/SD4801 T33・34/SD4798 外:底部周縁露胎
207	染付皿	口: 11.0 高: 2.4 底: 4.0	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/6	体部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:基筒底	外:口縁部上位に呉須圏線2・列点文/体部 下位に芭蕉文 内:口端部に呉須圏線1/底部に牡丹文	第V区域 032/SB4791 第III区域 W23・24/SA4780 外:高台端面露胎
208	白磁皿	高: 1.4 底: 3.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:基筒底		第V区域 032/SB4791 外:高台端面露胎
209	越前焼 搦鉢	口: 28.0 高: 7.2	焼: 良好 色: 淡灰褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:鉢形/内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部中位回転ナデ/シャープ な仕上げ 内:口縁部～体部回転ナデ	第V区域 0・S31・32/SD4797
210	越前焼 搦鉢	口: 31.2 高: 11.0 底: 14.0	焼: 不良 色: 淡黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 土師質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部は内側に傾き平坦 底部:平坦	外:口縁部～体部下位回転/底部周縁線目 痕/底部ナデ/底部中心にヘラ記号 内:口縁部～体部中位カキメ/体部下位ヨ コナデ/底部摩耗	第V区域 S35/SD4797 S・T34・35/遺構面
211	土師器 小皿	口: 7.8 高: 1.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部で外方にやや屈曲/口端部内側 に段あり 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む 口端部部分的スス付着
212	土師器 小皿	口: 7.1 高: 1.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ヨコナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む 口端部部分的スス付着

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
213	土師器 小皿	口: 8.4 高: 2.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部で外方にやや屈曲/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第V区域 T34・35/SD4797 片口状に歪む
214	土師器 小皿	口: 8.4 高: 1.9 底: 3.4	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む
215	土師器 小皿	口: 8.0 高: 2.0 底: 3.8	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む 口端部半周スス付着
216	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 5.5	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む 口端部一部油染み・スス付着
217	土師器 小皿	口: 14.0 高: 2.1 底: 7.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外反して段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部未調整 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む
218	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.3 底: 7.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 片口状に歪む 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
219	土師器 小皿	口: 12.6 高: 2.5 底: 7.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
220	土師器 小皿	口: 12.2 高: 2.3 底: 6.5	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む/径5mmの穿孔1	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797
221	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.4 底: 6.3	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S32・33/SD4797 口端部3/4周スス付着
222	灰釉 皿	高: 1.8 底: 5.8	焼: 良好 色: 緑黄色	堅緻 1/10以下	底部: 削出高台		第V区域 S32/SD4797 外: 底部中心露胎
223	青磁 盤	口: 25.0 高: 5.0 底: 10.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/2	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部外方へやや屈曲/口唇部内側に受口状の段あり 底部: 削出高台	外: 口縁部シャープな仕上げ	第V区域 S32・T31/SD4797 030/SD4793 外: 高台～体部下位露胎
224	青磁 碗	高: 2.3 底: 6.5	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	内: 底部に陰刻花文・圏線1	第V区域 S31・32/SD4797 第II区域 K22/SA4763 外: 底部周縁露胎
225	染付 皿	高: 1.0 底: 5.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/底部に銘款・圏線2 内: 底部に呉須牡丹文・圏線2文	第V区域 T32・33/SD4797 外: 高台端面露胎
226	染付 筒茶碗	口: 8.4 高: 5.4 底: 4.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	体部: やや内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に草花文/体部下位に圏線2/高台に圏線2 内: 底部に呉須草花文・圏線2	第V区域 T35・36/SD4797 第III区域 A'23/SA4780 外: 高台端面露胎
227	染付 筒茶碗	高: 1.7 底: 4.2	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 高台に呉須圏線2/底部に銘款 内: 底部に呉須鹿・圏線1	第V区域 R26/SD4797 外: 高台端面露胎
228	越前焼 甕	口: 49.2 高: 10.5	焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から外傾して短く立ち上がる/ 口端部浅く凹む/口縁部凹線1・匙面1/口端部内側段あり	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ・指頭痕	第V区域 T34～36/SD4798 U35・36/遺構面 外: 胴部上位降灰
229	越前焼 甕	口: 43.2 高: 17.5	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から外傾して短く立ち上がる/ 口端部平坦	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ・指頭痕	第V区域 T35・36/SD4798 S36/遺構面 外: 胴部上位降灰・スス付着 内: 胴部スス付着
230	越前焼 掃鉢	口: 34.0 高: 10.3 底: 14.0	焼: 良好 色: 橙赤色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部浅く凹む/口端部内側に浅い凹線1 底部: 平坦	外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部周縁 縄目痕/底部未調整/シャープな仕上げ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.9cm・9条の卸目/体部下位～底面摩耗	第V区域 T34・35/SD4798 第III区域 T27/SX4834

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
231	越前焼 蒲鉢	口: 24.8 高: 9.3 底: 12.8	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/1	口縁部: やや外反して斜め外方へ立ち上がる/口端部でやや上方に屈曲/口端部内側に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部周縁 縄目痕/底部未調整/シャープな仕上げ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.1cm・8条の卸目/底部交差卸目	第V区域 T34・S31/SD4798 外: 半身ヤキムラ
232	越前焼 深鉢	口: 27.0 高: 12.0 底: 16.8	焼: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 白色粒子 堅微 1/8	口縁部: 鉄鉢形/直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや内湾/口唇部丸く収める	外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部周縁 縄目痕/底部未調整/シャープな仕上げ 内: 口縁部～体部回転ナデ/底部摩擦	第V区域 T34/SD4798 外: 半身ヤキムラ
233	越前焼 浅鉢	口: 19.8 高: 7.6 底: 14.0	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅微 3/4	口縁部: 鉄鉢形/直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内湾/口唇部丸く収める	外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部ナデ・摩擦 内: 口縁部～体部回転ナデ/漆継ぎ痕	第V区域 T35・36/SD4798 Q35/SD4801 R35・S36/遺構面 外: 降灰
234	越前焼 壺	高: 26.5 最: 32.8 底: 15.0	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅微 1/4	胴部: 上位で張り出す 底部: 平坦	外: 胴部ナデ/底部スノコ状圧痕 内: 胴部ナデ後指頭痕	第V区域 S28/SD4798 第Ⅲ区域 T27・28/暗褐色土 U25・26/暗褐色土 外: 胴部上位降灰 内: 底部自然釉・降灰
235	越前焼 火舎	口: 37.7 高: 5.0	焼: 良好 色: 黒灰色	極砂粒 白色粒子 精微 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端部はT字状に内外に突出	外: 口縁部下位ナデ/口端面は幅広で、下段に押し波状文をめぐらす/体部に蓮花文貼付 内: 口縁部回転ナデ	第V区域 T35・36/SD4798 S35・36/砂利混褐色土
236	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第V区域 S30/SD4798 片口状に歪む
237	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.6 底: 2.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31・32/SD4798 片口状に歪む
238	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 2.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31・32/SD4798 片口状に歪む
239	土師器 小皿	口: 8.2 高: 2.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部内側に段あり 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 T31・32/SD4798 片口状に歪む 口端部1/4周スス付着 外: 油染み
240	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S28/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着
241	土師器 小皿	口: 8.6 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着
242	土師器 小皿	口: 8.6 高: 2.0 底: 4.3	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む
243	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 暗茶色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口端部内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底部未調整 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 T35・36/SD4798 片口状に歪む 外: スス付着
244	土師器 小皿	口: 12.2 高: 2.1 底: 4.8	焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 片口状に歪む 口端部一部スス付着 外: 体部下位スス付着
245	土師器 小皿	口: 8.4 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 暗茶色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第V区域 S27・28/SD4798 片口状に歪む 外・内: スス付着
246	土師器 小皿	口: 8.4 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	第V区域 S28/SD4798 片口状に歪む
247	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.2	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～底部ヨコナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着
248	土師器 小皿	口: 8.3 高: 2.0 底: 3.7	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S28/SD4798 片口状に歪む
249	土師器 小皿	口: 9.5 高: 2.2 底: 4.5	焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 片口状に歪む 口端部1/4周スス付着

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
250	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 5.2	焼: 良好 色: 暗黄褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部内側に段あり/ 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着 外: 体部下位スス付着
251	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.3 底: 4.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり/口縁部あり/ 平面形鈍三角形 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着
252	土師器 小皿	口: 10.2 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 暗茶灰色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 外・内: スス付着
253	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.2 底: 4.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 口端部全周スス付着 外: 油染み沈着物
254	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.3 底: 5.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕/底部周縁剥離 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着
255	土師器 小皿	口: 10.8 高: 2.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 口端部全周スス付着
256	土師器 小皿	口: 10.2 高: 2.2 底: 5.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む
257	土師器 小皿	口: 10.6 高: 2.3 底: 5.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕/シャープな仕上げ 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S28/SD4798
258	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.2 底: 6.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R26/SD4798
259	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.0 底: 6.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R26/SD4798 口端部全周スス付着 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
260	土師器 小皿	口: 13.6 高: 2.0 底: 8.2	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R31/SD4798 外: 赤色化粧土/底 部黒斑 内: 底部黒斑
261	土師器 小皿	口: 14.0 高: 2.2 底: 8.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R31/SD4798
262	土師器 小皿	口: 14.6 高: 2.5 底: 6.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 堅軟 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 口端部部分のスス付着 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
263	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.5 底: 7.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R30・31/SD4798 口端部全周スス付着
264	土師器 小皿	口: 11.6 高: 2.2 底: 6.9	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 口端部全周スス付着 外: 被熱 内: 底部スス付着
265	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.6 底: 8.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口端部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整/体部に意図的な打欠 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
266	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.5 底: 6.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S28/SD4798 外: 底部黒斑 内: 底部黒斑
267	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.0 底: 6.5	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部に段あり/口唇部 は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕/シャープな仕上げ 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R30・31/SD4798
268	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.2 底: 6.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕/底 部未調整 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 T31/SD4798 片口状に歪む 口端部全周スス付着 内: 底部黒斑

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
269	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.6 底: 6.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部に段あり/口端部 内側に段あり 底部:平底/中央やや凹む	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ/底部 周縁凹線	第V区域 S31/SD4798
270	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.3 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部に段あり/口端部 内側に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指 頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 S31/SD4798 口端部部分的にス ス付着
271	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 13.0 高: 6.2 底: 4.0	焼: 良好 色: 茶黒色	精 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し 丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部底部回転ナデ	第V区域 T35・36/SD4798 外:底部~体部下位 露胎
272	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.8 高: 5.0	焼: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 T35・36/SD4798 外:体部下位露胎
273	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.4 高: 5.7	焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 S30・31/SD4798 外:体部下位露胎
274	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.6 高: 5.7	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 S32・33/SD4798 外:体部下位露胎
275	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 4.7	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く 収める	外:口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位 回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 T35/SD4798 外:体部下位露胎
276	瀬戸美濃 鉄釉 茶入	高: 1.3 底: 5.8	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	底部:平坦	外:底部回転ヘラケズリ 内:体部下位回転ナデ/右渦巻き	第V区域 T35・36/SD4798 外:体部下位露胎
277	瀬戸美濃 鉄釉 茶入	高: 3.0 底: 3.2	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/4	体部:中位で膨らむ 底部:平坦	外:体部中位回転ナデ/底部回転糸切り痕 内:体部下位回転ナデ	第V区域 T35/SD4798 外:底部~体部下位 露胎
278	灰釉 香炉	口: 10.8 高: 3.6	焼: 不良 色: 淡黄褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外傾して上方へ立ち上る /口端部は平坦/口端部内側突出 体部:寸胴形	外:口縁部~体部回転ナデ/口端部条線2 内:口縁部~体部回転ナデ	第V区域 T35/SD4798
279	青磁 皿	口: 8.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる	外:口縁部~体部に線刻蓮花文 内:口縁部~体部に線刻放射状文	第V区域 S28/SD4798
280	青磁 皿	高: 2.0 底: 5.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第V区域 S29・30/SD4798 外:高台端面露胎
281	青磁 碗	高: 4.1 底: 5.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/3	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:底部中央に漆付着 内:底部中央に「葡」、櫛歯文帯・圈線1 陰刻	第V区域 S30/SD4798 外:底面露胎
282	青磁 香炉	高: 3.1 底: 5.1	焼: 良好 色: 淡オリーブ	精緻 1/10以下	体部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる 底部:割り高台	外:体部中位に突線1/体部下位に条線1	第V区域 S35・36/SD4798 外:高台端面露胎
283	青磁 香炉	高: 4.4 底: 7.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/6	体部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる 底部:中央に削出高台/周縁に三角板脚台3	外:体部中位~下位に凹面3/三角板脚台の 縁に爪状の鉄釉 内:体部中位~下位回転ナデ	第V区域 T35/SD4798 S32・33/SD4797 P36/遺構面 外:削出高台で接地
284	青磁 瓶	高: 24.7 最: 20.0	焼: 良好 色: 明オリーブ	精緻 1/4	頸部:やや外傾して直線状に上方へ立ち上 がる 胴部:上位で張り出す/下位で窄まる	外:頸部回転ナデ・稜線7/胴部上位~中位 に陽刻牡丹・唐草文/胴部下位に突帯1・ 鎗蓮花文帯 内:頸部~胴部回転ナデ	第V区域 T34~37/SD4798 第IV区域 X32/SD4848
285	白磁 皿	口: 18.0 高: 4.0 底: 10.6	焼: 不良 色: 白灰色	精緻 1/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:付け高台		第V区域 T35・36/SD4798 S36/底・砂利混土 外:高台端面露胎
286	白磁 皿	高: 2.0 底: 9.0	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/8	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:付け高台		第V区域 S30・31/SD4798 外:高台端面露胎
287	白磁 碗	高: 1.5 底: 5.0	焼: 良好 色: 明灰色	精緻 1/6	底部:削出高台		第V区域 T36・37/SD4798 外:高台端面露胎
288	白磁 皿	口: 11.0 高: 2.4	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める		第V区域 T35・36/SD4798
289	白磁 輪花皿	高: 1.6 底: 6.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部:やや内湾して立ち上がる 底部:削出高台	外:体部鎗蓮花文/底部に呉須絵・圈線2 内:体部鎗蓮花文	第V区域 T35/SD4798 外:高台端面露胎
290	白磁 皿	高: 1.9 底: 2.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/6	体部:内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:碁笥底		第V区域 S30・31/SD4798 外:高台端面露胎

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
291	染付碗	高: 2.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	体部: やや内湾して上方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 高台に呉須圏線1/底部に呉須圏線3 内: 底部に呉須花文・圏線2・鋸歯文帯・圏線1	第V区域 S27・28/SD4798 第III区域 A'23/SA4780 外: 高台端面露胎
292	染付皿	高: 2.1 底: 8.8	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 体部下位に呉須草花文/高台に圏線2 内: 底部に呉須圏線2・唐草文	第V区域 S29/SD4798 第I区域 G25/遺構面 外: 高台端面露胎
293	染付皿	高: 1.5 底: 7.8	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 高台に呉須圏線2 内: 底部中央に呉須アラベスク文	第V区域 S30・31/SD4798 外: 高台端面露胎
294	染付皿	口: 12.8 高: 2.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/3	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部～体部下位に呉須変形唐草文/ 高台に圏線2 内: 口縁部～体部にアラベスク文/底部に アラベスク文・圏線2	第V区域 T35・36/SD4798 T34/遺構面 外: 高台端面露胎
295	染付皿	口: 12.0 高: 2.8 底: 5.3	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部～体部下位に呉須草花文/高台 に圏線1 内: 口縁部～体部に呉須草花文/底部に牡 丹文・圏線2	第V区域 S30・31/SD4798 外: 高台端面露胎
296	染付皿	口: 10.0 高: 3.0 底: 2.8	焼: 良好 色: 透青灰色	精緻 4/5	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 碁笥底	外: 口縁部上位に呉須圏線1・波濤文・圏 線1・体部下位に芭蕉文・圏線1 内: 口端部に呉須圏線2・底部中央に葡萄 唐草文・圏線2	第V区域 R～T35/SD4798 R35/SD4801 外: 高台端面露胎
297	染付皿	口: 12.0 高: 2.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 淡青白色	精緻 3/4	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 碁笥底	内: 口端部に呉須圏線1・底部中央に魚文 ・唐草文・圏線1	第V区域 T34・35/SD4798 R35/遺構面 第IV区域 T33・U33・34/遺構面 外: 高台端面露胎
298	朝鮮 水注	高: 4.6	焼: 良好 色: 濁緑灰色	精緻 1/10以下	頸部: 外反して上方に立ち上がる 体部: 胴部上位張り出す	外: 頸部～胴部回転ナデ 内: 頸部～胴部回転ナデ	第V区域 T35・36/SD4798 漆継ぎ痕 外・内: 自然袖
299	タイ製 四耳壺	口: 19.0 高: 58.5 最: 42.4 底: 25.8	焼: 良好 色: 黒茶色	堅緻 2/3	口縁部: 頸部から強く外反/口端部内側は 受口状/口端部把厚 胴部: 上位で張り出し半環状の把手4がつ く 底部: 平坦	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中 位回転ナデ/胴部下位回転ヘラズリ/底 部ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部回転ナデ/ 底部に渦巻状の押圧	第V区域 T35・36/SD4798 R35/SD4801 M・N33/遺構面 外: 胴部上位鉄軸2 度掛け
300	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.1 底: 4.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部やや外反/口端部に段あり/口 端部内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 M30/SD4794 口端部全周スス付着
301	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口端部に段あり/口端部 内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 M31・32/SD4794 片口状に歪む
302	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部内側に段あり 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部～底部ヨコナデ	第V区域 M31・32/SD4794 片口状に歪む
303	瀬戸美濃 鉄袖 茶入	口: 4.0 高: 3.2 最: 6.0	焼: 良好 色: 茶黒色	精緻 1/8	口縁部: 扁球壺/短く直立して立ち上がる 体部: 中で膨らむ	外: 口縁部～体部中位回転ナデ 内: 口縁部～体部中位回転ナデ	第V区域 M32/SD4795 外: 底部～体部下位 露胎
304	瀬戸美濃 鉄袖 水滴	口: 3.2 高: 2.1 最: 5.0	焼: 良好 色: 茶黒色	精緻 1/8	口縁部: 扁球壺/短く直立して立ち上がる 体部: 中で膨らむ	外: 口縁部～体部中位回転ナデ 内: 口縁部～体部中位回転ナデ	第V区域 M32/SD4795
305	越前焼 壺		焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 頸部から外傾して短く立ち上がる/ 口端部平坦/口端部内側段あり 胴部: 上位で張り出す	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ ・ヘラ記号 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ ・指頭痕・ユビナデ	第V区域 M32/SD4795 N32/遺構面 外: 胴部上位降灰
306	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 N31・32/SD4796 外・内: 底部スス付着 外: 口端部に意図的 な打欠
307	土師器 小皿	口: 10.6 高: 2.4 底: 6.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ後指 頭痕 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 N31・32/SD4796 片口状に歪む 外・内: 底部スス付着 外: 口端部に意図的 な打欠3ヶ所
308	青磁 皿	高: 1.2 底: 3.0	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	底部: 碁笥底		第V区域 M31/SD4796 外: 高台端面露胎

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
309	青磁瓶	-	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/10以下	頸部: やや外傾して直線状に上方へ立ち上がる	外: 口縁部～頸部回転ナデ・陰刻牡丹・唐草文 内: 口縁部～頸部回転ナデ	第V区域 L26/SD4753
310	白磁皿	口: 11.4 高: 3.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第V区域 S29/SD4800 外: 高台端露胎
311	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 5.3	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/6	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり、口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内: 口縁部～体部下位回転ナデ	第V区域 O29・30/SD4793 外: 体部下位露胎
312	青磁皿	口: 13.6 高: 2.2	焼: 良好 色: オリブ	精緻 1/8	口縁部: 外反して立ち上がる	内: 口縁部～体部に陰刻花文	第V区域 O29/SD4793
313	青磁碗	高: 2.6 底: 4.0	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/8	底部: 削出高台	内: 底部に陰刻算木文・圏線1	第V区域 O29/SD4793 外: 底部中央露胎
314	染付皿	高: 1.0 底: 6.2	焼: 良好 色: 透青灰色	精緻 1/8	底部: 削出高台	外: 高台に呉須圏線1 内: 底部中央に玉抱き獅子文	第V区域 O30/SD4793 外: 底部中央露胎
315	染付皿	口: 12.8 高: 2.2 底: 8.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: ベタ高台	内: 口縁部に呉須圏線1/底部に牡丹・唐草文・圏線2	第V区域 O29/SD4793 M33/遺構面 外: 底部中央露胎
316	青磁 稜花皿	口: 15.2 高: 4.2 底: 7.4	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/4	口縁部: 口端部外反/口唇部は丸く収める/ 口端面を押圧し、花卉状にする 底部: 削出高台	内: 口縁部～体部に陰刻波状線2・草花文がめぐる/底部に陰刻花文・圏線1	第V区域 L33/SD4755 M33/遺構面 第Ⅲ区域 U26・27/SX4836 外: 底部周縁露胎
317	越前焼 擂鉢	口: 32.6 高: 9.8 底: 15.6	焼: 良好 色: 橙赤色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面平坦/口端部内側に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部周縁縄目痕/底部ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/幅2.9cm・10条の卸目	第V区域 L33/SD4755 M33/遺構面
318	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 13.0 高: 5.8	焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部外反/口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内: 口縁部～体部下位回転ナデ	第V区域 N27・28/SS4823
319	青磁 稜花皿	口: 14.8 高: 4.0 底: 7.4	焼: 良好 色: オリブ	精緻 1/4	口縁部: 口端部外反/口唇部は丸く収める/ 口端面を押圧し、花卉状にする 底部: 削出高台	内: 口縁部～体部に陰刻波状線1・草花文がめぐる/底部に陰刻蓮花文・圏線1	第V区域 N29/SS4823 K35・J36/遺構面 外: 底部周縁露胎
320	染付皿	口: 14.0 高: 1.8	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 口端部外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位に呉須圏線1・変形唐草文 内: 口縁部～体部にアラバスク文	第V区域 N27・28/SS4823
321	朝鮮 碗	口: 15.0 高: 2.3	焼: 良好 色: 淡灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部シャープな仕上げ	第V区域 N27・28/SS4823
322	青磁 稜花皿	口: 15.2 高: 3.6 底: 6.8	焼: 良好 色: オリブ	精緻 1/8	口縁部: 口端部外反/口唇部は丸く収める/ 口端面を押圧し、花卉状にする 底部: 削出高台	内: 口縁部～体部に陰刻波状線1・草花文がめぐる/底部に陰刻蓮花文	第V区域 M・025/SS4824 外: 底部周縁露胎 第I区域 遺構面
323	白磁皿	高: 1.6 底: 4.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 基筒底		第V区域 O25/SS4824 外: 底部周縁露胎
324	灰釉 鉢	-	焼: 良好 色: 黄緑色	精緻 1/10以下	口縁部: 口端部内側は凹面・受口状となる	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第V区域 Q25/SS4824 第Ⅲ区域 Y23/SS260
325	染付 双耳瓶	口: 5.5 高: 15.3 最: 7.6	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/4	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部: 外反して上方へ立ち上がる 胴部: 中位で膨らむ/下位で再び膨らみをもつ	外: 口縁部～頸部に呉須圏線1・芭蕉文・圏線1・アラバスク文/胴部上位に鱗文・胴部中位～下位に牡丹・唐草文・圏線3/胴部下位に宝相文・圏線2・雲文・圏線2/双耳把手に魚文	第V区域 U27/SS4824 第Ⅲ区域 W27・28/遺構面
326	越前焼 短頸壺	口: 19.4 高: 13.4 最: 25.9	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口端面平坦 胴部: 上位で張り出し下位で窄まる	外: 口縁部～胴部上位回転ナデ/胴部上位に突帯・ヘラ記号/胴部中位～下位ナデ 内: 口縁部～胴部回転ナデ/胴部上位～下位ナデ後指頭痕	第V区域 Q・R35/SD4801 Q36/焼土
327	越前焼 壺	高: 19.1 最: 28.0 底: 14.0	焼: 良好 色: 淡赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	胴部: 上位で張り出し下位で窄まる 底部: 平坦	外: 胴部中位～下位ヘラナデ/底部未調整 内: 胴部中位～下位回転ナデ	第V区域 Q・R35/SD4801
328	越前焼 瓶	口: 12.3 高: 34.3 最: 33.0 底: 17.5	焼: 良好 色: 暗紫赤色	極砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部: 頸部から外反して開く/口唇部は丸く収める 胴部: 下膨れ/中位で張り出す	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位～中位回転ナデ/胴部下位ヘラケズリ/底部右回転糸切り痕 内: 口縁部ヨコナデ/頸部～胴部下位ナデ後指頭痕/底部周縁ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 Q・R35/SD4801 R35/遺構面

IV. 第102・104次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
329	越前焼鉢	口: 20.6 高: 18.3 最: 22.8 底: 13.0	焼: 不良 色: 淡褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 土師質 1/3	口縁部: 短く内傾して屈強する/口端面平坦 胴部: 寸胴形/上位で張り出す 底部: 平坦	外: 口縁部~胴部上位ヨコナデ/胴部上位~下位回転ヘラケズリ/底部周縁縄目痕 内: 口縁部~胴部中位回転ナデ/胴部下位回転ヘラケズリ	第V区域 R・S35/SD4801 R35/遺構面
330	越前焼播鉢	口: 31.2 高: 10.5 底: 14.7	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面凹線/口端面内側に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部周縁縄目痕/体部下位~底部摩擦 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅3.0cm・10条の卸目/底面卸目	第V区域 Q35/SD4801
331	越前焼播鉢	口: 41.7 高: 16.6 底: 16.6	焼: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面で上位に外反/口端面平坦/口端面内側に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底部周縁縄目痕/底部未調整 内: 口縁部~体部回転ナデ/幅3.4cm・11条の卸目/卸目間密/底部摩擦	第V区域 Q・R35/SD4801 R36/遺構面
332	土師器小皿	口: 8.4 高: 2.0 底: 3.6	焼: 良好 色: 淡茶灰色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面内側に段あり 底部: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 Q・R35/SD4801 片口状に歪む 口縁部1/4周スス付着
333	土師器小皿	口: 8.2 高: 1.8 底: 3.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 S35/SD4801 片口状に歪む 口縁部1/4周スス付着
334	土師器小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面で上位に外反/口端面段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平坦/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R・S35/SD4801 口縁部全周スス付着
335	土師器小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 3.7	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面やや外傾/口唇部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R35/SD4801 片口状に歪む 口縁部一部スス付着
336	土師器小皿	口: 6.3 高: 1.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面内側に段あり 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	第V区域 R35/SD4801
337	土師器小皿	口: 11.8 高: 2.4 底: 6.0	焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端面段あり/口唇部内側に段あり 底部: 平坦/中央凹む	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ後指頭痕 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 R・S35/SD4801 片口状に歪む
338	中国製鉄釉天目碗	口: 10.6 高: 6.1 底: 3.8	焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端面で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める 底部: 蛇の目高台	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~底部回転ナデ	第V区域 T35/SD4801 体部底部~体部下位露胎 外: 高台に漆
339	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 12.0 高: 5.7	焼: 良好 色: 濃茶色	堅緻 1/5	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端面外反/口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープな仕上げ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 Q・R35/SD4801 体部下位露胎
340	瀬戸美濃鉄釉茶入	高: 3.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 透茶黒色	精緻 1/8	体部: 中位で膨らむ 底部: 平坦	外: 体部中位~下位回転ナデ/底部回転ヘラケズリ 内: 体部中位~下位回転ナデ	第V区域 Q・P35/SD4801 底部~体部下位露胎
341	鉄釉皿	高: 1.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 暗橙褐色	堅緻 1/10以下	底部: 蛇の目高台	底部: シャープな仕上げ	第V区域 Q36/SD4801 底部~高台露胎
342	鉄釉水滴	高: 0.7 底: 2.8	焼: 良好 色: 暗橙褐色	堅緻 1/10以下	底部: 蛇の目高台	底部: シャープな仕上げ	第V区域 R35/SD4801 底部~高台露胎
343	鉄釉水滴	口: 3.0 高: 7.0 最: 6.5 底: 3.8	焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/1	把手部: 体部上位に接線/把手中央は三葉文状に成形/断面方形 口縁部: 短く上方へ屈曲/口唇部は丸く収める 体部: 寸胴形: 体部上位は張り出す/側面に径1.0cmの注口が接合/注口部は断面八角形 底部: ベタ高台	外: 口縁部は回転ナデ/シャープな仕上げ/体部は回転ナデ/底部周縁は回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部回転ナデ	第V区域 R・S35/SD4801 底部~体部下位露胎
344	灰釉皿	高: 1.2 底: 5.8	焼: 良好 色: 透濃緑色	堅緻 1/10以下	底部: ベタ高台		第V区域 Q・R35/SD4801 外: 底部輪トチン
345	灰釉鉢		焼: 良好 色: 濁黄緑色	精緻 1/10以下	口縁部: 口端面内側は凹面となり受口状となる	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第V区域 Q・R35/SD4801 S36/遺構面 外: 体部中位露胎 内: 体部中位露胎
346	灰釉碗	口: 15.2 高: 3.2	焼: 不良 色: 黄緑色	軟質 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部~体部に陰刻線	第V区域 Q・R36/SD4801
347	青磁碗	高: 4.8 底: 5.0	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	底部: 削出高台	外: 体部に蓮蓮花文 内: 底部に陰刻花文	第V区域 Q・R35/SD4801 外: 底部周縁露胎

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
348	青磁 酒会壺	-	焼: 良好 色: 透オリブ	精緻 1/10以下	胴部:上位で張り出す	外:陽刻牡丹・唐草文 内:胴部回転ナデ	第V区域 S35/SD4801 第Ⅲ区域 Y27/SX4842
349	白磁 輪花皿	口: 高: 12.0 2.7	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかな波状/口唇部は丸く収める 体部:内湾して外方へ立ち上がる	外:体部に錦蓮花文 内:体部に錦蓮花文	第V区域 Q・R35/SD4801
350	白磁 輪花皿	高: 底: 2.0 6.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	体部:緩やかな波状/内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に錦蓮花文/底部中央に呉須「天下□年」の銘款・團線2 内:体部に錦蓮花文	第V区域 Q・R35/SD4801 外:高台端面露胎
351	白磁 皿	高: 底: 1.6 6.5	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/5	体部:直線上に斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底部に陰刻花文	第V区域 T35/SD4801 外:高台端面露胎
352	白磁 皿	口: 高: 11.8 2.5 底: 6.0	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部:やや外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 T35/SD4801 外:高台端面露胎
353	白磁 皿	口: 高: 11.8 2.6 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 R・S35/SD4801 外:高台端面露胎
354	白磁 皿	口: 高: 12.8 3.0 底: 7.0	焼: 不良 色: 明灰色	精緻 1/2	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 Q~S35/SD4801 外:高台端面露胎
355	白磁 皿	口: 高: 12.2 3.1 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 R・S35/SD4801 外:高台端面露胎
356	白磁 皿	口: 高: 17.5 4.0 底: 11.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		第V区域 R・S35/SD4801 外:高台端面露胎
357	白磁 皿	高: 底: 1.5 10.0	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/6	底部:削出高台		第V区域 Q・R35/SD4801 外:高台端面露胎
358	中国製 鉄釉 碗	口: 高: 15.0 5.0	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 T・S35/SD4801 S35・36/砂利混暗褐色土 外:体部下位露胎
359	染付 杯	口: 高: 6.9 2.7	焼: 良好 色: 透青灰色	精緻 1/10以下	口縁部:やや外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須團線1・体部に唐草文 内:口唇部に呉須團線1	第V区域 R・S35/SD4801
360	染付 碗	口: 高: 16.0 4.0	焼: 良好 色: 青白色	精緻 1/10以下	体部:やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須團線1・唐草文帯/体部下位に芭蕉文 内:口唇部に呉須團線2	第V区域 T35/SD4801
361	染付 碗	口: 高: 14.0 5.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/5	体部:やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須團線1・唐草文帯/体部下位に芭蕉文 内:口唇部に呉須團線2	第V区域 T35/SD4801
362	染付 皿	口: 高: 10.5 2.8 底: 3.7	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/5	体部:やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:基筒底	外:口縁部上位に呉須変形唐草文帯/体部下位に芭蕉文 内:口唇部に呉須團線1/底部中央に草花文・團線1	第V区域 Q・R35/SD4801 T35/黄灰色粘質土 外:高台端面露胎
363	染付 皿	口: 高: 12.0 3.0 底: 4.4	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/4	体部:やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:基筒底	内:口唇部に呉須團線1/底部中央に羯麩の魚文・呉須唐草文・團線2	第V区域 Q・R35/SD4801 外:高台端面露胎
364	朝鮮 壺	高: 底: 4.3 15.4	焼: 良好 色: 暗茶色	精緻 1/10以下	胴部:体部下位で膨らむ 底部:平坦	外:体部下位カキメ 内:体部下位回転ナデ	第V区域 S35/SD4801 T34・35/SD4797 外:降灰

土製品(PL.58 第60図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	孔 重	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
365	土錘	11.0 4.0	1.3 145.2	1/1	土師質 橙褐色	上下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	出土区域不明 表土
366	土錘	11.1 4.3	1.1 148.5	1/1	土師質 橙褐色	上下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	第V区域 T35・36/SD4798
367	土錘	11.5 4.2	1.2 149.7	4/5	土師質 橙褐色	上下端面無し/ナデ/ 棒巻き付け技法	出土区域不明 表土
368	土錘	8.7 3.6	1.1 80.2	1/1	土師質 橙褐色	上下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法/ 黒斑	第V区域 030/SD4793

単位:cm/g

No	器種	長 幅	孔 重	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
369	土錘	8.0 3.6	1.1 66.7	3/4	土師質 橙褐色	下端面平坦/ナデ/ 棒巻き付け技法	出土区域不明 表土
370	土錘	8.2 3.4	0.8 39.7	1/3	土師質 橙褐色	下端面紐ズレ/ナデ/ 棒巻き付け技法	第V区域 026/SS4824
371	土錘	6.0 3.6	1.4 51.7	1/1	土師質 橙褐色	上端面紐ズレ/ナデ/ 棒巻き付け技法	出土区域不明 表土

土製品(PL. 58 第60・61区)

単位:cm/g

No	器種	長幅	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点
372	土製円盤	3.3 3.2	1.2 17.5	1/1	越前焼 灰黒色	甕の破片周囲を打ち欠く	出土区域不明 表土
373	土製円盤	5.1 5.0	0.9 -	1/1	鉄釉 黒色	鉄釉天目碗の底部 周囲を打ち欠く	出土区域不明 表土
374	鉄釉 茶入蓋	2.5 2.3	0.7 -	1/1	鉄釉 青灰色	鉄釉茶入の蓋/線 刻梅花文5	第V区域 Q30/SX4820
375	青磁 装飾	2.6 3.2	2.5 -	-	青磁 オリーブ	板状の表面に円形 浮文7/裏面に柱状 装飾/筆架または 花瓶の脚台	第Ⅲ区域 U25・26/SX4836
376	タイ産 仏像	3.7 2.9	1.3 -	1/2	三彩 橙褐色	観音座像	第V区域 S35・36/砂利混 暗色土
No	器種	長幅	高	残存	材質色調	特徴	出土地点
377	薬研 舟部	- 11.4	5.6	1/1	越前焼 赤茶色	体部ヨコナデ/底 部ナデ	出土区域不明 表土
378	薬研 舟部	8.4 10.5	6.0	1/5	越前焼 灰色	体部ヨコナデ/底 部摩耗/台部周囲 面取り	B'25/遺構面 C'25/遺構面
379	薬研 舟部	12.0 11.2	7.4	1/4	越前焼 橙赤色	体部ナデ/底部摩 耗/台部周囲面取 り	出土区域不明 表土
380	薬研 円盤	14.5 14.5	3.4	1/2	越前焼 暗紫灰色	軸孔径2.1cm/方形 /周縁擦痕・摩耗	出土区域不明 表土

金属製品(PL. 59 第61区)

単位:cm/g

No	器種	長幅	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
381	鉄釘	5.8 0.7	0.5 6.6	4/5	鉄製品	釘頭は折り曲げた 後半平坦/断面方形	第V区域 R33/暗灰褐色土
382	鉄釘	9.4 0.5	0.4 -	4/5	鉄製品	断面方形	第V区域 S35/SD4801
383	鉄釘	13.7 0.6	0.5 18.8	4/5	鉄製品	断面方形	第V区域 S32/SD4797
384	鍍金具	4.1 2.0	1.1 -	1/3	金鋼製品	摘みに格子文/押 付金具に毛彫り・ 魚子打	第IV区域 Y30
385	鍍金具	3.8 1.1	0.12 7.5	4/5	鉄製品	黒塗装	第V区域 S35/SD4797
No	器種	口高	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
386	紅皿	5.8 2.7	0.8 20.5	1/2	銅製品	口縁部:内湾して上 方へ屈曲してたち上 がる/花卉12/内:底 面中央凸面 高台:径2.2cm/高0.7 cm/紅皿または蓮子	第V区域 R35/SB4788
No	器種	長幅	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
387	金匙	9.8 2.7	0.3 -	1/2	鉄製品	鍛造品	第V区域 S35/SB4788
388	金匙	5.8 2.0	0.2 -	2/3	鉄製品	鍛造品	第V区域 S36/SB4788
No	器種	口高	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
389	蓋	8.6 4.0	0.3 128.3	1/1	鉄製品	浅い寸胴形/不定 形の鈕が付く	出土区域不明
No	器種	長幅	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
390	煙管	5.8 0.9	1.4 6.2	4/5	銅製品	皿部欠損/厚さ0.5 mmの銅板を閉じ合 わす	第IV区域 V33/SB4790
No	器種	長幅	厚重	残存	材質	特徴	出土地点
391	鉄鏃	5.3 0.3	0.3 2.6	1/5	鉄製品	鍔被木質/基部断 面方形	出土区域不明 表土
392	鉄鏃	15.3 0.7	0.3 20.6	4/5	鉄製品	征矢/鏃身部:7.0 cm/断面円形/基部 断面方形	第Ⅲ区域 A'25/遺構面
393	小柄	15.3 0.9	0.15 18.2	4/5	鉄製品	柄部に木質	第V区域 R35/SB4788
394	切羽	5.0 2.5	0.15 -	1/2	銅製品	花形/猪目透かし ・糸線3/黒塗装	第Ⅲ区域 Y28/褐色土
395	切羽	4.0 2.2	0.05 -	1/1	銅製品	倒卵形/片面黒漆 塗/片面鍍金	第V区域 T35/SD4798

甲冑(PL. 59~63 第61~66区)

単位:cm/g

No	器種	横長 高	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点 備考
396	小札	5.7 2.0	0.24 8.7	1/1	鉄製品	伊予札/鍼孔6	第Ⅲ区域 A'28/暗褐色土
397	兜鞆	30.0 16.0	0.4	1/4	鉄製品 褐色	本小札の札板:上 段22枚/下段20枚 /黒漆 本小札:札足6.8cm 、札幅2.1cm、厚 0.4cm	第IV区域 X003地点 X30/SD4848
398	兜鞆	5.7 5.2	0.4 15.4	-	鉄製品 褐色	本小札の札板:3枚 /黒漆 本小札:札足5.7cm、 札幅2.2cm、厚0.4cm	第IV区域 X003地点 X30/SD4848
399	兜鞆	9.8 7.1	0.4 46.2	-	鉄製品 褐色	本小札の札板:4枚 /黒漆 本小札:札足6.8cm、 札幅2.6cm、厚0.3cm	第IV区域 X005地点 Y29/SD4805
400	兜鞆	6.7 7.1	0.3 30.6	-	鉄製品 褐色	本小札の札板:4枚 /黒漆 本小札:札足6.8cm、 札幅2.6cm、厚0.3cm	第IV区域 X005地点 Y29/SD4805
401	草摺	7.5 6.5	0.3 27.9	1/5	韋製品 黒色	本小札の札板:9枚 /黒漆 本小札:札足6.6cm、 札幅1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 X001地点 X33/遺構面 盛上小札
402	草摺	9.0 6.5	0.35 27.9	1/5	韋製品 黒色	本小札の札板:11枚 /2段目/黒漆 本小札:札足6.5cm 、札幅1.8cm、厚 0.35cm	第IV区域 X001地点 X33/遺構面 盛上小札
403	草摺	16.6 6.5	0.38 -	1/2	韋製品 黒色	本小札の札板:23枚 /2段目/黒漆 本小札:札足6.5cm 、札幅1.7cm、厚 0.38cm	第IV区域 X001地点 X33/遺構面 盛上小札
404	草摺	14.3 6.6	0.4 -	1/2	韋製品 黒色	本小札の札板:19枚 /1段目/黒漆 本小札:札足6.6cm、 札幅1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 X001地点 X33/遺構面 盛上小札
405	草摺	21.5 6.6	0.4 27.9	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:30枚 /1段目/黒漆/菱鍼2 段 本小札:札足6.6cm、 札幅1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 X001地点 X33/遺構面 盛上小札
406	大袖	34.6 6.8	0.3 -	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:48枚 /4段目/黒漆/菱鍼2 段 本小札:札足6.8cm、 札幅1.7cm、厚0.3cm	第IV区域 X002地点 X30/遺構面 盛上小札
407	大袖	32.0 6.5	0.3 -	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:47枚 /2段目/黒漆 本小札:札足6.5cm、 札幅1.7cm、厚0.3cm 耳札:札足6.5cm、 札幅1.3cm、厚0.3cm	第IV区域 X002地点 X30/遺構面 盛上小札
408	大袖	36.0 6.7	0.3 -	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:51枚 /3段目/黒漆 本小札:札足6.7cm、 札幅1.8cm、厚0.3cm 耳札:札足6.0cm、 札幅1.0cm、厚0.3cm	第IV区域 X002地点 X30/遺構面 盛上小札
409	大袖	38.8 7.0	0.3 -	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:44枚/1 段目/黒漆/菱鍼2段 本小札:札足6.7cm、 札幅1.8cm、厚0.3cm 耳札:札足6.0cm、 札幅1.0cm、厚0.3cm	第IV区域 X002地点 X30/遺構面 盛上小札
410	草摺	18.9 4.7	0.4 -	1/2	韋製品 黒色	本小札の札板:29 枚/1段目/黒漆/菱 鍼2段 本小札(推定):6.8 cm、札幅1.8cm、 厚0.38cm	第IV区域 X004地点 W30/遺構面 上半部欠損
411	草摺	14.0 4.2	0.4 -	1/3	韋製品 黒色	本小札の札板:18 枚/黒漆 本小札(推定):6.4 cm、札幅1.7cm、 厚0.38cm	第IV区域 X004地点 W30/遺構面 上半部欠損

単位:cm/g

石製品(PL. 63・64 第67～69図)

単位:cm/g

No	器種	横長 高	厚 重	残 存	材質 色調	特徴	出土地点 備考
412	草摺	5.2 3.8	0.4 1.2	1/8	韋製品 黒色	本小札の札板:7枚 X004地点 黒漆/内面に下絨 縫合せ 本小札(推定):6.4 cm、札幅1.7cm、 厚0.38cm	第Ⅳ区域 X004地点 W30/遺構面 上半部欠損
413	草摺	3.0 1.8	0.38 -	1/10 以下	韋製品 黒色	本小札の札板:4枚 /札頭/黒漆	第Ⅳ区域 X004地点 W30/遺構面 盛上小札
414	草摺	8.5 6.7	0.4 -	1/4	韋製品 黒色	本小札の札板:8枚 /1段目/黒漆/菱縫 2段 本小札:札足6.4cm 、札幅1.7cm、厚 0.4cm/耳札あり	第Ⅳ区域 X004地点 W30/遺構面 盛上小札 415と接合?
415	草摺	4.7 6.7	0.4 -	1/6	韋製品 黒色	本小札の札板:6枚 /1段目/黒漆/菱縫 2段 本小札:札足6.4cm 、札幅1.7cm、厚 0.4cm/耳札あり	第Ⅳ区域 X004地点 W30/遺構面 盛上小札 414と接合?
416	草摺	18.7 6.5	0.4 -	4/5	韋製品 黒色	本小札の札板:24 枚/1段目/黒漆/菱 縫2段 本小札:札足6.4cm 、札幅1.7cm、厚 0.4cm/耳札あり	第Ⅳ区域 X004地点 W30/遺構面 盛上小札

木製品(PL. 63 第66・67図)

単位:cm/g

No	器種	口 高	天 底	残 存	材質 木取り	特徴	出土地点
417	漆器 椀蓋	4.0 1.5	1.5	1/1	処理済 同定不可	外:黒漆/内:朱漆/ ミニチュア品/418 とセット	第Ⅴ区域 R・S34/SD4798
418	漆器 椀身	4.1 2.5	2.0	1/1	散孔材	外:黒漆/内:朱漆/ ミニチュア品/平 面楕円形	第Ⅴ区域 R・S34/SD4798
No	器種	長 幅	厚 高	残 存	材質 木取り	特徴	出土地点
419	曲物 底板	5.6 4.8	0.3	4/5	ヒノキ科 柾目材	「背胸(ナマコ)」 の墨書	第Ⅳ区域 W36/青灰色土
420	曲物 底板	7.0 3.5	0.5	1/2	ヒノキ 追柾材	周縁斜めケズリ	第Ⅴ区域 T35/SD4798
421	曲物 底板	8.7 3.0	0.4	1/5	ヒノキ属 柾目材	周縁斜めケズリ	出土区域不明 表土
422	桶 側板	19.3 6.1	1.5	4/5	ヒノキ 板目材	下端欠損/全体炭化	第Ⅴ区域 T35/SD4798
423	剝物 容器	13.4 12.8	0.8	4/5	トチノキ 板目材	縦木取り/内外黒 漆/合子形	第Ⅴ区域 R・S35/SD4801
424	掛花生	16.0 4.2	0.6	1/3	タケ無科	体部中に径0.7cm の円孔2/内面炭化	第Ⅴ区域 T35/SD4798
425	手箱 蓋	21.3 9.8	0.5 2.3	2/3	ヒノキ	沈金瑞果文箱/外 ・内黒漆/表面に 瑞果・荔枝文の 金象嵌/周縁面取 り	第Ⅴ区域 X008地点 R・S35/SD4801
426	箱	15.0 8.5	0.6	1/8	広葉樹	外面:樺状樹皮炭化	第Ⅴ区域 T35・36/SD4798
427	障子棧	12.2 2.0	1.5	-	ヒノキ科 板目材	下端部合欠/長さ 1.1cm	第Ⅴ区域 R・S35/SD4801
428	障子棧	12.3 2.0	1.5	-	ヒノキ科 板目材	上端部印籠継/長 さ0.8cm/下端部突 起端部	第Ⅴ区域 R・S35/SD4801
429	障子棧	19.0 1.7	1.5	-	ヒノキ科 板目材	下に長方形ホヅ穴	第Ⅴ区域 R・S35/SD4801
430 -A	刀子 木柄	8.0 2.0	0.6	1/2	ヒノキ科 板目材	上端部段加工/下 端部凹面加工/ 茎幅1.1cm/茎幅 0.25cm/内面浅い ケズリ	第Ⅳ区域 W34・35/遺構面
430 -B	刀子 木柄	8.0 2.0	0.6	1/2	ヒノキ科 板目材	上端部段加工/下 端部凹面加工/ 茎幅1.1cm/茎幅 0.25cm	第Ⅳ区域 W34・35/遺構面
431	木刀	23.7 2.4	0.7	1/2	スギ 柾目材	上端部欠損/断面 板状/闊部・柄 頭あり	第Ⅳ区域 W35/黄灰色土
432	木刀	16.6 3.0	1.5	1/3	ヒノキ科 柾目材	上端部欠損/断面 板状/下端部に径 0.4cmの孔	第Ⅴ区域 S33・34/SD4797

No	器種	長 幅	厚	残 存	材質 色調	特徴	出土地点
433	砥石	5.7 3.4	2.5	1/2	凝灰岩 灰色	砥面5/粒度:密 中砥	第Ⅴ区域 Q26/遺構面
434	砥石	8.3 3.0	1.9	4/5	頁岩 黒色	砥面5/粒度:密 仕上げ砥/硬質	第Ⅴ区域 T35/SD4798
435	砥石	8.2 4.0	1.5	4/5	頁岩 暗緑色	砥面3/粒度:密 中砥/表裏剥離	第Ⅴ区域 I31/表土
436	砥石	12.0 3.6	1.6	4/5	頁岩 白褐色	砥面3/粒度:密 中仕上げ砥	第Ⅴ区域 T35/SD4798
437	砥石	4.5 5.5	1.2	1/4	凝灰岩 白色	砥面5/粒度:密 中砥	第Ⅴ区域 S28/29/遺構面
438	砥石	3.8 5.0	2.6	1/5	安山岩 青灰色	砥面5/粒度:密 中砥	第Ⅲ区域 X27/灰・焼土 混土
439	砥石	7.6 4.1	1.6	1/2	凝灰岩 青灰色	砥面5/粒度:密 仕上げ砥	第Ⅴ区域 T34・35/SD4798
440	石硯	5.9 3.0	1.2	1/10	頁岩 灰色	表面:雲形文陽刻 裏面:剥離	第Ⅴ区域 Q35/焼土混土
441	石硯	15.0 5.7	1.2	4/5	頁岩 灰色	表面:闊擦痕 裏面:剥離/スス付着	第Ⅴ区域 Q29/遺構面
442	石硯	14.5 8.3	1.9	4/5	頁岩 黒灰色	表面:闊擦痕 裏面:挿手痕	第Ⅴ区域 S28/SD4798
No	器種	幅面 受部	高 底径	残 存	材質 色調	特徴	出土地点
443	茶臼 下臼	18.5 34.7	8.3 28.0	1/2	斑晶質 安山岩 灰色	1.7cmの円形軸受 穴穿孔/幅面主溝7 分画・副溝9条/意 図的な打欠	第Ⅲ区域 T27・28/SX4834 第Ⅴ区域 L26/SX4824
444	茶臼 下臼	18.0 33.0	8.5 24.4	1/2	花崗岩 褐色	3.0cmの円形軸受 穴穿孔/幅面不明/ 意図的な打欠	第Ⅳ区域 Z31/遺構面
No	器種	上径 下径	高	残 存	材質 色調	特徴	出土地点
445	石臼 上臼	21.3 21.3	14.0	1/2	笏谷石 淡緑色	3.0cmの円形軸受 穴穿孔/幅面主溝8分 画・副溝8条/物入 れ孔2.8cm/タタキ	出土区域不明
446	石臼 上臼	31.0 31.0	11.3	3/5	笏谷石 淡緑色	2.9cmの円形軸受 穴穿孔/幅面主溝8分 画・副溝4条/物入 れ孔3.3cm/タタキ	出土区域不明 表土
No	器種	口 高	底	残 存	材質 木取り	特徴	出土地点
447	風炉	22.0 21.8	19.5	3/5	笏谷石 淡褐色	口端部内湾/底部 平坦/獸脚3/体部 上位に円状透孔・ 楕円形透孔	第Ⅳ区域 S31・32/SD4798 T34・35/SD4798
No	器種	幅 奥行	高 底	残 存	材質 色調	特徴	出土地点
448	炉壇	49.5 28.1	23.5 45.5	2/3	笏谷石 灰褐色	箱形/口端部平坦/ 外:平滑/底部粗い タタキ/全体被熱/脚4/ 内面タガナ痕/	第Ⅴ区域 S33/SD4797
No	器種	幅 奥行	高 厚	残 存	材質 色調	特徴	出土地点
449	バンド コ	14.0 11.9	2.7 2.1	4/5	笏谷石 淡茶褐色	0形バンドコの蓋 外:笠形/円孔2	第Ⅲ区域 B'25/遺構面
450	バンド コ	19.4 15.4	3.8 2.8	4/5	笏谷石 灰緑色	0形バンドコの蓋 外:笠形/被熱	出土区域不明 表土
451	バンド コ	18.5 15.5	3.7 3.1	4/5	笏谷石 淡茶褐色	D形バンドコの蓋 外:笠形/スス付着	第Ⅲ区域 T23/SS260
452	バンド コ	16.0 13.5	10.5 1.5	1/2	笏谷石 淡茶褐色	0形バンドコの身 部 方形透孔5と推定	第Ⅴ区域 S32・33/SD4797
453	バンド コ	14.3 12.5	9.2 0.8	4/5	笏谷石 淡茶褐色	0形バンドコの身 部 方形透孔6と推定/ タタキ調整/全体ス ス付着	第Ⅴ区域 S32/SD4798
454	バンド コ	24.4 19.0	14.5 2.3	1/2	笏谷石 淡茶褐色	0形バンドコの身 部 方形透孔5と推定/ 左右に高台/タタ キ調整/全体被熱	出土区域不明 表土
455	バンド コ	25.6 19.0	14.5 2.6	1/2	笏谷石 橙褐色	0形バンドコの身 部 方形透孔5と推定/ タタキ調整/全体 被熱	第Ⅲ区域 Y23・223/SS260 Z25/遺構面
456	バンド コ	23.5 15.6	3.1 2.5	1/2	笏谷石 淡褐色	長方形バンドコの蓋 外:全体被熱	第Ⅲ区域 O32/SB4791
457	バンド コ	27.1 16.5	3.1 2.6	4/5	笏谷石 淡褐色	長方形バンドコの蓋 外:全体被熱	出土区域不明 表土
458	有孔 石製品	15.0 7.0	18.0 7.0	-	笏谷石 淡褐色	台形/径4.3cmの穿孔 暗渠蓋の転用品	出土区域不明 遺構面

銭貨(PL.64 第69・70区)

単位:cm/g

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
460	開元通寶 1479	2.2	0.09	1.5	1/1	唐 初鑄621年	第Ⅰ区域/再調査 H35-36
461	皇宋通寶 1964	2.4	0.09	2.1	1/1	北宋 初鑄1038年	第Ⅱ区域/再調査 K19/暗褐色土
462	皇宋通寶 2567	2.4	0.08	2.3	1/1	北宋 初鑄1038年	第Ⅴ区域 L30・31/SB4787
463	皇宋通寶 15781	2.4	0.12	1.7	1/1	北宋 初鑄1038年	第Ⅲ区域 C' 26/遺構面
464	皇宋通寶 1908	2.3	0.07	1.7	1/1	北宋 初鑄1038年	第Ⅱ区域/再調査 K17/暗褐色土
465	洪武通寶 1477	2.0	0.17	3.8	1/1	明 初鑄1368年	第Ⅰ区域/再調査 H35-36
466	熙寧元寶 1257	2.3	0.12	2.7	1/1	北宋 初鑄1068年	出土区域不明 表土
467	熙寧元寶 1257	2.3	0.12	3.3	1/1	北宋 初鑄1068年	第Ⅰ区域/再調査 H35-36
468	熙寧元寶 8352	2.4	0.11	2.5	1/1	北宋 初鑄1068年	第Ⅴ区域 S31/SD4799
469	熙寧元寶 9516	2.4	0.12	3.4	1/1	北宋 初鑄1068年	第Ⅴ区域 S28/砂利混暗色土
470	元豐通寶 5955	2.4	0.11	2.7	1/1	北宋 初鑄1078年	第Ⅴ区域 Q・R26/SD4794
471	元豐通寶 7370	2.4	0.10	2.0	1/1	北宋 初鑄1078年	第Ⅳ区域 T29/SD4804
472	元豐通寶 9533	2.3	0.11	2.3	1/1	北宋 初鑄1078年	第Ⅳ区域 S28/SD4798
473	元豐通寶 16537	2.4	0.11	3.2	1/1	北宋 初鑄1078年	出土区域不明
474	元祐通寶 3800	2.4	0.09	2.0	1/1	北宋 初鑄1086年	第Ⅴ区域 M32/遺構面

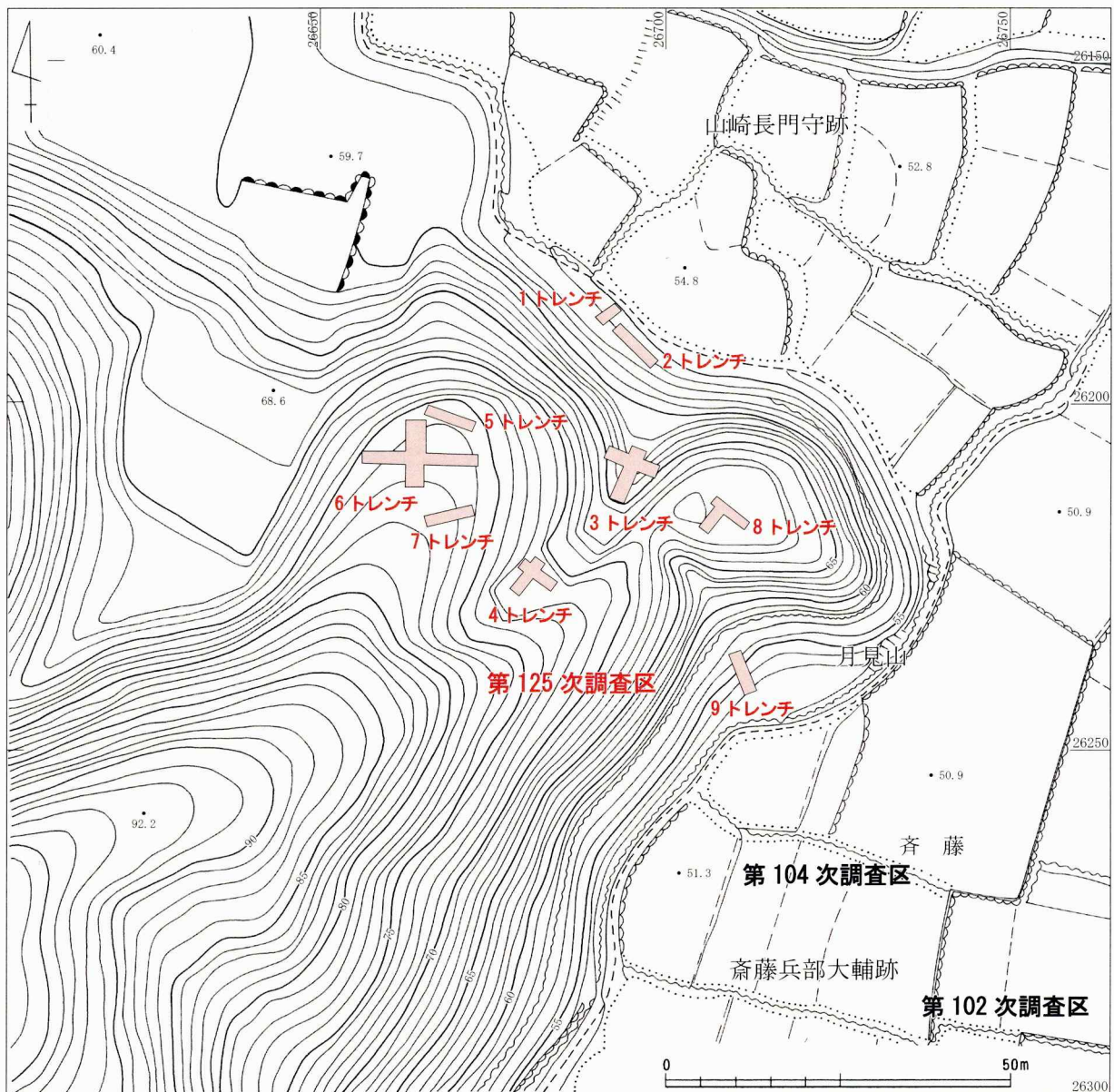
No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
475	元祐通寶 12361	2.4	0.12	2.4	1/1	北宋 初鑄1086年	第Ⅲ区域 V23・24/SS260
476	咸淳元寶 5956	2.5	0.10	2.7	1/1	南宋 初鑄1265年	第Ⅴ区域 Q・R26/SD4794
477	洪武通寶 14311	2.4	0.12	1.8	1/1	明 初鑄1368年	第Ⅲ区域 Z28/遺構面
478	永樂通寶 14674	2.5	0.10	2.5	1/1	明 初鑄1408年	第Ⅲ区域 A' 24/SF4814
479	寬永通寶 14667	2.4	0.10	2.4	1/1	1期古寬永	第Ⅲ区域 A' 23/遺構面
480	寬永通寶 3964	2.2	0.09	2.4	1/1	3期新寬永	第Ⅴ区域 N25/遺構面
481	寬永通寶 14668	2.4	0.12	1.7	1/1	1期古寬永	第Ⅲ区域 A' 23/遺構面
482	寬永通寶 3965	2.3	0.08	2.0	1/1		第Ⅴ区域 N25/遺構面
483	寬永通寶 10716	2.4	0.09	2.4	1/1	1期古寬永	第Ⅴ区域 S35/遺構面
484	寬永通寶 16395	2.4	0.11	2.7	1/1	3期新寬永	排土
485	寬永通寶 4971	1.9	0.09	0.8	1/1		第Ⅱ区域/再調査 P19/暗褐色土
486	□□□□ 4864	2.3	0.11	2.4	1/1		出土区域不明 表土
487	□□□□ 1258	2.4	0.11	2.1	1/1		出土区域不明 表土
488	□□□□ 1480	2.3	0.07	1.6	1/1		第Ⅰ区域/再調査 H35-36

V. 第125次調査【城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺(月見櫓地区)】

1. 遺構の概要(PL. 41～44 第71・72図)

第125次調査区は、城戸ノ内町23字齊藤・35字八地谷・17字雲正寺にかかり、第104次調査区北西側の山林尾根先端部に立地している。標高は山裾で約55m、調査区内の最高所となる尾根で約77mを測る。北側には雲正寺の水田が扇状地を形成して東側に下降して広がり、復原整備した町屋や寺院を眺望する(第71図)。

「一乗谷古絵図」では「月見山」と記され、『一乗谷朝倉史跡・伝説』(文9)において「月見櫓跡」と記述され、「月見櫓跡、朝倉館跡西方前方三百米の地点にある。高さ二十米、頂上に巾七米長さ十米の櫓跡があり北方に巾五米傾斜三十五度の堅堀によって、半島形の尾根の先端を利用して、峰の続きに人工を加え、空濠を以って南方の堅堀に続き、独立峰を構成、此处より二米-三米の道路は曲折四十五米台地に続いている。想像するに此地は、月見の節重臣達の集いの場でなかったか。」とあり、櫓跡の規模や形状が具体的に述べられている。



第71図 第125次調査位置図(縮尺1/1,000)

調査前に現地踏査を行った結果では、尾根の先端は東西二又に分かれ、東側尾根上の標高約 68m地点と西側尾根上の標高約 77m地点、東西尾根谷部の標高約 72m付近において小規模な平坦面が確認され、東側尾根の東辺に沿って、幅約 1.5m、高さ約 1.0mを測る土塁状の高まりを確認することができた。

月見山は、「一乗谷古絵図」にも記載されていること。第104次調査の大規模武家屋敷Aの背後に立地すること。現地踏査の結果、砦跡と見られる遺構が確認できたことから、まず、トレンチ調査によって遺構の密度・範囲を把握し、今後の保存・活用の検討資料を得る目的で調査が必要と判断された。

調査地点の設定については、調査区全域が全て民有地であるため、まず、町内会長、保存協会長、福井市文化課の協力を得て、事前に関係者の意向を確認し、平成 18 年(2006)9 月から地元関係者を含めて本格的な協議を行った。地元の快諾・協力を得て、調査地点の選定については、テープを張って地権者に範囲を確認してもらった後に調査を実施することで承諾を得たが、植林や土地管理に影響を及ぼす場所については避けなければならない、調査範囲は限定的なものにとどまった。

調査の方法は、月見山の東西尾根の平坦部と谷部および山裾を対象として1～9トレンチを設定し、遺構の密度、範囲の記録作業を行った。調査区の総面積は500 m²を測る。調査期間は平成 19 年(2007)10 月1日～同年 12 月20日である(文 10)。

2. 遺 構 (PL. 41～44 第 72 図)

1トレンチ (PL. 41 第 71・72 図) 1トレンチは、月見山の北側の山裾斜面に設定した。トレンチは北東から南西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ5.6m×幅 1.0mを測る。

遺構は、標高約 55.1m付近で確認され、トレンチ南西端を斜めにかすめるような状態で、石組の遺構が検出された。石組は、板状の笏谷石の端面を上に向けて区画状に埋設し、区画内には礎石と考えられる50 cm大の塊石 1 石を据え、周囲に砂利を充填するという極めて特殊な構造を呈していた。その稀少性から庭に関連する遺構ではないかと考える。その他の遺構としては、溝 1・小穴 1を検出した。遺物は越前焼甕、土師器皿、白磁杯、染付皿の細片などが出土したが、越前焼鉢 1が図化できた。

2トレンチ (PL. 41 第 71・72 図) 2トレンチは、1トレンチの南東側に隣接して設定した。トレンチは南東から北西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ8.0m×幅 1.0mを測る。

遺構は、標高約 55.1m付近で確認され、小穴 3が検出された。小穴はいずれも径約 0.3m、深さ約 0.3mであり、掘立柱建物の柱穴と考える。

遺物は、越前焼壺、土師器皿、青磁皿、白磁皿、染付皿、青白磁梅瓶、褐釉壺の細片、石製品などが出土したが、越前焼甕 2、播鉢 3・4、花入 5、染付皿 6が図化できた。

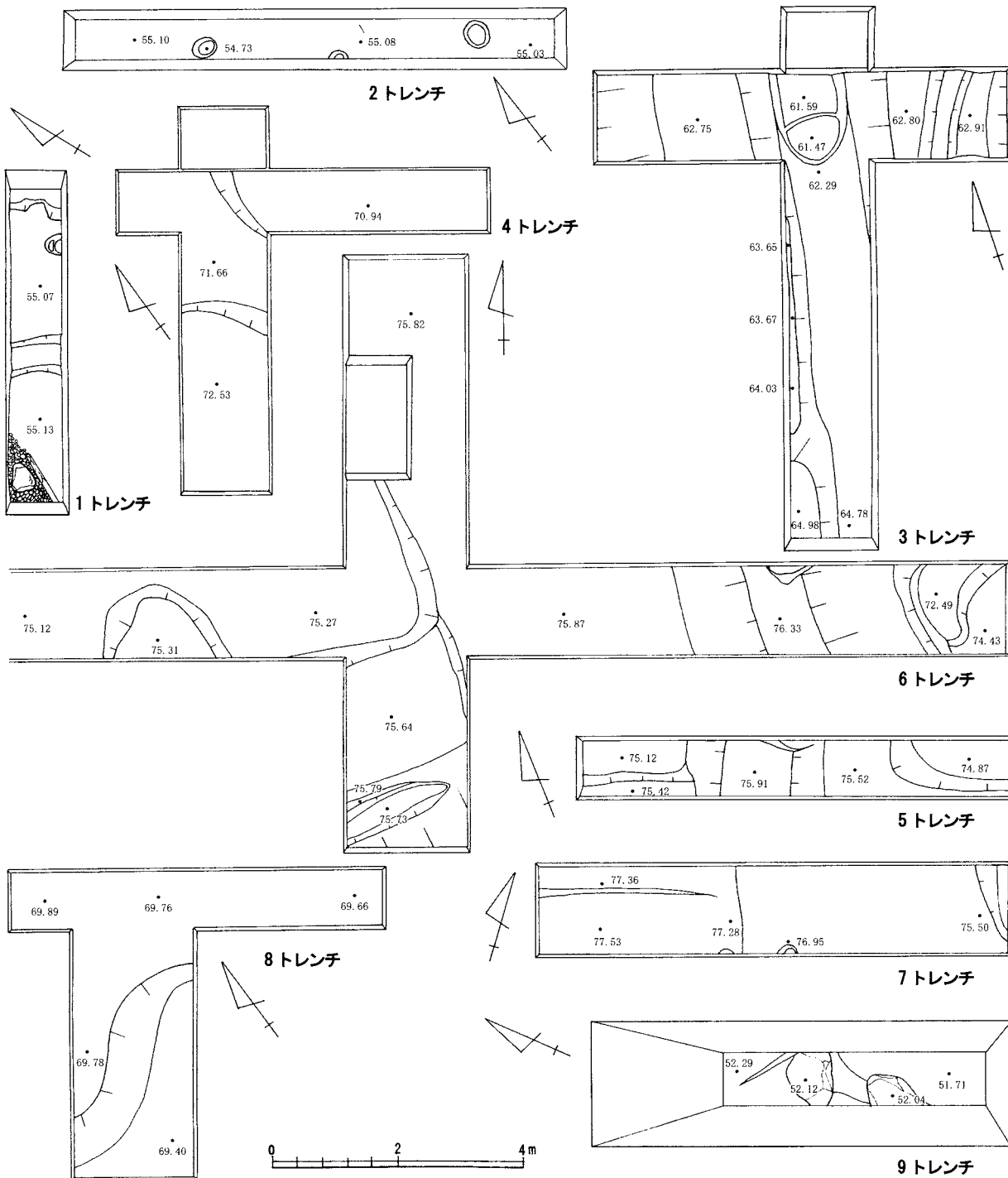
3トレンチ (PL. 42 第 71・72 図) 3トレンチは、月見山の谷部下位の斜面に設定した。トレンチは傾斜に沿って、北東から南西に向けて長さ8.7m×幅 1.4mのトレンチを設定した後、それと北側寄りで交差するように、南東から北西にかけて長さ6.6m×幅 1.4mのトレンチを設定し、全体で十字状の形状を呈す。

遺構は、標高約 62.5～65.5m付近で確認され、溝状遺構 2・犬走状遺構 2が検出された。傾斜に沿って検出された大型の溝状遺構の断面は逆台形を呈し、幅 2.3m、深さ0.6mを測る。概報(文 10)では山城に伴う竪堀と想定したが、再検討すると、溝底面が平坦であり焼土面が認められることや、その直上に厚さ約 10 cmの炭化層が堆積している点などを重視すれば、溝状遺構からは遺物は確認できなかったものの、8～9 世紀代に見られる窯跡の窯体である可能性が高い。

北西端の犬走遺構は、上幅 1.4mを測り、南東端のものは上幅 1.6mを測り、その上に幅 0.6mの溝状遺構が重複していた。これらも窯体に伴う付属施設と見る。遺物は表土から土師器皿の細片が出土した。

4トレンチ (PL. 43 第71・72図) 4トレンチは、月見山の谷部上位の斜面に設定した。青山氏の記述「曲折四十五米」とされた道路の中間点である。トレンチは傾斜に沿って、北東から南西に向けて長さ6.3m×幅1.4mのトレンチを設定した後、それと交差するように、南東から北西にかけて長さ6.0m×幅1.0mのトレンチを設定し、全体でL字状の形状を呈す。遺構は標高約72.0m付近で確認され、0.8mの段差を2ヶ所で確認した。

5トレンチ (PL. 43 第71・72図) 5トレンチは、月見山の東側尾根上の平坦面先端に設定した。トレンチは東から西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ7.0m×幅1.0mを測る。遺構は、標高約76.0m付近で確認され、トレンチ中央で上幅1.0m、下幅2.2m、高さ約0.4mの土塁が検出された。遺物は土師器皿片が出土した。



第72図 第125次調査1~9トレンチ平面図(縮尺1/100)

6トレンチ(PL. 43・44 第71・72図) 6トレンチは、月見山の東側尾根上の平坦面上に設定した。トレンチは東から西に向けて長さ17.7m×幅1.4mのトレンチを設定した後、それと中央で交差するように、南から北にかけて長さ9.5m×幅2.0mのトレンチを設定し、全体で十字状の形状を呈す。

遺構は、標高約75.8m付近で確認され、トレンチ東端で上幅1.0m、下幅3.5m、高さ約0.4mを測る土塁が検出された。

土塁は5トレンチの土塁と一連となる。トレンチ中央では、幅3.6m、高さ0.1mを図る階段状の武者走状遺構が検出された。トレンチ西端では、径0.3m、深さ0.5mの小穴と幅2.0m、高さ0.05mを測る土塁状の遺構が検出された。トレンチ南端では幅0.6m、深さ0.1mの溝を検出した。遺物は、越前焼甕、土師器皿、灰釉皿、釘が出土したが、図化不能であった。

7トレンチ(第71・72図) 7トレンチは、月見山の東側尾根上の平坦面南側に設定した。トレンチは北東から南西に向けて直線状の形状をとり、長さ7.6m×幅1.5mを測る。

遺構は、標高約77.5m付近で確認され、南西端で平坦面が検出された。中央から東側は約25°の傾斜面となる。中央南壁付近で径0.2m、深さ0.4mを測る小穴が2つ検出された。遺物は土師器皿が少量出土した。

8トレンチ(PL. 44 第71・72図) 8トレンチは、月見山の西側尾根上の平坦面中央に設定した。青木氏が「月見櫓跡」「独立峰」と呼称した部分に相当する。トレンチは、北東から南西に長さ5.0m×幅2.0mのトレンチを設定した後、北東端で交差するように、南東から北西にかけて長さ6.0m×幅1.0mのトレンチを設定し、全体でL字状の形状を呈す。

遺構は、標高約69.7m付近で確認され、平坦面中央に南西から北東に延びる土塁が検出された。また、土塁から南東側、104次の武家屋敷を見下ろす側には、土塁と0.4mの段差をもって広がる平坦面の一部が検出された。遺物は土師器皿が少量出土した。

9トレンチ(PL. 44 第71・72図) 9トレンチは、月見山の南側の山裾斜面に設定した。トレンチは南東から北西に向けて直線状の形状をとり、長さ6.7m×幅2.0mを測る。

遺構は、地表下最大3.0m、標高約52.0m付近で確認され、礎石と考えられる80cm大の石と60cm大の巨石が検出された。巨石の周囲には焼土が広がり、土師器皿の破片が多く出土した。その様相から庭に関連する遺構と考える。遺物は、越前焼甕・壺・鉢、青磁皿、白磁皿、朝鮮製磁器、銅製品、石製品、炭化材などが出土したが、黄瀬戸皿7、土師器皿8～16、中国製天目茶碗17が図化できた。

3. 遺物(第73図 第6表)

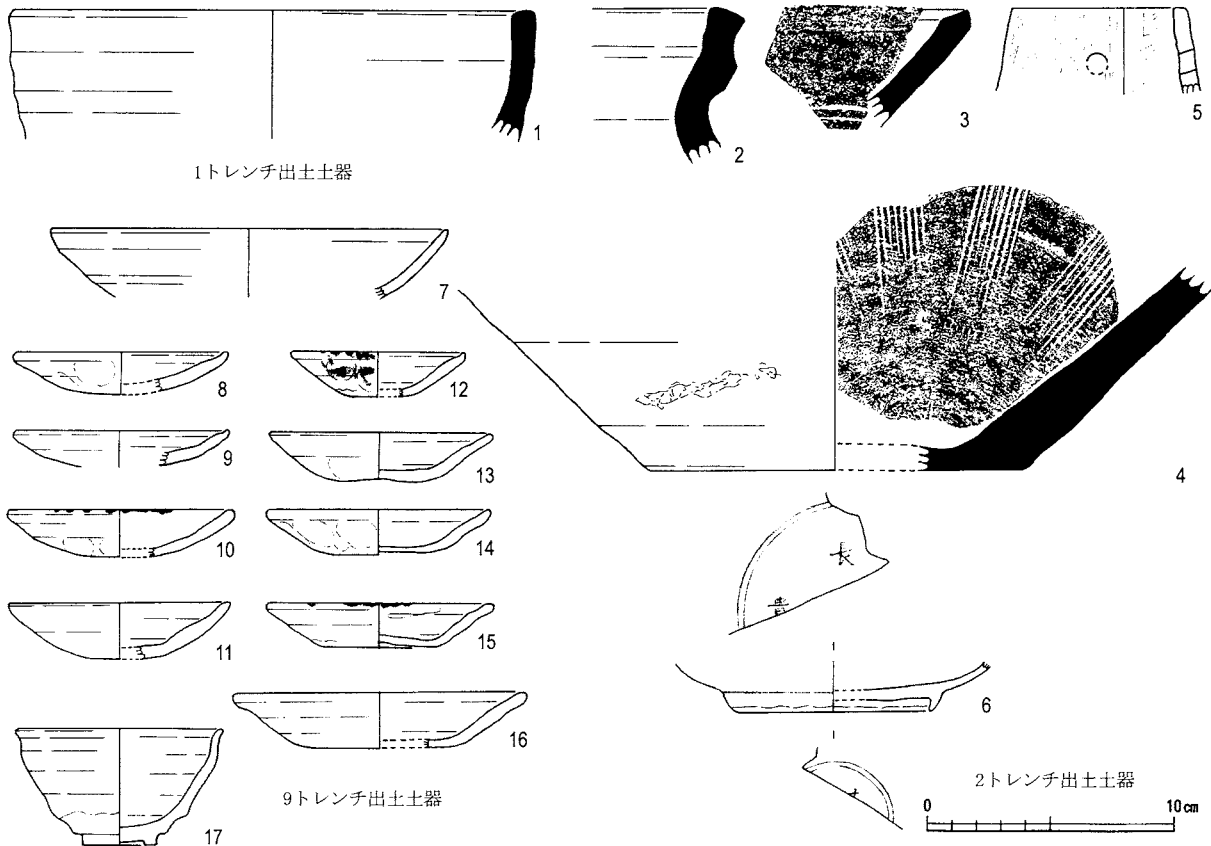
遺物は、4トレンチを除き、各トレンチから出土した。ほぼ土器類の細片で占められるが、金属製品、石製品等を含めた総数は255点を数える。そのうち図化できたものは、1・2・9トレンチで出土した土器17点に限られた。詳細は第6表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

1トレンチ出土(第73図) 越前焼鉢1は内湾して上方へ立ち上がる深鉢である。口径21.2cmを測り、底部は平底と推定される。

2トレンチ出土(第73図) 越前焼甕2は口端部内側に凹状の段をもつ。越前焼播鉢3の外表面はシャープに仕上げられ、内面に横方向の卸目が施されている。同播鉢4は内面に幅2.6cm×8条の卸目が施され、底面は摩耗している。花入5は瓦質土器であり、内外面を黒色磨研で調整している。体部上位に径8mmの円孔を有す。

9トレンチ出土(第73図) 黄瀬戸皿7は口径16.0cmを測る。土師器小皿8～15は口径8.6～9.0cmを測り、8～10は丸底、11～15は平底である。10・12・13は灯明皿として使用され、ススが付着する。天目碗17は胎土が黒灰色で精緻であることから中国製と考える。

2. 遺構



第73図 第125次調査 1・2・9トレンチ出土土器(縮尺1/3)

第6表 第125次調査出土遺物観察表(第73図)

1・2・9トレンチ出土土器(第73図)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼鉢	口: 21.2 高: 5.2	焼: 良好 色: 明茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:ゆるやかに内湾して上方へ立ち上がる/口端面は平坦	外:回転ナデ 内:回転ナデ	1トレンチ 内外面降灰
2	越前焼大甕		焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:頸部でやや外反して斜め外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側に凹状の段をもつ	外:ナデ 内:ナデ	2トレンチ3層
3	越前焼福鉢		焼: 良好 色: 暗紫灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:ゆるやかに外方へ開く/口端面は平坦で内側に傾く	外:ナデ 内:ナデ 内面に横方向の部目1 シャープな仕上げ	2トレンチ3層
4	花入	口: 7.0 高: 3.5	焼: 良好 色: 黒色	微砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:やや内傾して上方へ立ち上がる/口端面は平坦 体部:上位に径8mmの円孔	外:黒色磨磨 内:黒色磨磨	2トレンチ3層
5	越前焼福鉢	高: 8.0 底: 15.0	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 軟質 1/8	体部:斜め外方へ直線状に立ち上がる	外:体部回転ナデ/底部周縁に縄目痕/底面未調整 内:体部回転ナデ/底部ナデ・摩耗/幅2.6cm・8条の部目	2トレンチ3層 遺構面直上
6	染付碗	高: 2.1 底: 8.0	焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/6	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/底面:削り出し高台	外:高台上位に呉須圏線1/底面に呉須圏線2/圏線内に呉須文字1 内:底面に呉須圏線2/圏線内に呉須で「長」「貴」を記す	2トレンチ3層 遺構面直上 高台端面種ハゲ
7	黄瀬戸皿	口: 16.0 高: 2.8	焼: 良好 色: 透黄褐色	堅緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がり、口縁部でやや外反して屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面 9トレンチ焼土
8	土師器小皿	口: 8.6 高: 1.7 底: 3.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収めて内側に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
9	土師器小皿	口: 8.6 高: 1.4	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は内側へやや屈曲する/口唇部が丸く収める	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
10	土師器小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡黄褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ	9トレンチ整地層下 砂利面 口唇部一部スス附着

V. 第125次調査

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
11	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.3 底: 2.0	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
12	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.8 底: 2.4	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部は緩く外方へ屈曲する/口唇部は上 方へ立ち上がり丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面 外:スス付着
13	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.2	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面 外:スス付着
14	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 3.8	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部は緩く外方へ屈曲する/口唇部は上 方へ立ち上がり丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
15	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.3	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部は緩く外反する/口唇部は丸く収め る/中位に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
16	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.3 底: 6.0	焼: 良好 色: 橙白色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口端部は緩く外反する/口唇部は丸く収め る/中位に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面
17	中国製 鉄釉 天目碗	口: 8.2 高: 4.7 底: 3.0	焼: 良好 色: 透黒茶色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端 部で上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸 く収める 底部:蛇ノ目高台	外:口縁部～体部下位回転ナデ 内:口縁部～体部下位回転ナデ	9トレンチ整地層下 砂利面 体部下位～底部袖ハゲ

V. まとめ

1. 第82次調査 第82次調査は、「馬場」を備えた武家屋敷の全体像が明らかになった。第I区域の遺構を概観すると、掘立柱建物SB4274を中心とした鍛冶工房に関連する遺構が検出され、鍛冶炉SX4313・4316から鉍滓や焼土が検出された。井戸SE4277の水は埋甕遺構SK4309に供給されたと考えられ、工房稼働時の様相が明らかになった。SE4277はSX4311と対となり生産に関連する洗場として維持されたためか、若干の土器類が出土したのみであった。ただ、稀少な朝鮮象嵌壺164の破片がSE4277とSK4309から出土していることから、壺の所有者が鍛冶工房といかなる関連性にあつたのか関心ももたれる。「嘉定通寶」321～325が出土した小土坑SK4317や鞆の羽口212・213が出土したSX4316は鍛冶生産に関わる儀礼的側面を表象していると考えられる。井戸SE4276は、土器類は僅かだが、火箸、鉄釘等の金属製品と大量の木製品が出土し、曲物、折敷、箸は儀礼を伴う宴席で使用されたものが廃棄されたのかもしれない。カマドSX4280は複式炉の構造をもつが、つくりは簡素であり、大量の湯が一時的に必要とされる需要によって、屋外に構築された施設ではないかと考える。第II区域SX4279も同様であり、鍛冶生産や馬匹飼育だけでなく、儀礼や湯起請(文14)の需要も想定される。第III区域は、第25次調査区土墨石垣SA892・893からなる矩折部が主体となる。矩折部は敵からの見通しを遮り、内蔵した暗渠SZ914を介して北東隅から排水を行っていた。

第IV区域は礎石建物SB831・832・841と柵SB836・846・840、掘立柱建物SB842が検出され、馬匹飼育に関連する遺構が主体を占める。土墨石垣構築以前のI期では、馬柵が付属する厩舎として掘立柱建物SB842と柵SA840が構築され、次に南側に大規模な馬柵SA836・846が設けられたと考える。柵内中央に構築された掘立柱建物SB869はI期の遺構であり、柵の設置後に建てられた管理施設の可能性がある。II期では門SI821や井戸SE850、SB841などが馬匹飼育の付属施設として拡充が図られたと考える。門SI821は馬の出入りを想定し、門外側の内寸幅は4.0mを測る。III期に至り、山側に礎石建物SB831・832、柵SB834が設けられ、厩舎を南側に備えた管理施設として機能していたと考える。この時期に、土墨石垣SA892とSA265の間に新たに門が構築され、井戸SE847・848・850、越前焼大甕の埋甕遺構SK854などが馬匹飼育の付属施設として拡充し、馬匹の増加に伴う水の供給体制等が整えられたようである。馬匹の良し悪しや頭数がクニ、ひいては朝倉氏の権勢を暗喩していたと仮定すれば、馬柵SA836の西側に隣接して構築された庭SG829や礎石建物SB837は、来訪者にとって庭越しに馬へ視線を向け、情報を吟味して、策略を練る場でもあつたのではないかと考える。

2. 第102・104次調査 第82次の武家屋敷跡の北方に位置し、両調査の成果を照合した結果、3つの武家屋敷跡を確認することができた。そのうち、南北道路SS260の西側一帯を占める大規模武家屋敷Aについては、「さいとうひょうぶだゆうあと齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」中の「さいとうひょうぶだゆうあと齋藤兵部大輔跡」に由来する可能性が高いこと、地形的に「さいとうひょうぶだゆうあと齊藤」の主要部を占める点から、5代朝倉義景の側室であるこしょうしょう少少将の父、「さいとうひょうぶしょうゆう齋藤兵部少輔」の屋敷である可能性が格段に高まった。齋藤兵部少輔は、朝倉家臣団の一人でありながら、出自・実名は不明であり、実子に新三郎、義景の側室である少少将がいる。朝倉館南方に位置する、少少将が居住したと伝えられる諏訪館の庭園にある立石が美濃から運ばれたとする伝承があり、齋藤兵部少輔を美濃国の守護代齋藤氏に関連する人物とみる説もある。文献上では、元亀元年(1570)4月、織田信長の越前侵攻に際し、武田中務大輔とともに一乗谷を守備したことや、同年9月に朝倉軍が近江坂本に出陣した際に息子の新三郎も従軍し、義景から感状を受けている記録が残る。天正元年(1573)8月、刀禰坂の戦いで敗戦し、義景一族とともに齋藤兵部少輔、新三郎父子も大野郡へ同行している。大野賢松寺にて義景自害後は、少少将、愛王丸と共に護送されたが、その後経緯は不明である。

武家屋敷Aは、第Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ区域の遺構で構成され、外寸で北辺 17m以上×東辺 98m×南辺 50m以上×西辺 109m以上を測り、敷地面積は約 3,700 m²以上の規模と推定された。第Ⅰ区域の遺構は武家屋敷Aの南側に位置し、東側土塁石垣SA4760 内に門SI4750、礎石建物SB4787の区画溝SD4752・4753・4765 等が検出された。第Ⅰ区域にかかるSD4755は溝の末端部にあたり、陶磁器類 114～125、銭貨「熙寧元寶」170、「政□通寶」173が出土した。E26では包含層中から双鶴亀菊花文鏡が出土した。西側のSG4758は庭と考えられる。全体的に後世の削平を受けていたものの、砂利敷面が所々に散見され、広場であった可能性がある。第Ⅲ区域の西側半分は武家屋敷Aにかかる遺構で構成され、主な遺構として大型の方形石積施設SF4815・4814・4813が門SI4817 周辺で検出された。SF4813ではほぼ完形の土師器皿 137～139・141が出土し、SF4814では完形の鉄釉大海茶入 142、銭貨「永楽通寶」476が出土しており、石積施設は溜枘のような役割で構築されたのではないかと考える。青磁装飾 375は出土例が稀有な筆架または花瓶の脚と考える。第Ⅳ区域は、主な遺構として礎石建物SB4790と区画溝SD4848・4805・4806が検出された。SB4790は建物①・②でなり、武家屋敷Aの主殿に相当し、北側はSD4808に区画されていた。さらに北側には屈曲するSD4806が検出された。この一帯から兜鞆 397～400、草摺 402～405、410～416、大袖 406～409などの甲冑が散乱して出土し、金銅製の鎧金具 384も含まれる。判断には慎重を要するが、この場所における戦闘行為は想像に難くない。第Ⅴ区域は屋敷の敷地を南北に区画するSD4797・4798を含めた以南に相当し、南端部は第Ⅰ区域と接する。遺構はⅡ期に西側の礎石建物SB4788・土蔵SB4789、東側にSB4846・4787がⅡ期に構築された後、Ⅲ期にSB4788の南側にSB4786を構築していることが明らかになった。遺物は豊富であり、大型の青磁盤 195・198や青磁花托 206・陽刻牡丹・唐草文をもつ瓶 284・348、染付双耳瓶 325など優品が出土した。SB4788の東側の区画溝SD4801からは、焼土や炭化物とともに大量の廃棄された土器類が出土し、X008 地点から金象嵌沈金瑞果文硯箱が出土した。

3. 第 125 次調査 『一乗谷古絵図』で「月見山」と記され、武家屋敷Aだけでなく、北側の小扇状地にある町屋や寺院も眺望できる立地は、防御施設を構える条件を満たし、武家屋敷Aに付随する櫓跡と見られる。北側の山裾斜面に設定した1トレンチの石組遺構は、庭と推定できる要素を備えていた。

参考文献

Ⅱ～Ⅴ関連

1. 安波賀春日神社蔵「一乗谷古絵図」『福井市史』資料編別巻絵図・地図 福井市 1989年3月
 2. 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』-平成5年度発掘調査環境整備事業概要(25)- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1994年3月
 3. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅳ』-第15・25次、第24次-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1993年3月
 4. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅵ』-昭和49年度発掘調査環境整備事業概要。報- 福井県教育委員会 朝倉氏遺跡調査研究所 1975年3月
 5. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅱ』-第10・11次、第54次調査- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1988年3月
 6. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告19』-第68・74・75次調査- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2021年3月
 7. 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』-平成10年度発掘調査環境整備事業概要(30)-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1999年3月
 8. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』-平成11年度発掘調査環境整備事業概要(31)-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2000年3月
 9. 青山作太郎『一乗谷朝倉史跡・伝説』細田武、山本武生 1972年7月
 10. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』38-平成19年度発掘調査・環境整備事業概要-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2008年3月
- その他
11. 小野正敏『戦国城下町の考古学- 一乗谷乗谷からのメッセージ-』講談社 1997年7月
 12. 近藤好和「大鎧の成立・有職故実の見地から」『特別展兵の時代 古代末期の東国社会』平野卓治編 横浜市歴史博物館、(財)よこはま市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1998年10月
 13. 樋口隆晴 渡辺信吾『図解武器と甲冑』株式会社ワン・パブリッシング 2021年6月
 14. 清水克行『日本神判史』中央公論新社 2020年5月
 15. 篠崎謙治『馬小屋の考古学』高志書院 2010年10月
 16. 土橋由理子 尾崎高宏 園村維敏編『古渡路遺跡』本文・図版編 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書X X X V I 新潟県埋蔵文化財調査報告書第221集 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011年3月
 17. 藤田邦雄 久田正弘編『七尾市 七尾城跡』Ⅱ-一般国道470号能越自動車道七尾水見道路に係る埋蔵文化財発掘調査報告書- 石川県教育委員会公益財団法人石川県埋蔵文化財センター 2021年3月
 18. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『記念特別展戦国城下町 一乗谷を歩く-発掘調査と環境整備のあゆみ-』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2011年7月 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『第19回企画展 戦国一乗谷の庭園-伝統と革新の庭園デザイン-』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2012年8月
 19. 松原信之「3 朝倉英林孝景以後の庶流(同名系)」『越前 朝倉一族』新人物往来社 1996年11月
 20. 同『朝倉氏と戦国村一乗谷』吉川弘文館 2017年2月
 21. 水野和雄 佐藤圭編『戦国朝倉氏と一乗谷』高志書院 2002年11月
 22. 渡辺信吾『イラストでわかる日本の甲冑』株式会社マール社 2021年2月

写 真 图 版



(1) 第82次調査区遠景(南から)



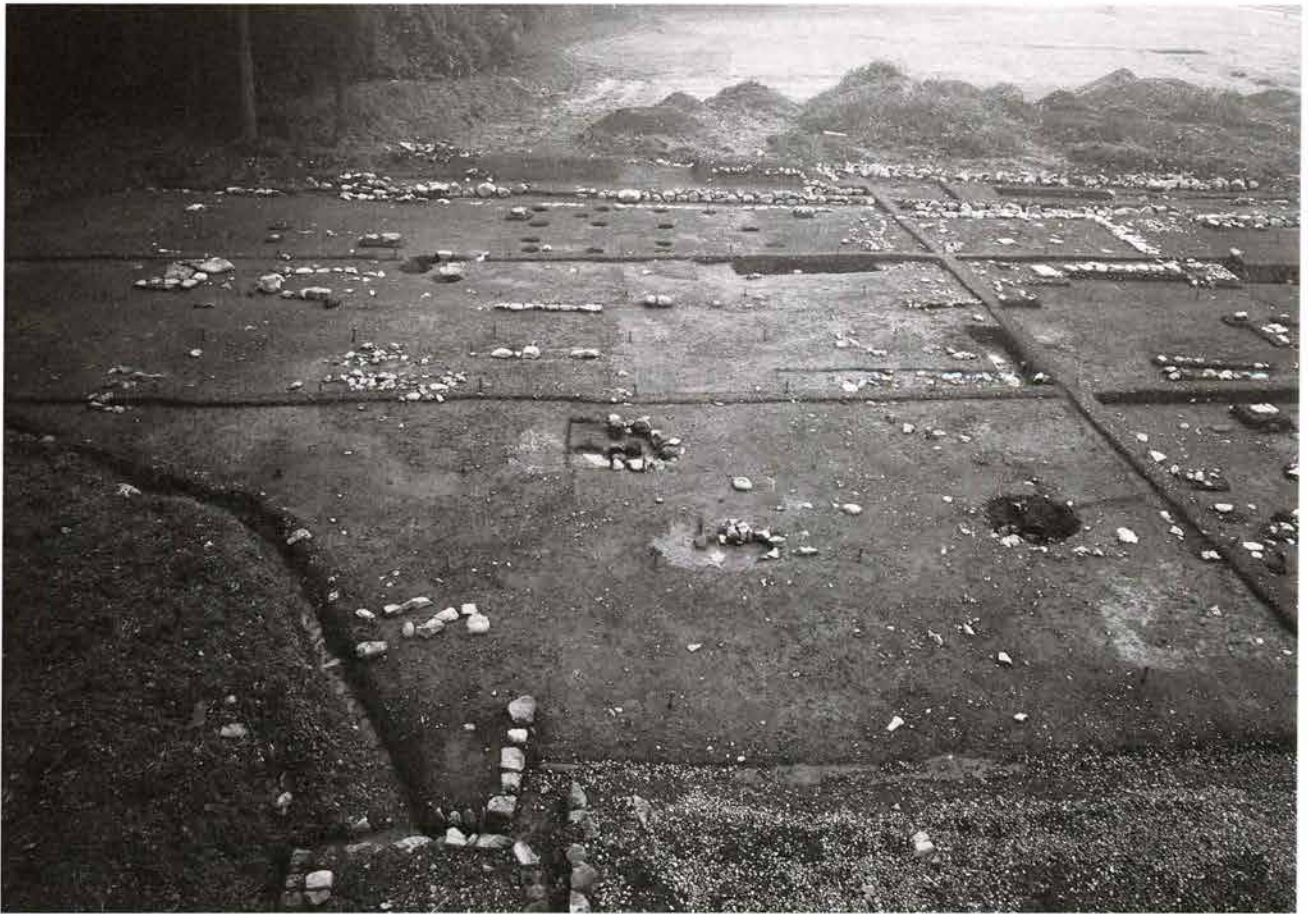
(2) 第82次調査区遠景(東から)



(1) 第 I 区域遺構全景(西から)



(2) 第 I 区域遺構全景(北東から)



(1) 第 I 区域遺構全景(南から)



(2) 第 I 区域遺構全景(北から)



(1)SA4260、SD4269、SX4315(西から)



(2)SB4274、SX4316、SK4317(東から)



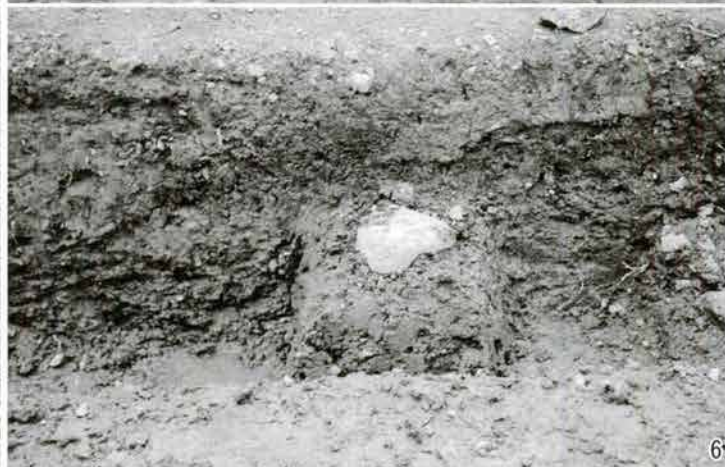
(3)SX4316羽口(東から)



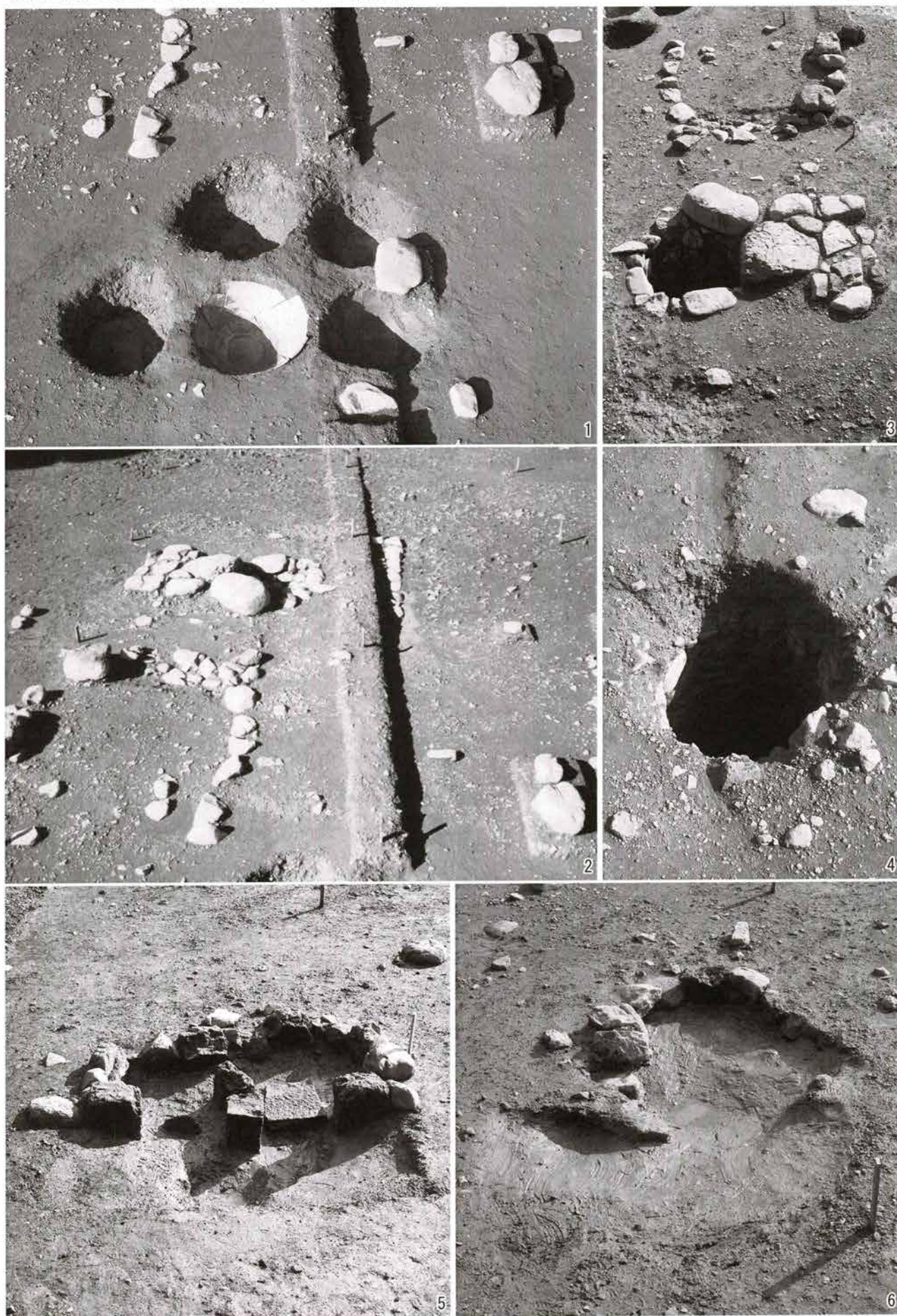
(5)SX4303(北から)



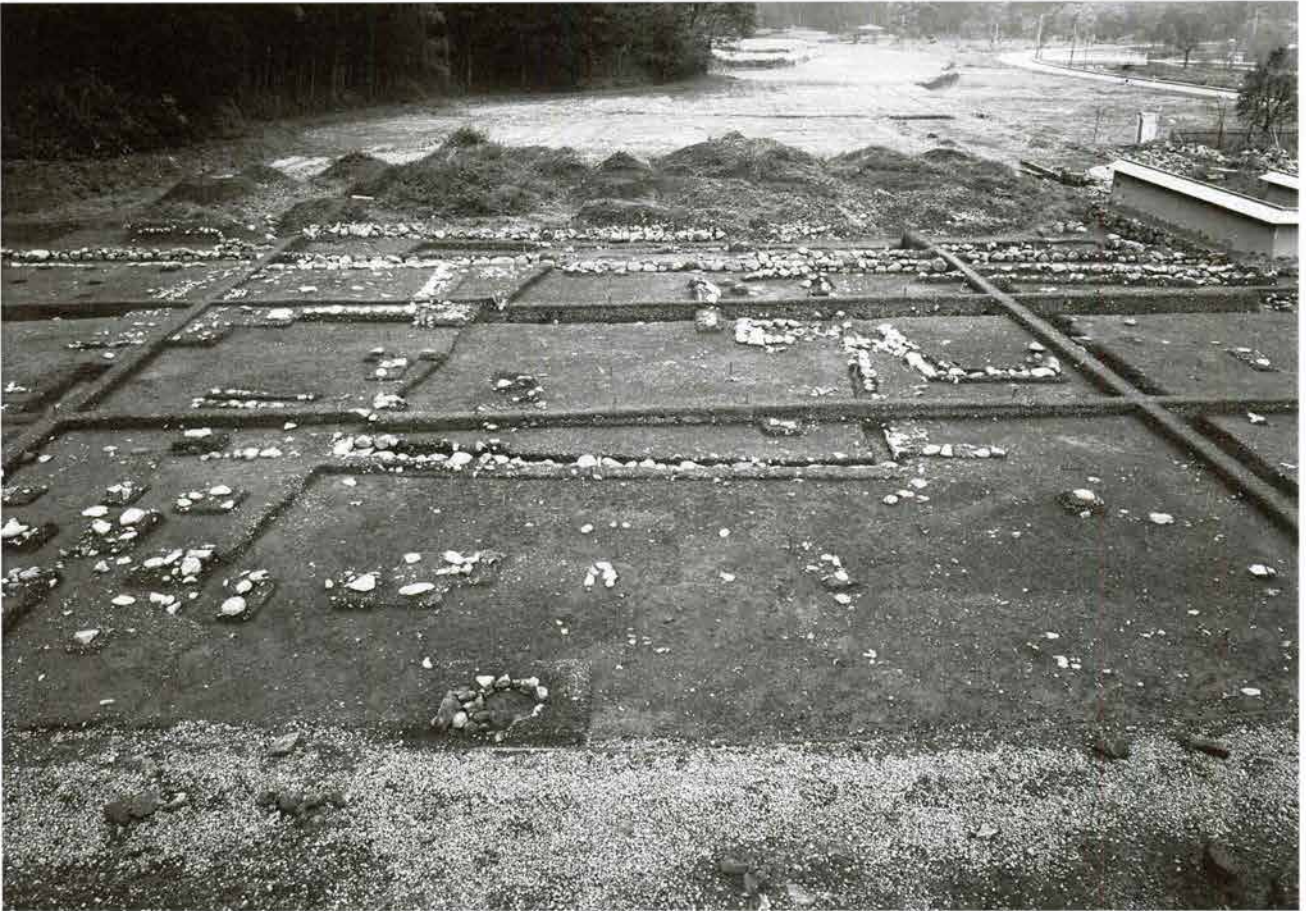
(4)SX4316(東から)



(6)SX4303南北断面(西から)



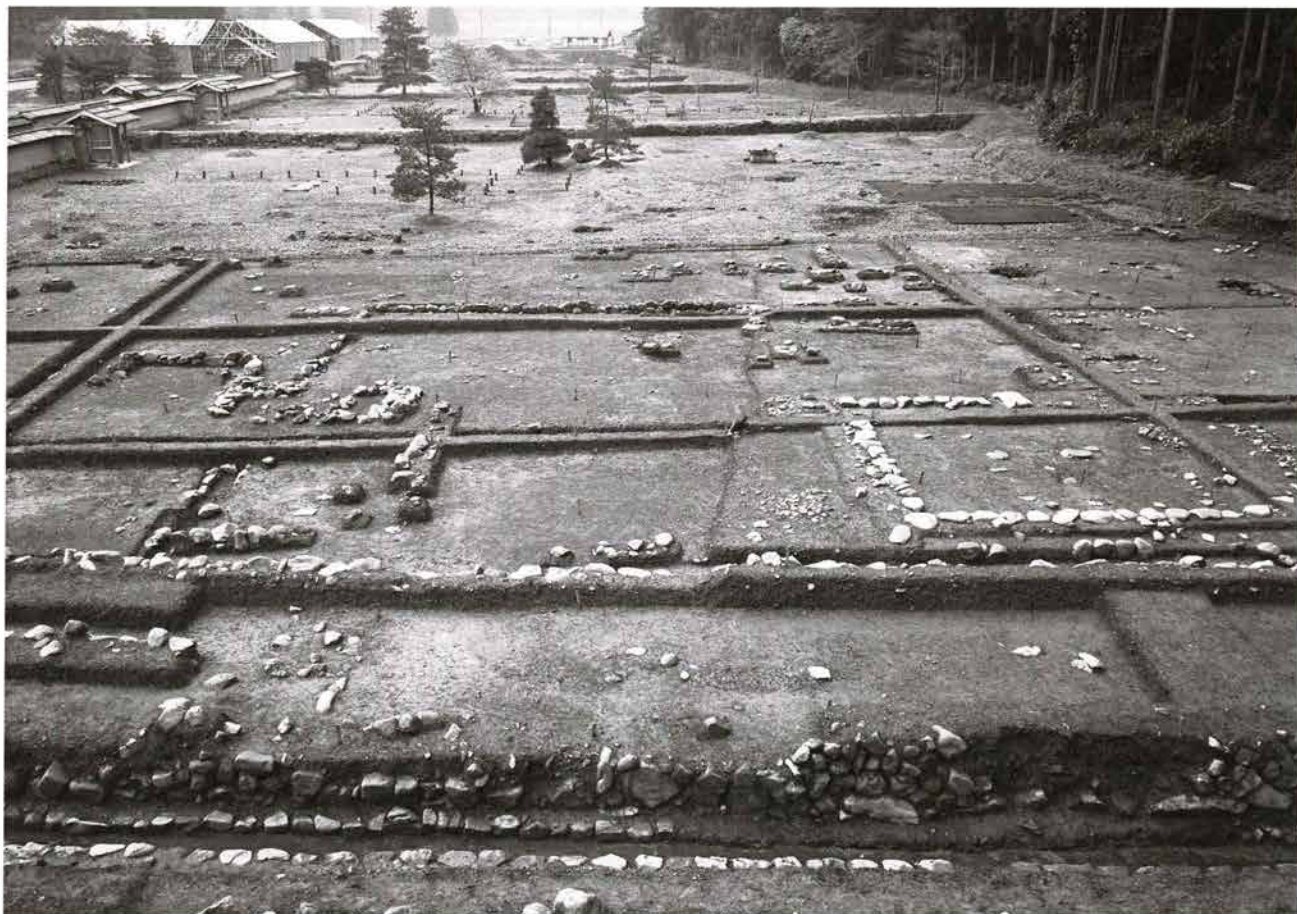
(1)SK4309・4313(東から) (2)SX4310～4313(東から) (3)SX4310・4311、SE4277(西から) (4)SE4276(西から)
(5)SX4280(西から) (6)SX4281(西から)



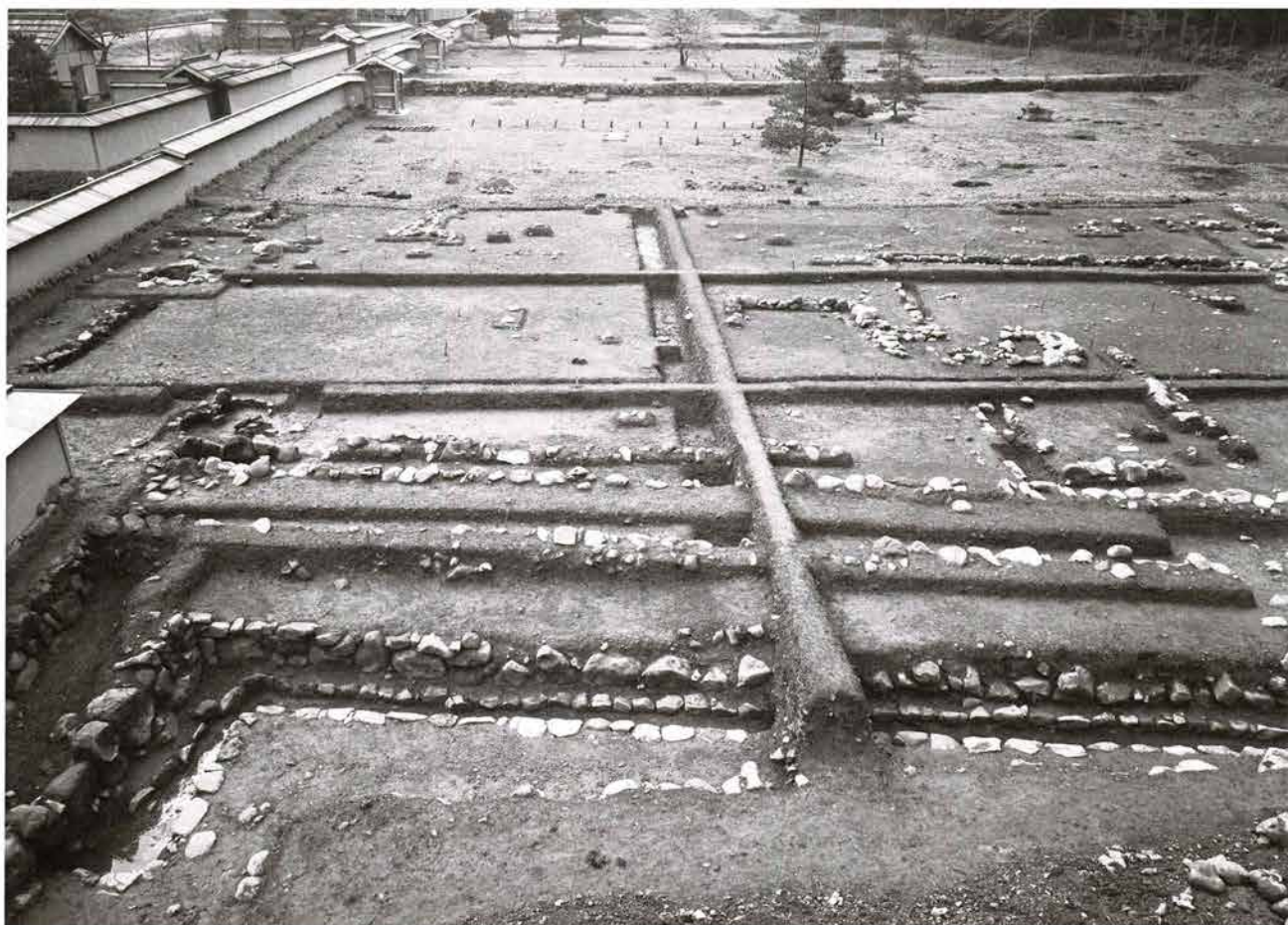
(1) 第Ⅱ区域遺構全景(南から)



(2) 第Ⅱ区域遺構全景(南から)



(1) 第Ⅱ区域遺構全景(北から)



(2) 第Ⅱ区域遺構全景(北から)



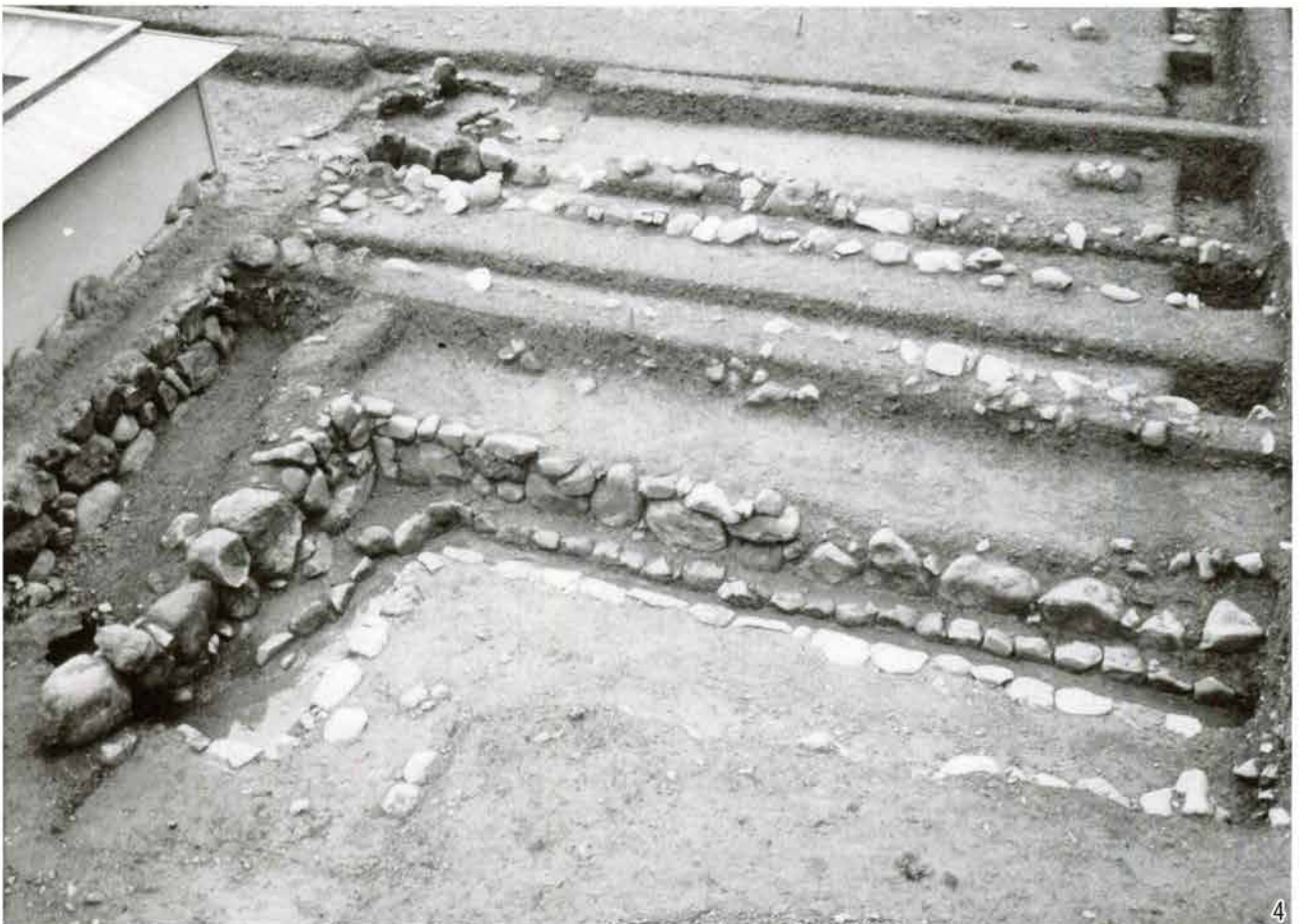
(1)SA4260、SV940、SD4268(東から)



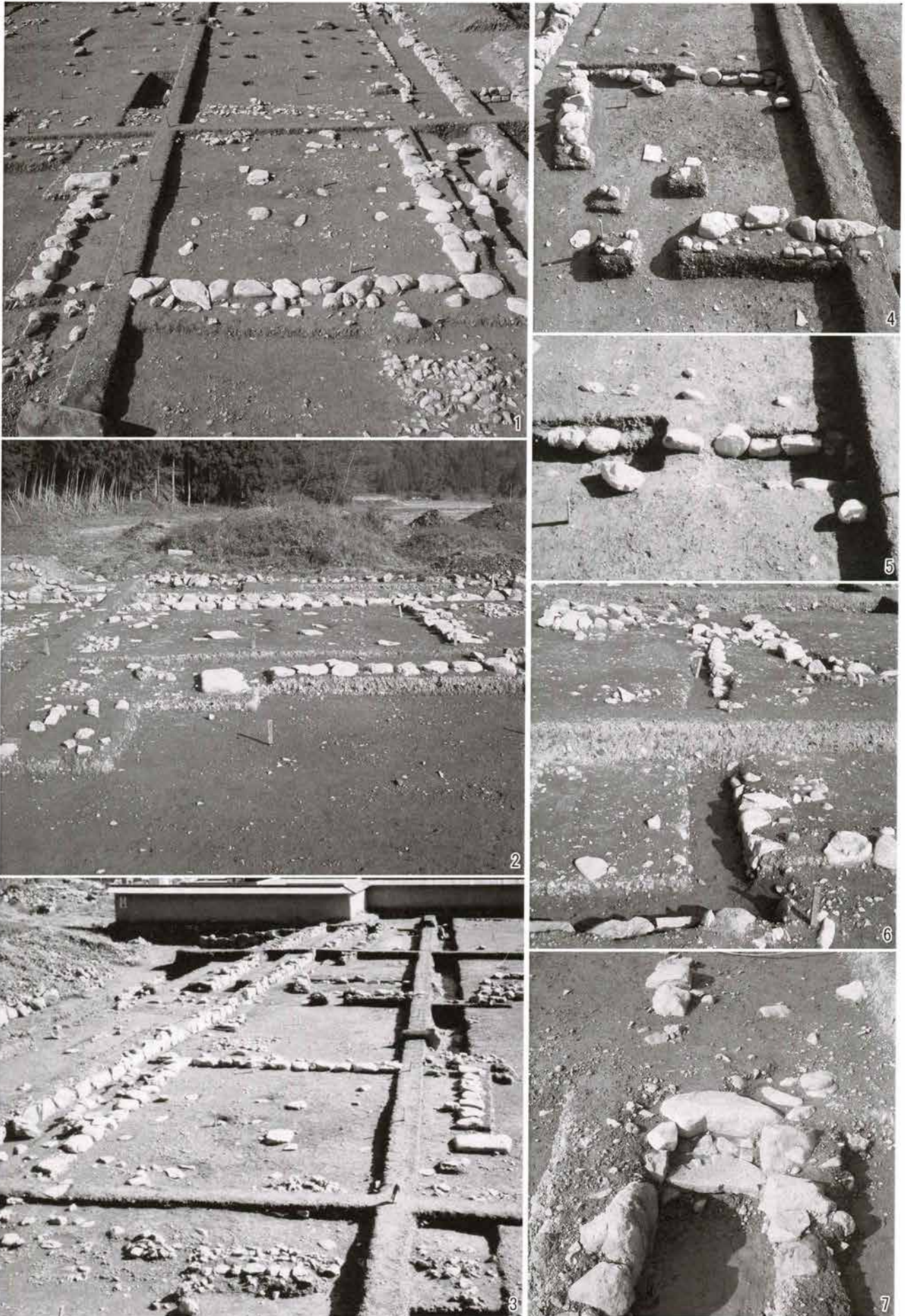
(2)SD4268、SZ4319(西から)



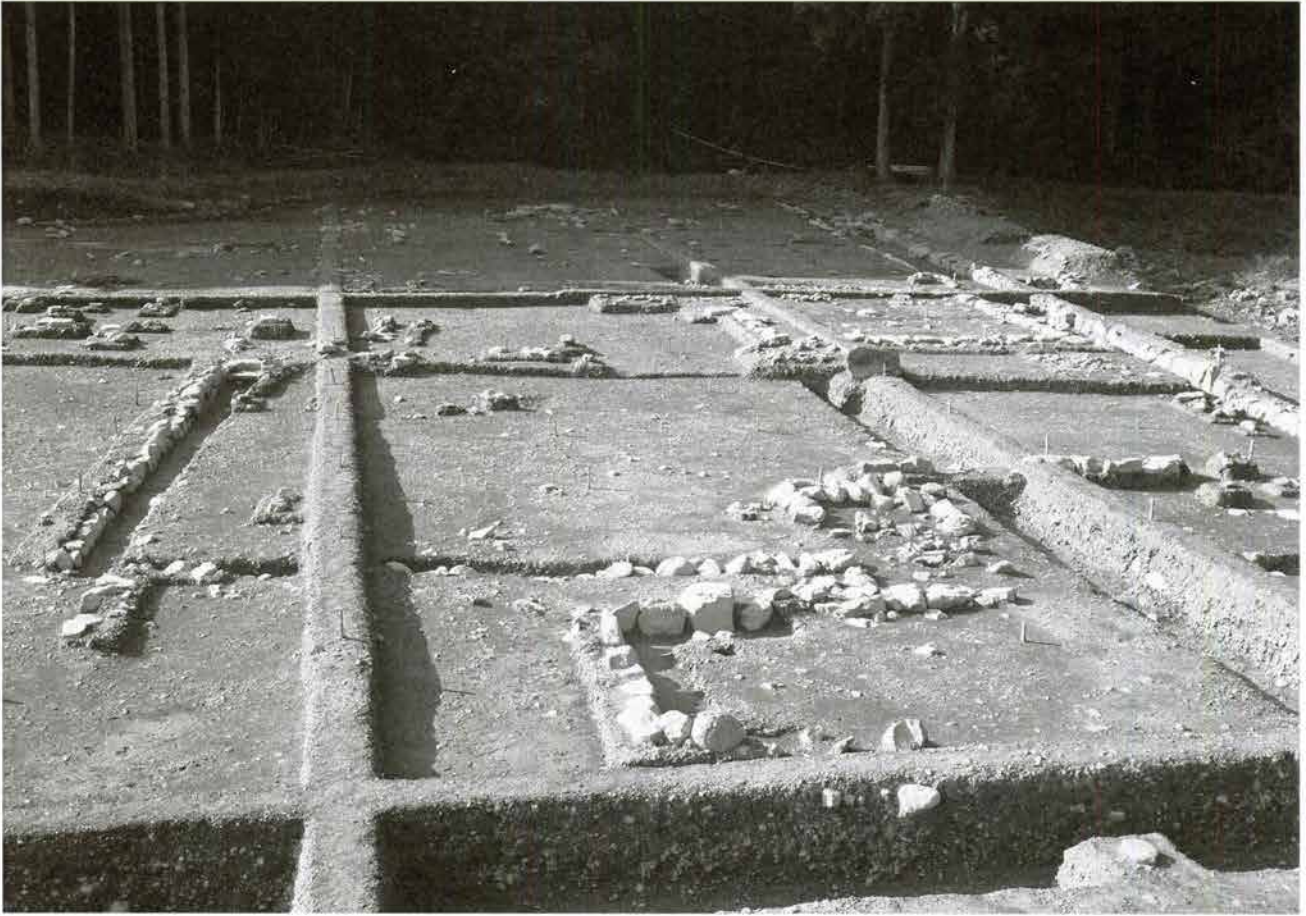
(3)SZ4319(西から)



(4)SD4268・4270、SV940・4263(北西から)



(1)SB4273(東から) (2)SB4273(南から) (3)SB4273(西から) (4)SX4291・4292、SD4271(西から)
(5)SD4271(西から) (6)SD4271・4272(南から) (7)SD4272西端(東から)



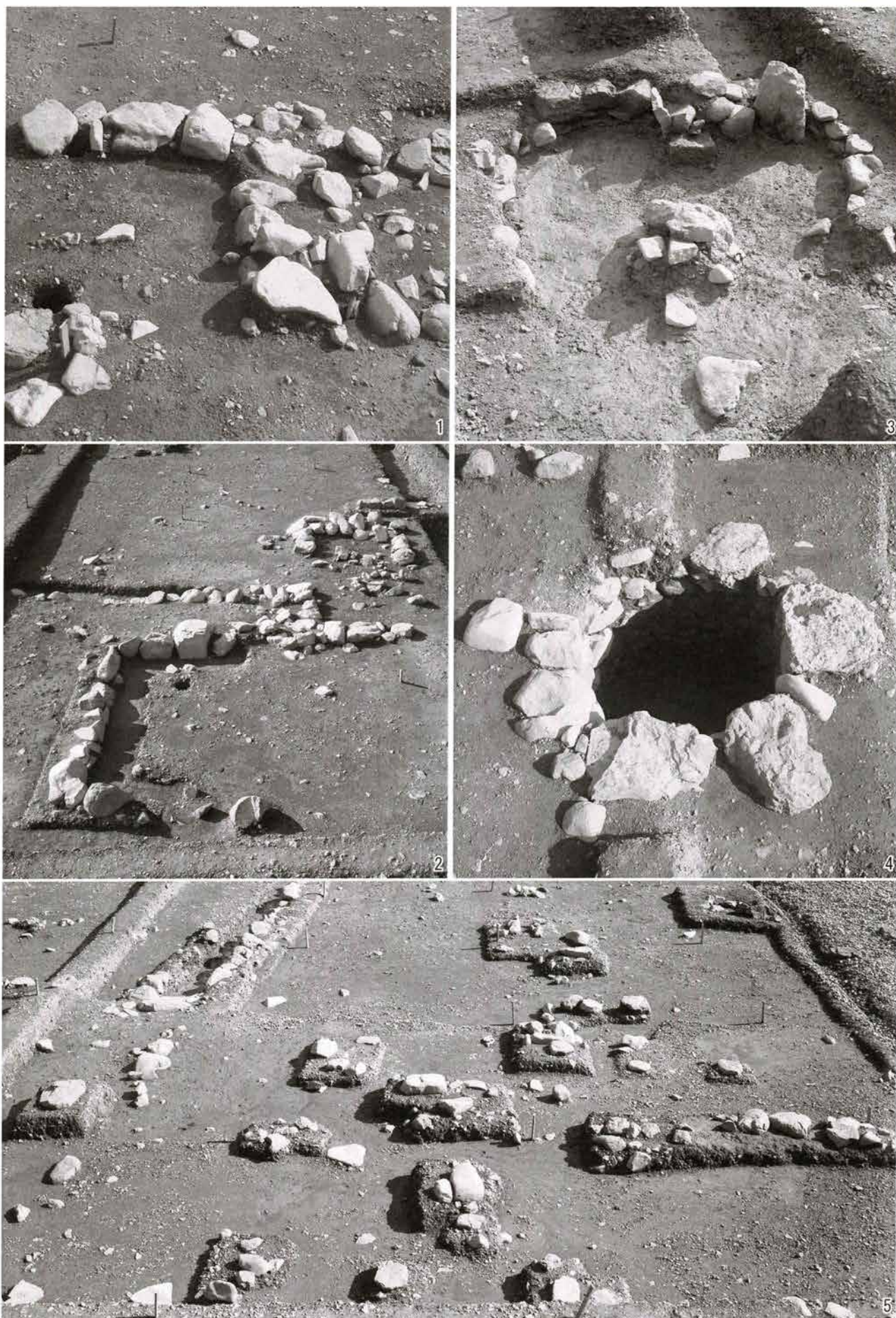
(1)SD4271・4272、SX4289・4290・4296・4302、SV4266(東から)



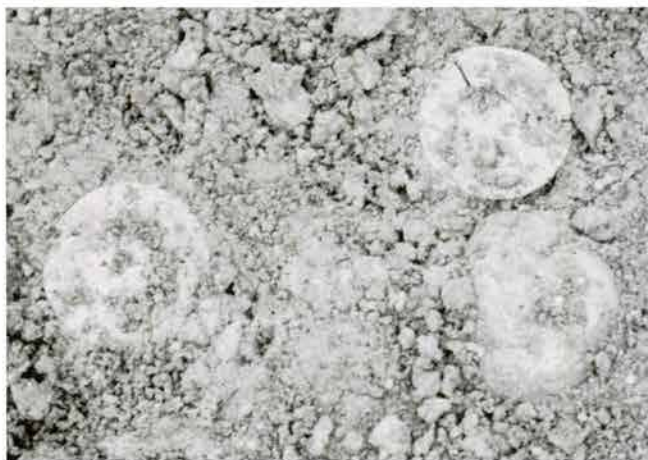
(2)SD4271・4272(東から)



(3)SD4272(西から)



(1)SX4290(北から) (2)SX4289・4266、SD4271(東から) (3)SX4279(南西から) (4)SE4275(西から)
(5)SX4299、SB4300(西から)



(1) X001:T28土師器皿(西から)



(2) X002:SB4273土師器皿(北から)



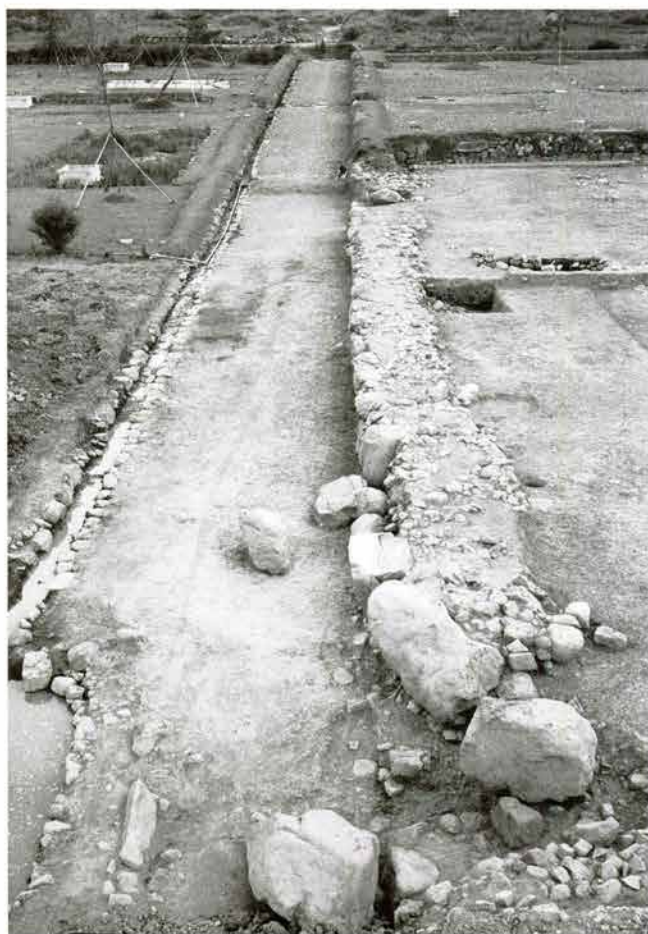
(3) 第Ⅲ区域遺構全景(北から)



(1)矩折部SA892・893(北から) (2)矩折部SA892・893(東から) (3)SD901、SZ4319(北東から)
(4)SD901、SZ4319(東から) (5)矩折部SA893(南から) (6)矩折部SA893、SZ914(西から) (7)SZ914(南から)



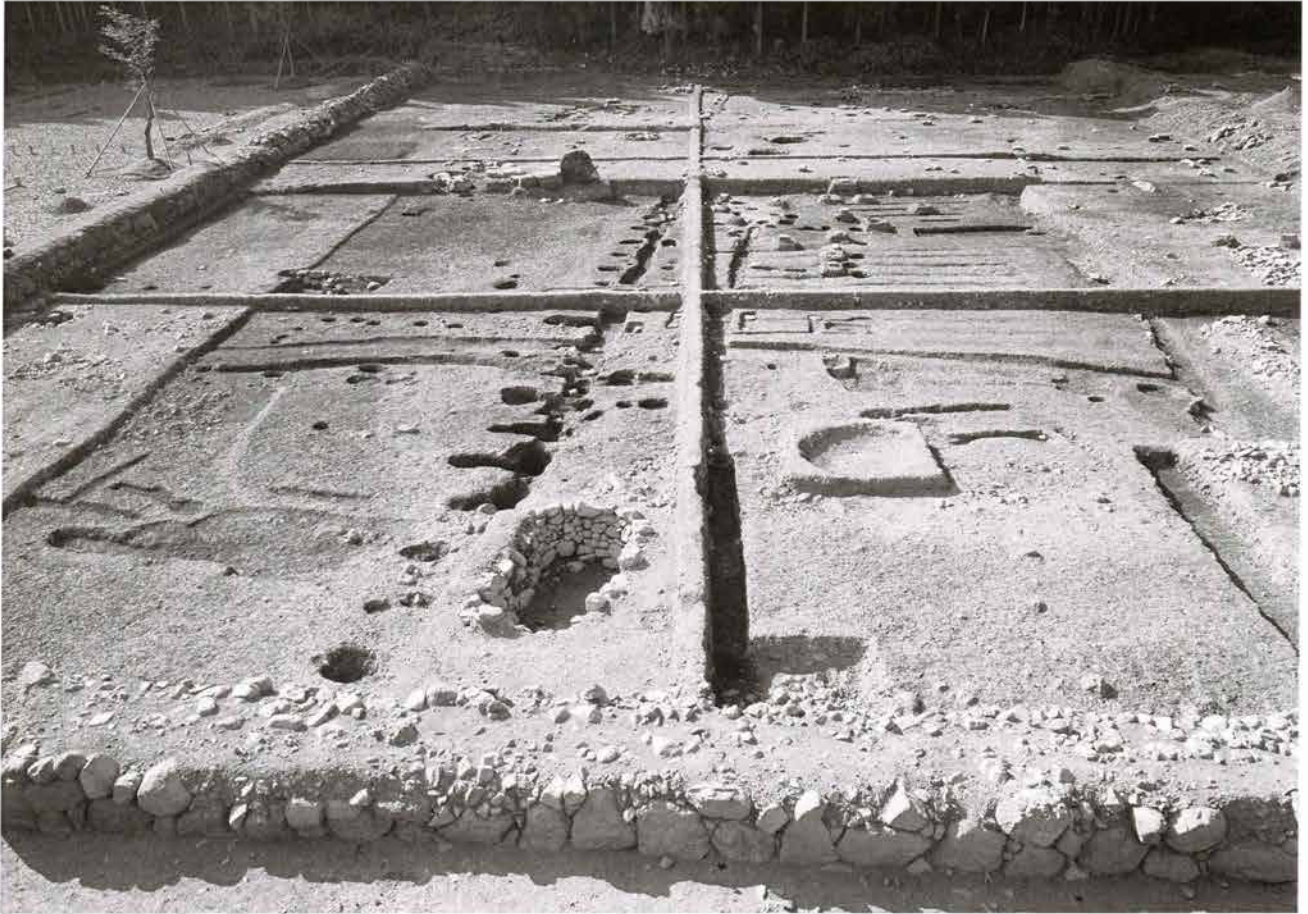
(1) 第Ⅳ区域遺構全景(北東から)



(2) SA265、SS260(北から)



(3) SA265、SS260(南から)



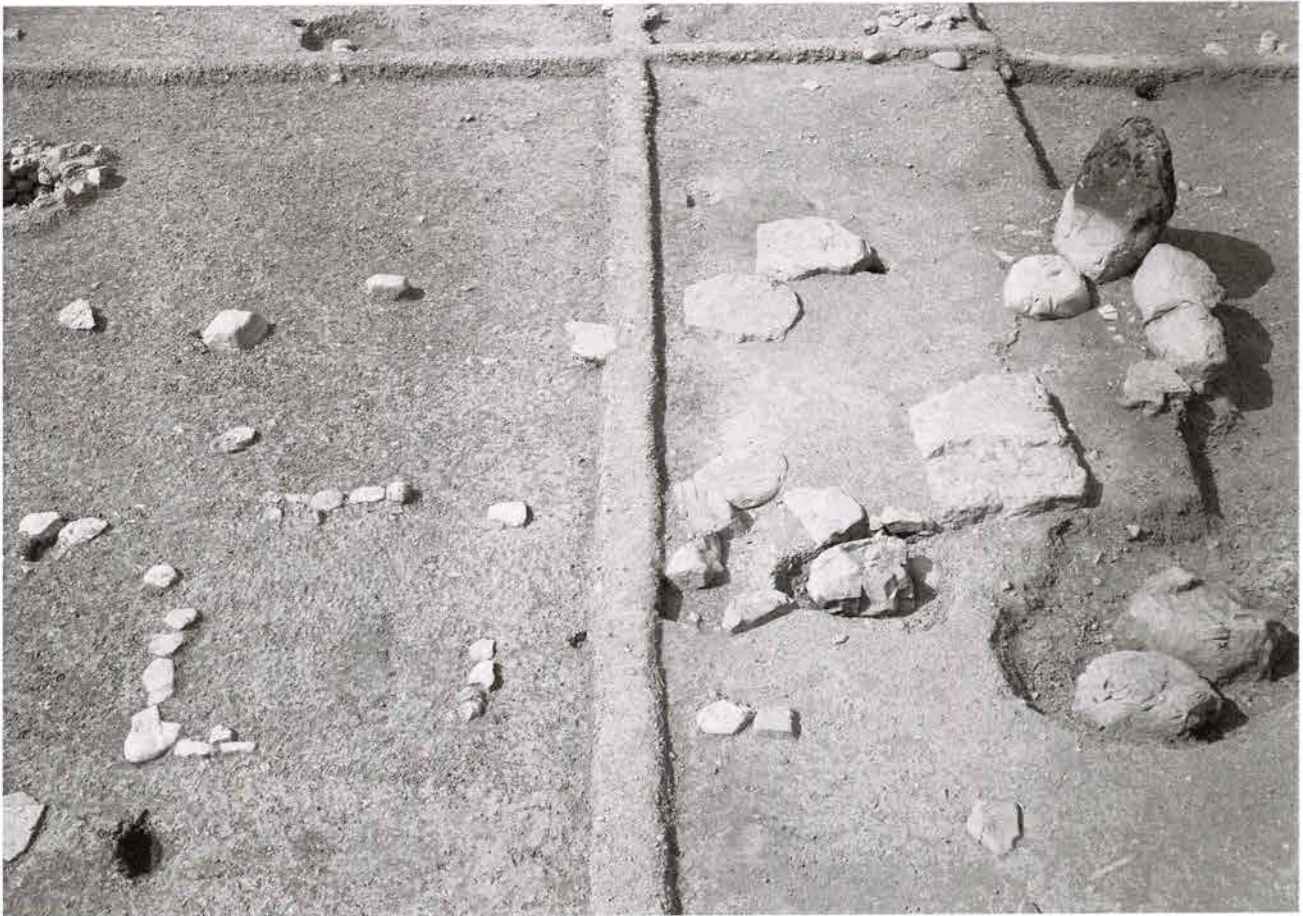
(1) 第Ⅳ区域遺構全景(東から)



(2) 第Ⅳ区域遺構全景(北西から)



(1)SA857、SB831・832、SK886(南から) (2)SB831・832、SK886(東から) (3)SI821(東から) (4)SX854(南から)
 (5)SE849(北から) (6)SF851南から)



(1)SB837・SG829(南から)



(2)SB837・SG829(西から)



(1) 第102・104次調査区遠景(南から)



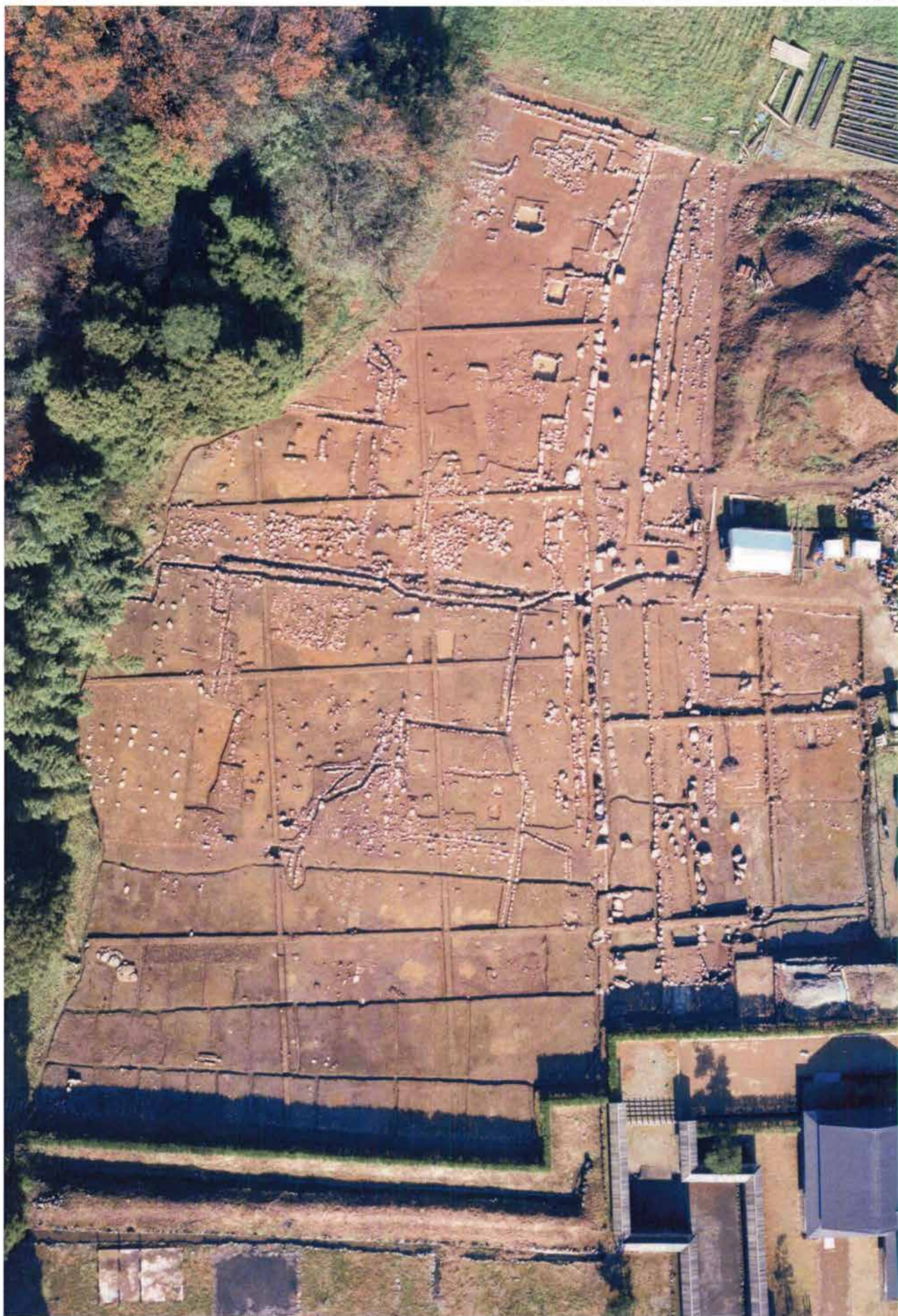
(2) 第102・104次調査区遠景(南東から)



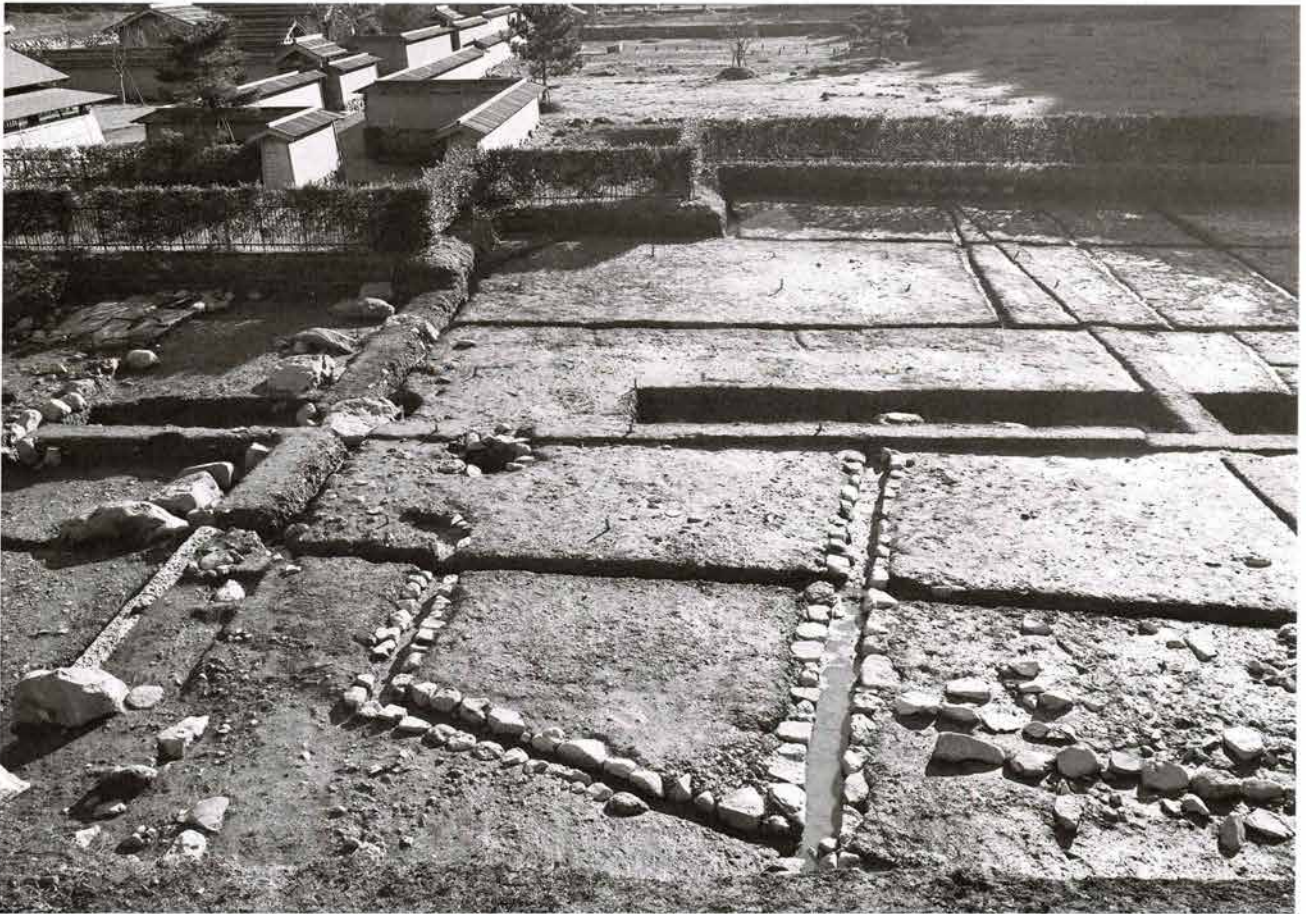
(1) 第102・104次調査区遠景(南東から)



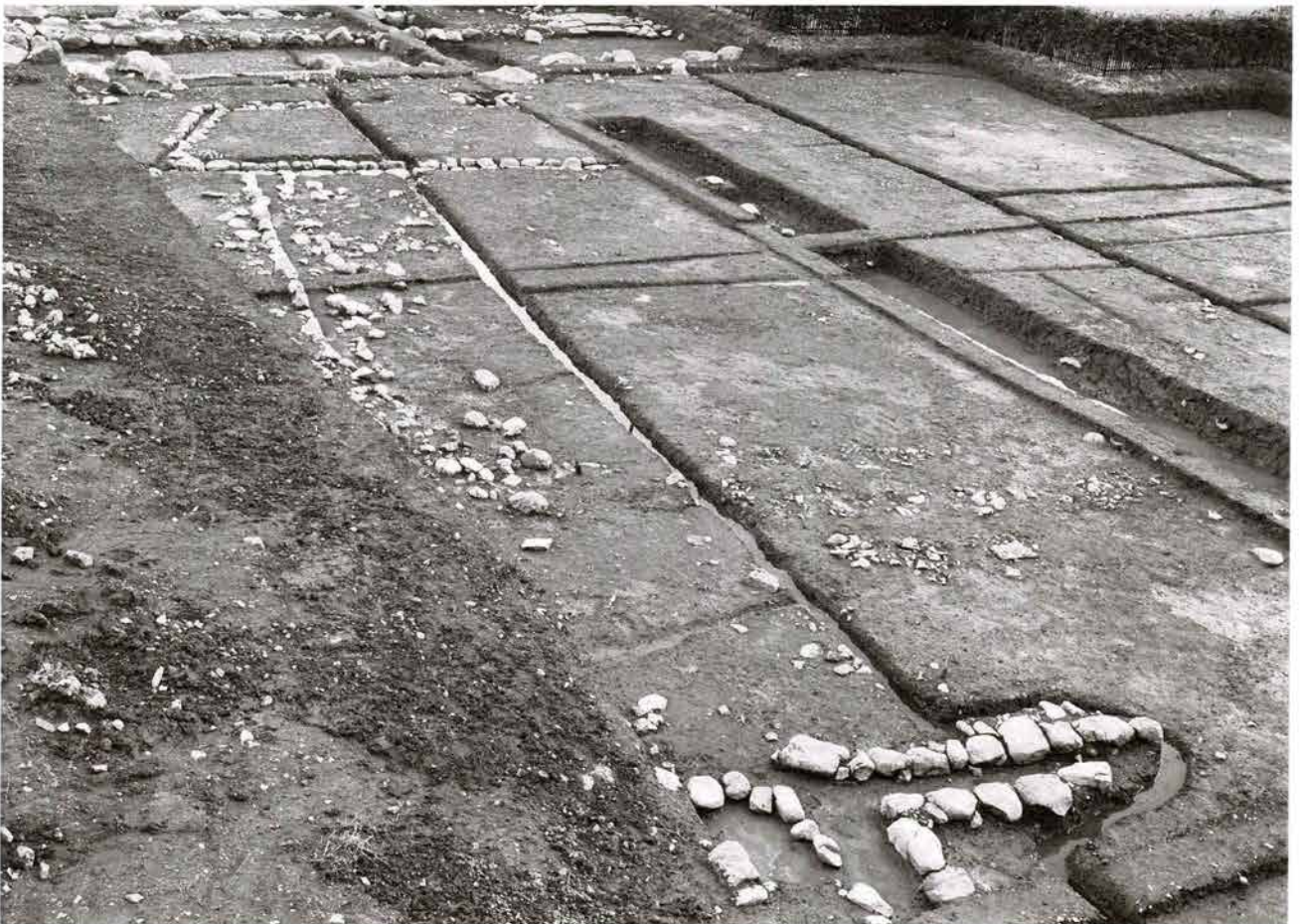
(2) 第102・104次調査区遠景(東から)



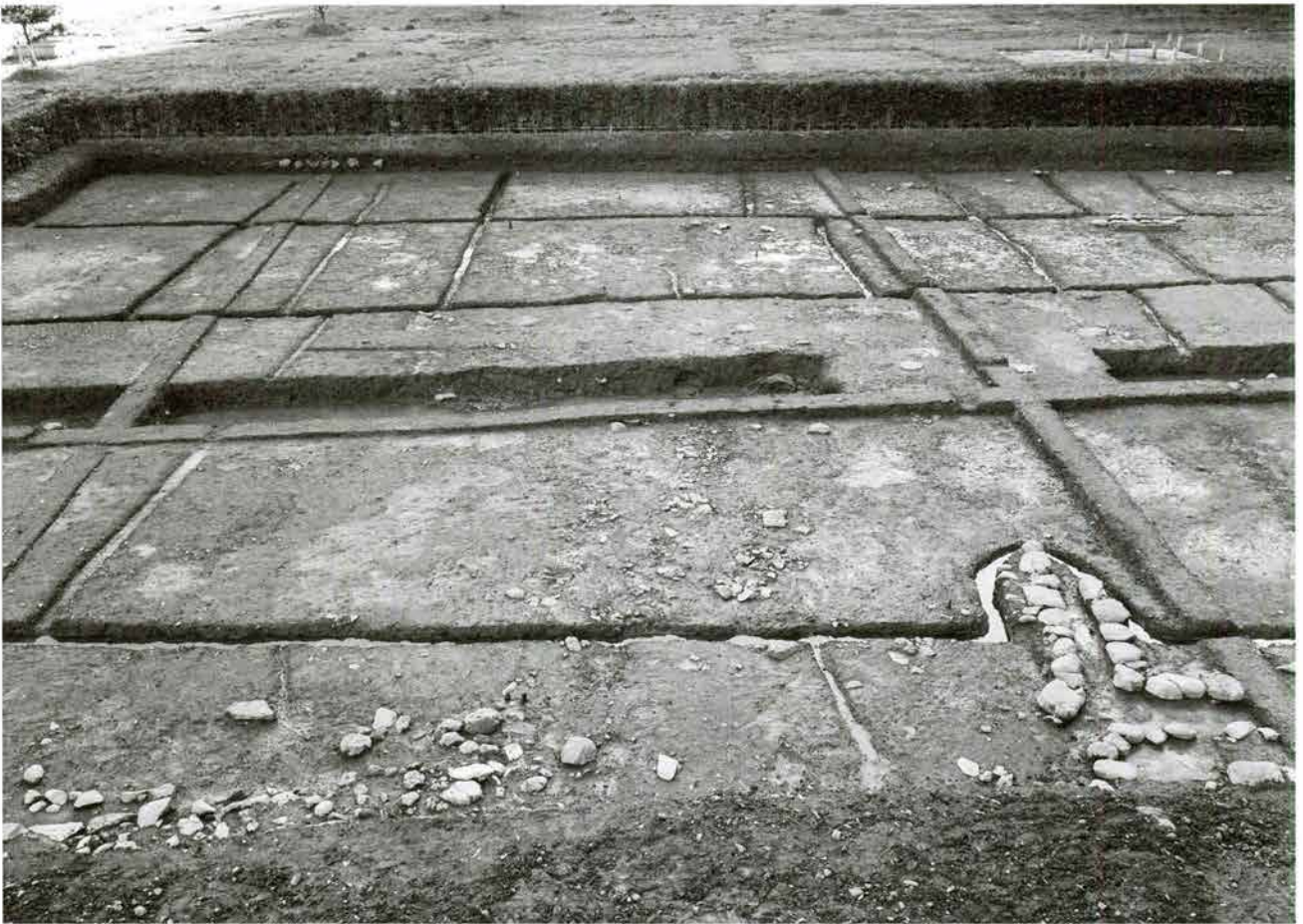
(1) 第102・104次調査区遠景(南から)



(1) 第I区域遺構全景(北から)



(2) 第I区域遺構全景(北西から)



(1) 第 I 区域遺構全景(北から)



(2) 第 I 区域遺構全景(西から)



(1)SX4758(北東から) (2)SD4755・4756(北東から) (3)SE4811(北東から) (4)SE4751(西から)



(5)SA893・4760、SI4750、SD4752・4753、SX4765、SE4751(東から)



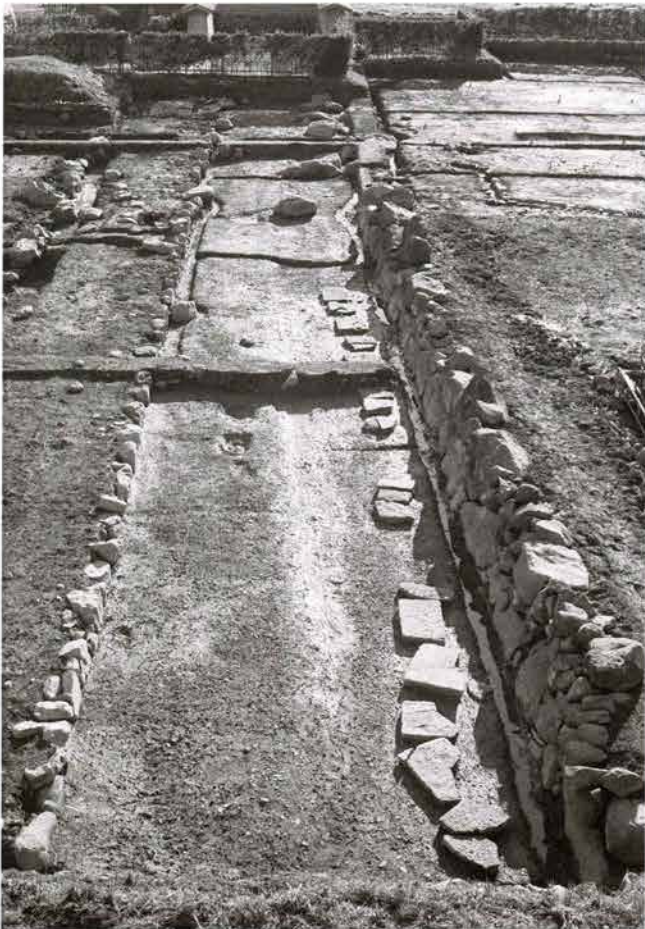
(1) 第Ⅱ区域遺構全景(北から)



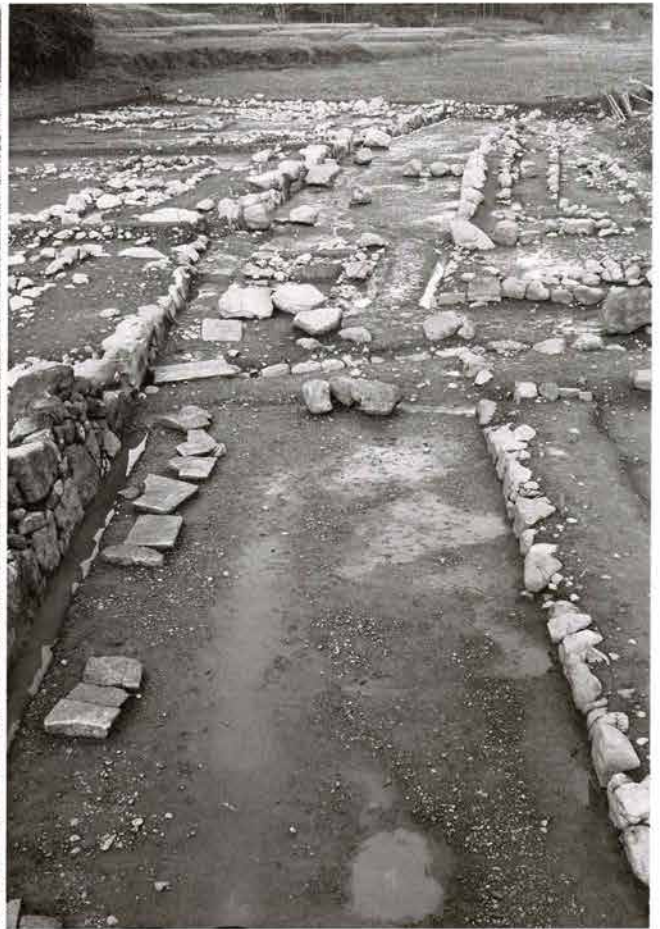
(2) 第Ⅱ区域遺構全景(東から)



(1)SA4763、SS260(北西から)



(2)SA4760・4763、SS260、SX4761(北から)



(3)SA4760・4763、SS260、SX4761(南から)



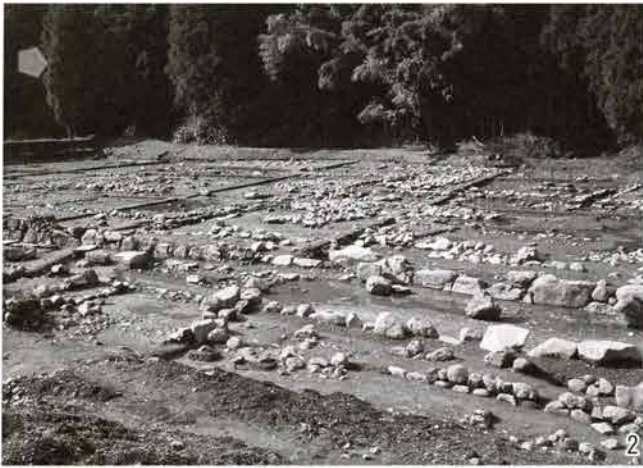
(1)SB4767(北から)



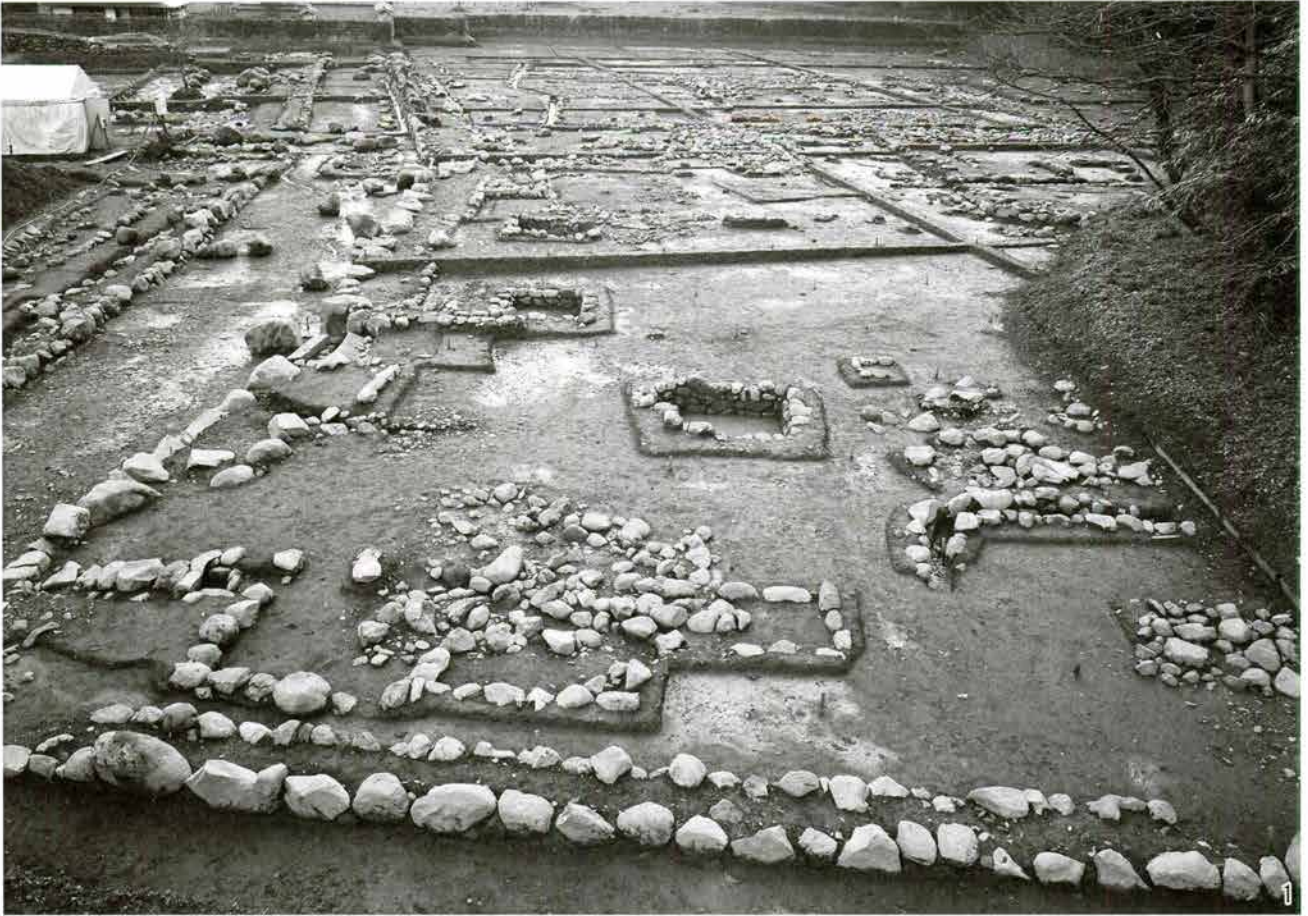
(2)SI4762(西から)



(1) 第Ⅲ区域遺構全景(北東から)



(2) 第Ⅲ区域遺構全景(東から) (3) SS260、SA4780(南から) (4) SS260、SA4780(北から)



(1) 第Ⅲ区域遺構全景(北から)



2



4



3

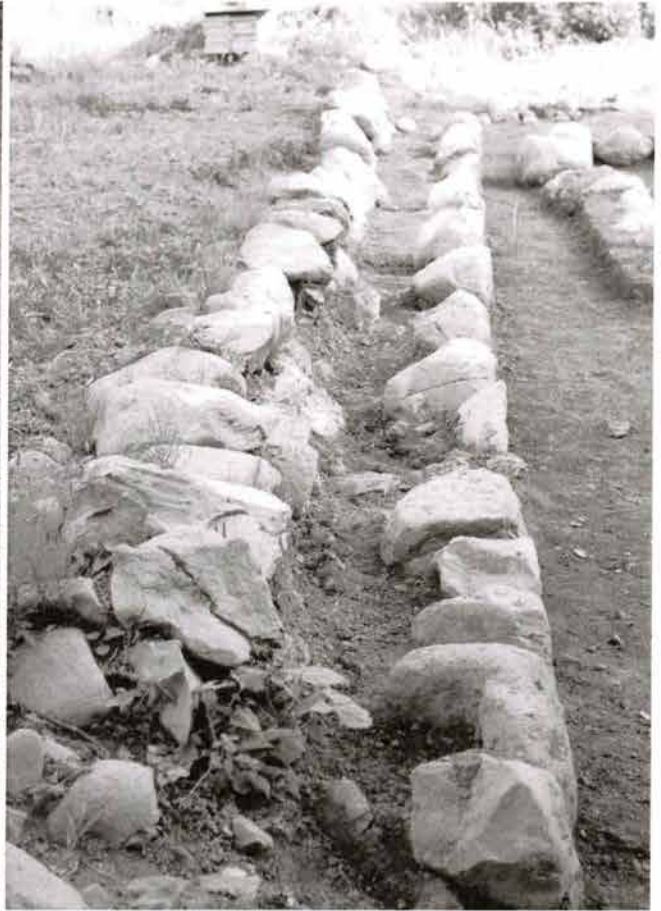


5

(2) 第Ⅲ区域遺構全景(北東から) (3) 第Ⅲ区域遺構全景(南東から) (4) 第Ⅲ区域遺構全景(東から)
(5) 第Ⅲ区域遺構全景(北東から)



(1)SA4783(南東から)



(2)SA4783(北西から)



(3)SA4781(北東から)



(1)SA4781・4782、SS260(南から)



(2)SI4817(東から)



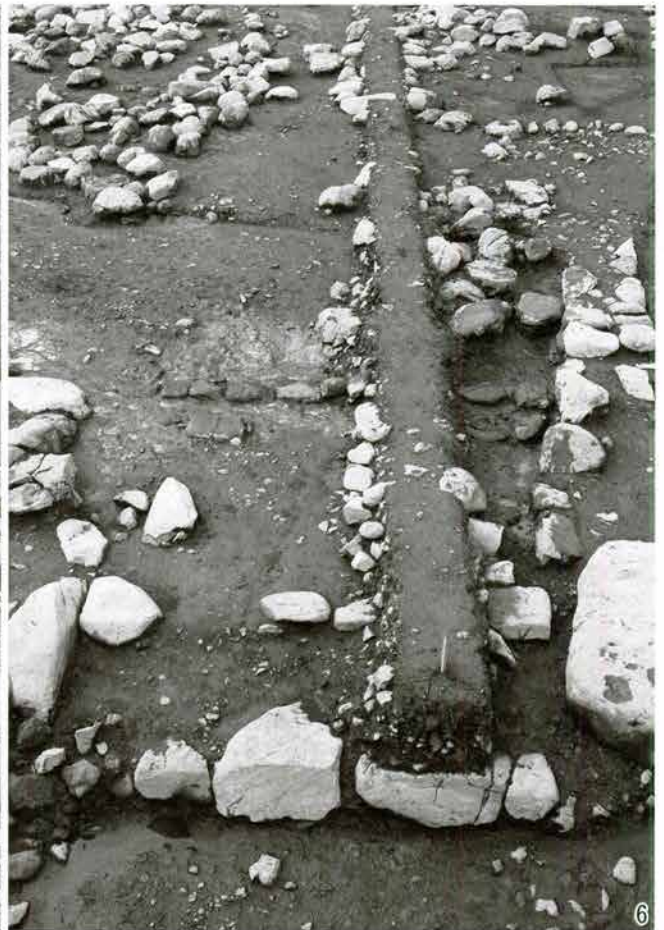
(3)SI4817(西から)



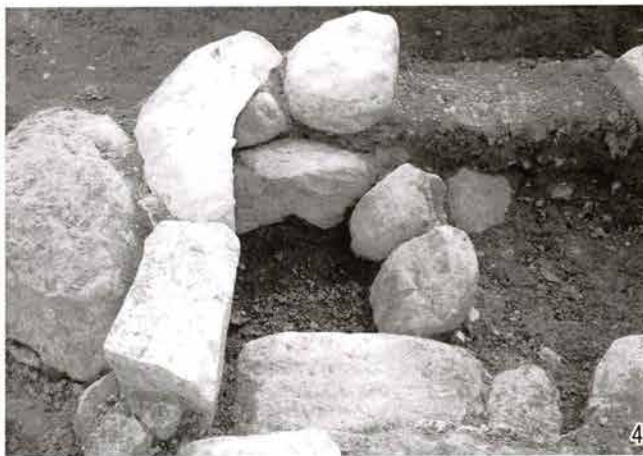
(4)SI4817(南から)



(5)SI4816(西から)



(6)SI4816(東から)



(1)SD4809(南東から) (2)SD4808(東から) (3)SD4810(南西から) (4)SZ4845(北東から) (5)SZ4845(北西から)
(6)SZ4844(西から)



(1)SF4813(南西から) (2)SF4814(西から)

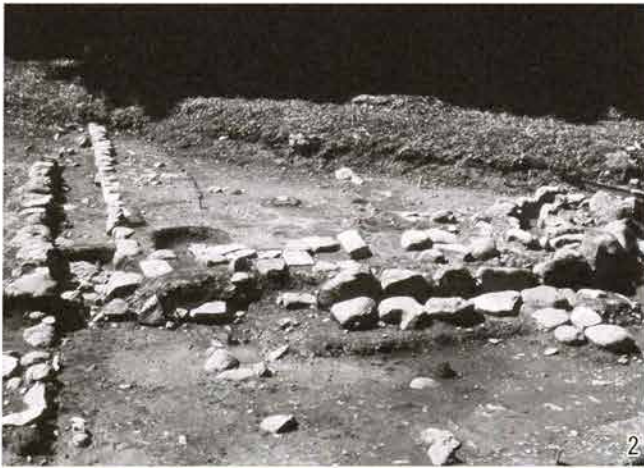
(3)SF4815(南西から) (4)SF4815(南西から)



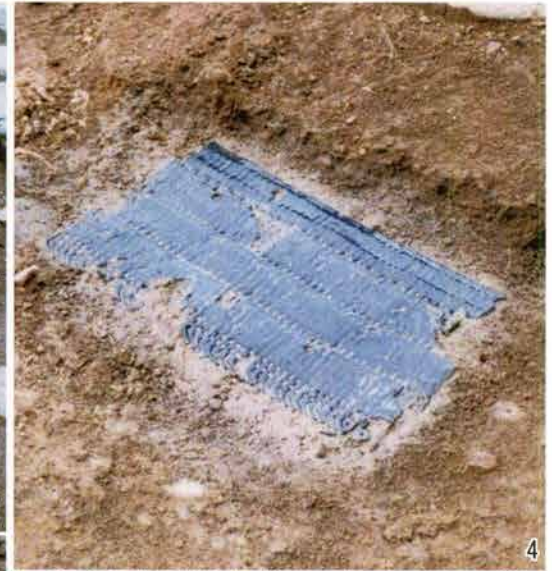
(5)SX4834(東から)



(1) 第IV区域遺構全景(北東から)



(2)SD4805・4848、SK4819(東から) (3)SD4848、SX4835(南東から) (4)SX4835(南から) (5)SB4790(南から)



(1) X001~003:SD4848甲冑出土状況(南西から) (2)同(北西から) (3)X001:草摺401~405(南東から) (4)X002:大袖406~409(東から)
 (5)X003:兜鞆397・398(北東から) (6)X004:SD4848草摺416(北東から) (7)X005:SD4805兜鞆399・400(西から)



(1)第V区域遺構全景(南東から)



(2)第V区域遺構全景(東から)



(1) 第V区域遺構全景(南西から)



(2) SB4789(北から)



(1)SB4786(南西から) (2)SB4786(南西から) (3)SB4786(南東から) (4)SB4846・4787、SD4792・4793・4765・4850(南西から)



(1)SD4797・4798・4801、SB4789(西から)



(1)SD4798、SZ4843(西から) (2)SD4794~4796(西から) (3)SD4794~4796(南から)



(4)SD4753・4792・4765、SF4826・4827(西から)



(1)SE4812(西から)



(2)X006:SB4789板材(北から)



(3)X007:SD4793土師器皿(北から)



(1) 第125次調査区遠景(南東から)



(2) 1トレンチ(北東から) (3) 1トレンチ南西端石組遺構(北から) (4) 2トレンチ(南から) (5) 2トレンチ(南東から)



(1)3トレンチ設定(北から) (2)3トレンチ北端断面(南から) (3)3トレンチ(北東から)



(4)3トレンチ(南から)



(1)4トレンチ設定(南西から)



(2)4トレンチ(南西から)



(3)5トレンチ西端(西から)



(4)5トレンチ東端(東から)



(5)6トレンチ設定(西から)



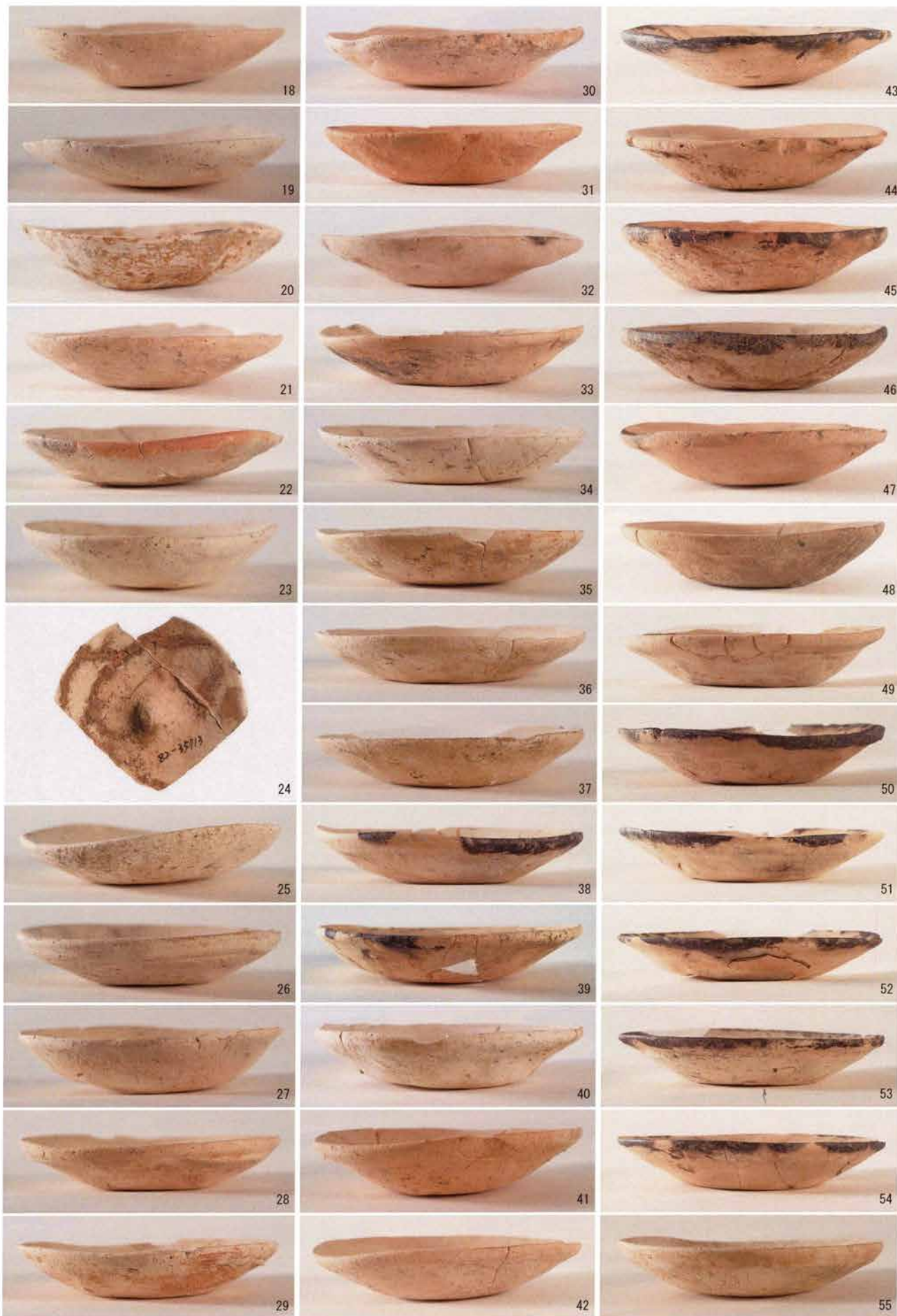
(6)6トレンチ東端(西から)



(1)6トレンチ(南東から) (2)6トレンチ(南から) (3)6トレンチ東端(東から) (4)6トレンチ東端(南から)



(5)8トレンチ(南東から) (6)9トレンチ東端(南東から) (7)9トレンチ(南西から)



(1) 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器



(1) 第I・II区域包含層出土土器



(2) SA4260出土土器



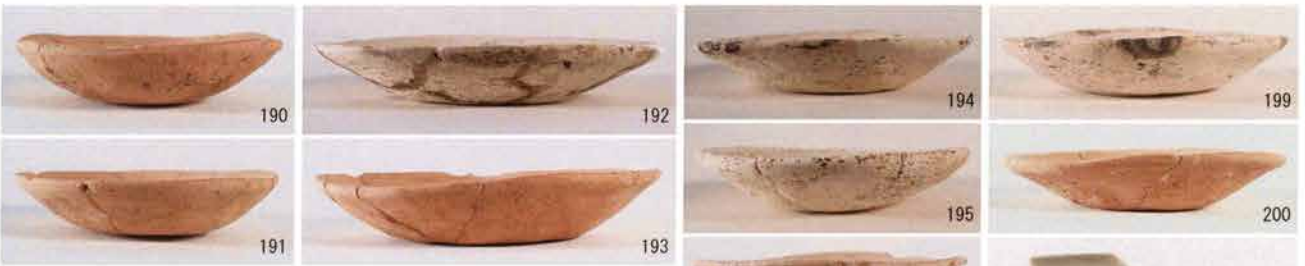
(3) SA4260、SB4274、SE4277出土土器

(4) SK4309出土土器



(1)SB4273、SX4303・4290出土土器

(2)SX4288、SF4278出土土器 (3)SE4275、SB4273出土土器



(4)SD4270出土土器



(5)SD4272出土土器

(6)SD4271、SA893出土土器



(7)土錐、土製円盤、輪羽口



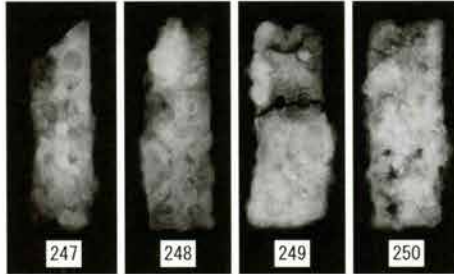
(8)鉄錐、鉄釘、火箸、飾金具、靴、筭



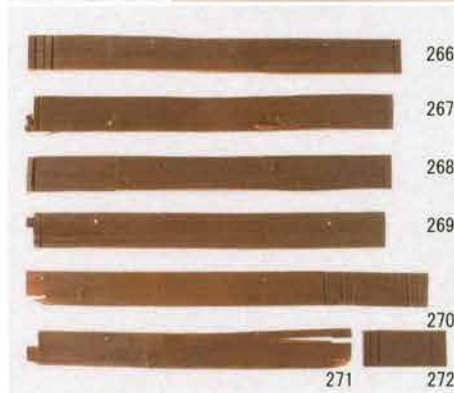
(1) 筭、鉄鏃、弾丸



(2) 小札



(5) 蓋、漆器碗、折敷



(3) 砥石

(4) バンドコ、茶臼



(6) 銭貨



(1) 錢貨

第102次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器



(2) 第Ⅰ区域包含層出土土器



(1)SB4776出土土器

(3)SD4752出土土器



(2)SI4750出土土器

(4)SD4753出土土器

(5)SD4755出土土器



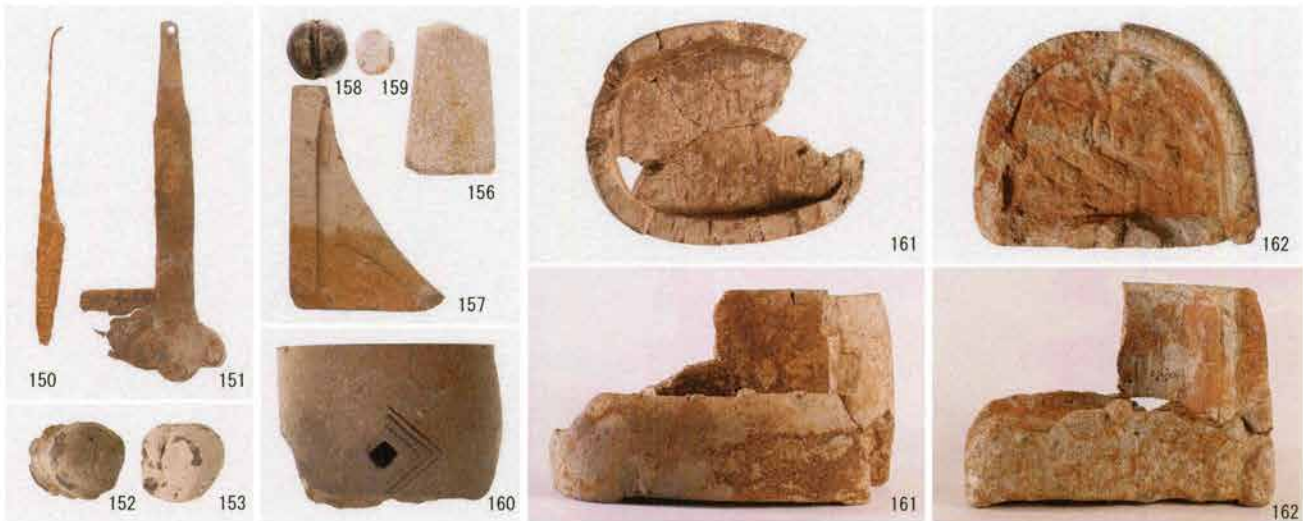
(6)SD4755, SX4759, SA4763, SI4762出土土器

(7)SS260出土土器



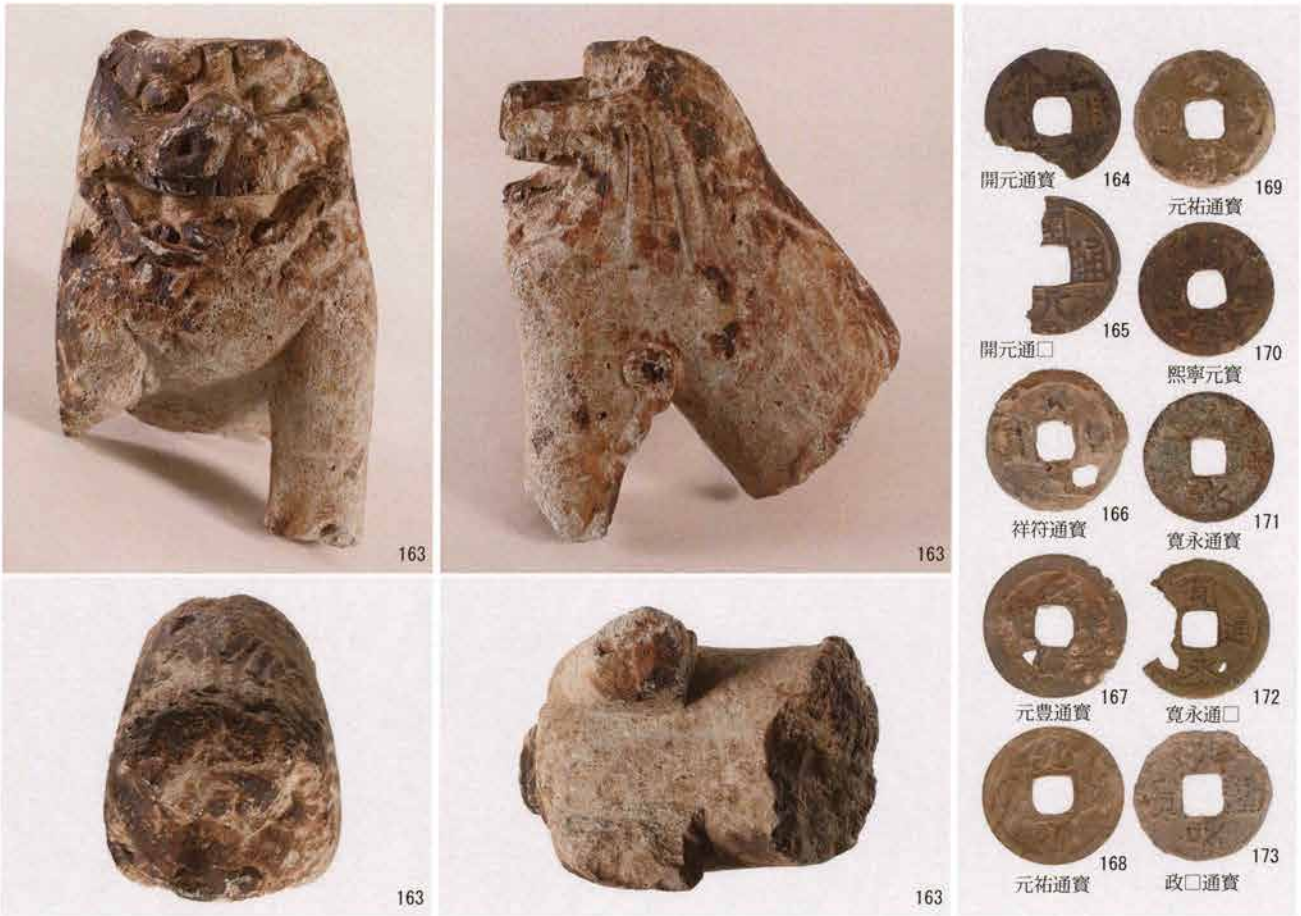
(8)土製円盤、形象品

(9)銅鏡



(10)和鉄、兜飾金具、弾丸

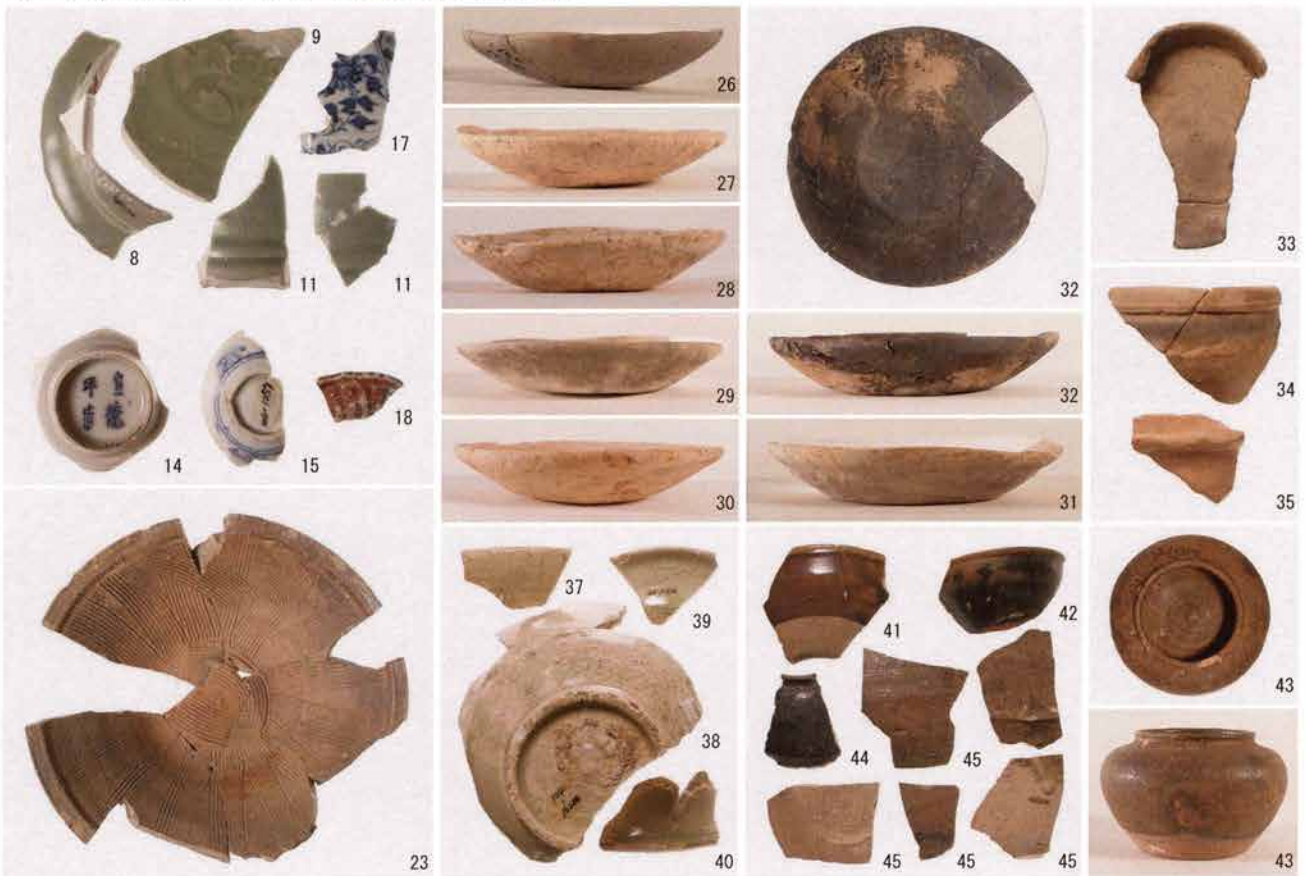
(11)駒石、砥石、石硯、茶臼、バンドコ



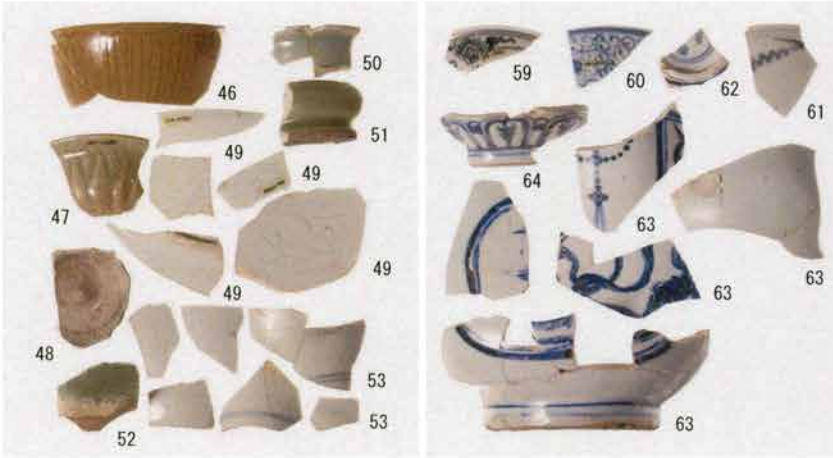
(1)獅子・狛犬

(2)錢貨

第104次調査 第三区域包含層出土土器



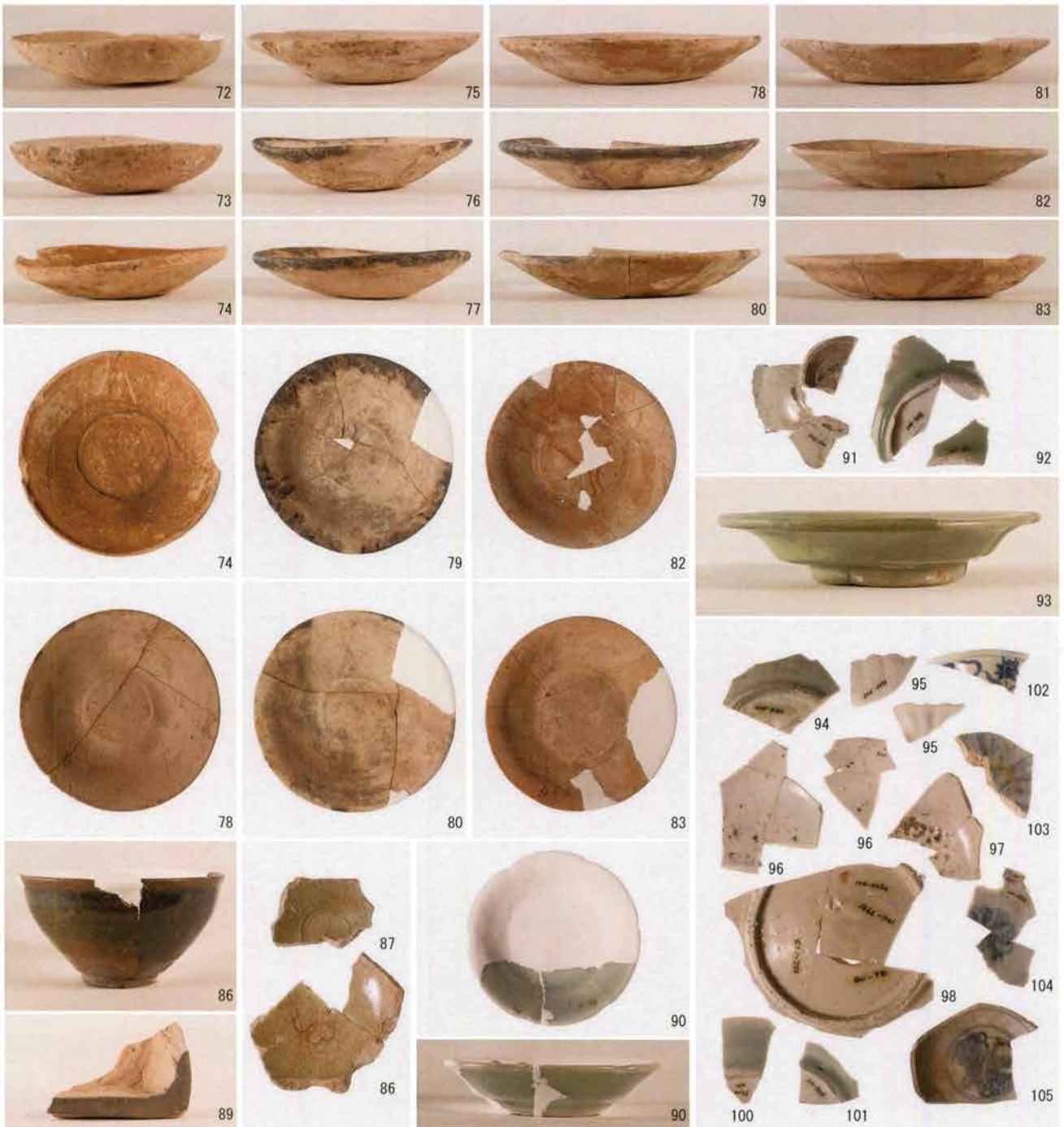
(3)表土、第三区域包含層出土土器



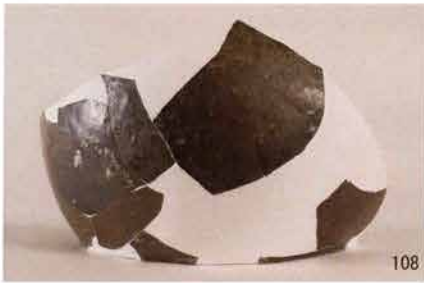
(1) 第三区域包含層出土土器



(2) 第四区域包含層出土土器



(3) 第五区域包含層出土土器



(1)SA4782出土土器



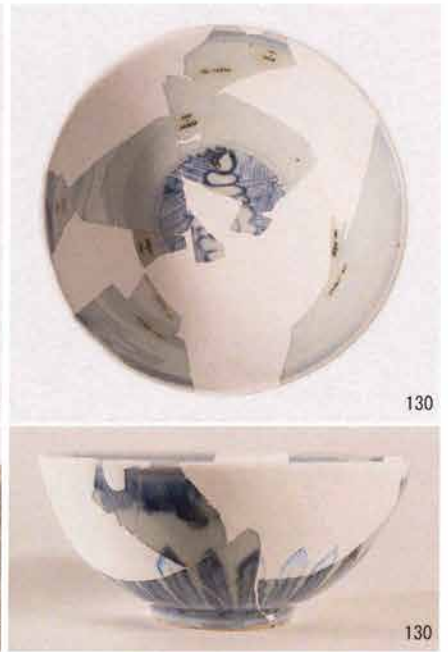
(2)SA4784出土土器



(3)SA4783、SS260、SA4760・4780出土土器



(4)SI4817、SD4808出土土器



(5)SI4816出土土器



(6)SF4815出土土器



(6)SF4813出土土器

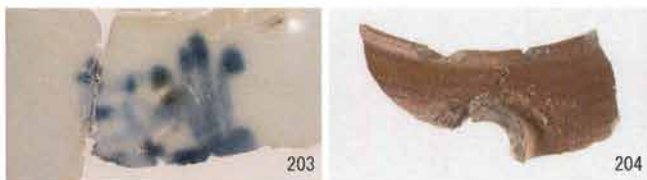


(7)SX4834・4842出土土器

(8)SX4840、SB4790出土土器



(1)SD4806出土土器



(5)SB4846出土土器



(6)SB4791出土土器

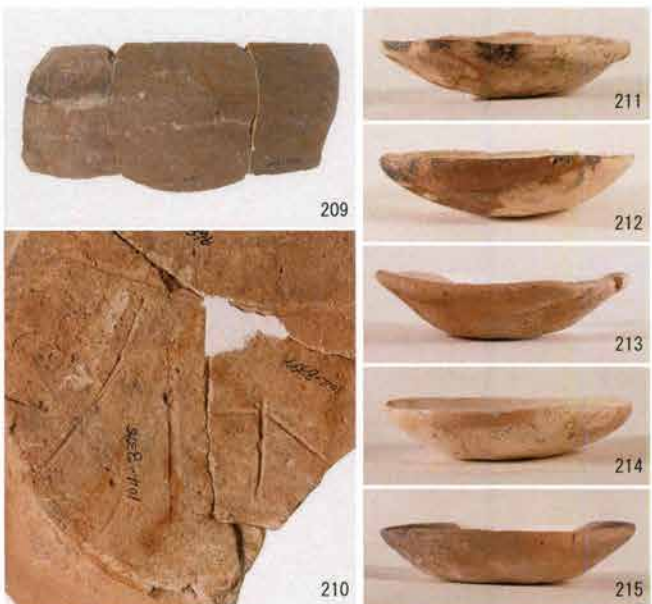


(2)SB4788出土土器



(3)SB4786出土土器

(4)SB4787出土土器



(7)SD4797出土土器



(1)SD4797出土土器



(2)SD4798出土土器



(3)SD4798出土土器



(1)SD4798出土土器



(1)SD4798出土土器



(2)SD4794出土土器



(3)SD4795・4796・4753出土土器



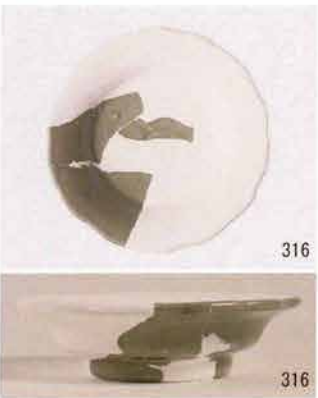
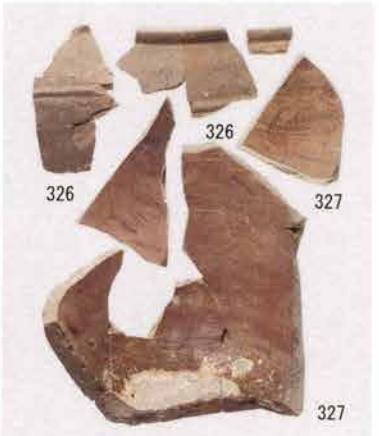
(4)SD4796出土土器



(5)SD4793出土土器



(7)SS4823出土土器



(6)SD4755出土土器



(8)SS4824出土土器



(9)SD4801出土土器



(1)SD4801出土土器



(2)土錘

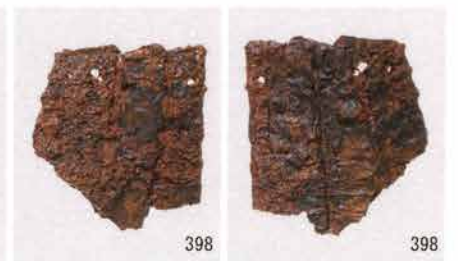
(3)土製円盤、蓋、仏像

(4)青磁裝飾、薬研



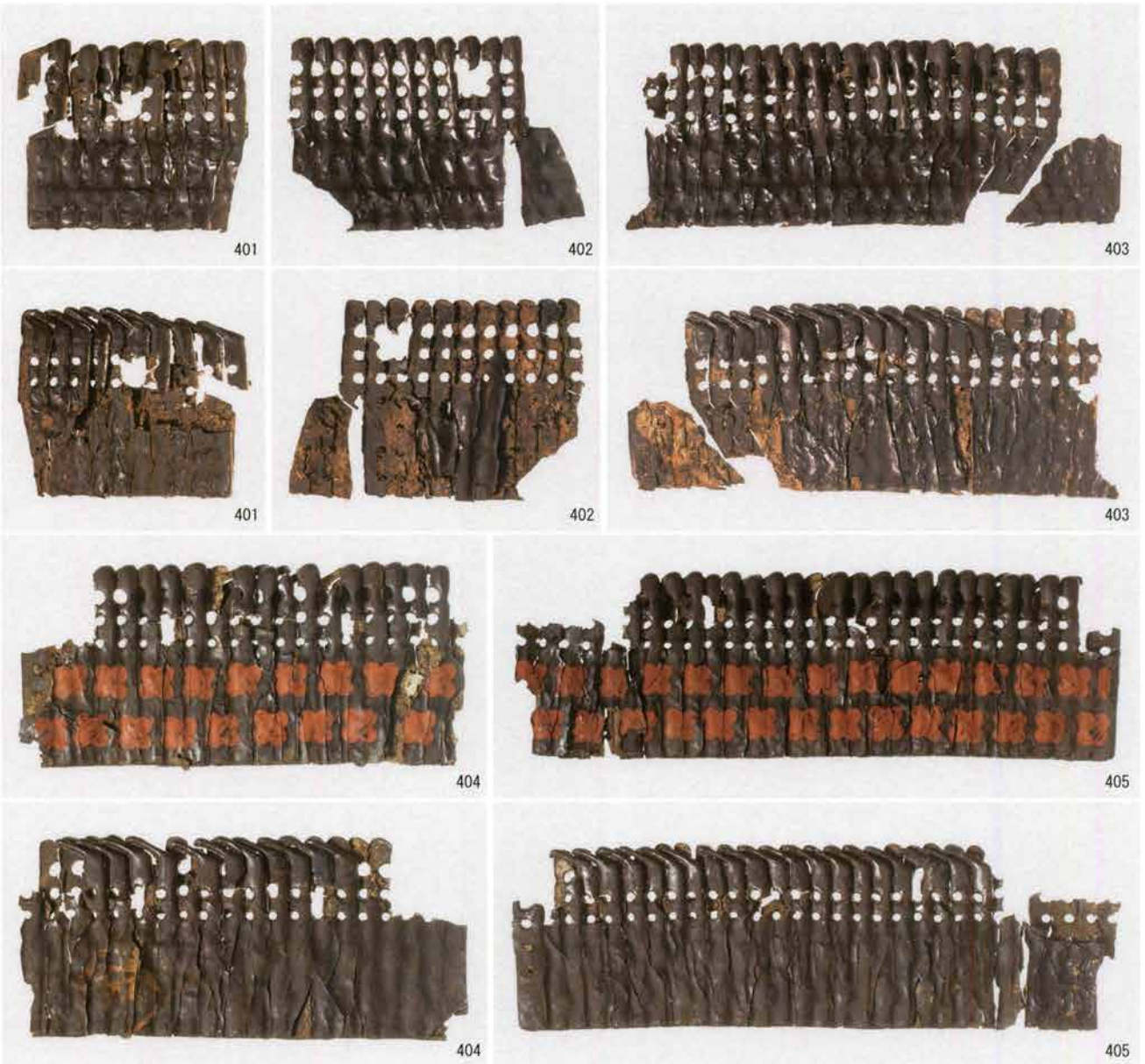
(1)小札、飾金具、紅皿、責金具、煙管、金匙、鉄鏃、小柄

(2)鉄釘、切羽、蓋

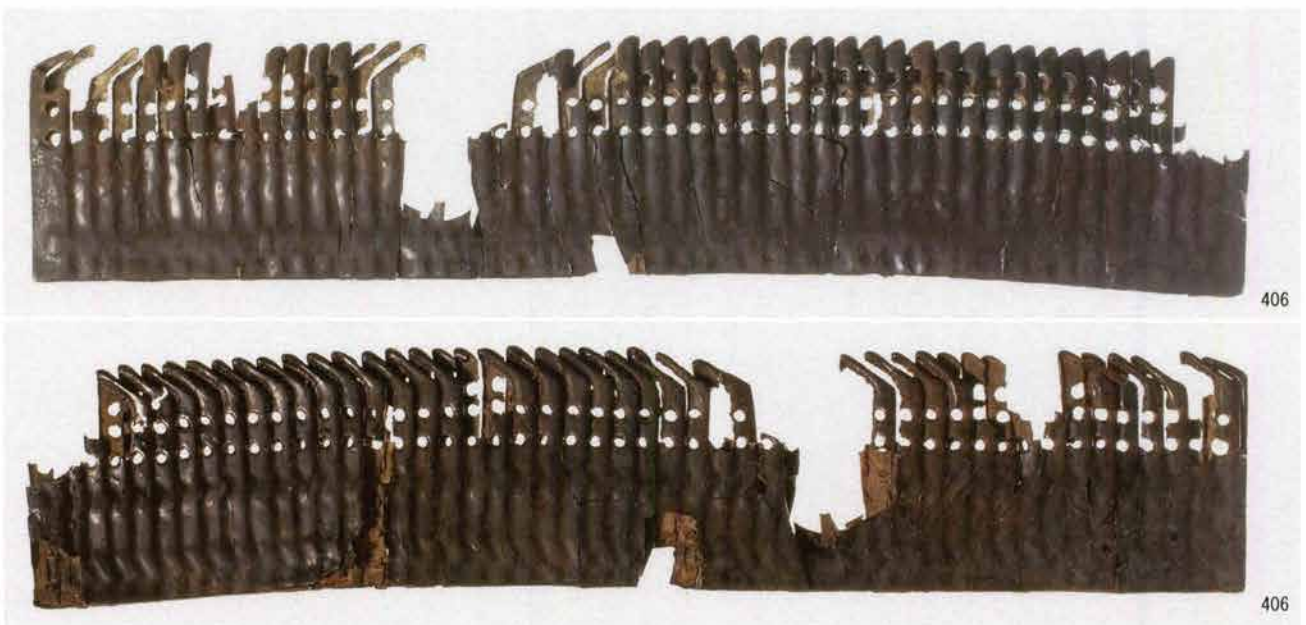


(3)X003出土兜鞆

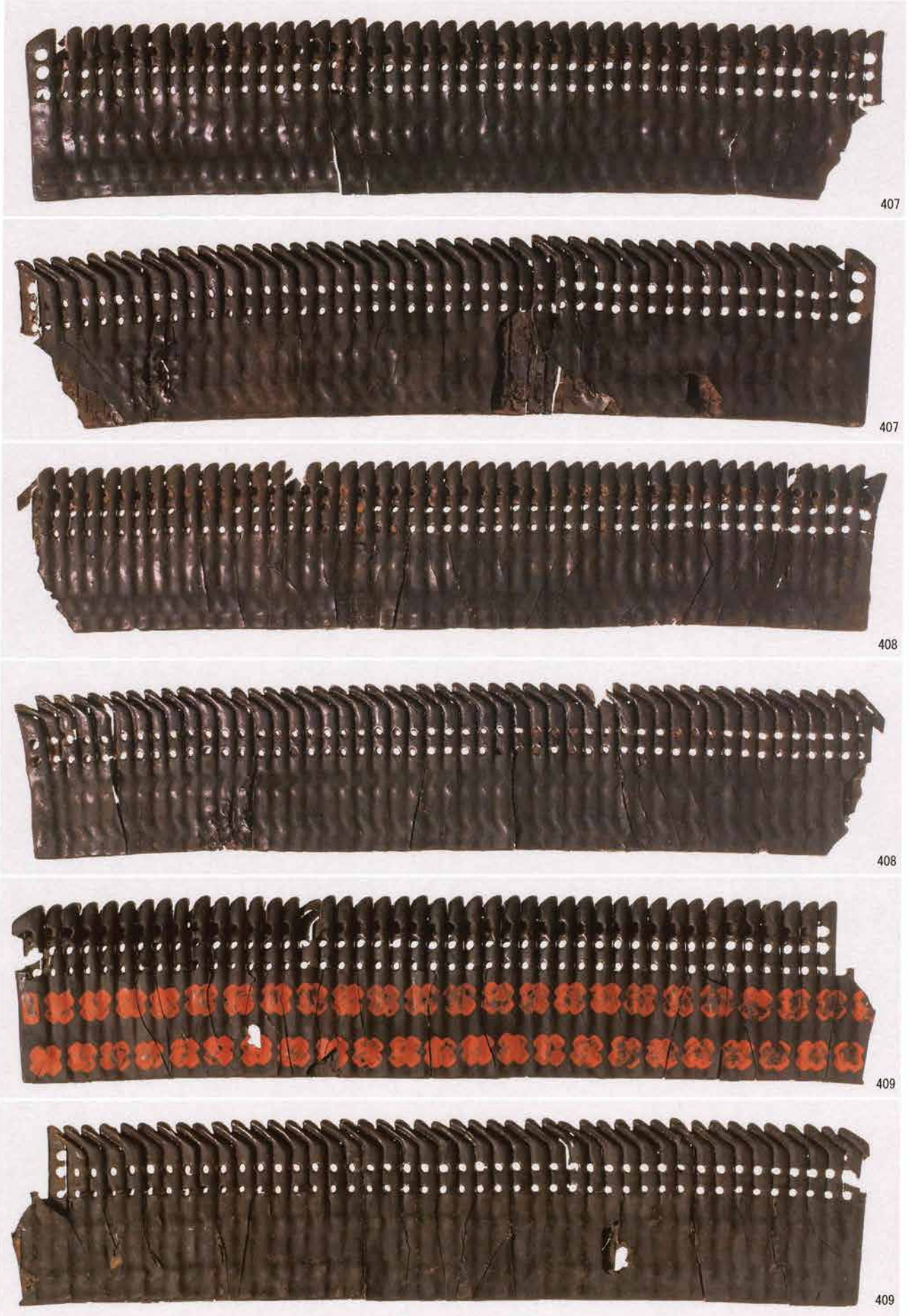
(4)X003・005出土兜鞆



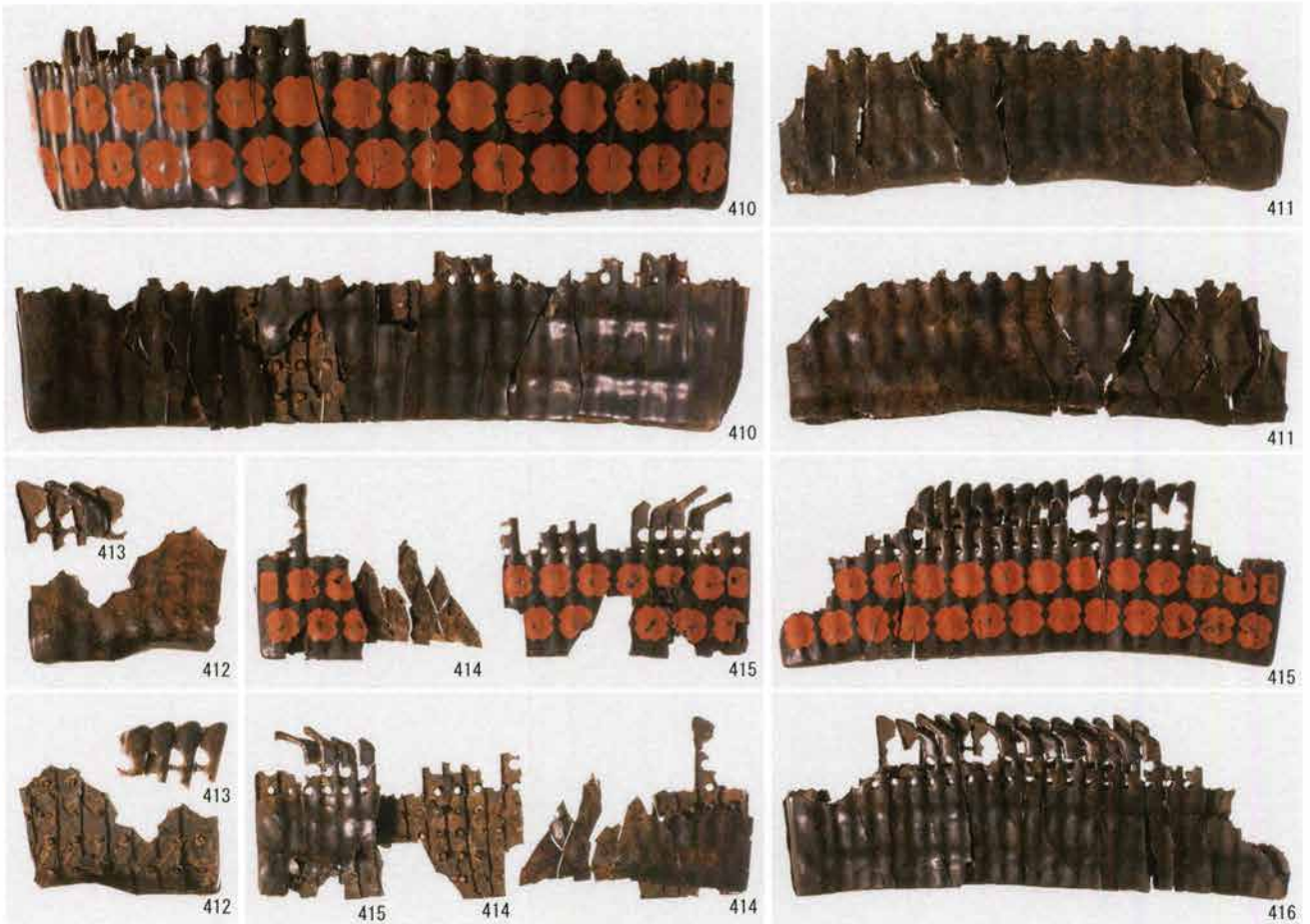
(1) X001出土草摺



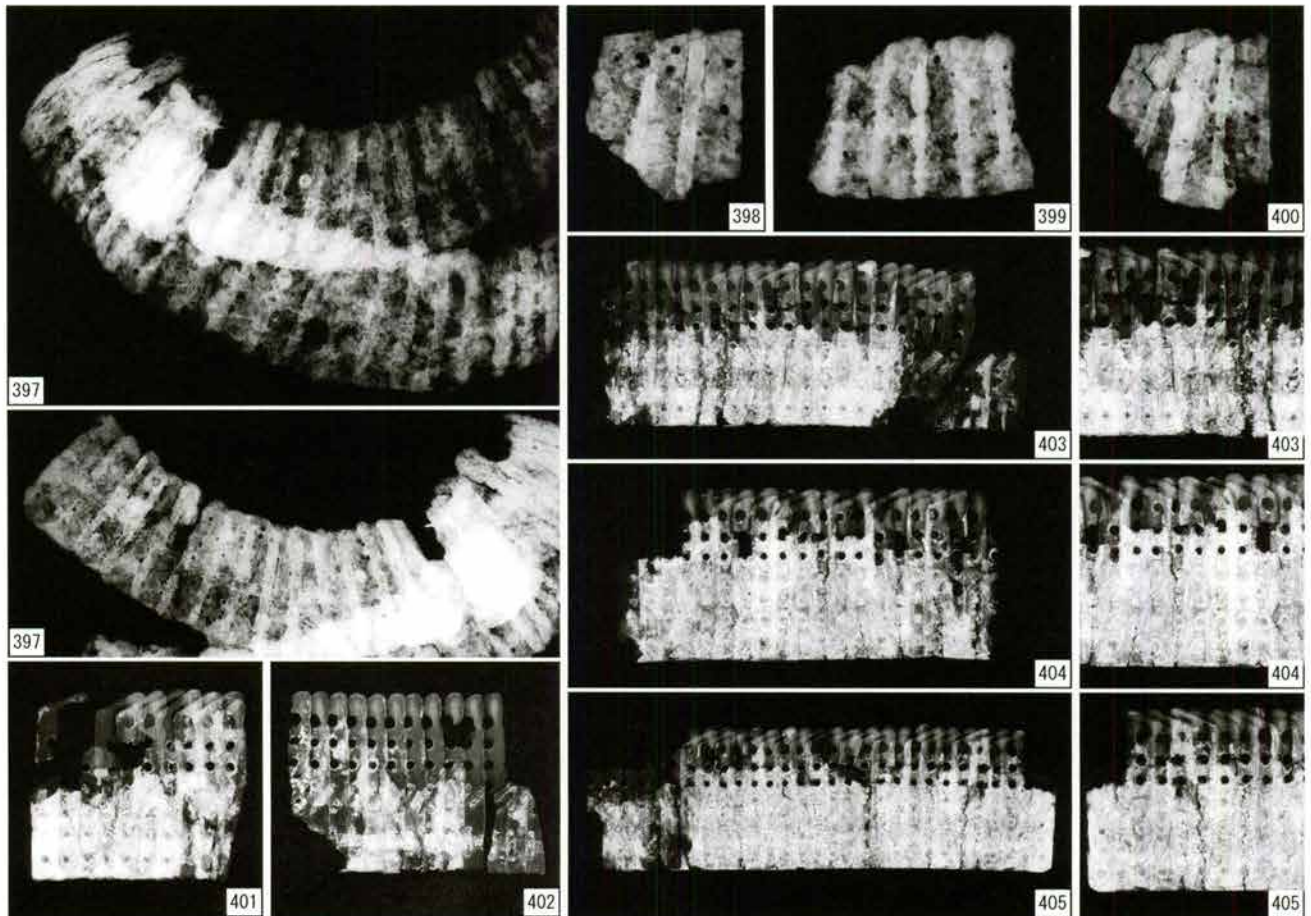
(2) X002出土大袖



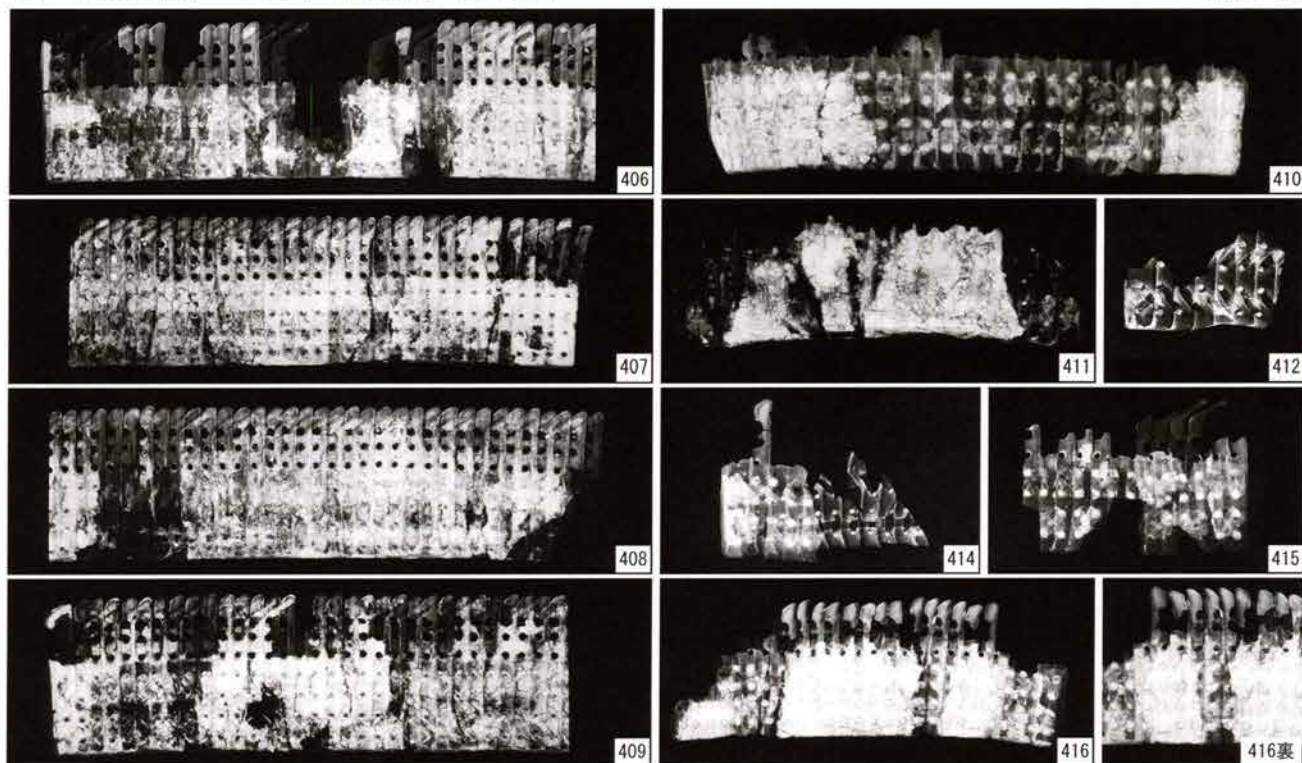
(1)X002出土大袖



(1) X004、その他出土草摺



(2) X003出土兜髹、X001出土草摺X線写真



(1) X002出土大袖、X004出土草摺X線写真



(2) 漆器、曲物、剝物容器、花入、手箱、箱、障子棧、木柄、砥石、石硯



(1)石臼、茶臼、石盤、バンドコ、ガラス玉



(2)銭貨

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき いちじょうだにあさくらしいせきはつくつちようさほうこく
書名	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 20
副書名	第 82・102・104・125 次発掘調査
シリーズ番号	20
編著者名	鈴木篤英
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL. 0776-41-2301
発行年月日	令和4年3月24日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第 82 次 第 I 区域 第 II 区域	福井県福井市城戸ノ内町 字齊藤	18210	史—31	36 度 00 分 0 秒	136 度 17 分 36 秒	19930401 ~ 19930822	1,920 m ²	環境整備に伴う 発掘調査
第 102 次 第 I 区域 第 II 区域	福井県福井市城戸ノ内町 字齊藤	〃	〃	36 度 59 分 37 秒	136 度 17 分 44 秒	19980401 ~ 199812200	2,300 m ²	〃
第 104 次 第 III 区域 第 IV 区域 第 V 区域	福井県福井市城戸ノ内町 字齊藤	〃	〃	36 度 59 分 37 秒	136 度 17 分 44 秒	19990401 ~ 19901220	2,000 m ²	〃
第 125 次	福井県福井市城戸ノ内町 字齊藤・八地谷・雲正寺 (月見槽地区)	〃	〃	35 度 59 分 53 秒	136 度 00 分 28 秒	20081001 ~ 20081220	500 m ²	〃

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第 82 次 第 I 区域 第 II 区域	屋敷跡	室町・戦国 15・16 世紀	土塁石垣 2、道路 1、礎石 建物 2、掘立柱建物 1、溝 3、埋甕土坑群 1、鍛冶炉 2、 カマド 3、石列 4、井戸 3	越前焼、土師器皿、鉄釉、灰釉、 瓦質土器、青磁、白磁、染付、 朝鮮象嵌壺、土錘、土製円盤、 羽口、鉄錐、火箸、鉄釘、飾 金具、鞋、笄、鉄鏃、弾丸、 小札、砥石、バンドコ、茶臼、 漆器椀、桶、曲物、木刀、折 敷、箸、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝 倉氏遺跡』平成 5 年度発 掘調査環境整備事業概要 (25) 1994 年 3 月
第 102 次 第 I 区域 第 II 区域	屋敷跡	〃	土塁石垣 2、門 2、道路 1、 礎石建物 1、溝 5、井戸 3、 庭 1、石敷遺構 2	越前焼、土師器皿、鉄釉、灰釉、 瓦質土器、青磁、白磁、染付、 土製円盤、形象品、和鉄、兜 飾金具、弾丸、煙管、銅鏡、 駒石、石硯、茶臼、バンドコ、 獅子・狛犬、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝 倉氏遺跡』平成 10 年度 発掘調査環境整備事業概要 (30) 1999 年 3 月
第 104 次 第 III 区域 第 IV 区域 第 V 区域	〃	〃	土塁石垣 7、門 2、道路 2、 通路 3、礎石建物 6、溝 18、暗渠 2、井戸 1、石積 施設 5、石敷遺構 4	越前焼、土師器皿、鉄釉、灰釉、 瓦質土器、青磁、青白磁、白 磁、染付、交趾三彩、朝鮮陶 器、タイ製四耳壺、土錘、土 製円盤、タイ製三彩仏像、青 磁装飾品、薬研、鉄釘、鍔金具、 責金具、紅皿、金匙、蓋、煙管、 鉄鏃、小柄、切羽、小札、兜鞆、 草摺、大袖、漆器椀、曲物、桶、 刳物容器、掛花生、硯箱、障 子棧、木柄、木刀、砥石、石 硯、茶臼、石臼、風炉、炉壇、 バンドコ、有孔石製品、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝 倉氏遺跡』平成 11 年度 発掘調査環境整備事業概要 (31) 2000 年 3 月
第 125 次	槽跡	〃	土塁、窯跡	越前焼、土師器皿、黄瀬戸、 青磁、白磁、染付、中国製天 目碗、朝鮮磁器、銅製品、石 製品、炭化材	概報：『特別史跡一乗谷朝 倉氏遺跡』38 平成 19 年 度発掘調査・環境整備事業 概要 2008 年 3 月

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月24日 発行

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告20

第82・102・104・125次調査

編集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

発行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印刷 株式会社 竹下印刷所